再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ニ願出ツ可シ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可キコトヲ命スルコトアル可シ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其效ヲ有セス

第五十條　抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其效力モ亦同シ

第五十一條　證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡ス可シ

第五十二條　謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十三條　抄錄謄本ニハ原本ノ年月日及ヒ嘱託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾抄錄謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十四條　管轄始審裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書ヲ原本ニ連綴シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨竝ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシム可シ

第三節　見出帳

第五十五條　公證人ハ見出帳ヲ作リ記入前管轄始審裁判所ニ差出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受ク可シ

第五十六條　見出帳ニハ日日取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規則ニ從ヒ左ノ件件ヲ記入ス可シ

第一　嘱託人ノ住所氏名

第二　書類ノ番號種類

第三　書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節　兼任及ヒ書類ノ授受

第五十七條　公證人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直チニ後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公證人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシム可シ

役場ヲ廢シタルトキハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公證人ニ命ス可シ

第五十八條　前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト認ムル場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ直チニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ

第五十九條　公證人免職辭職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任者ト立會ヒ書類ノ提要目錄ヲ作リ共ニ署名捺印シテ授受スヘシ

死去失踪其他ノ事故ニ因リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作リ受取ルヘシ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ封印ヲ解キ提要目錄ヲ作リ受取ルヘシ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作リタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十條　公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハス書類ノ保存ハ停職者之ヲ擔當ス可シ

兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第六十一條　兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケクル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引繼タルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作リ受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ

受繼人ハ始末書ヲ作リタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作リ管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十二條　停職者復任スルトキハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス可シ

第六十三條　前任者ノ作リタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ附記ス可シ

本任者ノ作リタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ

第四章　手數料及ヒ旅費日當

第六十四條　公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ嘱託人ヨリ手數料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條　手數料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及ヒ謄本ハ一枚ニ付キ拾錢但二行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條　嘱託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作リタルトキハ草案ノ手數料ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手數料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第六十七條　公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滯留スルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條　兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手數料ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ

第六十九條　手數料ノ外證券印紙竝ニ罫紙ノ代價ハ嘱託人ヨリ之ヲ受クルコトヲ得

第七十條　嘱託人ノ求メアルトキハ手數料等ノ計算書ヲ與フ可シ

第七十一條　手數料等ニ係ル爭ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ハラス管轄始審裁判所ニ訴フ可シ

第五章　懲罰

第七十二條　公證人此規則ヲ犯カシタルトキハ管轄始審裁判所ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條マテ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條　左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

第四十七條ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條　左ノ違犯ハ五圓以下三十圓以下ノ過料ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條　左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第十五條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

第五十二條ニ違ヒタル時

第五十三條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時

第六十一條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七十四條　左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條　左ノ違犯ハ五圓以下三十圓以下ノ過料ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條　左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第十五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時
第十七條ニ違ヒタル時
第十七條　公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ效力ナキモノトス
第十八條　公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス
第二十條第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身元保證金ヲ差入レサルトキ亦前項ニ同シ
第七十九條　公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ此ヲ賠償スル可シ

◉公證人規則施行條例

（明治十九年八月司法省令甲第二號）

第一條　公證人ハ各區裁判所管内ニ十名以下ヲ置ク但東京區裁判所管内ニ於テハ二十五名以下大阪區裁判所管内ニ於テハ二十名以下ヲ置クコトアルヘシ（明治二十九年司法省令第五十七號三十一年司法省令第二十號改正）

若シ公證人ノ員數不足スルトキハ受持區ニ依リテハ全ク之ヲ置カサルコトアルヘシ

第二條　公證人ハ其受持區内ニ於テ住居セント欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ（始審裁判所）ニ差出シ豐控訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請フ可シ（始審裁判所長）及ヒ控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達ス可シ

司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居ヲ認可セサルトキハ直チニ其住居ス可キ町村ヲ指定ス

第三條　公證人既ニ住居ノ認可ヲ受ケタル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セントスルトキモ亦前條ノ手續ニ從フ可シ

第四條　公證人ノ役場ニハ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲クヘシ

第五條　公證人規則ニ從ヒ試驗ヲ受ケント欲スル者ハ試驗願書ニ履歷書ヲ添ヘ（試驗期日ノ告示アリタルヨリ試驗期日一箇月前マテニ試驗ヲ行フ控訴院若クハ（始審裁判所）ニ差出ス可シ

試驗願書及ヒ履歷書ニハ本籍區長若クハ戸長ノ奥書ヲ受ク可シ

第六條　試驗ハ各所同時ニ之ヲ行フモノトス

第七條　試驗委員ハ筆記試驗ノ答按ヲ調査シ其合格不合格ヲ決定シタル後口述試驗ヲ行フ可シ

筆記試驗ニ合格セサル者ニ付テハ口述試驗ヲ行ハス

第八條　試驗問題答案ノ適否ハ試驗委員ノ判斷ニ決スルモノトス

試驗ノ結果ハ筆記口述二種ノ總點ニ依リ之ヲ定ム可シ

第九條　試驗委員ハ口述試驗ノ大略及試驗全體ノ結果ヲ記錄ニ記載ス可シ

第十條　試驗ニ及第シタル者ニハ試驗委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス可シ

試驗ヲ行フタル控訴院若クハ（始審裁判所）ハ試驗及第人名簿ヲ製シ之ニ及第者ノ住所族籍氏名年齡及ヒ及第ノ年月日ヲ登錄ス可シ

第十一條　試驗委員ハ試驗ニ關スル一切ノ書類ヲ其試驗ヲ行フタル（始審裁判所）若クハ控訴院ノ長ニ差出ス可シ

（始審裁判所）ニ於テ試驗ヲ行フタルトキハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書類ニ意見ヲ附シテ控訴院ニ送致シ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

控訴院ニ於テ試驗ヲ行フタルトキハ前項書類ニ控訴院長ノ意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

第十二條　公證人タラント欲スル者ハ其願書ニ試驗及第證書官記學位記卒業證書又ハ免許狀ノ寫及ヒ丁年者二名以上ニテ品行ヲ保證スル證書ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ

試驗及第證書ヲ要セサル出願人ハ別ニ履歷書ヲ添フ可シ

第十三條　公證人願ヲ受ケタル（始審裁判所）ノ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付キ品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長モ亦意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十四條　公證人證書ヲ直チニ控訴院ニ差出タルトキハ控訴院長及ヒ檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲シ且意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條　公證人願書ニハ其職務ヲ行ハント欲スル地ヲ明記ス可シ

第十六條　司法大臣公證人ヲ任スルトキハ辭令書ヲ其公證人ノ職務ヲ行フヘキ地ノ管轄控訴院及ヒ（始審裁判所）ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及（始審裁判所）ニ於テハ公證人名簿ヲ備置キ公證人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齡及任地ヲ記錄ス可シ

第十七條　公證人ニ任セラレタル者ハ身元保證金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公債證書日本勸業銀行發行勸業債券若クハ日本銀行株券ヲ管轄（始審裁判所）ニ納ム可シ（二十三年司法省令第四號ヲ以テ改正）

第十八條　公證人ノ納ム可キ身元保證金ノ額ハ左ノ如シ

東京及大阪

他ノ地方ニ於テハ

入口貳拾萬以上受持區	金四百圓
入口貳拾萬未滿拾萬以上アル受持區	金三百圓
入口拾萬未滿アリト雖モ既ニ完納シタルモノハ之ヲ增減セス	金貳百圓

第十九條　公證人ハ身元保證金ヲ管轄（始審裁判所）ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行フコトヲ得ス

公證人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ完納セサルトキハ公證人規則第七十八條第二項ニ依リ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條　公證人ノ身元保證金ハ公證人規則第五章ニ定メタル過料其他賠償ノ抵保ニ充ツルモノトス

第二十一條　過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保證金ノ全部又ハ一部ヲ減消シタルトキハ管轄（始審裁判所長）ハ速ニ保證金ヲ補充ス可キ旨ヲ公證人ニ命ス可シ

公證人保證金ヲ補充スルマテ（始審裁判所）ハ假ニ職務執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

公證人保證金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサルトキハ（始審裁判所長）ハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フ可シ

第二十二條　公證人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保證金ニ不足ヲ生スレハ之ヲ補充セシメ若シ餘分アレハ之ヲ還付ス可シ

第二十三條　公證人其職務ヲ罷メタルトキハ身元保證金ヲ還付ス可シ

第二十四條　公證人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルトキハ管轄（始審裁判所）ハ控訴院ヲ經由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

停職者復任シタルトキモ亦前項ノ手續ニ從フ可シ

第二十五條　公證人死去失踪停職復任罷職免職又ハ轉職シタルトキハ（始審裁判所）及控訴院ハ其旨ヲ公證人名簿ニ記入ス可シ

第二十六條　公證人規則ニ定メアル懲罰處分民事裁判所之ヲ管轄シ刑法及（治罪法）ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　公證人試驗願書式履歷書式及公證人願書式ハ左ノ如シ

第一

公證人試驗願（料紙美濃紙）

族籍　戸主嗣子又ハ二三男兄弟ノ別

氏名　年齡

現住所

氏名印

年月日

某控訴院長誰殿

（又ハ某始審裁判所長誰殿）

私儀公證人試驗相受度此段奉願候也

前書ノ通族籍年齡等相違無之候也

本籍
年　月　日　區長又ハ戸長印

第二　履歴書式
履歴書（料紙美濃紙）

族籍
氏　名印

一何年何月日ヨリ何年何月迄（府縣）何某ニ就キ又ハ公私何學校何塾ニ於テ何學修業
一何年何月何々（職業仕官進退賞罰等ニ關スル一切ノ件）
一公證人規則第二十條ノ各項ニ相觸候儀一切無之候
年　月　日　氏　名印
前書ノ通相違無之候也
本籍
區長又ハ戸長印

第三　公證人願書式
公證人願（料紙美濃紙）

族籍　戸主嗣子又ハ二三男兄弟ノ別
氏　名
年　齡

私儀何（府縣）何國某治安裁判所管下公證人受持區ニ於テ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試驗及第證書（官記學位記卒業證書免許狀）ノ寫及ヒ品行保證書相添此段奉願候也
年　月　日　現住所
氏　名印
司法大臣閣殿
又
私儀何（府縣）何國某治安裁判所管下及何（府縣）何國某治安裁判所管下（某始審裁判所管下又ハ某控訴院管下）ノ内何レノ公證人受持區ニ於テナリトモ御命令ニ從ヒ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試驗及第證書（官記學位記卒業證書免許狀）ノ寫及ヒ品行保證書相添此段奉願候也
（前後ノ式ハ前式ニ同シ）

◉登記官吏又ハ公證人ノ職務執行ニ關スル抗告手續

抗告手續（明治十九年十一月司法省令甲第三號）

第一條　登記官吏又ハ公證人ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ス者ハ抗告狀ヲ其登記官吏又ハ公證人差出スヘシ、

第二條　登記官吏又ハ公證人抗告狀ヲ受取リタルトキハ其翌日ヨリ三日内ニ意見ヲ附シ且ツ關係書類ノ寫ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致ス可シ

第三條　登記官吏又ハ公證人若シ前條ノ期限内ニ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致セサルトキ又ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ抗告者ハ直ヲニ管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出スコトヲ得

始審裁判所ハ抗告ヲ受ケタル登記官吏又ハ公證人ナシテ意見書ヲ差出サシメ及ヒ關係書類ヲ求ムルコトヲ得

第四條　登記官吏又ハ公證人ハ其職務執行上ニ關シ抗告ヲ受ケタルトキハ其處分ヲ停止ス可シ

第五條　抗告狀ヲ受取タル管轄始審裁判所ハ書面ニ依リ判定ヲ爲ス可シ

始審裁判所ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他關係人ニ書面ヲ以テ答辯セシムルコトヲ得

第六條　始審裁判所ハ抗告ノ判定書ヲ管轄治安裁判所ニ送致シ之ヲ登記官吏又ハ公證人及ヒ抗告者ニ送附セシム可シ

始審裁判所ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ記入前管轄地方裁判所長ニ差出シ其契印ヲ請フヘシ

證人ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

第七條　公證人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ其處分ノ翌日ヨリ起算シ七日内ニ其處分ヲ爲シタル管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出ス可シ

裁判所ハ其抗告ヲ正當ナリト認ムルトキハ速ニ其不服ノ點ヲ更正ス可シ若シ之ヲ正當ナラスト認ムルトキハ第二條ノ期日内ニ意見ヲ附シ關係書類ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致ス可シ

第八條　公證人懲罰處分ニ對スル抗告ニ付テモ亦第三條ノ手續ニ依ルコトヲ得

第九條　公證人懲罰處分ニ對スル抗告狀ヲ受取タル控訴院ハ第五條ノ手續ニ從ヒ判定ヲ爲ス可シ

第十條　控訴院ハ其判定書ヲ處分ヲ爲シタル始審裁判所ニ送致シ之ヲ言渡サシム可シ

控訴院ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ處分ヲ爲シタル始審裁判所ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

第十一條　抗告ノ判定ニ對シテハ總テ上訴ヲ爲スヲ得サルモノトス

◉確定日附簿、日附アル印章調製方（明治三十一年七月司法省令第七號）

第一條　登記所及ヒ公證人役場ニ備フヘキ確定日附簿及ヒ日附アル印章ハ左記雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　登記所ニ備フヘキ確定日附簿ハ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製シ登記所ノ請求ニ因リテ之ヲ渡スヘシ

第三條　公證人ニ於テ確定日附簿ヲ調製シタルトキハ記入前管轄地方裁判所長ニ差出シ其契印ヲ請フヘシ

紙數表紙ヲ除ク　枚

地方裁判所長

確定日附簿

第壹號		日附アル印章及ヒ到着印
署名者ノ氏名	件名	

第貳號		日附アル印章及ヒ到着印
署名者ノ氏名	件名	

第參號		日附アル印章及ヒ到着印
署名者ノ氏名	件名	

第四號		日附アル印章及ヒ到着印
署名者ノ氏名	件名	

一丁

日附アル印章及ヒ印影

第五號	署名者ノ氏名	日附アル印章及ヒ印影	第七號	署名者ノ氏名	日附アル印章及ヒ印影
	件名			件名	
第六號	署名者ノ氏名	日附アル印章及ヒ印影	第八號	署名者ノ氏名	日附アル印章及ヒ印影
	件名			件名	

外圓徑一寸
內圓徑六分

外圓徑一寸
內圓徑六分

◉私署證書、確定日附ノ手數料（明治三十一年七月司法省令第十一號）

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ每一件ニ付キ手數料金拾錢ヲ納ムヘシ

登記所ニ納ムヘキ手數料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

◉公證人身元保證金取扱手續

（明治二十二年三月司法省民第四三二號訓令）

第一條　公證人身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ差出シタルトキハ裁判所ヨリ預リ證書ヲ渡スヘシ

第二條　現金ヲ以テ保證金ト爲スニハ之ヲ其地ノ國庫金出納所ニ預ケ其預リ證書ヲ差出サシメ雜部金ノ取扱ヲ爲スヘシ

第三條　公債證書又ハ日本銀行株券ヲ以テ保證金ト爲シタルトキハ始審裁判所ハ適當ノ價格ヲ定メ計算シテ其證書ヲ差出サシムルコトヲ得

第四條　身元保證金トシテ記名ノ公債證書又ハ株券ヲ差入ルルトキハ總テ其本人記名ノモノニ限ルコトヲ可シ

第五條　身元保證金トシテ差出シタル現金預リ證書公債證書又ハ株券ハ裁判所長書記ト共ニ之ニ封印シテ其裁判所ニ領置スルコトヲ可シ但必要ノ場合ニ於テハ裁判所ノ之ヲ他官廳又ハ銀行ニ預ケ置クコトヲ得

第六條　公債證書ヲ以テ保證金ト爲シタル者其利子請取ノ期ニ至リ其利札ヲ請求スルトキハ裁判所長書記ト共ニ開封ヲ爲シ利札ヲ下渡シ更ニ前條ニ從ヒ封印ヲ爲シ置クコトヲ可シ

第七條　公證人過料ノ應分ヲ受ケ完納セサルトキハ裁判所ハ身元保證金ヲ以テ之ニ充ツル旨ヲ本人ニ通知スヘシ其通知ノ翌日ヨリ三日內ニ尙ホ納完セサルトキハ保證金ヲ以テ過料ニ充ツルコトヲ可シ損害賠償ノ場合ニ於テモ亦之ニ準ス

第八條　身元保證金トシテ差入タル公債證書ヲ以テ過料又ハ賠償ニ充ツヘキトキハ之ヲ公賣ニ附シ又ハ適當ノ時價ヲ以テ之ヲ賣却シ其代價ヲ以テ過料賠償ニ充ツヘシ

第九條　過料又ハ賠償ニ充ツル爲メ公賣ニ附シ又ハ賣却シタル記名公債證書ヲ買受タル者ノ名面書換ハ明治十四年第四十一號布告ノ手續ニ依ルヘキモノトス

◉公正證書作成ノ後立會人死亡又ハ失跡等ノ場合ニ追加改正ヲ要スル場合ノ件

（明治二十七年十一月司法省民刑第四〇〇號通牒）

別紙甲號公證人ノ請訓ニ對シ乙號ノ通訓令相成候條長官ノ命ニ依リ此段及通牒候也

追テ管內公證人ヘ傳達相成度候也

甲號

公證人松田半次請訓　　明治二十七年十月二十四日

第一條　公正證書作成ノ後日法律上許スヘキ追加改正ヲ要スヘキ箇所アルヤ以テ其旨當事者ヨリ申出アリタル場合ニ於テ曩キニ記名捺印セシ立會人ハ既ニ死亡亦ハ失踪等ノ事アリタルトキハ他ノモノヲシテ立會ハシメ其追加改正セシ處ニ調印ナサシメ可然哉

乙號

訓令　　明治二十七年十一月十九日

第二條　公證人規則第三十三條ニ依リ證書ニ追加改正ヲ爲シ得ルハ證書作成ノ當時ニ限ルモノニシテ證書作成後追加改正ヲ爲ス場合ニハ更ニ證書ヲ作成スルコトヲ要ス

◉公證人ノ請訓ニ係ル證明人ノ件（明治二十八年六月司法省民刑第一五七號通牒）

別紙甲號公證人ノ請訓ニ對シ乙號ノ通訓令相成候條長官ノ命ニ依リ此段及通牒候也

追テ管內公證人ヘ傳達相成度候也

甲號

公證人梅內直曹請訓　　明治二十八年五月八日

第一條　證明人ハ其人ヲ證明スルニ止リ契約ニ關係ナキヲ以テ規則第十六條ニ揭載アル關係外ノ者ト見做シ謄本其他書類ノ寫ハ命令ニ依ル外ハ下渡ササルモノト心得可然哉

第二條　證明人トナルノ資格ニモ規則第十九條及ヒ第二十條ヲ適用シ證明人ト爲スヲ得サルモノニ候哉

但第二十九條中公證人ノ雇人又ハ筆生ヲ除クノ外ハ該規則ヲ適用スルニ及ハサルコトニ候哉

乙號

訓令　　明治二十八年六月八日

第三條　見解ノ通

第四條　公證人規則第二十九條ハ證明人ニ準用スヘキニ付キ公證人ノ雇人又ハ筆生以外ノ者ト雖モ同條ニ揭クル者ハ囑託人ヲ證明スルコトヲ得ス

◉公證人役場設置距離ノ件（明治二十二年四月司法省民第七二一號通牒）

各公證人ノ役場ハ治安裁判所ノ管轄地各町村內ニ於テ其距離遠近ヲ謀リ人民ノ便益ヲ視察シテ可成適宜位置ニ配置シ一方ニ偏セシメス例ヘハ某治安裁判所ノ管轄地甲乙丙ノ行政區ニ跨リシトキ甲區ノミニ數ケ所ノ役場ヲ設クルカ如キ不都合無之樣據メ各公證人ヘ內諭有之度候條長官ノ命ニ依リ此段及通牒候也

◉公證人役場開場公示ノ件

（明治二十二年六月司法省長第一三七三號通達）

各管内公證人ニ於テ役場認可相成開場ノ儀届出候節ハ便宜取纏メ其受持區域公證人氏名及ヒ開場ノ旨府縣内ヘ告示方府縣知事ヘ協議シ公示ノ取計可有之此段及通達候也

●公證人ヨリノ請訓ハ管轄地方裁判所長ヨリ爲スノ件

（明治二十三年十一月司法省文第二九八六號訓令）

從來公證人ヨリ法律上ノ疑義ニ關シ請訓アルトキハ本大臣ヨリ訓示ヲ爲シ來リ候處自今ハ管轄地方裁判所長ニ於テ訓示ヲ爲スヘシ此旨各公證人ヘ傳達スヘシ

商法

●商法（明治三十二年三月法律第四十八號）

本文ハ明治三十二年四月勅令第百三十三號ニ依リ同年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十三年法律第三十二號商法ハ第三編ヲ除ク外此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（參照）

法律第三十二號第三編ハ破產法ナリ

●商法施行法（明治三十二年三月法律第四十九號）

第一條　商法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊法ノ規定ヲ適用ス

第二條　商事ニ關スル特別ノ法令ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第三條　特別ノ法令中舊商法ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ舊商法ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第四條　商法施行前ヨリ商業ヲ營ム未成年者、妻及ヒ後見人ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條　商法施行前ニ會社ノ無限責任社員トナルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ商法施行ノ日ヨリ其會社ノ業務ニ關シテ之ヲ能力者ト看做ス

第六條　商法第七條第二項ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル制限ニモ亦之ヲ適用ス

第七條　商法第八條ニ定メタル小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　商法施行前ニ舊法ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第九條　商法施行前ニ登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲ササリシトキハ當事者ハ其施行ノ後遲滯ナク登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條　商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ノ社名ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記シタル商號ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條　商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ其社名中ニ合名會社ナル文字ヲ用ヒサルモノハ其施行ノ日ヨリ三个月内ニ商法第十七條ノ規定ニ從ヒテ其社名ヲ改メ且其登記ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第十二條　商法第十八條ノ規定ハ商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十三條　商法第十九條ノ規定ハ舊商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

商法施行後ニ商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ舊商法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十四條　商法第十九條、第二十條第二項、第二十二條第一項及ヒ第二百八十九條第三項ニ掲ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス

第十五條　商法施行前ニ東京市又ハ大阪市ニ於テ商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ商法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其地ニ存スル他ノ登記所ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登記ヲ爲ササリシ者ハ其登記ヲ爲ササリシ登記所ノ管轄區域内ニ於テハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十六條　商法第二十二條第二項ノ適用ニ付テハ北海道ハ之ヲ一府縣ト看做ス

第十七條　商法第二十八條ノ規定ハ商法施行前ニ作リタル商業帳簿ニモ亦之ヲ適用ス

第十八條　代務人ニハ商法施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス

第十九條　商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有セサルトキハ主人ハ商法施行ノ日ヨリ三个月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス

主人カ前項ノ期間内ニ支配人又ハ支配役ノ名稱ヲ改メサリシトキハ其者ハ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有スルモノト看做ス

第二十條　商法第三十二條第三項ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ適用ス但一年ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

主人カ商法施行前ニ前項ノ行爲ヲ知リタルトキハ二週間ノ期間モ亦其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　商法中代理商ニ關スル規定ハ商法施行前ニ定メタル代理商ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條　商法中會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ設立シタル會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二十三條　商法第四十七條ニ定メタル期間ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條　商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲ササルモノハ商法施行ノ日ヨリ一个月内ニ商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作リ且商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條　商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ商法施行ノ日ヨリ一个月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店竝ニ他ノ支店及ヒ社員ノ出資ノ種類竝ニ財産ヲ目的トスル出資ノ價格ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條　商法第五十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ規定ハ合名會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後商法施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ其本店若クハ支店ヲ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス但登記期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十七條　會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前二條ノ規定ニ依リ爲スヘキ登記ヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十八條　商法第六十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ舊商法第百四條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第二十九條　商法第七十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニハ之ヲ適用セス

第三十條　合名會社ノ目的タル事業ノ成功カ商法施行前ニ不能トナリタルトキハ裁判所カ解散ヲ命シタル場合ヲ除ク外其會社ハ商法ノ施行ト同時ニ解散シタルモノト看做ス

第三十一條　合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ規定

ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十二條　合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ既ニ清算人ヲ選任シタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條及ヒ第九十條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條　商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條　合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ商法施行ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

商法第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　合名會社カ商法施行前ニ解散ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ清算ハ舊商法ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

第三十六條　合名會社ニ於テ商法施行前ニ清算人ノ解任又ハ變更アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第九十七條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條　商法第百三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル合名會社ニモ亦之ヲ適用ス

第三十八條　商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ舊商法ノ規定ヲ適用ス

第二十三條、第二十五條乃至第三十二條及ヒ前三條ノ規定ハ前項ノ會社ニ之ヲ準用ス

第三十九條　商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ其取引ニ關スル一切ノ書類ニ商法施行前ニ設立シタル會社タルコトヲ示スコトヲ要ス

業務擔當社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第四十條　商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ舊商法第百五十一條第二項ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ總會ハ直チニ新會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第四十一條　商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條　商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ商法ノ規定ニ從ヒテ合併ヲ爲スコトヲ得但合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ商法ニ定メタル種類ノ一タルコトヲ要ス

合併ノ決議ハ舊商法第百五十一條第二項ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコトヲ要セス

第四十四條　商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ト雖モ其發起人カ未タ株主ノ募集ニ著手セサルトキハ之ニ商法ノ規定ヲ適用ス

第四十五條　株式會社ノ發起人カ商法施行前ニ株主ノ募集ニ著手シタルトキハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得但商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第四十六條　商法施行前ニ創業總會ニ於テ定款ヲ確定シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ從ヒテ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十七條　商法第百三十條ノ規定ハ前二條ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十八條　商法第百六十三條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ招集シタル創業總會ノ決議ニ之ヲ準用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十九條　第四十五條ノ場合ニ於テ商法施行前ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其日ヨリ六个月内ニ發起人カ創業總會ヲ招集セサルトキハ株式申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得

第五十條　第四十五條及ヒ第四十六條ノ場合ニ於テハ株式會社ハ各株ニ付キ株金ノ四分ノ一ノ拂込アリタル後二週間内ニ商法第百四十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條　商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ニシテ其定款ニ商法第百二十條第一號乃至第七號ニ揭ケタル事項ヲ定メサルモノハ商法施行ノ日ヨリ三个月内ニ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十二條　商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ハ商法施行ノ日ヨリ三个月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店竝ニ他ノ支店及ヒ會社カ公告ヲ爲ス方法竝ニ監査役ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第五十三條　商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲ササリシトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

舊商法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ商法施行前ニ生シタル場合ニ於テハ舊商法ニ登記期間ノ定ナキトキニ限リ前項ノ規定ヲ準用ス

第五十四條　取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ過料ニ處セラル

第五十五條　商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ株式ノ金額カ商法第百四十五條第二項ノ規定ニ反スルモ舊商法及ヒ舊商法施行條例ノ規定ニ反セサル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得商法施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ商法施行後ニ株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第五十六條　商法中株券ニ關スル規定ハ商法施行前ニ發行シタル假株券ニモ亦之ヲ適用ス

第五十七條　商法施行前ニ發行シタル株券及ヒ假株券ハ商法第百四十八條又ハ第二百十八條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス但商法施行後ニ株金ノ拂込ヲ爲シタル場合ニ於テハ前ニ拂込ミタル金額及ヒ新ニ拂込ミタル金額ヲ假株券ニ記載スルコトヲ要ス

第五十八條　舊商法第二百十二條乃至第二百十五條ノ規定ハ商法施行前ニ株金拂込ノ催告アリタル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十九條　商法第百五十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ商法施行前ニ株式ヲ讓渡シタル者ニシテ舊商法第百八十二條ノ規定ニ依リ擔保義務ナキ者ニハ之ヲ適用セス

第六十條　法令ノ規定ニ依リ日本人ノミヲ以テ組織スヘキ株式會社及ヒ日本人ノミヲ以テ組織スルコトヲ條件トシテ特別ノ權利ヲ有スル株式會社ハ無記名式ノ株券ヲ發行スルコトヲ得若シ之ニ違反シタルトキハ其株券ハ無效トシ最後ノ記名株主ヲ以テ株主トス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第六十一條　舊商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テハ株主ノ議決權ノ制限カ商法第百六十二條ノ規定ニ反スルモ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得但商法施行後ニ其制限ヲ變更スル場合ハ此限ニ在ラス

第六十二條　商法第百六十三條ノ規定ハ株主總會カ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條　商法第百六十七條但書ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役及ヒ監査役ニハ之ヲ適用セス

第六十四條　商法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ト雖モ其禁治産ニ因リテ退任ス

第六十五條　商法施行前ニ選任シタル取締役又ハ其施行ノ後遲滯ナク定款

人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得

ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十六條　商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ其施行後ニ株金ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ其拂込ノ年月日ヲ株主名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十七條　商法施行前ニ設立シタル株式會社ノ取締役ハ其施行ノ後遲滯ナク社債ノ總額及ヒ其償還ノ方法ヲ社債原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十八條　株式會社カ商法施行前ニ其資本ノ半額ヲ失ヒタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滯ナク株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

商法施行前ニ會社財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滯ナク破產宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第六十九條　取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル

第七十條　商法第百七十五條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニハ之ヲ適用セス

第七十一條　舊商法第百八十九條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニノミ之ヲ適用ス

第七十二條　商法施行前ニ舊商法第二百二十八條又ハ第二百二十九條ノ規定ニ依リテ提起シタル訴ニハ商法ノ規定ヲ適用セス

第七十三條　商法施行前ニ選任シタル監査役ハ其任期カ一年ヨリ長キトキト雖モ其任期間在任ス

第七十四條　商法第百九十條ニ揭ケタル書類ハ商法施行前ニ總會招集ノ通知ヲ發シタル場合ニ限リ會日マテニ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第七十五條　商法第百九十六條ノ規定ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ其登記後二年以上開業ヲ爲スコトヲ假決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ舊商法ノ規定ニ依リテ其增加又ハ減少ヲ爲スコトヲ得

商法第百二十八條乃至第百三十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條　商法施行前ニ爲シタル決議又ハ假決議ニ依リテ資本ヲ增加シタル場合ニ於テ商法施行前ニ新株ニ付キ拂込ミタル株金額ノ登記ヲ爲ササリシトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行ノ後ニ拂込アリタルトキハ其日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條　株式會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ解散ノ決議ヲ爲ササルトキハ取締役ハ商法施行ノ後遲滯ナク株主ニ對シテ解散ノ通知ヲ發スコトヲ要ス

第八十七條　取締役カ前二條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ過料ニ處セラル

第八十八條　株式會社ノ精算人ハ株主總會又ハ裁判所カ商法施行前ニ與ヘタル訓示ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八十九條　商法施行前ニ舊商法第二百四十二條ノ規定ニ依リテ選任シタル代人ハ商法施行ノ後ト雖モ其權限ヲ保有ス

第九十條　第三十三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル株式會社ノ清算人カ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第九十一條　第二十六條、第三十條乃至第三十二條、第三十五條及ヒ第三十六條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第九十二條　商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社及ヒ組合ニ付キ亦同シ

第九十三條　商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第九十四條　私設鐵道株式會社ニハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例ノ改正ニ至ルマテ舊商法及ヒ其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十五條　（三十三年法律第六十九號ヲ以テ削除）

第九十六條　（同上）

第九十七條　（同上）

第九十八條　（同上）

第九十九條　（同上）

第百一條　（同上）

第百二條　（同上）

第百三條　（同上）

第百四條　（同上）

第百五條　（同上）

第百六條　（同上）

第百七條　（同上）

第百八條　（同上）

第百九條　（同上）

第百十條　（同上）

第百十一條　（同上）

第百十二條　（同上）

第百十三條　（同上）

第百十四條　（同上）

第百十五條　（同上）

第百十六條　明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニハ之ヲ適用セス

第百十七條　商法施行前ニ設定シタル質權實行ニ付テハ前段ノ意思表示能ハサルモノト認ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第百十八條　商法施行前ニ設立シタル株式會社ノ取締役ハ其施行後ニ株金ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ其拂込ノ年月日ヲ株主名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第百十九條　明治二十三年法律第六十號ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第百二十條　株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テハ舊法ノ規定ニ依リテ其募集ヲ完了スルコトヲ得

第百二十一條　商法第二百四條第一項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ債權發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テ一時ニ全額ノ拂込ヲ爲サシメサルトキハ第一回ノ拂込アリタル後二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第百七十三條第三號乃至第六號ニ揭ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第百二十二條　商法施行前ニ發行シタル債權ハ商法第二百五條ノ規定ニ違フモノヽ如ク收ムルコトヲ要セス

第百二十三條　商法第二百九條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ假決議ヲ爲シテ未タ其通知ヲ發セサル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十四條　商法第二百九條第四項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ定款變更ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第百二十五條　株式會社カ商法施行前ニ資本ノ增加若クハ減少ノ決議又ハ

アリタル場合ヲ除ク外競賣法ノ規定ヲ適用ス但取引所ノ相場アル有價證券其他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

前項ノ規定ハ留置權者カ其留置物ヲ賣却スル場合ニ之ヲ準用ス

第百十九條　商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊商法ノ規定ヲ適用ス但民法施行法第三十條、第三十一條及ヒ第三十三條ノ準用ヲ妨ケス

第百二十條　商法第二百八十一條ノ規定ハ商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十一條　商法第二百九十九條ノ規定ハ商法施行前ニ約シタル匿名組合ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十二條　湖川、港灣及ヒ沿岸小航海ノ範圍ハ遞信大臣之ヲ定ム

第百二十三條　手形ノ所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行後ニ在リタル場合ニ於テハ其作成ノ日ヨリ六个月ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ商法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其日ヨリ六个月ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

商法施行前ニ進行ヲ始メタル時效ノ殘期カ商法施行ノ日ヨリ起算シテ六个月ヨリ短キトキハ時效ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第百二十四條　明治十九年法律第二號公證人規則第二十八條ノ規定ハ公證人カ拒絕證書ヲ作ル場合ニハ之ヲ適用セス

第百二十五條　外國ニ於テ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ノ要件ヲ具備スルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラス外國ニ於テ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ亦同シ

第百二十六條　外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス行爲ノ方式ハ行爲地ノ法律ニ依ル

第百二十七條　商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

商法第五百五十三條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十八條　商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ約シタル船舶ノ賃貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十九條　商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及ヒ第五百七十條乃至第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船長ニモ亦之ヲ適用ス

第百三十條　商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ揭ケタル書類ノ書式ハ遞信大臣之ヲ定ム

第百三十一條　委付ノ原因カ商法施行後ニ生シタルトキハ其施行前ニ爲シタル保險契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委付ヲ爲スコトヲ得

第百三十二條　船舶ノ存否カ商法施行ノ日ヨリ六个月間分明ナラサルトキハ未タ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セサルトキト雖モ其船舶ハ行方ノ知レサルモノト看做ス

第百三十三條　商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三日ノ期間カ未タ滿了ニ至ラサルトキハ商法施行ノ日ヨリ三个月内ニ商法第六百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シテ委付ヲ爲スコトヲ得

第百三十四條　船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發生シタル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第百三十五條　第三十三條ノ規定ハ商法第六百八十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第百三十六條　船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス

第百三十七條　民法施行法第二條、第三條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十四條、第五十三條及ヒ第五十六條ノ規定ハ商事ニ之ヲ準用ス

第百三十八條　明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ破產ヲ宣告ス

裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百三十九條　破產宣告ノ申立ヲ爲ス債權者ハ裁判所ノ定ムル所ニ從ヒ破產手續ニ必要ナル費用ヲ豫納スルコトヲ要ス

債權者カ前項ノ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ破產宣告ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

第百四十條　本人カ破產宣告ノ申立ヲ爲シタルトキハ破產手續ニ必要ナル費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨スルコトヲ要ス債權者カ破產宣告ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ前條第二項ノ規定ニ依リテ其申立ヲ棄却セサルトキ亦同シ

第百四十一條　裁判所ハ破產事件ニ付キ地方裁判所又ハ區裁判所ニ法律上ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

第百四十二條　明治二十三年法律第三十二號商法第千五十一條第五號ヲ左ノ如ク改ム

第五　財產目錄、貸借照對表ノ作成若クハ支拂停止屆出ノ義務ヲ怠リタルトキ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ其住地ヲ離レタルトキ

第百四十三條　明治二十三年法律第三十二號商法第千五十四條ヲ左ノ如ク改ム

破產宣告ヲ受ケタル債務者ハ復權ヲ得ルニ非サレハ會社ノ無限責任社員、舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ノ業務擔當社員、株式會社ノ取締役若クハ監査役、清算人、破產管財人又ハ商業會議所ノ會員トナルコトヲ得ス

第百四十四條　明治二十三年法律第三十二號商法第千五十五條第三項ハ之ヲ削除ス

第百四十五條　明治二十三年法律第三十二號商法第千五十九條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ付キ自己ノ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ其債權者ノ過半數以上ノ承諾ヲ得タルトキハ營業所ノ所在地又ハ住所地ヲ管轄スル裁判所ハ一年ヲ超ヘサル範圍内ニ於テ支拂猶豫ヲ與フルコトヲ得

附　則

第百四十六條　本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第百四十七條　明治二十三年法律第五十九號商法施行條例ハ第二十條、第二十四條、第二十五條、第三十五條乃至第四十五條及ヒ第四十八條乃至第五十條ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但第二十一條乃至第二十三條及ヒ第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍ホ其效力ヲ存ス

◉商法中署名スヘキ場合ニ關スル件（明治三十三年二月法律第十七號）

商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

◉小商人ノ範圍ニ關スル件

（明治三十二年六月勅令第二百七十二號）

商行爲ヲ爲スヲ業トスルモ資本金額五百圓ニ滿タサル者ハ之ヲ小商人トス

附則

此勅令ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉商法第五百六十二條ニ依ル書類ノ件

（明治三十二年五月逓信省令第十九號）

第一條　海員名簿ハ第一號書式、屬具目錄ハ第二號書式、航海日誌ハ第三號書式、旅客名簿ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

前項ノ書類ハ書式ニ示ス順序ニ依リ之ヲ編綴シ且各頁ニ頁數ヲ附スヘシ但其紙數ハ適宜トス

第二條　前條ノ書類ニハ海事局ノ認可ヲ經テ書式ニ定メサル事項ヲ記載スル爲メ欄ヲ設クルコトヲ得

旅客名簿及航海日誌ハ沿海航船及航路定限ヲ內國ニ限リタル近海航船ニ在リテハ海事局ノ認可ヲ經テ書式ニ定ムル事項ヲ省略スルコトヲ得

第三條　第一條ノ書類ニハ各事項ニ付英譯ヲ附シ又ハ頁ノ上部ニ船舶及船舶所有者ノ名稱等ヲ附記シ又ハ記載心得等ヲ揭クルコトヲ得

第一條ノ書類ハ書式ニ定ムル事項ノ位置ヲ變更シテ之ヲ調製スルコトヲ得

但其順序ヲ變更スルコトヲ得ス

（書式略ス）

◉商法施行法第百二十二條ニ依ル湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍

（明治三十二年五月逓信省令第二十號）

湖川、港灣ノ範圍ハ平水航路ノ區域ニ依ル

沿岸小航海ノ範圍ハ播磨國明石川口西岸ヨリ淡路國江崎ニ至ル線、淡路國押登崎ヨリ阿波國大磯崎ニ至ル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豐後國地藏崎ニ至ル線及豐前國部崎ヨリ長門國宇部村ニ至ル線ヲ以テ限ラレタル內海トス

◉產業組合法

（明治三十三年三月法律第三十四號）

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ產業組合トハ組合員ノ產業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ

一　組合員ニ產業ニ必要ナル資金ヲ貸付ル及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト（信用組合）

二　組合員ノ生產シタル物ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ賣却スルコト（販賣組合）

三　產業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト（購買組合）

四　組合員ノ生產シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ產業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト（生產組合）

前項第一號ニ揭ケタル事業ハ他ノ各號ニ揭ケタル事業ト相兼ヌルコトヲ得ス

第二條　產業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス

無限責任組合ニ在リテハ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ、有限責任組合ニ在リテハ組合員ノ全員カ其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ、保證責任組合ニ在リテハ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第三條　產業組合ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス、

第四條　產業組合ノ名稱中ニハ其ノ組織及目的ヲ示スヘキ文字ヲ用ヰヘシ

產業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ產業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條　產業組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條　產業組合ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

產業組合ニシテ登記ヲ受クルトキハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ組合員名簿ノ記載ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第二章　設立

第七條　產業組合ハ七人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第八條　組合ノ設立者ハ定款ヲ作リ之ヲ主タル事務所所在地ノ地方長官ニ差出シ設立ノ許可ヲ請フヘシ

第九條　定款ニハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

一　目的

二　名稱

三　組織

四　事務所

五　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

六　第一回拂込ノ金額

七　剩餘金及損失分配ニ關スル規定

八　準備金ノ積及其ノ積立ノ方法

九　組合員タルノ資格ニ關スル規定

十　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

十一　組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定

十二　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

信用組合ノ區域ハ市町村ノ區域以內ニ於テ之ヲ定メ定款中ニ記載スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

第十條　產業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十一條　出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ

第十二條　組合カ其設立ノ許可ヲ受クタルトキハ遲滯ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十三條　前條ノ拂込アリタルトキハ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十四條　登記スヘキ事項左ノ如シ

一　第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ揭クタル事項

二　設立許可ノ年月日

三　理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ揭ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間內ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十五條　組合ハ其ノ設立ノ登記ノ申請ト共ニ組合員名簿ヲ其ノ主タル事務所所在地ノ裁判所ニ差出スヘシ

組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　各組合員ノ氏名、住所
二　各組合員ノ出資口數
三　各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日
四　出資各口ノ取得ノ年月日
五　保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

第十四條第二項ノ規定ハ組合員名簿ノ記載ニ之ヲ準用ス
裁判所ニ差出シタル組合員名簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第十六條　民法第四十五條第二項、第三項、第四十七條及第四十八條ノ規定ハ產業組合ニ之ヲ準用ス但シ同規定中一週間トアルヲ二週間トス

第三章　組合員ノ權利義務

第十七條　組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ
組合員ノ有スヘキ出資口數ハ十口ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條　組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條　組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スコトヲ得ス
組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ

第二十條　組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條　持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十二條　新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第二十三條　組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得

第二十四條　組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ違背スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得

第四章　管理

第二十五條　產業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ
理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條　理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條　理事及監事ノ選任及解任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　理事ハ定款及總會ノ決議錄ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ
組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ揭ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十條　理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財產目錄、貸借對照表事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ
組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ揭ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條　理事ハ前條第一項ニ揭ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第三十二條　民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第六十條及第六十一條第一項ノ規定ハ產業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス

第三十三條　監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三十四條　民法第五十九條ノ規定ハ產業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第三十五條　組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト理事トノ間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ

第三十六條　總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十七條　組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス
代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第三十八條　民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ產業組合ニ之ヲ準用ス

第三十九條　定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十八條ノ規定ノ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第四十條　組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財產目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十一條　債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十二條　前二條ノ規定ハ保證責任組合カ組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ

第四十四條　組合ハ損失ヲ塡補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

組合員ノ持分ニ對スル剩餘金分配ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條　組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四十六條　組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十七條　組合ノ事業年度ハ一箇年トス

第四十八條　組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第九章　加入及脫退

第四十九條　無限責任組合ニ加入セムトスル者ハ總組合員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五十條　定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脫退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ
前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十一條　組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脫退ス
一　組合員タル資格ノ喪失
二　死亡
三　破產
四　禁治產
五　除名

第五十二條　除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム
除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第五十三條　脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ金額又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條　脱退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脱退ヲ組合員名簿ニ記載シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム

第五十五條　持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第五十六條　持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完濟スルニ足ラサルトキハ脱退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘシ

第五十七條　脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完濟スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第五十八條　無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脱退シタル組合員ハ脱退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脱退ヲ組合員名簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス

前項ノ規定ハ特別ノ契約ヲ以テ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ妨ケス

前二項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル組合員ニ之ヲ準用ス

第六章　監督

第五十九條　産業組合ハ主務大臣、地方長官及郡長之ヲ監督ス

第六十條　監督官廳ハ何時ニテモ理事ヲシテ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ組合ノ事業及財産ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ行フ

第六十一條　組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲カ定款若ハ法令ニ違背シ其他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ主務大臣又ハ地方長官ハ總會ノ決議ヲ取消シ、理事、監事若ハ清算人ノ改選ヲ命シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ヲ解散スルコトヲ得

第七章　解散

第六十二條　組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　定款ニ定メタル事由ノ發生

二　總會ノ決議

三　組合ノ合併

四　組合員カ七人未滿ニ滅シタルトキ

五　組合ノ破産

第六十三條　第二十八條ノ規定ハ解散及合併ノ決議ニ之ヲ準用ス但シ無限責任組合ノ合併ニ付テハ總組合員ノ同意アルコトヲ要ス

第六十四條　組合カ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十五條　第四十一條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十六條　合併ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十七條　組合カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存續スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十八條　合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第六十九條　民法第七十條ノ規定ハ産業組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章　清算

第七十條　清算人ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タリシ者ノ中ヨリ之ヲ選任ス

第七十一條　清算人ハ就職後遲滯ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作リ之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條　清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十三條　清算事務カ終リタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作リ之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十四條　清算人ノ解任アリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲シ且之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第七十五條　民法第七十三條乃至第八十三條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス但シ同規定中一週間トアルハ二週間トス

第九章　罰則

第七十六條　組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上壹百圓以下ノ過料ニ處セラル

一　本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二　官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

三　第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一項及第三十條第一項ニ揭ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ若ハ正當ノ理由ナクシテ其閲覽ヲ拒ミタルトキ

四　第四十條、第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條又ハ第七十二條ノ規定ニ違背シタルトキ

五　第六十條ノ報告ヲ爲サス又ハ檢査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

六　民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタルトキ

七　民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

八　民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違背シタルトキ

第七十七條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第七十八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十九條　産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第八十條　各登記所ニ産業組合登記簿ヲ備フ

第八十一條　組合設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　定款

二　地方長官ノ許可書又ハ其ノ認證アル謄本

三　第十五條第二號及第五號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面

第八十二條　事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且地方長官ノ認可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

前二項ノ規定ハ組合員名簿ノ記載ノ申請ニ之ヲ準用ス

第八十三條　出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ノ減少ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　地方長官ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本

二　第四十條第二項ニ依ル催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

第八十四條　組合ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且組合カ總會ノ決議ニ因リテ解散シタルトキハ總會ノ決議錄ヲ添附スヘシ

第八十五條　合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第八十三條ニ揭ケタル書面ヲ添附スヘシ

組合カ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ監督官廳ノ嘱託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第八十六條　第八十一條ノ規定ハ出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責

任ノ減少、組合ノ解散及組合ノ合併ニ因ル變更、設立又ハ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條　本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合員名簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條　非訟事件手續法第百三十六條乃至第百三十八條、第百四十一條乃至第百五十一條、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十三條乃至第百六十五條及第百七十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第八十九條　本法ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テハ支廳長、沖繩縣ノ區ニ於テハ區長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第九十條　北海道ニ於ケル産業組合ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

◉産業組合法施行規則

（明治三十三年七月農商務省令第十六號）

第一條　出資一口ノ金額ハ五拾圓ヲ超ユルコトヲ得ス但特別ノ理由アルトキハ此限ニ在ラス

第二條　第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第三條　準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第四條　組合カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徴收スルトキハ其金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス脫退シタル組合員ニ對シ其持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタルトキハ其殘額ニ付キ亦同シ

第五條　理事及七監事ハ定款ノ規定又ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得

第六條　組合ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但特別ノ理由アルトキハ此限ニ在ラス

第七條　理事ハ總會ノ承認ヲ經タル後遲滯ナク産業組合法第三十條第一項ニ揭ケタル書類ヲ地方長官ニ差出スコトヲ要ス

第八條　組合員ノ數及七出資口數ノ異動

一　出資拂込ノ總額及七剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其總額

二　借入金及七其償還

三　準備金及七各種ノ積立金

四　總會ノ決議

五　事業ノ狀況

六　信用組合ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額、受入又ハ拂戻シタル貯金額及七貯金並ニ貸付金ノ利率其他ノ組合ニ在リテハ販賣、購買又ハ生産シタル物ノ種目別ノ數量及七價額

七　組合員ノ職業別ノ數及七出資口數

八　保證責任組合ニ在リテハ保證金額

九　保證責任組合ニ在リテハ保證金額

十　處務ノ要件

第九條　理事ハ毎年總會ノ決議ヲ經テ左ノ事項ヲ地方長官ニ報告スルコトヲ要ス

一　事業年度ニ於テ借入ルルコトヲ得ヘキ最高金額

二　信用組合ニ在リテハ一事業年度ニ於テ一組合員ニ貸付スルコトヲ得ヘキ最高金額

第十條　出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議錄、財產目錄及七貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

第十一條　持分ニ對スル剩餘金分配ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條　合併ノ認可申請書ニハ第十條ニ揭ケタル書類ノ外合併契約書及七合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

第十三條　組織變更ノ認可申請書ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ尙ホ第十條ニ揭ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第十四條　郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハントスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フコトヲ要ス

第十五條　地方長官カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直ヲニ其旨ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第十六條　組合カ産業組合法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記シタル事項及七其登記ノ年月日ヲ地方長官ニ届出ルコトヲ要ス但組合員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第十七條　組合ヨリ地方長官ニ差出スヘキ書類ハ郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ經由スルコトヲ要ス

附　則

第十八條　本則ハ産業組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニハ之ヲ適用セス

◉重要物産同業組合法

（明治三十三年三月法律第三十五號）

第一條　重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設立スルコトヲ得

重要物産及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第二條　同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ增進スルヲ以テ目的トス

第三條　同業組合ヲ設立セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區內ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條　同業組合設置ノ地區內ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ

定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハントスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フコトヲ要ス

第十五條　地方長官カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直ヲニ其旨ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第十六條　組合カ産業組合法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記シタル事項及七其登記ノ年月日ヲ地方長官ニ届出ルコトヲ要ス但組合員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第十七條　組合ヨリ地方長官ニ差出スヘキ書類ハ郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ經由スルコトヲ要ス

附　則

第十八條　本則ハ産業組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニハ之ヲ適用セス

◉重要物産同業組合法

（明治三十三年三月法律第三十五號）

第一條　重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設立スルコトヲ得

重要物産及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第二條　同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ增進スルヲ以テ目的トス

第三條　同業組合ヲ設立セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區內ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條　同業組合設置ノ地區內ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　同業組合ハ組合相互ノ鞏固ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　同業組合及同業組合聯合會ハ法人トス

同業組合及同業組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　同業組合及同業組合各聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一　組長　一名

一　副組長　若干名

一　評議員　若干名

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ同業組合ニ於テハ組合員中ヨリ同業組合聯合會ニ於テハ聯合會ヲ組織スル同業組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第九條　組長ハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任ス

副組長ハ組長ノ事務ヲ補佐シ組長故障アルトキ之ヲ代理ス

評議員ハ組長ノ諮詢ニ應シ及業務施行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

副組長及評議員ハ定款ノ規定ニ依リ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

第十條　同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ檢查規定ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ檢查スルコトヲ得

同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過意金ヲ徵シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十一條　同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ釐算竝徵收法ハ各其ノ定

◉重要物産同業組合法施行規則（明治三十三年勅令第七號）

第一條　重要物産同業組合法ニ依リ設置スル組合又ハ聯合會ノ名稱ニハ同業組合又ハ同業組合聯合會ナル文字ヲ附スヘシ

第二條　組合ノ地區ハ郡市以上ノ區域ニ依ルヘシ但特別ノ事情アルトキハ此ニ在ラス

第三條　組合ヲ設置セントスルトキハ五名以上ノ發起者ニ於テ其組合ノ地區及ヒ營業ノ種類ヲ定メ發起ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第四條　發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ組合員タルヘキ者ニ左ノ事項ヲ知シ組合設置ノ同意ヲ求ムヘシ

一　組合ノ地區及ヒ營業ノ種類

二　組合員タルヘキ者ノ數但各種營業者ニ之ヲ區別スヘシ

三　組合ノ目的及營業ノ概目

四　創立費及ヒ設置後ノ經費ノ概算

五　同意ヲ表スヘキ期間

六　創立總會ヲ招集スル場所及ヒ日時

第五條　法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作リ遅滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

創立總會ニハ發起人少クトモ二週間前ニ會議ノ目的、日時及場所ノ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ告示スヘシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第六條　定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

但二種以上ノ營業者組合員タルヘキ場合ニ於テハ各種營業者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第七條　創立總會ニ於テハ組合員タルヘキ者ノ半數以上出席シ其出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ定款ヲ議決シ且役員ヲ選舉スヘシ

第八條　創立總會ヲ終ハリタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類、定款及ヒ創立總會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第九條　創立總會ニ於テハ其議定シタル定款ノ規定ニ從ヒ役員ヲ選舉シ又ハ經費ノ豫算ヲ議定シタルコトヲ證スヘシ

第十條　發起人發起ノ認可アリタル後六个月内ニ組合設置ノ認可ヲ申請セサルトキハ又ハ公益ヲ害スル行爲アリト認メラルルトキハ地方長官ハ發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十一條　聯合會ノ創立總會ハ其聯合會ヲ組織セントスル組合ニ於テ選定シタル委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十二條　聯合會ノ創立總會ヲ終ハリタルトキハ聯合會ヲ組織スル組合ヨリ聯合會設置ノ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十三條　組合又ハ聯合會ノ創立費及ヒ其償却ノ方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第十四條　農商務大臣組合又ハ聯合會ノ設置ヲ命シタルトキハ地方長官ハ創立委員ヲ選定シ且其名ヲ公告スヘシ

第十五條　組合又ハ聯合會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　目的及ヒ營業

二　名稱及ヒ事務所ノ位置

三　組合ノ地區及ヒ營業ノ種類但聯合會ニ在リテハ之ヲ組織スル組合ノ名稱

四　加入及ヒ脫退ニ關スル規定

五　組合員又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ權利義務

六　役員ノ資格、權限及ヒ其選任竝ニ解任ニ關スル規定

七　會議ニ關スル規定

八　經費ノ豫算ニ關スル規定

九　決算利益ノ處分ニ關スル規定

十　定款ノ變更ニ關スル規定

十一　解散ニ關スル規定

十二　營業ニ關スル檢査又ハ仲裁判斷ヲ爲サントスルトキハ之ニ關スル規定

第十六條　定款變更ノ認可申請書ニハ其變更ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第十七條　組合又ハ聯合會ニ於テ定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規則ヲ設ケントスルトキハ其都度農商務大臣ニ屆出ヘシ

第十八條　組合又ハ聯合會ノ役員ノ認可申請書ニハ其履歷書ヲ添附スヘシ

第十九條　組合又ハ聯合會ノ經費ノ豫算ニ徵收法ノ認可申請書ハ創立總會ノ終了後滿一年度ニ相當スル分ヲ限リ之ヲ作成シ且其年度ノ始ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二十條　同業組合又ハ同業組合聯合會ノ議事ハ檢査證ヲ營業品ニ添附シタル者又ハ添附シタル者ノ證明ヲ受ケタル者ニ非サレハ投票權ヲ有セス

第二十一條　本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品同業組合法ハ之ヲ廢止ス

第二十二條　重要輸出品同業組合法ニ依リテ設立シタル組合及聯合會ハ本法ニ依リテ設立シタルモノト看做ス

第二十三條　他ノ法律中重要輸出品同業組合法ヲ引用スヘキモノト定メタル場合ニ於テハ之ヲ本法ノ規定ヲ引用スルモノトス

本法施行ノ日ヨリ重要輸出品同業組合法ニ依リ設立シタル組合及聯合會ハ本法ノ規定ヲ引用スルモノトス

第二十四條　本法施行ノ日ヨリ重要輸出品同業組合法ニ依リ設立シタル組合及聯合會ハ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第二十五條　他ノ法律中重要輸出品同業組合法ヲ引用スヘキモノト定メタル場合ニ於テハ之ヲ本法ノ規定ヲ引用スルモノトス

本法施行ノ日ヨリ重要輸出品同業組合法ニ依リ設立シタル組合及聯合會ハ本法ノ規定ニ依リ設立シタルモノト看做ス

附　則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品同業組合法ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ日ヨリ重要輸出品同業組合法ニ依リ設立シタル組合及聯合會ハ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

本法中他ノ法律ニ於テ重要輸出品同業組合法ヲ引用スヘキモノト定メタル場合ニ於テハ之ヲ本法ノ規定ヲ引用スルモノトス

本法施行ノ日ヨリ重要輸出品同業組合法ニ依リ設立シタル組合及聯合會ハ本法ノ規定ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第二十三條　清算人其任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第二十四條　清算カ結了シタルトキハ清算人其結果ヲ地方長官ニ届出ヘシ

第二十五條　農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

第二十六條　本則施行前ニ重要輸出品同業組合法施行細則ニ依リテ爲シタル組合設置ノ手續ハ會則ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

◉北海道農業者ノ設立産業組合ニ關スル件（明治三十三年六月勅令第二百五十五號）

第一條　本令ハ北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合ニ之ヲ適用ス

第二條　組合ノ組織ハ無限責任ト雖モ設立後十箇年ヲ經タルモノハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ有限責任又ハ保證責任ト爲スコトヲ得

第三條　産業組合ハ二十人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第四條　主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ三箇年以内ノ期限ヲ以テ組合創業費ノ一部又ハ全部ヲ其ノ組合ニ貸與スルコトヲ得

第五條　出資ノ勞務ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第六條　組合員ノ出資口數ハ一口ト爲ス但シ北海道廳長官ノ許可ヲ得タル場合ハ十口以下ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第七條　組合ノ理事ハ三名以上ト爲ス但シ北海道廳長官ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　理事ハ總組合員ノ承諾アルニ非サレハ組合ト同一ノ事業ヲ目的トスル他ノ組合ノ理事ト爲ルコトヲ得ス

第九條　組合ハ毎事業年度ノ終リ迄ニ總會ノ決議ヲ經テ左ノ事項ヲ北海道廳支廳長ニ報告スヘシ

一　次年度ニ於ケル業務施行ノ方針

二　次年度ニ於ケル負債額ノ最高限度

三　信用組合ニ在テハ次年度ニ於テ組合員ニ貸付シ得ヘキ金額ノ最高限度

前項第二號ノ負債額ノ最高限度ハ現在負債額ヲ合シテ之ヲ定メ其ノ年度内ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條　組合ハ組合員ノ脫退シタル場合ニ於テモ出資ノ外其ノ持分ヲ拂戻スコトヲ得ス

第十一條　存立時期ヲ定メタル組合ニ於テハ其ノ組合員ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外總組合員ノ同意アルニ非サレハ脫退スルコトヲ得ス

第十二條　組合ハ組合員ノ數二十人以下ニ減シタルトキハ解散ス

第十三條　登記及届出ニ關シ産業組合法ニ於テ定メタル二週間ノ期間ハ本令ニ於テハ之ヲ三週間トス

第十四條　産業組合法ニ定メタル郡長ノ職務ハ支廳長之ヲ行フ

附則

本令施行ノ期日ハ内務大臣之ヲ定ム

◉商業會議所條例（明治二十三年九月法律第八十一號）

第一條　此條例ニ商業者ト稱スルハ左ニ揭クル者ヲ云フ（二十八年法律第二十三號ヲ以テ改正）

一　商法第四條ノ商取引所及同第五條第一號第三號第四號第六號ニ揭ケタル取引ヲ營業トスル者

二　第一項ニ揭ケタル取引ヲ營業トスル合資會社株式會社及取引所ノ營業トスル會社ノ社員

三　第一項ニ揭ケタル取引ヲ營業トスル合名會社ノ社員合資會社ノ業務擔當社員無限責任社員株式會社ノ取締役及取引所ノ理事長理事

第二條　商業會議所ヲ設立セントスルトキハ其地ノ商業者中此條例ニ依リ會員タルヲ得ヘキ者發起人トナリ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但發起人ノ數ハ定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ半數以上ナルコトヲ要ス

地方長官ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ郡若クハ市參事會ニ諮問シ其意見ヲ徴シ尚ホ自己ノ意見ヲ添ヘ農商務大臣ニ進達スヘシ

第三條　會議所設立地ノ境界ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但土地商業ノ情況ニ依リ數市町村ノ區域ヲ互ニ聯合シテ其地ニ一會議所ヲ設立スルコトヲ得

第四條　會議所ノ事務權限左ノ如シ

一　商業ノ發達ヲ圖リ若クハ其衰退ヲ防クニ必要ノ方案ヲ議定スルコト

二　商業ニ關スル法律命令其他諸條規ノ制定改正廢止及施行方法ニ付意見ヲ行政廳ニ開申シ且商業上ノ利害ニ關スル意見ヲ行政廳其他ニ表示スルコト（二十八年法律第二十三號ヲ以テ本項乃至第五項改正）

三　商業ノ實況及ヒ其統計ヲ行政廳ノ諮問ニ應答スルコト

四　商業ニ關スル事項ニ付行政廳ノ諮問ニ應答スルコト

五　法律命令其他諸條規若クハ行政廳ノ委任ニ依リ其他ノ公設營業所、仲立人及商業ニ關スル諸營造物ヲ管理スルコト

六　仲立人ノ資格員數及手數料ヲ審査スルコト

七　關係人ノ請求ニ依リ其地ノ商業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト

第五條　會議所設立地ニ於テ第一條第一項ノ營業ヲ爲シ又ハ第一條第三項ノ社員役員トナリ其地ニ於テ所得稅ヲ納ムル商業者竝會議所設立地ニ於ケル營業スル第一條第二項ノ會社及取引所ハ其會議所會員ノ選擧權ヲ有ス（二十八年法律第二十三號ヲ以テ本條乃至第七條改正）

第六條　會員ノ選擧權ヲ有スル會社及取引所竝三箇年以上繼續シテ會員ノ選擧權ヲ有スル年齡滿三十歳以上ノ男子ハ會員ノ選擧權ヲ有ス

會社及取引所ヲ代表スヘキ者ハ第一條第三項ニ該當スル其社員役員ニシテ年齡滿三十歳以上ノ男子一人ニ限ル

第七條　第五條及第六條ニ揭ケタル會員ノ選擧權及被選擧權ニ關スル財產上ノ資格ニ付テハ農商務大臣ハ地方ノ情況ニ依リ所得稅又ハ會社取引所ノ資本額ニ基キ特ニ之ヲ規定スルコトヲ得

所得稅法第二十九條但書ニ揭ケタル地方ニ在テハ農商務大臣ハ所得稅ニ代フルニ他ノ稅ヲ以テシ且其稅額ニ基キ財產上ノ資格ヲ定ムルコトヲ得

第八條　左ニ揭クル者ハ會員ノ選擧權及被選擧權ヲ有セス

一　禁錮白痴ノ者

二　重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及ヒ商工ノ業ヲ妨害スル罪、財產ニ對スル罪、風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期後又ハ赦免後三箇年ヲ經サル者

三　公權剝奪若クハ停止中ノ者

第九條　會員ノ數ハ十五名以上五十名以下各會議所ノ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十條　會員ハ無給トス其任期ハ四箇年トシ每二年其半數ヲ改選ス初回ノ解任者ハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ

第十一條　會員當選者ハ左ニ揭クル者ヲ除クノ外會議所ノ議決ヲ經スシテ其就職ヲ辭シ又ハ任期中辭職スルコトヲ得ス

一　疾病若クハ老衰ニ依リ職務ニ堪ヘサル旨ヲ證明スル者

二　營業ノ爲メ常ニ會議所設立地ニ住居スル能ハサルコトヲ證明スル者

第十二條　前條ノ規定ニ依ル非スシテ會員ノ職ヲ辭スル者ハ會議所ノ議決ヲ以テ貳百圓以下ノ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十三條　會員ノ選擧ハ郡長若クハ市町委員ヲ命シ日時及場所ヲ定メテ施行セシム其費用ハ會議所ノ負擔トス

第十四條　會議所ノ會議ハ第四條第二項第四項及第七項ノ事件ニ係ル會議ハ公開スルコトヲ得ス（二十八年法律第二十三號ヲ以テ改正）

第十五條　會議所ハ第四條第七項ノ場合ニ於テ其關係人ヨリ相當ノ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第十六條　會議所ハ法人トシテ財產ヲ所有スルモノトス

第十七條　會議所ハ其議決ニ依リ會員定數ノ五分ノ一ヨリ多カラサル特別會員ヲ置キ會議ニ參列セシムルコトヲ得但特別會員ハ其議決ニ加フルコトヲ得ス

特別會員ノ資格ハ學術技藝若クハ商業上ノ經驗アル者タルヘシ

第十八條　會議所經費ノ豫算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ報告スヘシ

豫算ノ決算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十九條　會議所ノ經費ハ會員ノ選擧權ヲ有スル者ヨリ徵收ス其徵收方法ハ會議所ノ議決ヲ以テ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ヲ納期ニ納メサル者アルトキハ其地ノ地方稅收入役ニ囑託シテ之ヲ徵收スルコトヲ得

收入役ノ督促ヲ受クルモ經費ヲ納メサル者ハ會員ノ選擧權及被選擧權ヲ四箇年以上八箇年以下停止シ猶ホ貳百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十條　會議所ノ定款ハ會議所ノ議決ヲ以テ左ノ事項ヲ規定シ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　會員選擧規則

二　議事規則

三　庶務規定

四　役員職務權限

五　仲裁規則

六　會計規則

七　公設ノ營造物若クハ共營業所ノ管理規則

第二十一條　農商務大臣ハ會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ行爲アリト認メタルトキハ會議ヲ停止シ尙ホ其情況ニ依リ役員若クハ會員ノ總部又ハ全部ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條　農商務大臣ハ此條例施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發スヘシ

附　則

第二十三條　會議所會員ハ此條例ノ改正ニ依リ被選ノ資格ニ異動ヲ生スルモ任期中ハ其職ヲ失ハサルモノトス（二十八年法律第二十三號ヲ以テ追加）

◉商業會議所條例施行規則

（明治二十八年八月農商務省令第九號）

第一條　商業會議所設立ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人連署スヘシ

一　會議所ノ名稱、位置

二　設立地ノ區域

三　定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ定數

設立地ノ區域數市町村ニ亘ルトキハ各市町村ニ於テ發起人アルコトヲ要ス

第二條　地方長官會議所設立ノ認可申請書ヲ農商務大臣ニ進達スルトキハ發起人ノ職業、年齡、所得稅納額ノ調書及會議所設立地ノ商業者中會員ノ選擧權ヲ有スル者、被選擧權ヲ有スル者ノ人員調書ヲ添附スヘシ

第三條　發起人會議所設立ノ認可ヲ得タルトキハ其旨ヲ設立地ノ商業者ニ公告シ認可ノ日ヨリ三十日以內ニ初回會員選擧規則及創立豫算ヲ編製シ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

第四條　發起人初回會員選擧規則及創立豫算ノ認可ヲ得タルトキハ認可ノ日ヨリ六十日以內ニ第七條ニ依リ會員選擧ノ施行ヲ請求スヘシ

第五條　發起人ハ會議所初會ノ會議ニ際シ其執行シタル事務ノ報告ヲ爲シ一切ノ書類物件ヲ會議所ニ引繼クヘシ

會議所ハ前項ノ引繼ヲ受ケタル後六箇月以內ニ創立豫決算報告書ヲ農商務大臣ニ進達スヘシ

第六條　會議所ハ初回ノ會議ヲ開キタル日ヨリ三十日以內ニ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

第七條　會議所ハ會員ノ選擧ヲ爲ストキハ會員選擧人及被選擧人ノ名簿其他必要ノ書類ヲ添ヘ其地ノ郡長若クハ市長ニ選擧ノ施行ヲ請求スヘシ但會議所設立地ノ區域數市町村ニ亘ルトキハ會議所ヲ設置スル地ノ郡長若クハ市長ニ請求スヘシ

第八條　郡長若クハ市長會議所又ハ發起人ヨリ會員選擧施行ノ請求ヲ受ケタルトキハ十五日以內ニ選擧委員五名ヲ命シ少クトモ十五日以上ノ豫告ヲ爲シ其選擧ヲ施行セシムヘシ

第九條　郡長若クハ市長會員ノ選擧ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　當選者ニ當選ノ通知ヲ爲シ會社、取引所ニハ通知ヲ爲スト同時ニ其代表人ノ氏名届出ヲ命スヘシ

二　選擧ニ關スル書類ハ會議所ニ引繼クヘシ

三　會議所創立ノ場合ニハ選擧ヲ終リタル日ヨリ十五日以內ニ場所日時ヲ定メ會員ヲ召集シテ初回ノ會議ヲ開カシムヘシ

第十條　郡市町村長ハ會員選擧人被選擧人名簿ノ調製及會議所經費ノ賦課ニ關シテ必要ナル會員選擧權被選擧權ノ要件、所得稅納額及其他ノ納稅額調査ノ爲メ會議所又ハ發起人ヨリ請求アルトキハ其書類ヲ開示スヘシ

第十一條　會議所ハ會員、役員ノ就任退任アルトキハ七日以內ニ農商務大臣ニ届出ヘシ特別會員ヲ置キタルトキ亦同シ

第十二條　會議所ハ經費豫算ノ認可申請書ヲ會計年度二箇月以前ニ進達スヘシ創立ノ場合ニ於テハ定款認可後二箇月以內ニ進達スヘシ

經費決算報告書ハ財產目錄ヲ添ヘ會計年度經過後六箇月以內ニ進達スヘシ

第十三條　會議所ハ每月執行シタル事務ノ要領ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十四條　會議所第三條第四條及第六條規定ノ期限內ニ其手續ヲ爲シ能ハサルトキハ事由ヲ具シ其期限內ニ延期ヲ請フコトヲ得

第十五條　地方長官會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ戾アリト認メタルトキハ速ニ其事狀ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

◉會社ノ日本銀行ニ出スヘキ印鑑證明ノ件

（明治二十六年九月大藏省令第十八號）

記名公債證書ヲ所有スル商事會社ハ印鑑ヲ差出シアル裁判所ノ證明ヲ經テ其印鑑ヲ日本銀行ニ差出スヘシ

◉私設鐵道株式會社ニ關スル件

（明治二十八年二月法律第四號）

第一條　私設鐵道株式會社ハ各株式ニ付十分一以上ノ拂込ヲ爲シタルトキハ北登記ヲ受クルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ登記ヲ受ケタル後ト雖四分一拂込前ノ株式ノ讓渡ハ無効タリ

第三條　私設鐵道株式會社ハ其資本金十分一未滿ニ減シタルトキハ解散ス

但シ其ノ拂込金額四分一以上ニ及ヒタルモノハ商法第二百三十條第四ニ號ル

附　則

此ノ法律ハ發布ノ日ヨリ施行ス

◉外國會社ノ支店及外國人カ設立シタル會社竝ニ組合ニ關スル件

（明治三十二年六月勅令第二百七十二號）

本文ハ登記ノ類法人及夫婦財產登記ノ部ニアリ

◉外國會社、外國人新條約實施後銀行營業ヲ繼續セントスルモノ認可申請手續

（明治三十二年六月大藏省令第三十號）

日本ニ於テ銀行事業ヲ營ミタル外國會社又ハ外國人ニシテ新條約實施後其ノ營業ヲ繼續セントスルモノノ認可申請手續左ノ通リ相定ム

新條約實施前ニ日本ニ於テ本店又ハ支店ヲ設立シ銀行事業ヲ營ミタル外國會社又ハ外國人ニシテ其ノ營業ヲ繼續セントスルモノハ明治三十二年大藏省令第二十四號銀行條例施行細則第一條第二條又ハ第三條ノ規定ニ準シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

破產法

商法第二編破產法

（明治二十三年四月法律第三十二號）

第一章　破產宣告

第九百七十八條　商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ破產ヲ宣告ス（三十二年法律第四十九號ヲ以テ改正）

裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九百七十九條　ヲ拂停止ハ其停止ヲ爲シタル本人ヨリ又會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役又ハ計算人ヨリ支拂停止ノ日ヲ算入シテ五日內ニ其營業所又ハ住所ノ裁判所ニ書面ヲ以テ又ハ口述ヲ調書ニ筆記セシメテ之ヲ屆出スヘシ此屆出ニハ支拂停止ノ事由ヲ明示シ及ヒ貸借對照表竝ニ商業帳簿ヲ添フルコトヲ要ス（二十六年法律第九號ヲ以テ改正）

貸借對照表ニハ左ノ諸件ヲ包含ス

第一　總テノ動產、不動產其他債權ノ存スルニ非サレハ破產處分中破產者ノ財產ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第二　總テノ債務

第三　利益及ヒ損失ノ概要

第四　每月ノ一日上ノ費用及ヒ家事費用ノ支出額

第九百八十條　破產決定書ニハ左ノ諸件ヲ包含ス

第一　支拂停止ノ日時但此日時ハ後日裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得（同上）

第二　破產主任官及ヒ一人又ハ二人以上ノ破產管財人ノ選定

第三　破產財產ノ保全ニ必要ナル處分ニ付テノ命令

第四　破產者ノ債務者又ハ財團ニ屬スル物ノ占有者ニ對スル拂渡差押ノ命令

第五　破產者ノ總債權者ニ對シ其請求權ヲ短クトモ三个月長クトモ六个月ノ期間ニ破產主任官ニ屆出ツヘキ旨ノ催告

第六　調查會ノ期日及ヒ債權者集會ノ期日ノ指定

第七　破產宣告ノ日時

破產決定書ハ之ヲ檢事ニ送致スヘシ

第九百八十一條　破產宣告ハ即時ニ裁判所ノ揭示場竝ニ破產者ノ營業場ニ貼附シ及ヒ其地ノ新聞紙ニ載セテ之ヲ公告スルコトヲ要ス其宣告ハ假執行ヲ爲スコトヲ得

第九百八十二條　破產者ノ財產ヲ以テ破產手續ノ費用ヲ償フニ足ラサルトキハ前條ノ手續ヲ除ク外其後ノ手續ヲ停止ス其手續ノ停止ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

然レトモ破產手續ノ費用ヲ償フニ足ル破產者ノ財產アルコトヲ證明スルトキハ中立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ即時其手續ヲ再施ス

破產手續ノ停止ハ其繼續スル間ハ第千四十九條ニ揭ケタル効力ヲ有ス

第九百八十三條　破產主任官ハ總テノ破產手續ヲ指揮シ及ヒ監督スルコトヲ要ス其命令ハ假執行ヲ爲スコトヲ得然レトモ此命令ニ對シテハ破產裁判所ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九百八十四條　檢事ハ職權ヲ以テ破產者ノ罰セラル可キ所爲ノ有無ヲ搜查シ且此カ爲メ取引帳簿其他ノ書類ノ展閱ヲ求ムルコトヲ得

第二章　破產ノ効力

第九百八十五條　破產宣告ニ依リ破產者ハ破產手續ノ繼續中自己ノ財產ヲ占有シ管理シ及ヒ處分スル權利ヲ失フ

破產者宣告ノ日ヨリ以後ハ破產者ノ爲シタル支拂其他總テノ權利行爲及ヒ破產者ニ爲シタル支拂ハ當然無效トス

破產者ノ動產、不動產ニ關スル訴及ヒ執行ハ特リ管財人ヨリ又ハ管財人ニ對シテ之ヲ起シ又ハ繼續スルコトヲ得

第九百八十六條　破產者ノ營業ノ用ニ供スル動產ニ對シテ不動產賃貸ノ爲メニスル強制執行ハ三十日間之ヲ猶緩ス但賃貸人カ其賃貸物ヲ取戻ス權利ヲ有スルトキハ此限ニ在ラス

第九百八十七條　各箇債權者ハ優先權ノ存スルニ非サレハ破產處分中破產者ノ財產ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第九百八十八條　辨濟期限ノ未タ至ラサル破產者ノ債務ハ破產宣告ニ依リテ辨濟期限ニ至リタルモノトス

爲替手形ノ引受人又ハ引受ナキ爲替手形ノ振出人又ハ約束手形ノ振出人カ破產宣告ヲ受ケタルトキハ其償還義務ニ付テモ前項ノ規定ヲ適用ス

第九百八十九條　財團ニ對シテハ破產宣告ノ日ヨリ利息ヲ生スルコトヲ止ム但抵當權、質權其他ノ優先權ヲ以テ擔保セラレタル債權ハ此擔保物ノ賣拂代金ニ滿ツルマテヲ限トシテ利息ヲ生スルコトヲ得

第九百九十條　支拂停止後又ハ支拂停止前三十日內ニ破產者カ爲シタル贈與其他ノ無償行爲又ハ之ト同視スヘキ有償行爲ハ期限ニ至ラサル債務ノ支拂期限ニ至リタル債務ノ代物辨濟及ヒ從來負擔シタル債務ノ爲メ新ニ供スル擔保ハ財團ニ對シテハ當然無效トス（同上）

第九百九十一條　前條ニ揭ケタルモノノ外債務者カ支拂停止後破產宣告前ニ財團ノ損害ニ於テ爲シタル總テノ支拂及ヒ權利行爲ハ相手方カ支拂停止ヲ知リタルトキニ限リ財團ノ計算ノ爲メ之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得

然レトモ手形ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ爲替手形ヲ振出シ又ハ振出サシムル際支拂停止ヲ知リタル拂出人又ハ振出委託人ヨリ又約束手形ニ在テハ裏書讓渡ノ際支拂停止ヲ知リタル第一ノ裏書讓渡人ヨリ其支拂金額ヲ償還スルコトヲ要ス

第九百九十二條　有効ニ取得シタル抵當權其他各式ノ登記ニ因リテ法律上効力ヲ有ス可キ權利ハ支拂停止後ニ在テハ其取得ノ日ヨリ十五日ヲ過キサルトキニ限リ破產宣告ノ日マテ登記ヲ爲スコトヲ得

第九百九十三條　破產宣告ノ時ニ破產者及ヒ其相手方ノ未タ履行セス又ハ履行ヲ終ラサル雙務契約ハ孰レノ方ヨリモ無賠償ニテ其解約ヲ申入ルルコトヲ得

貸貸借契約又ハ雇傭契約ニ在テハ解約申入ノ期間ニ付キ協議調ハサルトキハ法律上又ハ慣習上ノ豫告期限ヲ遵守スヘシ

第九百九十四條　契約者ノ一方ノ義務不履行ノ爲メ他ノ一方ニ於テ契約ヲ解除スル權利又ハ既ニ給付シタル物ヲ取戻ス權利ハ財團ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第九百九十五條　相殺ノ權利アル債務者ハ期限ニ至ラサル債權又ハ金額未定ノ債權ト雖モ財團ニ對シテ其効用ヲ致サシムルコトヲ得

第九百九十六條　債務者カ債權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ爲シタル權利行爲ハ相手方カ情ヲ知リタルトキニ限リ其目的ノ如何ヲ問ハス之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得

第三章　別除權

第九百九十七條　債務者ノ動產又ハ不動產ニ對シテ抵當權、質權其他ノ優先權ヲ有スル債權者ハ財團ヨリ先ツ辨償ヲ受ケタルニ非サレハ其擔保物ノ賣拂代金ヨリ又ハ利息及ヒ元金ノ支拂ヲ受クル爲メ別條ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得若シ其賣拂代金ノ剩餘アルトキハ買主之ヲ財團ニ拂込ムヘシ

第九百九十八條　優先權及ヒ其順序ハ民法及ヒ特別ノ法律ニ依リテ定マル

第九百九十九條　優先權ヲ有スル者其擔保物ノ賣拂代金ヨリ完全ナル辨償ヲ受ケサルトキハ其未濟ノ債權ハ他ノ債權者ト平等ナル割合ヲ以テ財團ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第千條　債務者カ其支拂停止後ニ遺產ヲ取得シタルトキハ遺產債權者及ヒ受遺者ハ遺產トシテ仍ホ現存スル遺產物ヨリ又ハ未タ債務者ニ支拂ハレサル遺產トシテ仍ホ現存スル金錢ヨリ別除ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第千一條　破產者ノ財產ニシテ民事訴訟法ニ從ヒ強制執行ノ爲メ差押フルコトヲ得サルモノハ之ヲ財團ニ加フルコトヲ得ス但債權者ニ優先權ノ屬スルモノニ付テハ第九百九十七條ノ規定ニ從フ

第四章　保全處分

第二條　裁判所ハ破產宣告ト同時ニ債務者ノ動產ノ封印ヲ命ス（二十六年法律第九號ヲ以テ改正）

會社ニ在テハ連帶無限ノ責任ヲ負ヘル總社員ノ財產ニ對シテ右ノ處分ヲ行フ（同上）

第三條　破產者カ逃走シ若クハ其財產ヲ隱匿スルノ虞アリト認ムルトキハ裁判所ハ其監守ヲ命スルコトヲ得（同上）

會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ニ對シテ右ノ處分ヲ行フ

債務者ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其住地ヲ離ルルコトヲ得ス又裁判所ハ何時ニテモ債務者ノ引致ヲ命スルコトヲ得

第四條　管財人カ破產者ノ財產ヲ財產目錄ニ載セ且之ヲ占有シタルトキハ又ハ監守ノ事由最早存セサルトキハ裁判所ハ其決定ヲ以テ破產者ヲ釋放スヘシ然レトモ破產者ヲシテ裁判所又ハ管財人ノ呼出ニ應シ何時ニテモ出頭スヘキ爲メノ擔保ヲ供スル義務ヲ負ハシムルコトヲ得（同上）

取上ケタル擔保ハ之ヲ財團ニ歸セシム

第五條　管財人カ債務者ノ財產ヲ財產目錄ニ載セ且之ヲ占有シタルトキハ直ニ其封印ヲ解クヘシ

第六條　管財人カ共同ニ非サレハ行フヲ得サル物及ヒ財團ノ爲メニスル即時ノ換價又ハ纏綴利用ヲ封印ノ爲メ妨ケラルルモノニハ封印ヲ爲ササルコトヲ得此等ノ物ハ直ニ財產目錄ニ載セ管財人之ヲ占有スルコトヲ要ス

第七條　債務者ノ商業帳簿ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ且其帳簿ノ現狀ハ破產主任官之ヲ認證ス

特ニ高價ナル物ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ又ハ一時之ヲ裁判所ニ引取ルコトヲ得

第八條　破產者ニ對シテ債務ヲ負ヒ又ハ財團ニ屬スル物ヲ占有スル者ハ其支拂又ハ交付ヲ管財人ニノミ爲スヘキコトヲ拘束押ノ命令ヲ以テ備書セラレタルモノトス

第七類　民事　破產法

破產者ニ屬スル總テノ財產ハ財團ニ組入ルヘカラサルモノト雖モ其價額ヲ明示シテ之ヲ財產目錄ニ記入スルコトヲ要ス必要ナル場合ニ在テハ其價額ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシム

財產目錄及ヒ之ニ關スル調書ノ認證アル謄本ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ之ヲ備フ

檢事ハ其見込ニ因リ職權ヲ以テ財產目錄ノ作成ニ立會フコトヲ得

第十五條　破產者ニ屬セサル財產ヲ財團ヨリ取戻スコトニ係ル爭訟ハ破產裁判所之ヲ裁判シ不動產ニ付テハ其所在地ヲ管轄スル裁判所之ヲ裁判ス

第十六條　管財人ハ破產主任官ノ定メタル三十日以內ノ期間ニ破產者ヨリ差出シタル屬書及ヒ貸借對照表ヲ調査シ若シ破產者ヨリ之ヲ差出ササリシトキハ自ラ貸借對照表ヲ作リ且其報告書ニ貸借對照表ヲ添ヘテ破產主任官ニ提出スヘシ

報告書及ヒ貸借對照表ノ認證アル謄本ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ之ヲ備フ

報告書及ヒ貸借對照表ハ之ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス

第十七條　貸方ノ借方ニ超ユルコト判然ナルトキ又ハ協諧契約ノ豫期セラルル間ハ裁判所ハ破產主任官ノ申立ニ因リ且管財人ノ意見ヲ聽キタル後管財人ヲシテ破產者ノ營業ヲ繼行セシムル決定ヲ爲スコトヲ得

管財人營業ヲ繼行スル場合ニ在テ財團ニ屬スル物ヲ通常ノ營業外ニテ賣却セントスルニハ破產主任官ノ認可ヲ受ケ之ヲ競賣スルコトヲ要ス

第十八條　不動產ハ破產主任官ノ認可ヲ受ケテ之ヲ競賣スルコトヲ要ス

動產ハ競賣スルヲ通例トスト雖モ破產主任官ノ認可ヲ受クルトキハ相對ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

競賣ノ手續ハ總テ民事訴訟法ノ規定ニ依ル

第十九條　管財人ハ財團ニ屬スル破產者ノ貸方ヲ取立テ及ヒ破產者ノ權利ヲ債務者其他ノ人ニ對シテ主張シ且保全スルコトヲ要ス

別除權ヲ行ハント欲スル者ハ其旨ヲ管財人ニ申立ツ可シ若シ管財人ヨリ其物ノ評價ヲ爲サンコトヲ求ムルトキハ之ヲ承諾スルコトヲ要ス

債務者ニ宛テタル電信、書狀其他ノ送達物ハ之ヲ管財人ニ交付スヘシ其管財人ハ開封ノ權ヲ有ス然レトモ其旨趣カ財團ニ關係ナキトキハ管財人ヨリ債務者ニ引渡スコトヲ要ス

破產裁判所ハ之カ爲メ郵便局、電信局其他逓送取扱所ニ必要ナル命令ヲ發スヘシ

第十七條　破產主任官ハ破產者及ヒ其家族ニ財團ヨリ給養ノ扶助料ヲ與フルコトヲ得

第五章　財團ノ管理及ヒ換價

第十八條　各裁判所管轄區ニハ職務上義務ヲ負フヘキ破產管財人ノ名簿ヲ備置キ破產裁判所ハ各箇ノ場合ニ於テ其名簿中ヨリ管財人ヲ選定ス

第十九條　管財人ノ勤勞ニ對スル報酬ハ財團ヨリ第一ニ之ヲ支拂ヒ其額ハ破產裁判所之ヲ定ム

第二十條　裁判所ハ何時ニテモ管財人ヲ易ヘ又ハ他ノ管財人ヲ加フルコトヲ得

第二十一條　管財人ハ其行爲ニ付テハ代理人ト同一ノ責任ヲ負フ若シ管財人二人以上アルトキハ共同ニ非サレハ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但破產主任官カ或行爲ニ付キ各箇ニ特別ノ委任ヲ與ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第二十二條　管財人ハ破產宣告後即時ニ財團ヲ占有シ且其管理及ヒ換價ニ着手スルコトヲ要ス管財人ハ其執務ノ爲メ破產者ノ補助ヲ求ムルコトヲ得破產主任官ハ此カ爲メ破產者ニ報酬ヲ與フルコトヲ得

第二十三條　管財人ハ破產主任官ノ監督ヲ受ケ且其指揮ニ從フ義務アリ若シ管財人ノ行爲又ハ決斷ニ對シテ異議ヲ述フル者アルトキハ破產主任官命令ヲ以テ之ヲ決ス此命令ニ對シテハ破產裁判所ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　財產目錄ハ裁判所職員又ハ其地警察官吏ノ立會ヲ以テ管財人之ヲ作リ若シ必要アルトキハ破產者ヲモ立會ハシム

管財人ハ左ニ揭ク行爲ニ付テハ破產者ノ意見ヲ聽キ且破產主任官ノ認可ヲ受ク可シ（同上）

第一　訴訟ヲ爲スコト

第二　和解契約又ハ仲裁契約ヲ取結フコト

第三　貨物ヲ受戻スコト

第四　債權ヲ轉付スルコト

第五　相續又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト

第六　消費借ヲ爲スコト

第七　不動產ヲ買入ルルコト

第八　權利ヲ拋棄スルコト

第九　總テ財團ニ新ナル義務ヲ負ハシムルコト

第二十條　財團ニ收入スル金錢ハ破產主任官ノ定ムル可キ常用支出額ノ外遲滯ナク之ヲ供託所ニ寄託スルコトヲ要ス其金錢ハ破產主任官ノ支拂命令ニ依ルニ非サレハ支出スルコトヲ得ス

第二十一條　管財人ハ其管財中破產者ニ對セラルヘキ行爲アルヲ知リタルトキハ之ヲ破產主任官ニ届出ツル義務アリ破產主任官其届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ檢事ニ通知ス

第二十二條　破產主任官ハ破產ノ原由、事情、貸方借方竝ニ其對照表其他管理及ヒ破產手續ニ關スル事項ニ付キ破產者、其商業使用人、雇人其他ノ人ヲ何時ニテモ訊問スルコトヲ得

第六章　債權者

第一節　債權ノ届出及ヒ確定

第二十三條　破產者ノ總債權者ハ破產公告ノ決定ニ因リ債權届出ノ期間ニ其債權ヲ破產主任官ニ届出ツ可キ旨ノ催告ヲ受ケタルモノトス其届出ニハ各債權ノ合法ノ原因及ヒ請求金額若シ優先權アル者ハ其權利ヲ明記シ且證據書類又ハ其謄本ヲ添フヘシ

他所ニ住スル債權者ハ裁判所所在地ニ代人ヲ置クヘシ

債權及ヒ代人任置ノ届出ハ書面ヲ以テ又ハ調書ニ筆記セシメテ之ヲ爲スコトヲ得書面ヲ以テスル場合ニ在テハ二通ヲ差出スコトヲ要ス

所在ノ知レタル債權者ハ右ノ外特ニ裁判所ヨリ書面ヲ以テ其債權届出

ノ債権者ヲ受ク然レトモ其書面カ債権者ニ遅セサルモ此カ為メ損害賠償ノ請求ヲ為スコトヲ得ス

第千二十四條　届出ハ之ヲ受取リタルトキ直チニ順次番號ヲ付シテ二個ノ表ニ記載スヘシ其一ニハ優先権アル債権ヲ掲ケ他ノ一ニハ通常ノ債権ヲ掲ケ此債権表ハ公衆ノ展閲ニ供スル為メ裁判所ニ之ヲ備フ

管財人ハ其使用ノ為メ届出書及ヒ債権表ノ謄本ヲ受領ス

第千二十五條　調査會ハ管財人及ヒ成可ク破産者ノ面前ニ於テ破産主任官之ヲ開キ且其調書ヲ作ル可シ債権者ハ自身又ハ代理人ヲ以テ此會ニ參加スルコトヲ得

破産主任官ノ債権者ニ引取帳簿若クハ其抜書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

調査ノ結果ハ債権表及ヒ提出シタル債権證書ニ附記シ且各債権者又ハ代理人ニ告知スルコトヲ要ス

調査會ハ届出期間ノ満了後十五日間ニ之ヲ開クヲ通例トス

届出期間ノ満了後ニ届出タル債権ハ調査會ニ於テ之ヲ調査スルコトヲ得然レトモ其調査ヲ為スコトニ付キ異議ノ申立アリタルトキ又ハ調査會ノ終リタル後債権ヲ届出タルトキハ其債権者ノ費用ヲ以テ新ナル調査會ヲ開ク

第千二十六條　債権ノ確定ハ承認又ハ裁判所ノ判決ヲ以テ之ヲ為ス

調査會ニ於テ管財人ヨリモ又債権ノ認定シ若クハ貸借對照表ニ掲ケタル債権者ヨリモ異議ヲ申立テサルトキハ債権ハ承認ヲ得タルモノトス

管財人ノ債権ニ係ル承認又ハ異議ハ破産主任官其管財人ニ代リテ之ヲ為ス

第千二十七條　異議ヲ受ケタル各債権ハ若シ其債権者之ヲ取消ササルトキハ破産裁判所公廷ニ於テ破産主任官ノ演述ヲ聽キ成可ク合併シテ其判決ヲ為ス可シ其辯論及ヒ判決ハ原告、被告ノ出頭セサルトキト雖モ之ヲ為ス但此判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

第千二十八條　判決ハ成ル可ク債権者集會前ニ之ヲナスコトヲ要ス若シ之ヲ為スコト能ハス又ハ判決ニ對シテ控訴ヲ為シタルトキハ裁判所ハ異議ヲ受ケタル債権者ノ右集會ニ加ハルコトヲ許ス可キヤ否ヤ又幾何ノ金額ニ付キ加ハルコトヲ許ス可キヤ決定ス

債権者ノ優先権ノミカ異議ヲ受ケタルトキハ其債権者ハ通常ノ債権者トシテ右ノ集會ニ加ハルコトヲ得

第千二十九條　債権ヲ正當時期ニ届出テス又ハ債権ノ確定セサル債権者ハ以後ノ確定ニ因リテ為ス可キ財團ノ配當ニノミ加ハルコトヲ得然レトモ異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債権及ヒ届出竝ニ調査ノ為メ別段ノ期間ヲ定メタル在外國債権者ノ債権ニ付テハ以前ノ配當ニ於テ其債権ニ關スル割前ヲ留存ス

第二節　特種ノ債権者

第千三十條　主タル債務者ハ破産ニ於テ届出テタル債権ハ協諧契約ノ場合ト雖モ保證人其他ノ共同義務者ニ對シ其全額ニ付キ之ヲ主張スルコトヲ得又保證人又ハ共同債権者ハ主タル債務者ノ破産ニ於テ其債還請求ヲ届出ツルコトヲ得然レトモ主タル債務者ノ為メニスル協諧契約ノ効果ニ從フ

第千三十一條　二人以上ノ共同義務者カ破産シタルトキハ其各義務者ノ破産ニ於テ債権ノ全額ヲ届出ツルコトヲ得

各自ノ破産財團ノ間ニ於タル償還請求權ハ之ヲ主張スルコトヲ得ス然レトモ債権者カ受取ル割前ノ額カ主タル者及ヒ從タルモノヲ併セタル債権ノ總額ヲ超過スルトキハ其超過額ハ共同義務者中他ニ對シテ償還請求權ヲ有スル者ノ財團ニ歸ス

第千三十二條　左ニ掲ケル債権ハ届出及ヒ確定ニ從フコトヲ要セス

第一　裁判費用、管理費用其他破産手續上ノ費用

第二　公ノ手數料及ヒ諸税

第三　管財人カ財團ノ為メニ負擔シタル義務ヨリ生スル債權

右債権ハ破産主任官ノ指圖ニ從ヒ通常ノ方法ヲ以テ財團ノ現額ヨリ之ヲ支拂フ

第千三十三條　破産手續ニ加ハリタルニ因リテ債権者ニ生シタル費用ハ財團ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第千三十四條　（二十八年法律第九號ヲ以テ削除）

第三節　債権者集會

第千三十五條　債権者集會ハ破産主任官之ヲ召集シ及ヒ之ヲ指揮ス其招集ハ會議ノ事項ヲ明示スル公告ヲ以テ之ヲ為ス

其集會ハ管財人、債権ノ確定シタル債権者及ヒ第千二十八條ニ依リテ參加スルコトヲ得ヘキ債権者ヨリ成立ス然レトモ優先權ノ確定シタル債権者ハ其優先權ヲ拋棄シタル限度又ハ優先權ヲ行フニ當リ不足アル可シト推定セラルル限度ニ於テノミ參加ス

債権者ハ代理人ヲ差出スコトヲ得

破産者ハ之ヲ集會ニ呼出スコトヲ得

第千三十六條　決議ハ出席シタル債権者ノ過半數ヲ以テ為スヲ通例トス

其過半數ハ出席員ノ有スル債権額ノ半ヨリ多キ額ニ當ルコトヲ要ス

第千三十七條　集會ニ於テハ破産主任官ハ破産手續ノ從來ノ成行ニ付テノ報告ヲ為シ管財人ハ管財ノ處理、其結果及ヒ財團ノ現況ニ付テノ報告ヲ為ス

集會ハ右ノ報告ニ付テ決議ヲ為シ若シ破産主任官又ハ管財人ノ意見アリタルトキハ其意見及ヒ債権者ノ為シタル申立又ハ破産主任官ノ許可ヲ受ケテ破産者ノ為シタル申立ニ付テ決議ヲ為ス可シ此等ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七章　協諧契約

第千三十八條　法律上ノ義務ヲ履行シタル破産者ニシテ有罪破産ノ判決ヲ受ケス又其審問中ニ在ラサル者ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケ第一ノ集會ニ於テ債権者ニ協諧契約ヲ提供スルコトヲ得然レトモ其提供ハ一回ニ限ル

第一ノ集會ハ普通ノ調査會ヨリ四週日以後ニ之ヲ為ス協諧契約ノ申立書ハ少クトモ集會ノ二十日前ニ之ヲ裁判所ニ差出シ裁判所ハ之ヲ公衆ノ展閲ニ供シ且其旨ヲ公告スヘシ

第千三十九條　協諧契約ヲ承諾スルニハ出席シタル債権者ノ過半數ノ承諾ヲ要ス其過半數ハ議決權アル總債權額ノ四分ノ三以上ニ當ルコトヲ要ス

管財人及ヒ議決權ヲ有スル債権者又後ニ至リ債權ノ確定シタル債権者ハ協諧契約ニ對シテ十日内ニ理由ヲ附シタル異議ヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第千四十條　債権者ノ承諾シタル協諧契約ハ裁判所ノ認可ヲ得テ初メテ法律上有効トス其認可又ハ棄却ニ付テノ決定ハ破産主任官ノ演説ヲ聽キ前條ノ期間滿了後直チニ之ヲ為ス此決定ニ對シテハ債務者及ヒ異議申立ノ權利アル者ヨリ即時抗告ヲ為スコトヲ得

第千四十一條　協諧契約ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ棄却スヘシ

第一　第千三十八條及ヒ第千三十九條ノ規定ヲ踐行セサルトキ

第二　協諧契約ニ依リ或ル債権者カ其承諾ナクシテ偏頗ノ處置ヲ受ケ損害ヲ被フルトキ

第三　協諧契約カ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成リタルトキ

第四　協諧契約カ公益ニ觸ルルトキ

第千四十二條　協諧契約ハ破産者カ後ニ至リ有罪破産ノ判決ヲ受ケタルトキハ當然消滅シ其審問中ハ免訴又ハ無罪ノ宣告ヲ受クルマテ之ヲ停止ス

前條第三號ニ掲クル理由アルトキハ協諧契約認可ノ後ト雖モ尚ホ之ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第千四十三條　協諧契約ノ確定シタルトキハ管財人ハ直チニ其執務ヲ罷メ且其執務ニ付キ計算ヲ為スヘシ

破産者ハ協諧契約ニ別段ノ定ナキトキニ限リ任意ノ管理及ヒ處分ノ為メ其財産ヲ取戻スコトヲ得

協諧契約ノ履行ハ破産主任官ノ監督ヲ以テ之ヲ為ス

第千四十四條　協諧契約カ棄却セラレ又ハ後ニ至リ消滅シ若クハ取消サルルトキ又ハ不履行ノ為メ解除セラルルトキハ破産手續ヲ再施シ直チニ財團ノ換價及ヒ配當ヲ為シテ終局ニ至ラシム其再施シタル手續ニハ再施マテノ間ニ債権ヲ得タル者モ參加スルコトヲ得不履行ノ場合ニ在テハ協諧契約ノ為メ立テタル保證人ハ其義務ヲ免カレス

第八章　配當

第千四十五條　第千三十二條ニ掲ケタル債權及ヒ優先權アル債權ヲ支拂

シタル後チニ殘レル財團ハ他ノ債者間ニ平等ノ割合チ以テ之チ配當スス

破産者カ資本チ分チ數個ノ營業チ爲シタル場合ニ在テハ各營業ニ對スル債權者ハ其營業ニ關スル財團ヨリ優先權チ以テ辨償チ受ク

第千四十六條　配當ハ普通ノ調査會ノ終リタル後ハ配當ニ足ル可キ財團ノ生スル毎ニ管財人ノ調製シテ破産主任官ノ認可チ受ケタル配當案ニ依リテ之チ爲ス其案ハ破産主任官之ニ署名シテ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ備置キ且其旨チ公告スヘシ

第千四十七條　前條ニ揭ケタル期間ニ配當案ニ對シテ異議チ申立ツル者ナキトキ又ハ異議ノ落著シタルトキハ管財人ハ各債權者チシテ其債務證書ノ提出チ爲スコト能ハサルトキハ破産主任官ノ許可チ得テ債權表ニ依リ支拂チ爲スコトチ得但シ異議ノ場合ニ於テモ債權者ハ配當案ニ受取書チ記スルコトチ要ス

第千四十八條　財團ノ換價及配當チ全ク終リタルトキハ債權者集會チ開キ此集會ニ於テ管財人ノ終局ノ計算チ爲ス可シ此計算ノ濟了シタルトキハ裁判所ハ直チニ破産主任官ノ申立ニ因リ破産手續ノ終結チ決定ス此決定ハ之チ公告スヘシ

第千四十九條　破産手續終結ノ後ハ辨償チ受ケサル債權者ハ破産手續ニ於テ確定シタル因リテ得タル權利名義ニ基キ其債權チ債務者ニ對シテ無限ニ行フコトチ得

第九章　有限破産

第千五十條　破産宣告チ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後チ問ハス左ニ揭ケル行爲チ爲シタルトキハ過怠破産ノ刑ニ處ス

第一　一身又ハ一家ノ過分ナル費用、博奕、空取引又ハ不相應ノ射利ニ因リテ貸方財産チ甚シク減少シ若クハ過分ナル債務チ負ヒタルトキ

第二　支拂停止チ延サンカ爲メ損失チ生スル取引チ爲シテ支拂資料チ調ヘタルトキ

第三　支拂停止チ爲シタル後支拂又ハ擔保チ爲シテ或ル債權者ニ利チ與ヘ財團ニ損失チ加ヘタルトキ

第四　商業帳簿チ秩序ナク記載シ藏匿シ毀滅シ又ハ全ク記載セサルトキ

第五　財産目錄、貸借對照表ノ作成若クハ支拂停止届出ノ義務チ怠リタルトキ又ハ裁判所ノ許可チ得スシテ其住地チ離レタルトキ（三十二年法律第四十九號チ以テ改正）

第千五十二條　前二項ノ制則ハ會社ノ義務擔當ノ任ニアル社員若クハ取締役及ヒ清算人ニモ之チ適用シ又第千五十條ノ制則ハ破産管財人及ヒ有罪行爲チ行フ際犯者チ助ケ又ハ有罪行爲チ破産者ノ利益ノ爲メニ行ヒタル者ニモ之チ適用ス

第千五十三條　債權者集會ニ於テ決議ニ關シ債權者ニ賄賂チ爲シタルトキハ其總方チ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章　破産ヨリ生スル身上ノ結果

第千五十四條　破産宣告チ受ケタル債務者ハ復權チ得ルニ非サレハ會社ノ無限責任社員、舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ノ業務擔當社員、株式會社ノ取締役若クハ、監査役、清算人、破産管財人又ハ商業會議所ノ會員ト爲ルコトチ得ス（同上）

第千五十五條　復權チ得ルニハ協諧契約ノ調ヒタルト否トチ問ハス破産者カ元債、利息及ヒ費用ノ全額チ債權者總員ニ辨償シタルコト又所在ノ知レサル爲メ未タ辨償チ受ケサル債權者ニ全額チ辨償スル準備及ヒ資力アルコトチ證明ス可シ（同上チ以テ本條ニ存セシ第三項チ削ル）

復權ノ申立ニハ債權者ノ受取證其他必要ナル證據物チ添フ可シ

第千五十六條　復權ノ申立アリタルトキハ破産裁判所ハ異議アル者チシテ二个月ノ期間ニ異議チ起サシメンカ爲メ裁判所ノ揭示場ト取引所トニ其旨チ揭示シ且裁判所ノ見込ニ因リ新聞紙チ以テ之チ公告シ又調査及ヒ搜査チ爲サシメンカ爲メ之チ檢事ニ通知ス可シ

裁判所ハ檢事ノ意見チ聽キタル後復權ノ申立チ許可スルト否トチ決定ス此決定ニ對シテハ即時抗告チ爲スコトチ得確定シタル決定ハ之チ公告ス

棄却セラレタル申立ハ一个年ノ滿了前ニハ再ヒ之チ爲スコトチ得ス

第千五十七條　復權ノ債務者ノ死亡後雖モ之チ許ス

第千五十八條　復權ノ詐欺破産ノ爲メ刑決チ受ケタル破産者又ハ重興、親族ノ爲メニ關係公權若クハ債權者ニ損害チ被ラシムル意思チ以テ貸方破産ノ全部若クハ一部チ隱匿シ轉匿シ若クハ脫漏シ又ハ借方現額チ過度ニ揭ケ又ハ商業帳簿チ變滅シ藏匿シ若クハ僞造、變造シタルトキハ詐欺破産ノ刑ニ處ス

第千六十條　集會期日ニ於テハ裁判所ヨリ任セラレタル主任判事ノ上席チ以テ債務者ト債權者トノ間ニ支拂猶豫ノ申立ニ付キ辯論チ爲ス其申立チ承諾スルニハ第千三十六條ニ揭ケタル過半數チ要ス其辯論及ヒ議決ニ付テハ調書チ作ル可シ

第千六十一條　裁判所ハ承諾チ得タル支拂猶豫ノ認否ニ付主任判事ノ演述チ聽キテ決定チ爲ス此決定ニ對シテハ即時抗告チ爲スコトチ得

支拂猶豫ハ申立ニ因リテ前數條ノ手續ニ從ヒ一回ニ限リ之チ延長スルコトチ得然レトモ其期間ハ一个年チ超ユルコトチ得ス

第千六十三條　債務者有効ナル支拂猶豫チ得タルトキハ猶豫期間中其以前ニ取結ヒタル商取引ヨリ生スル債權ノ爲メニ強制執行及ヒ破産宣告チ受クルコト無シ但猶豫契約ノ履行及ヒ業務ノ執行ニ關シテハ主任判事ノ監督チ受ク

債務者ノ保證人及ヒ共同義務者ノ義務ハ右猶豫ノ爲メニ變更スルコト無シ

第千六十四條　支拂猶豫ノ承諾チ得ス又ハ詐欺破産ノ爲メ刑決チ受ケタル者又ハ不正ノ爲メ若クハ法律上ノ條件ノ缺クルカ爲メ之チ廢止シタルトキ又ハ債務者ニ於テ其猶豫契約チ履行セサルトキ又ハ其猶豫期間中債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ヨリ強制執行チ爲ストキハ直チニ債務者ニ對シテ破産手續チ開始ス此場合ニ於テハ支拂猶豫ハ裁判所ヨリ假ニ之チ許可スルコトチ得

舊商法施行條例（明治二十三年八月法律第五十九號）

明治三十二年法律第四十九號商法施行法第百四十七號チ以テ左記條項チ除ク外廢止

第二十條　商法及ヒ本條例ニ依リ發スル命令書チ送達スル場合ニ於テハ其手續ハ民事訴訟法ノ手續ニ從フ

第二十一條　商法第六十七條第二項、第八十一條、第百二十七條、第百三十一條、第二百三十三條、第二百五十條及ヒ第二百六十一條竝ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ裁判所ニ於テ命令チ發スルトキハ當事者名簿

第三　債權者ニ主タルモノ及ヒ從タルモノノ完全ナル辨償チ爲シ得ル方法、期間及ヒ此方爲メ供スルコトチ得ル擔保ノ證明

右申立及ヒ添付書類ハ公衆ノ展閱ニ供フル爲メ之レチ裁判所ニ備置キ且債權者ノ集會期日チ定メテ之ト共ニ其備置キタル旨チ公告スルコトチ要ス債權者ハ集會ノ爲メ各別ニ招集チ受ク

支拂猶豫ハ裁判所ヨリ假ニ之チ許可スルコトチ得

ナシテ既明ヲ爲サシムル爲メ之ヲ裁判所ニ呼出スヲ通例トス但當事者關席スルモ命令書ハ之ヲ發スルコトヲ得（同上法令ヲ以テ之ヲ廢止セルモ「商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍ホ其効力ヲ存スル」旨ヲ規定シタリ）

第二十二條　商法第六十七條第二項、第八十一條、第百二十七條及ヒ第二百六十一條竝ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テ裁判所ハ豫メ其旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

檢事ハ口頭又ハ書面ヲ以テ意見ヲ陳述スルコトヲ得（同上）

第二十三條　檢事ハ前條第一項ノ場合ニ於ケル命令ニ付キ其執行ノ責ニ任ス（同上）

第二十四條　商法及ヒ本條例ニ依リ即時抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ其期間ハ裁判所ノ送達ヲ受ケタル日ノ翌日又ハ裁判ノ言渡ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シテ七日トス

第二十五條　前條ニ掲ケタルモノノ外抗告ニ關スル手續ニ付テハ民事訴訟法第四百五十五條、第四百六十條第一項第二項、第四百六十五條及ヒ第四百六十六條第一項第二項第四項ヲ除ケノ外總テ同法第三編第三章ノ規定ヲ準用ス

第三十四條　商法第八百三十六條及ヒ第九百三十四條ニ官ト稱スルハ內國ニ於テハ區裁判所外國ニ於テハ日本領事若シ領事ナキトキハ其地ノ官廳トス

第三十五條　司法大臣ハ各地方裁判所ノ意見ヲ聽キ其所轄地方ノ需用ニ應シテ破産管財人ヲ命シ地方裁判所ハ之ニ依リ破産管財人名簿ヲ作ル可シ

第三十六條　破産管財人タルノ命ヲ受ケタル者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十七條　破産管財人ノ任期ハ三箇年トス但再任セラルルコトヲ得

第三十八條　名簿中ノ破産管財人破産裁判所ヨリ選定セラレタルトキハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十九條　破産管財人ハ其職務ニ著手スル前公平誠實ニ其職務ヲ執ルコトヲ誓フ可シ

第四十條　破産管財人ハ其擔任スル破産手續中任期滿ツルモ之ヲ終結スルマテ解任スルコトヲ得ス

第四十一條　破産裁判所ハ忌避其他該事件ニ不適當ナルノ理由アリテ名簿中ノ破産管財人ヲ選定スル可ラスト認ムルトキハ他ニ破産管財人ヲ選定スルコトヲ得此場合ニ於テハ直ヲニ其旨ヲ司法大臣ニ上申スヘシ

前項ノ破産管財人モ名簿中ノ破産管財人同一ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第四十二條　職務執行ノ不當又ハ不正ノ爲メ管財人ノ職ヲ解クトキハ破産裁判所ノ公廷ニ於テ其理由ヲ付シテ之ヲ言渡スヘシ

第四十三條　管財人ノ報酬ハ一破産手續ノ金體ニ付キ又ハ收入スヘキ額ノ割合ニ應シテ之ヲ定メ財團ノ負擔アル毎ニ其歩割ヲ以テ之ヲ支拂フ可シ

第四十四條　第三十六條及ヒ第三十八條ノ規定ニ違フ者ハ刑法第百七十九條ノ罰金ニ處ス

第四十五條　商法第千三條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ監守セントスルトキハ其命令書ヲ檢事ニ送致シ檢事ハ債務者ノ住所ヲ管轄スル警察官署ニ命シ其處分ヲ爲サシム（二十六年法律第九號ヲ以テ改正）

第四十八條　監守ヲ爲ストキハ警察官吏ヲシテ債務者ノ住所ニ付キ其逃走若クハ財產ノ隱匿ヲ豫防シ且破產主任官ノ許可ヲ得タルトキノ外其債務者ノ外人ト面接若クハ通信スルヲ禁セシム（同上）

第四十九條　商法第千三條第三項ニ依リ債務者ヲ引致スルトキハ特ニ作リタル引致狀ヲ以テ之ヲ執行ス但其執行法ハ刑事訴訟法ニ定メタル拘引狀執行ノ手續ニ準ス（同上）

第五十條　商法第千四條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ釋放スルトキハ決定書ヲ檢事ニ送致シ其執行ヲ爲サシム

第五十一條　商法中非訟事件ニ關スル裁判所管轄ハ裁判所構成法ニ定ムルモノノ外第二百五十四條、第三百七十一條、第四百四十一條、第四百九十九條、第五百十四條、第八百五十六條、第九百二條ノ事件ニ付テハ區裁判所トシ其他ノ事件ニ付テハ地方裁判所

商法ニ關スル有罪破產者處斷方

（明治二十三年十月法律第百一號）

商法ニ從ヒ破產ノ宣告ヲ受ケタル者有罪破產ニ係ハルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　詐欺破產ヲ爲シタル者ハ輕懲役ニ處ス

二　過怠破產ヲ爲シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

破產管財人指名具申ノ件

（明治二十六年三月司法省民刑第一四一號訓令）

地方裁判所那覇地方裁判所ヲ除ク

本年法律第九號發布ニ付各地方裁判所長ハ左ノ條件ニ據リ其所轄地方ノ需用ニ必要ナリト認ムル破產管財人ヲ指名シ其履歷書ヲ添ヘ來ル四月三十日迄ニ申出ツ可シ但管財人ヲ指名スルニ付テハ地方官ト協議ヲ遂ク可シ

第一　破產管財人ヲ指名スルニハ左ノ條件ニ注意スルヲ要ス

一　年齡二十五歲以上ナルコト

二　家計ノ整理シタルコト

三　計算ニ熟達スルコト

四　法律上ノ智識アルコト

五　商業上ノ心得アルコト

第二　左ニ掲クル者ハ破產管財人ニ指名スルコトヲ得ス

一　重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニ在ラス

二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨濟ヲ免レサル者

四　家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

家資分散法

（明治二十三年八月法律第六十九號）

旣家資分散法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

家資分散法

第一條　民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテハ管轄裁判所ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲スヘシ

有ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得

此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條　第一條ノ宣告ハ裁判所及市町村ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告スヘシ

第四條　家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選擧權及被選擧權ヲ失フ

家資分散者ノ復權ニ付テハ商法第千五十五條以下ヲ準用ス

第五條　商法及本法施行以後ニ於テ從前ノ法律中身代限處分ヲ受ケタル者ニ對シ公權ノ喪失ヲ定メタル條項ハ破產又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シ效力ヲ有ス

（參照）

身代限規則（明治五年六月第百八十七號布告）

平民身代限抵償トシテ差押フ可カラサル品類

一　時服着替共　男女共各　二通宛

一　夜具　一通宛

木人ノ職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等一職業ニ必要ナル書類器械品物等其金額五十兩ニ至ル迄最モ本人ノ擔ムル所ニ任ス可シ其直段ハ貸主借主ヨリ監定ノ者ノ外人入札人ト共ニ入札致サセ村役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ム可キ事

一　食料

家族ノ人口ヲ量リ一箇月間用ヰル飯米ヲ殘シ置ク可キ事

但男子ハ一日ニ五合婆ハ一升雜穀ハ一升五合嬉女幼少ハ四合婆ハ八

合羅鍛ハ一升二合宛ノ事
一　鍋釜及炊具各一通
華士族身代限抵當トシテ差押フ可カラサル品類
一　冠服　男子一人ニ付各　一通宛
一　時服着替共　男女共各　二通宛
一　夜具　男女共各　一通宛
一　本人職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品
但學齢ヲ入ニ教ヘ又ハ農工商等ノ職業ニ必要ナル書類及諸器械品物等其金額五十圓ニ至ル迄最モ本人ノ撰ム所ニ任スヘシ其直段ハ貸主借主ヨリ監定ノ者道具屋一人宛差出シ外入札人ト共ニ入札致サセ村役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ム可キ事
一　鍋釜及炊具類各一通
右身代限リノ節ハ六十日間裁判所門前高札場竝ニ本人家宅ヘ掲示ヲ出シ其次第傳承日限中退願ノ者ハ取札ノ上可處證拠事（六年改正）
但新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之ニ記載セシムヘシ
一　前條ニ記スル所ノ引殘スヘキ必要物件ノ内未タ代價ヲ拂ハサル分ハ賣主ヨリ日限内訴出レハ現品ヲ取戻スコトヲ得ヘシ
但現在着用ノ衣服夜具ハ此限ニアラス
一　身代限ノ物件ハ入札拂ニ出ス可シ尤金銀器等ノ定價判然タル物品ハ眞價ヨリ低ク賣拂フヘカラス且ツ賣拂金ノ總額ハ其者ノ負債及ヒ右一件ノ諸費用ヲ償フニ過ク可ラス
但入札拂ノ日ヨリ三日前ニ其品物及ヒ場所時刻ヲ裁判所門前竝ニ其者ノ居宅及ヒ各地士民群集ノ所ヘ掲示シ及ヒ新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之ニ記載セシムヘシ且ツ貸主借主ヨリ差出セシ監定ノ者モ他人ト共ニ入札至サセ村役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以其價ヲ定メ之ヲ現金ニテ取立裁判所ヘ差出スヘシ

船舶法

船舶法（明治三十二年三月法律第四十六號）

第一條　左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
一　日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
二　日本臣民ノ所有ニ屬スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
三　日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
四　日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
第二條　日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキハ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス
第三條　日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス
第四條　日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス
船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得
外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得
第五條　日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登錄ヲ爲スコトヲ要ス
前項ニ定メタル登錄ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス
第六條　日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得
第七條　日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス
第八條　日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
第九條　船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス
第十條　登錄シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス
第十一條　船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス
第十二條　船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス
第十三條　日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得
日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得
前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得
第十四條　日本船舶カ滅失若クハ沈沒シタルトキ、解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登錄ヲ爲シ且遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス
第十五條　日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得ス
航行セシムルコトヲ得
第七條　日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス
第八條　日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
第九條　船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス
第十條　登錄シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス
第十一條　船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス
第十二條　船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス
第十三條　日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得
日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得
前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得
第十四條　日本船舶カ滅失若クハ沈沒シタルトキ、解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登錄ヲ爲シ且遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス
第十五條　日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得ス
航行セシムルコトヲ得
第十六條　外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得
第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十七條　外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス
日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ六个月ヲ超ユルコトヲ得ス
前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得
第十八條　船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有效期間滿了前ト雖モ其效力ヲ失フ
第十九條　第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス
第二十條　前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及端舟其他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス
第二十一條　前條ニ揭ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測度ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十二條　日本船舶ニ非シテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス
日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ
第二十三條　第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ船舶ヲ沒收ス
第二十四條　官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス
前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ

違斷ス

第二十五條　第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ揭ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ此職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條　第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス

第三十條　第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條　第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商事會社其他ノ法人ノ代表者若クハ滿狀人ニ之ヲ適用ス

第三十二條　管海官廳ノ事務ハ外國ニ在テハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附　則

第三十三條　本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條　船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條　商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニアラス

第三十六條　明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十七條　本法施行ノ際登簿ノ船舶ニ在リテハ汽機、汽罐ノ製造者ニ於テハ汽機、汽罐ノ製造ノ年月日ヲ證スル書面及機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機、汽罐ノ製造者ニ於テハ汽機、汽罐ノ製造ノ年月日ヲ證スル書面

二　所有權ノ取得、持分ノ移轉、所有者ノ國籍取得ニ依リ又ハ商事會社其他ノ法人ニシテ船舶法第一條第一項第三號第四號若クハ第二項ニ揭ケタル條件ノ具備ニ依リ船舶ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ在リテハ前號ニ揭ケタル事項ノ外造船者、汽機及汽罐ノ製造者ノ氏名又ハ名稱竝船舶ノ原名ヲ證スル書面

船舶法第二十條ニ揭ケタル船舶ノ積量總噸數二十噸以上又ハ積石數一百石以上ト爲リタル場合ニ在リテハ地方長官ニ於テ前項第二號ニ揭ケタル事項ヲ稱スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第九條　積量ノ測度ヲ受ケントスルトキハ

一　試運轉ノトキ

二　積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ

三　正當ノ事由アルトキ

第五條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ揭クルコトヲ得

一　親日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル

二　前項ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ

三　進水ノトキ

四　前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條　船舶ノ積量若クハ登錄ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ檢査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

第七條　本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第二章　積量ノ測度

第八條　船舶法第四條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　所有者本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條　本法施行ノ際登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其免狀ハ有效期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ此限ニアラス

登簿船免狀ノ有效期間カ滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第三十九條　第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ揭ケタル事由カ生シタルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知リタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハリルトキ亦同シ

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條　本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六个月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

〔參照〕明治十二年第五號布告ハ四洋形商船ヲ沿海管廳ノ所轄ニ付セラルル件、同年第十九號布告ハ四洋形船免狀ノ件、同十四年第十二號布告ハ蒸汽船十噸、風帆船二十噸以下及荷川運輸ヲ運轉スルモノ四洋形商船免狀ヲ受有スルニ及ハサル件ナリ

船舶法施行細則

（明治三十二年六月遞信省令第二十四號）

第一章　總　則

第一條　本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸汽ヲ用ユルト否トニ拘ハラス之ヲ汽船ト看做ス

主トシテ帆ヲ以テ運航スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

第二條　淺瀨船ハ推進器ヲ有セサレハ之ヲ船舶ト看做サス

第三條　船籍港ハ各市町村ノ名稱ニ依ル但市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ市町村ニ準スヘキ區劃ノ名稱ニ依ル

第四條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ臨時管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

一　試運轉ノトキ

二　積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ

三　正當ノ事由アルトキ

第五條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ揭クルコトヲ得

一　親日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル

二　前項ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ

三　進水ノトキ

四　前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條　船舶ノ積量若クハ登錄ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ檢査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

第七條　本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第二章　積量ノ測度

第八條　船舶法第四條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　製造ニ依リ船舶ヲ取得シタル場合又ハ製造後未タ積量ノ測度ヲ申請セサル船舶ヲ取得シタル場合ニ在リテハ造船者ニ於テ製造地、進水ノ年月日ヲ證スル書面及機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機、汽罐ノ製造者ニ於テハ汽機、汽罐ノ製造ノ年月日ヲ證スル書面

二　所有權ノ取得、持分ノ移轉、所有者ノ國籍取得ニ依リ又ハ商事會社其他ノ法人ニシテ船舶法第一條第一項第三號第四號若クハ第二項ニ揭ケタル條件ノ具備ニ依リ船舶ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ在リテハ前號ニ揭ケタル事項ノ外造船者、汽機及汽罐ノ製造者ノ氏名又ハ名稱竝船舶ノ原名ヲ證スル書面

船舶法第二十條ニ揭ケタル船舶ノ積量總噸數二十噸以上又ハ積石數一百石以上ト爲リタル場合ニ在リテハ地方長官ニ於テ前項第二號ニ揭ケタル事項ヲ稱スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第九條　積量ノ測度ヲ受ケントスルトキハ

一　試運轉ノトキ

二　積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ

三　正當ノ事由アルトキ

第五條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ揭クルコトヲ得

一　親日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル

二　前項ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ

三　進水ノトキ

四　前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條　船舶ノ積量若クハ登錄ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ檢査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

第七條　本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第二章　積量ノ測度

第八條　船舶法第四條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　製造ニ依リ船舶ヲ取得シタル場合又ハ製造後未タ積量ノ測度ヲ申請セサル船舶ヲ取得シタル場合ニ在リテハ造船者ニ於テ製造地、進水ノ年月日ヲ證スル書面及機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機、汽罐ノ製造者ニ於テハ汽機、汽罐ノ製造ノ年月日ヲ證スル書面

二　所有權ノ取得、持分ノ移轉、所有者ノ國籍取得ニ依リ又ハ商事會社其他ノ法人ニシテ船舶法第一條第一項第三號第四號若クハ第二項ニ揭ケタル條件ノ具備ニ依リ船舶ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ在リテハ前號ニ揭ケタル事項ノ外造船者、汽機及汽罐ノ製造者ノ氏名又ハ名稱竝船舶ノ原名ヲ證スル書面

船舶法第二十條ニ揭ケタル船舶ノ積量總噸數二十噸以上又ハ積石數一百石以上ト爲リタル場合ニ在リテハ地方長官ニ於テ前項第二號ニ揭ケタル事項ヲ稱スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第九條　積量ノ測度ヲ受ケントスルトキハ

一　試運轉ノトキ

二　積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ

三　正當ノ事由アルトキ

第五條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ揭クルコトヲ得

一　親日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル

二　前項ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ

三　進水ノトキ

四　前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條　船舶ノ積量若クハ登錄ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ檢査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

第七條　本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第二章　積量ノ測度

第八條　船舶法第四條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　製造ニ依リ船舶ヲ取得シタル場合又ハ製造後未タ積量ノ測度ヲ申請セサル船舶ヲ取得シタル場合ニ在リテハ造船者ニ於テ製造地、進水ノ年月日ヲ證スル書面及機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機、汽罐ノ製造者ニ於テハ汽機、汽罐ノ製造ノ年月日ヲ證スル書面

二　所有權ノ取得、持分ノ移轉、所有者ノ國籍取得ニ依リ又ハ商事會社其他ノ法人ニシテ船舶法第一條第一項第三號第四號若クハ第二項ニ揭ケタル條件ノ具備ニ依リ船舶ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ在リテハ前號ニ揭ケタル事項ノ外造船者、汽機及汽罐ノ製造者ノ氏名又ハ名稱竝船舶ノ原名ヲ證スル書面

船舶法第二十條ニ揭ケタル船舶ノ積量總噸數二十噸以上又ハ積石數一百石以上ト爲リタル場合ニ在リテハ地方長官ニ於テ前項第二號ニ揭ケタル事項ヲ稱スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第九條　積量ノ測度ヲ受ケントスルトキハ

一　試運轉ノトキ

二　積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ

三　正當ノ事由アルトキ

第五條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ揭クルコトヲ得

一　親日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル

二　前項ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ

三　進水ノトキ

四　前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條　船舶ノ積量若クハ登錄ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ檢査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

第七條　本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第二章　積量ノ測度

第八條　船舶法第四條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　登記
二　信號符字
三　種類
四　名稱
五　船籍港
六　甲板ノ層數及種類
七　船尾外板ノ材料
八　船首ノ材料
九　櫂ノ數
十　櫂員ノ數
十一　船首ノ形狀
十二　船尾ノ形狀
十三　造船規程ニ定ムル方法
十四　船舶規程ニ依ル甲板下ノ長
十五　造船規程ニ依ル甲板上ノ幅
十六　船體規程ニ定ムル方法ニ依ル甲板下ノ深
十七　造船規程ニ依ル甲板ノ上面ヨリ船底外板ノ上面マテノ深
十八　船舶規程ニ依ル甲板下ノ長
十九　下面ヨリ船底内張板ノ上面マテノ深
二十　支水隔壁ノ數
二十一　二重底ノ位置及容量
二十二　最大吃水
二十三　最前甲板下部ノ艙數
二十四　最前甲板上部ノ艙數
二十五　甲板間ノ艙數
二十六　船首樓ノ艙數
二十七　船尾樓ノ艙數
二十八　囲壁室ノ艙數
二十九　其他龍骨ノ延長ニ區劃セル場所ノ艙數
三十　總艙數
三十一　登簿艙數
三十二　船員常用室ノ艙數
三十三　機關室ノ艙數
三十四　汽罐ノ種類及數
三十五　汽機ノ種類及數
三十六　汽罐ノ材料
三十七　汽管ノ數
三十八　汽管ノ徑
三十九　汽管ノ行長
四十　推進器ノ種類及數

四十一　汽罐製造者ノ氏名又ハ名稱
四十二　汽機製造者ノ氏名又ハ名稱
四十三　汽罐製造ノ年月日
四十四　汽機製造ノ年月日
四十五　汽罐製造者ノ氏名又ハ名稱
四十六　汽機製造者ノ氏名又ハ名稱
四十七　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
四十八　所有者ノ氏名又ハ名稱及住所竝其者ナルトキハ共持分

第一　船舶ノ内面ヨリ船底ノ内面ニ至ル船底水平ノ長

二　船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅

三　甲板最下縁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ船ノ上面マテノ深

四　載荷重量

第二項第十四號第十六號及前項ノ長、幅及深ハ尺ヲ以テ測リタル尺度ヲ登錄ス

第十八條　船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十九條　管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

一　所有者ノ氏名、名稱又ハ之ノ下部ニ附スヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ

二　船舶ノ名稱ニ新號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル新號ヲ變更若クハ削除スルトキ

三　所有者ニ於テ自己ノ行爲ニ因ルニアラスシテ船舶ノ名稱ノ爲メニ第三者ニ不快ヲ感スルトキ

第二十條　甲管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ船舶ノ登錄用紙ヲ明鉛スヘシ

船舶原簿ノ謄本ニハ現存セル登錄ノミヲ謄寫スヘシ

乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其船舶原簿ニ登錄ヲ移ス

第二十一條　船籍港ヲ管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ俟タスシテ前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條　第十七條第二項第六號乃至第十二號第十九號乃至第二十一號第二十八號乃至第三十五號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ第二十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　船籍港ヲ管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登錄ヲ爲サンコトヲ申請スル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ前條第二項ノ申請書ニ之ヲ添附スヘシ

第二十四條　第十七條第二項第十三號乃至第十八號第二十二條第二十三條ノ變更ハ前條ノ場合ニ於テ登錄ヲ爲サンコトヲ申請スル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十五條　船舶所有者ノ變更アリタルトキハ船舶ノ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記濟證書又ハ登記濟ノ謄本ヲ添附シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

第二十六條　行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶ノ登錄ニ關シ管海官廳ニ於テ職權ヲ以テ其變更ヲ登錄ス

船底ニ記載シタル區劃、名稱又ハ番號ハ總テ之ヲ變更スルコトヲ得ス但第二十一條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第二十七條　船舶法第十四條ノ規定ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲サントスル船舶ニ付登錄ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ抹消ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶ノ登錄用紙ヲ閉鎖ス

第二十八條　船舶所有者ニ於テ登錄又ハ讓渡ニ關シ訂正ヲ申請スヘキトキハ其旨ヲ證明スル書類ヲ添ヘ管海官廳ニ於テ登錄又ハ讓渡アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ登錄用紙ヲ閉鎖ス

第二十九條　何人ト雖モ手數料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

手數料ノ外讓渡ヲ證スル爲メ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四款　船舶國籍證書及仮船舶國籍證書

第三十條　管海官廳ニ於テ第十七條ニ依リ船舶ノ登錄ヲ爲シタルトキハ第三號樣式ノ船舶國籍證書ヲ交付ス

第三十一條　船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスルトキハ變更ノ登錄ヲ爲シタル管海官廳ニ同時ニ之ヲ提出スヘシ

第三十二條　第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書ニ記載シタル行政區劃土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスルトキハ其由ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第三十四條　第三十一條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官廳ハ船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ更ニ之ヲ調製シタル場合ニ於テハ乙ノ書換ヲ爲ス場合ニ於テハ甲ノ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ヲ新證書ニ記載シ且其旨ヲ記載シタル書面ヲ甲ノ證書ニ添付シテ之ヲ交付ス

第三十五條　船舶國籍證書ノ書換ヲ申請セントスル場合ニ於テハ其交付ヲ申請スル書面ニ其事由ヲ記載シ管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ但第二十條第一項ノ場合ニ於テハ乙ノ船舶國籍證書ヲ添ヘ管海官廳ニ差出スヘシ

第三十六條　船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請求スル船長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ヲ請求スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル書類ヲ添ヘ管海官廳ニ差出スヘシ

假船舶國籍證書ノ效力ニ關シ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テハ假船舶國籍證書ヲ交付アリタルトキハ其書類ヲ添ヘ管海官廳ニ差出スヘシ

假船舶國籍證書ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第三十七條　船舶法第十四條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ返還スル場合ニ於テ其船舶ニ付假船舶國籍證書ヲ交付シタルトキハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第三十八條　假船舶國籍證書ハ第三號樣式ニ依ル

假船舶國籍證書ノ效力ニ關シ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ假船舶國籍證書ヲ交付アリタルトキハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第三十九條　假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ヲ生シタルトキハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第四十條　假船舶國籍證書ハ其效力ヲ生シタル日ヨリ船舶國籍證書ヲ返還スル迄ノ間ニ限リ其效力ヲ有ス

假船舶國籍證書ハ其效力ヲ生シタル日ヨリ船舶國籍證書ヲ返還スル迄ノ間ニ限リ其效力ヲ有ス

第四十一條　本款ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ其書換ヲ申請スル場合ニ於テハ之ヲ返還スルコトヲ能ハサルトキハ其事由ヲ證明スルヲ以テ足ル

船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ其書換ヲ申請スル場合ニ於テハ其事由ヲ證明スルヲ以テ足ル

管海官廳ハ其無效ナルコトヲ官報ニ公告ス

第四十二條　第二十八條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ之ヲ準用ス

第四十三條　第二十九條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條　船舶ハ左ノ場合ニ於テ國籍ヲ喪失ス

一　帝國臣民ニ賣渡シタルトキ

二　帝國ノ政府又ハ海陸軍隊ヨリ買求セラレタルトキ

三　外國ノ港ヲ出入スルトキ

四　外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ

五　法令ニ別段ノ定アルトキ

第四十五條　船舶ニ標示スヘキ非項及其方法ハ左ノ如シ但右數ヲ以テ表示スル船舶ニ付テハ第四十五條ノ規定ニ依ル

一　船首兩舷ノ外部ニ船舶ノ名稱、船尾外部ノ見易キ所ニ船舶及船籍港ノ名稱ヲ四時以上ノ國字及羅馬字ヲ以テ記スルコト

二　中央ノ船艙ニ船舶ノ番號及幾噸數ヲ彫刻シ又ハ其番號及幾噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘着スルコト

三　船首材及船尾材、船尾材ナキトキハ舵柱ノ外部前面ニ吃水ヲ示スタメ船首ノ下面、前部ニ有スルトキハ其下面直線ヨリ最大吃水ニ至ルマテニ六吋ノ距離ニ六吋ノ羅馬數字又ハ記號數字ヲ以テ一尺毎ニ其數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル吃水ト一致スルコト

第四十五條　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ前條ニ定メタル方法ニ依リ船尾ニ船舶及船籍港ノ名稱、船舶證書ニ船舶ノ番號及積石數ヲ標示スヘシ

第四十六條　船舶ノ標示ハ明瞭ニシテ久シキ耐ユル方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十七條　標示スヘキ非項ニ變更ヲ生シタルトキハ速ニ其變更ノ標示ヲ改ムヘシ

第六款　登錄稅、手數料及罰金

第四十八條　登錄稅法ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付スル者ニ左ノ區別ニ應シ船舶ニ貼用スヘキ登錄稅納付證ノ金額ハ登錄ノ申請書ニ添ヘテ之ヲ納付スヘシ

一　第十七條第一項ノ場合ニ於テハ登錄稅法第一號第一號

二　船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ其有者ノ持分ノ變更ニ依リ登錄ヲ爲ス場合、第二十二條又ハ第二十四條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號

三　第二十五條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第四號

四　第二十六條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號

五　第二十七條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第四號

六　第二十八條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第四號

七　第二十九條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第四號

八　第三十條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第四號

九　第三十一條又ハ第三十二條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號

十　第三十三條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號

十一　第三十四條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號

十二　第三十五條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第四號

十三　第三十七條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號

十四　第四十二條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號

十五　第四十三條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號

十六　第四十四條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號

十七　第四十五條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號

第四十九條　登錄稅法第四條第一項第四號ニ付テハ第十七條第二項各號又ハ第四項各號ノ事項ノ變更ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五十條　登錄稅納付證ニハ船舶ノ名稱、種類及稅金額ヲ記載シ登錄稅法第四條第一項第三號ノ場合ニ於テハ假船舶國籍證書ノ函數ヲ記載スヘシ

第五十一條　第二十九條ノ手數料ハ左ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ以テ申請書ニ貼用シ之ヲ納付スヘシ

一　謄本ノ交付　一枚ニ付金三十錢

二　抄本ノ交付　一枚ニ付金二十錢

第五十二條　登錄稅納付證又ハ前條ノ申請書ニ貼用シタル收入印紙ハ登錄稅法第四條第一項第三號ノ場合ニ於テハ自己ノ便宜ニ依リ船舶ノ所有者ニ交付スヘキモノトス但申請書ニ於テ自己ノ便宜ニ依リ船舶ノ所有者ニ交付スヘキモノトスル旨ヲ記載シタル場合ニ於テハ船舶ノ所有者ニ交付スヘシ

第五十三條　船舶所有者ハ船舶ノ國籍ヲ喪失シタルトキハ其船舶ニ付登錄稅法第四條第一項第三號ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號ノ場合ニ於テハ

所有者ハ登簿噸數十五噸以上又ハ積石數百五十石以上ノ船舶ニ付テハ船舶法施行ノ後始メテ定期檢査又ハ特別檢査ヲ申請スルトキ當該檢査官廳ニ、登簿噸數十五噸未滿ノ汽船及檢査ヲ要セサル船舶ニ付テハ船舶法施行ノ日ヨリ起算シ二个年内ニ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ積量ノ測度ヲ申請スヘシ

前項ノ船舶ニシテ登簿船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ前項ノ規定ニ拘ハラス遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ前項ノ申請ヲ爲スヘシ

第五十八條　第十條及第十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶ニ臨檢シタル檢查官吏ハ積量ノ測度ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第五十九條　前條ノ規定ニ依リ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ登錄及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ハ左ニ揭ケル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

一　船舶ノ番號、名稱及種量

二　船籍港

三　船舶共有者ニ在リテハ各共有者ノ住所、氏名又ハ名稱及持分

第六十條　前條ノ申請書ニハ左ニ揭ケル書面ヲ添付スヘシ

一　登記ノ謄本

二　機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機及汽鑵ノ製造者ニ於テ其ノ製造ノ年月日ヲ證スル書面

三　船鑑札ヲ受有スル船舶ニ在リテハ當該地方官廳ニ於テ原名、製造地、進水ノ年月日及造船者ノ氏名又ハ名稱ヲ證スル書面

第六十一條　管海官廳ニ於テ第五十九條ノ申請ニ依リ登錄ヲ爲ストキハ登簿船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル製造年月ヲ以テ進水ノ年月日ト看做ス

第六十二條　登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク該免狀ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク該鑑札ヲ原地方官廳ニ返還スヘシ

第六十三條　第五十四條ノ罰則ハ前條ノ義務ヲ怠リタル船舶所有者ニ之ヲ適用ス

第六十四條　船舶法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ハ登錄ヲ了ルマテ第四十四條又ハ第四十五條ノ標示ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條　第四十條及第五十四條ノ規定ハ船舶法施行ノ際受有スル假免狀ニ之ヲ準用ス

（書式ハ之ヲ畧ス）

◉船舶職員法（明治二十九年四月法律第六十八號）

第一條　日本船舶ニハ此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乘組マシムヘシ

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第二條　海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條　海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長

甲種一等運轉士

甲種二等運轉士

乙種船長

乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

丙種船長

丙種運轉士

機關長

一等機關士

二等機關士

三等機關士

第四條　各船舶ニ乘組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第五條　海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試驗規程ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シ且海員名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍軍艦艇ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ遞信大臣ニ於テ海員試驗規程ニ合格スト認ムル者ニハ試驗ヲ用ヰスシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

第六條　左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ海員試驗ヲ受クルコトヲ得ス又船舶職員タルコトヲ得ス

一　公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者

二　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

三　癲癇白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナル者

四　海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者

第七條　高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

甲種船長之免狀ハ他ノ船長及運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種一等運轉士ノ免狀ハ他ノ運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種二等運轉士ノ免狀ハ乙種各運轉士及丙種運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種船長ノ免狀ハ乙種二等運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種一等運轉士ノ免狀ハ乙種二等運轉士ノ免狀ニ對シ、丙種船長ノ免狀ハ丙種運轉士ノ免狀ニ對シ各商等ノ免狀トス

機關長ノ免狀ハ一等機關士以下ノ免狀ニ對シ、二等機關士ノ免狀ハ三等機關士以下ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

第八條　左ニ揭グル者ハ二十圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ニ違背シ相當ノ船舶職員ヲ乘組マシメサル者

二　第二條及第四條ニ違背シ相當ノ海技免狀ヲ受有セスシテ船舶職員トナリタル者

三　第六條ニ違背シ船舶職員トナリタル者

四　海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五　海技免狀行使ノ假停止若ハ差押ヲ受ケ其ノ職務ヲ執リタル者

第九條　前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其所爲ナヲシタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

附　則

第十條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十一條　明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條　明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞信大臣之ヲ定ム

前項ニ揭タル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ代用スルコトヲ得

第十三條　此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ積石數百五十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス

第十四條　遞信大臣ハ石積數百五十石以上ノ帆船ニ乘組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律執行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歲以上ノ者ニハ此ノ法律執行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ試驗ヲ用ヰスシテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

第十五條　遞信大臣ハ第一號表中近海航船ニシテ登簿噸數五百噸未滿ノ汽船及沿海航船ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乘組マシメサルコトヲ得

（別表ハ之ヲ略ス）

◉船員法（明治三十二年三月法律第四十七號）

第一章　總則

第一條　本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ揭ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條　本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乘組員ヲ謂フ

第二章　船員手帖

第三條　日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條　第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條　船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク管海官廳ニ其船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

第三章　船長

第十三條　船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條　船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百五十二條第一項ニ揭ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條　船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條　日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到著シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閱ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セス

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員旅、客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出タシテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十七條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一　豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二　人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三　衝突其他ノ海難カ生シタルトキ

四　船舶カ捕獲セラレタルトキ

五　船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ揭ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前項第一項及ヒ第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作リ其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條　船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條　船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告クルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十一條　船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十二條　海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺産ヲ保管スルコトヲ要ス

第二十三條　外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

送費費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乘組ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規程ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルトキハ遲滯ナク退職ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十五條　船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ、又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ從事スル海員ハ其職撃ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第四章　海員

第二十六條　海員ノ雇入若クハ雇止ヲナシ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條　管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ニ訊問カセタル後之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得

當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ拇印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ氏名ヲ代署セシメ若クハ拇印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十八條　當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十九條　公認アリタルトキハ海員ハ遲滯ナク其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十條　海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出タシ海員名簿及ヒ船員手帖ヲ提出セシメテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立ニ因リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿及ヒ船員手帖ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帖ノ提出ヲ強制スルコトヲ得

第三十一條　船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條　海員カ雇入期間中脫船シタルトキハ船長ハ遲滯ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條　海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條　海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作リ之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第三十五條　海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滯ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五章　紀律

第三十六條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

一　海員カ上長ニ對シテ聲敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ

二　海員カ其職務ヲ怠リタルトキ

三　海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ

四　海員カ喧爭シタルトキ

五　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セサリシトキ

六　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ

七　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ

八　海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ

九　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ

十　海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ

十一　其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十七條　懲戒ハ左ノ四種トス

一　監禁

二　上陸禁止

三　加役

四　減給

第三十八條　監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス

上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス

加役ハ七日以下トシ業務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超エルコトヲ得ス

減給ハ給料月額十分ノ一以下トス

第三十九條　前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

第四十條　懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス

第四十一條　海員カ兇器、爆發者ク ハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得

第四十二條　海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間內其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條　船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテモ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乘込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乘船ヲ強制スルコトヲ得

第四十五條　船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六章　罰則

第四十六條　詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認證ヲ受ケタル者亦同シ

第四十七條　第七條、第九條、第十條、第十二條、第二十九條、第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認證ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條　虛僞ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ增減、變換シテ行使シタル者亦同シ

第四十九條　左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ揭ケタル書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ

二　船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ

三　船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ揭ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲナシタルトキ

四　船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキ

第五十條　左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其職務ヲ委任セシテ船舶ヲ去リタルトキ

三　船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ

四　船長カ必要アクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十一條　船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二項、第二十二條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條　船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十三條　船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　船舶ニ急迫ノ危險アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十六條　第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當リ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條　船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ送還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條　船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條　船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十條　船長カ第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條　海員カ雇入手續ノ終ハリタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乘込マサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條　船長カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當リ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條　船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要

第六十三條　船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員カ脫船シタルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條　船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第六十六條　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ兇器、爆發又ハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物ヲ所持スルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條　故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル屬具ヲ毀損シ若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船舶ヲ覆沒シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ無期懲役ニ處ス

第六十八條　船舶ノ運航ヲ妨クル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期懲役ニ處シ因テ船舶ヲ覆沒シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ刑法第百六十九條ノ例ニ依リテ處斷ス

第六十九條　海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

刑法第三百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第七十條　海員カ上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條　船長カ旅客、海員其他船中ニ在ル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條　海員カ相撲興シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ

一　職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

二　脫船シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

三　第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十三條　船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆沒シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條　本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其職務ヲ行フモノニモ亦之ヲ適用ス

附　則

第七十五條　本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シ船員法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

第七十六條　明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第七十七條　船員ハ本法施行ノ日ヨリ六个月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セス

前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遞滯ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十八條　從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六个月間ハ商法ニ定メタル海員名簿ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ期間內ニ公認アリタルトキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後始メテ公認アルマテハ從來ノ海員名簿ハ仍ホ其效力ヲ有ス

第七十九條　本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第八十條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

◉石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シ船員法施行ノ件

（明治三十二年六月勅令第二百四十一號）

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ船員法ヲ施行ス

◉船員法施行細則第四十九條第一項第二號乃至第六號ノ手數料ヲ納付スヘキ場所

（明治三十二年六月遞信省告示第百七十七號）

船員法施行細則第五十條第一項ノ規定ニ依リ同則第四十九條第一項第二號乃至第六號ノ手數料ヲ納付スヘキ場所左ノ如シ

一　海事局

二　海務署

三　第二號ニ掲クルモノヲ除ク外北海道ニ於ケル管海官廳

四　收入印紙ヲ以テ手數料ヲ納付スヘキ成規アル帝國領事館

◉船員法第七十九條ノ規定ニ依リ管海官廳ノ事務ヲ行フヘキ市町村長等指定ノ件

（明治三十二年六月遞信省令第二十六號）

船員法第七十九條ノ規定ニ依リ左ノ市町村長戶長及之ニ準スヘキ者ヲシテ管海官廳ノ事務ヲ行ハシム

北海道

岩內支廳長（岩內郡岩內）
宗谷郡稚內村戶長
室蘭支廳長（室蘭郡室蘭）
根室支廳長（根室郡根室）

東京府　崔原郡品川町長
京都府　與謝郡宮津町長
神奈川縣　三浦郡三崎町長
三浦郡浦賀町長　三原郡福良町長
兵庫縣　南高來郡口ノ津村長
長崎縣
東彼杵郡佐世保村長
千葉縣　安房郡館山町長
海上郡銚子町長　那珂郡湊町長
茨城縣　四日市市長
三重縣
愛知縣　知多郡半田町長
愛知郡熱田町長
知多郡阪井村長
靜岡縣　賀茂郡下田町長
廳手縣　上閉伊郡釜石町長
青森縣　青森市長
山形縣　飽海郡酒田町長
秋田縣　南秋田郡土崎港町長
福井縣　敦賀郡敦賀町長
石川縣　鹿島郡七尾町長
島根縣　隱岐島司（周吉郡西鄉）
岡山縣　淺口郡玉島町長

阪島縣
　阪島市長　那濃郡郡山村長
和歌山縣
　海草郡藤白村長　東牟婁郡三輪崎村長
鳥取縣　名東郡郡岩戸村長
島根縣　能義郡郡安来町長
岡山縣　邑久郡郡長島村長
廣島縣　深安郡郡神辺町長
山口縣　大島郡郡三蒲村長
愛媛縣　宇和島市長
高知縣　幡多郡郡中村長
福岡縣　那珂郡郡新宮村長
佐賀縣　東松浦郡郡長
長崎縣　北松浦郡郡長
熊本縣　玉名郡郡長
大分縣　速見郡郡長
宮崎縣　東臼杵郡郡長
鹿兒島縣　姶良郡郡長
沖繩縣　島尻郡郡長

●船員法施行細則

（明治三十二年六月逓信省令第二十五號）

第一章　總則

第一條　船員法又ハ本則ノ規定ニ依ル申請ハ特ニ明文ヲ掲ケタル場合ヲ除ク外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二條　代理人ニ依リテ爲ス申請ハ代理人ハ其權限ヲ證スル書面ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第三條　船員法又ハ本則中最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ト稱スルハ最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ヲ謂フ

第四條　本則第二章乃至第四章ノ非務ハ管海官廳ニ於テ管轄者ノ申請ニ依リ檢目ヲ點呼之ヲ行フコトヲ得ヘシ

第二章　船員手帖

第五條　船員法第三條第一項又ハ第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ證印スヘシ

一　署名捺印スルコト
二　船舶ノ名稱
三　船籍港
四　年齡
五　船員トシテ乘組ミタル航海ノ概況

第六條　船員法第三條第一項ノ規定ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ戸籍謄本又ハ之ニ代ルヘキ證明書ヲ添付スヘシ

第七條　船員法第三條第一項但書ノ場合ニ於テ船員手帖ノ交付ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ船員手帖ヲ添付スヘシ

第八條　船員法第九條又ハ第十條ニ依リ船員手帖ノ訂正ヲ申請セントスル者ハ其手帖ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但船員法第十一條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第九條　船員法第十二條又ハ第三十二條ニ依リ船員手帖ヲ返還セントスル者ハ其手帖ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第十條　船員手帖ヲ紛失シタル者ハ其旨ヲ管海官廳ニ申立テ其交付ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十一條　本章ニ掲ケタル書類ヲ管海官廳ニ差出ス場合ニ於テハ船員手帖ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十二條　船員手帖ノ樣式ハ第二號書式ニ依ル

第三章　船長

第十三條　船長ハ海員名簿、船員目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ備ヘルヘシ

前項ノ帳簿ニハ法令ニ依リ記載スヘキ事項ノ外必要ト認ムル事項ヲ記載スヘシ

第十四條　左ノ場合ニ於テ船長ハ非式ノ發生後遲滯ナク書式ニ從ヒ航海日誌ニ非式ノ發生ノ時、場所其他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

一　豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
二　人命又ハ船舶ニ救ヒタルトキ
三　衝突其他ノ海難ニ罹リタルトキ
四　幾定セサル港ニ寄港シタルトキ
五　船員法第四十一條乃至第四十四條ニ從ヒ船長ニ於テ船員ニ關シ處分ヲ爲シタルトキ
六　船員法第四十五條ニ依リ據助ヲ求メタルトキ
七　船中ニ於テ犯罪アリタルトキ
八　船中ニ於テ出生アリタルトキ
九　船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺產ニ處分ヲ爲シタルトキ
十　前各號ニ揭ケル場合ノ外船中ニ於テ異狀發生シタルトキ

第十五條　船長ハ旅客乘船ノ下船後遲滯ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル非務記載スヘシ

第十六條　本章ニ揭ケル書類ニ記載スル非務ニ關リ文字ノ削除、訂正、增入又ハ削除シタル文字ハ之ヲ認印シ船長之ニ訂正ヲ證スヘシ

第十三條第二項ニ依リ訂正シタル前項ノ規定ニ從フ外其行使ニ關シ訂正ノ前後ニ拘ハラス其文字ハ之ヲ認印シタル船長ノ責ニ任スヘシ

第十七條　管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閱ヲ爲シタルトキハ之ニ檢閱ノ年月日及檢閱ノ旨ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第十八條　海員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告書面ニ以テ之ヲ爲ス前項ノ管海官廳ニ提出スヘキ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ證印スヘシ

一　船名
二　船籍港
三　年齡
四　船員トシテ乘組ミタル航海ノ概況
五　船員トシテ乘組ミタル航海ノ概況

第十九條　報告書ノ證印ヲ爲シタル旨及證印ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺スヘシ

第二十條　海員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ遺留ノ現金ヲ取調ヘ立會ノ上之ヲ封印シ遺產目錄ヲ作リ左ノ事項ヲ記載シ船員之ニ署名捺印シ遺產ノ取調ニ立會ヒタルヘキ海員之ニ署名スルコトヲ要ス

一　死亡シタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時
二　遺產ノ品名及各品ノ數量、若シ金錢ナルトキハ其金額
三　遺產目錄ヲ作リタル年月日

第二十一條　船長ハ戸籍法ノ規定ニ依リ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ添ヘ遺產目錄ヲ管海官廳ニ送付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ遺產目錄ヲ作リタル港ノ管海官廳ニ送付スヘシ

第二十二條　船長ハ戸籍法ノ規定ニ依リ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ添ヘ遺產目錄ヲ管海官廳ニ送付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ遺產目錄ヲ作リタル港ノ管海官廳ニ送付スヘシ

第二十三條　船長ハ遺產目錄ヲ作リタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第二十四條　船長ハ遺產ノ品名及各品ノ數量、若シ金錢ナルトキハ其金額ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第二十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第二十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第二十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第二十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第二十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第三十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第三十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第三十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第三十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第三十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第三十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第三十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第三十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第三十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第三十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第四十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第四十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第四十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第四十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第四十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第四十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第四十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第四十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第四十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第四十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第五十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第五十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第五十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第五十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第五十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第五十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第五十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第五十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第五十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第五十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第六十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第六十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第六十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第六十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第六十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第六十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第六十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第六十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第六十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第六十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第七十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第七十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第七十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第七十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第七十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第七十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第七十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第七十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第七十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第七十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第八十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第八十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第八十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第八十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第八十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第八十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第八十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第八十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第八十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第八十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第九十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第九十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第九十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第九十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第九十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第九十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第九十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第九十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第九十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第九十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百二十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百二十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百二十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百二十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百二十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百二十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百二十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百二十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百二十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百二十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百三十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百三十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百三十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百三十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百三十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百三十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百三十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百三十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百三十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百三十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百四十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百四十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百四十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百四十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百四十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百四十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百四十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百四十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百四十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百四十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百五十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百五十一條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百五十二條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百五十三條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百五十四條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百五十五條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百五十六條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百五十七條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百五十八條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百五十九條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ證スヘシ

第百六十條　船長ハ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員ノ氏名、本籍地、作所及死亡ノ年月時ヲ記載シ

ノ種類、名稱、航路定限及積量ヲ記載シタル書面ヲ差出シ且其海技免狀ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十四條　第十九條ノ規定ハ前條ノ認證ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章　海員

第二十五條　海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第三號書式ノ申請書

二　被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第二十六條　海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ

第一　甲板部海員

第二　機關部海員

第三　事務部海員

同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十七條　常事者代理人ヲシテ海員雇入ノ公認ヲ受ケシメントスルトキハ其理由ヲ記載シ且其權限ヲ證スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十八條　海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テハ第二十六條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス

常事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ雇者ヲ先ニシ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル

第二十九條　被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十五條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十條　船員法第三十條第一項ニ依リ雇止ノ公認ヲ申請スルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十九條ノ順序ニ依リ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十一條　船員法第三十五條ニ依リ公認ノ證印ヲ申請セントスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員手帖ニ現在ノ契約條項其他ノ事項ヲ記載シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船長ハ現在ノ契約條項ヲ記載シタル海員名簿ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十二條　船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ證印ヲ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

一　海員ノ雇入期間滿了シタルトキ

二　海員死亡シタルトキ

三　商法第五百八十一條又ハ第五百八十三條ニ依リ海員ヲ雇止メタルトキ

四　商法第五百八十七條ニ依リ海員雇入契約終了シタルトキ

第三十四條　海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ揭クル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中其事實發生シタルトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第四號書式ノ申請書

二　被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條　第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條　被雇者總員又ハ船員法第二十七條第一項但書ノ場合ニ在リテハ出頭シタル當事者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ公認ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第三十四條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十七條　船員法第三十條第一項ニ依リ雇止ノ公認ヲ申請スル者ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十八條　管海官廳ニ於テ船員法第三十條第二項ニ依リ當事者雙方ヲ呼出シタルトキハ當事者ノ爭ニ關シ各申立ヲ爲サシムヘシ此場合ニ於テ申請者ノ相手方ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條　管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタル後申請ヲ理由アリトスルトキハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項、船員法第三十條ニ依リ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十條　海員雇入契約更新ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ更新ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中更新ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第五號書式ノ申請書

二　第二十五條第二號ノ書類

三　第三十四條第二號ノ書類

第四十一條　海員雇入契約變更ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中變更ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第六號書式ノ申請書

二　契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第四十二條　第二十六條乃至第二十九條ノ規定ハ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條第二號及第三號ノ書類又ハ前條第二號ノ書類ハ更新又ハ變更ノ公認アリタルトキ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十三條　海員公認ノ證印ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ船員手帖ニ公認及公認ノ證印ノ年月日竝第三十一條又ハ第三十二條ノ場合ニ在リテハ公認ノ證印ノ事由及前條ノ場合ニ在リテハ更新又ハ變更ノ要旨、場所及年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ雇止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付シ其他ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付ス

第四十四條　船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セントスルトキハ左ノ書類ヲ添ヘ海員名簿ヲ作リタルトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スルコトヲ得

一　第七號書式ノ申請書

二　第二十五條第二號ノ書類

三　被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖

前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名、其他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載スヘシ

第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條　第二十七條及第二十八條ノ規定ハ執雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此限ニアラス

第四十六條　船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第四十四條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

第四十七條　第十六條第一項ノ規定ハ認印ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ證印ヲ爲スニ當リ之ニ認印スルニアラサレハ文字ノ訂正、挿入又ハ削除ハ其效ヲ有セス

第四十八條　公認及公認ノ證印ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ船員手帖ニ公認及公認ノ證印ノ年月日竝第三十一條又ハ第三十二條ノ場合ニ在リテハ公認ノ證印ノ事由及前條ノ場合ニ在リテハ更新又ハ變更ノ要旨、場所及年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ雇止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付シ其他ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付ス

第四十九條　管海官廳ニ於テ船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ爲ササルトキハ左ノ書類ヲ添ヘ海員名簿ヲ作リタルトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第七號書式ノ申請書

二　第二十五條第二號ノ書類

三　被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖

前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名、其他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載スヘシ

第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十條　第二十七條及第二十八條ノ規定ハ執雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此限ニアラス

第五十一條　船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第四十九條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

第五十二條　第十六條第一項ノ規定ハ認印ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ證印ヲ爲スニ當リ之ニ認印スルニアラサレハ文字ノ訂正、挿入又ハ削除ハ其效ヲ有セス

第五十三條　公認及公認ノ證印ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ船員手帖ニ公認及公認ノ證印ノ年月日竝第三十一條又ハ第三十二條ノ場合ニ在リテハ公認ノ證印ノ事由及前條ノ場合ニ在リテハ更新又ハ變更ノ要旨、場所及年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ雇止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付シ其他ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付ス

第五十四條　管海官廳ニ於テ船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ爲ササルトキハ左ノ書類ヲ添ヘ海員名簿ヲ作リタルトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第七號書式ノ申請書

二　第二十五條第二號ノ書類

三　被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖

前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名、其他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載スヘシ

第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條　第二十七條及第二十八條ノ規定ハ執雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此限ニアラス

第五十六條　船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第五十四條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

第五十七條　第十六條第一項ノ規定ハ認印ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ證印ヲ爲スニ當リ之ニ認印スルニアラサレハ文字ノ訂正、挿入又ハ削除ハ其效ヲ有セス

第五十八條　公認及公認ノ證印ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ船員手帖ニ公認及公認ノ證印ノ年月日竝第三十一條又ハ第三十二條ノ場合ニ在リテハ公認ノ證印ノ事由及前條ノ場合ニ在リテハ更新又ハ變更ノ要旨、場所及年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ雇止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付シ其他ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付ス

第五章　手數料

第四十九條　手數料ノ額左ノ如シ

一　船員手帖ノ交付又ハ書換　一部ニ付　貳拾錢

二　船員手帖ノ訂正　船員法第三條第二項ノ事項一箇ニ付五　錢

三　報告書ノ認證　一通ニ付　壹　圓

四　船長就職又ハ退職ノ認證　一件ニ付　貳拾錢

五　公認　被雇者一人ニ付　拾　錢

但船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ被雇者一人ニ付　五　錢

六　公認ノ認證　一件ニ付　五　錢

前項ノ手數料ハ第四條又ハ前條ノ場合ニ於テハ前項ニ定ムル所ノ二倍トス

第五十條　前條第一項第一號ノ手數料ハ第八號書式ノ手數料納付書ニ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前條第一項第二號乃至第六號ノ手數料ハ遞信大臣ノ告示スル場所ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ、其他ノ場所ニ於テハ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

前二項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但申請者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

第六章　罰則

第五十一條　第十三條第二項第二十條第一項第二十一條第三十一條第三十二條又ハ第三十三條ニ違反シタル者又ハ第二十二條ノ命令ニ違反シテ管海官廳ニ遺產ヲ差出ササル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條　本則ハ船員法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條　從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ被雇者（海員）氏名、浦役人檢印及事故摘要ノ欄ヲ除ク外其各欄ニ相當ノ事項ヲ記載スヘシ

第五十四條　前條ノ場合ニ於テハ雇者ハ明治年月日雇主ト記載シタル下、被雇者ハ被雇者（海員）氏名ノ欄ニ署名捺印スヘシ

第五十五條　從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇止ノ公認ヲ申請セントスル場合ニ於テハ雇入ノ公認ヲ爲シタルトキハ其要面ニ公認ノ年月日及船舶ノ名稱ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付スヘシ

（書式ハ之ヲ略ス）

ルトキハ本則施行前ニ雇入ノ公認ヲ受ケタル者ナルト否トヲ問ハス雇止ノ事由、場所及年月日ヲ之ニ記載スヘシ

第五十六條　前條ノ規定ハ從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ヲ申請セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條　前二條ノ場合ニ於テ管事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ各條ノ記載ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲サシムヘシ

第五十八條　海員ノ雇止、雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ニ關シ第三十六條第三十九條第四十二條又ハ第四十六條ニ依リ管海官廳ニ於テ爲スヘキ記載及捺印ハ前條ノ署名捺印ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲ス

第五十九條　船員法施行ノ日ヨリ六个月間ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シタル書面ヲ海員ニ交付スヘシ

一　船舶ノ名稱、番號、積量、船籍港及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

二　海員ノ氏名及本籍地

三　雇入ノ公認アリタル年月日、場所、海員ノ從事シタル職務及給料

四　雇止ノ公認アリタル年月日、場所及雇止ノ事由

第六十條　從來ノ海員名簿ニシテ二葉以上ノ用紙ヲ綴合セタルモノニハ管海官廳ニ於テ公認ヲ爲ストキ其各葉ニ契印スヘシ

第六十一條　第四章中海員名簿ニ關スル規定ハ前八條ニ於テ特ニ明文ヲ揭クル場合ヲ除ク外從來ノ海員名簿ニ付テ之ヲ準用ス

第六十二條　最後ノ雇止ノ公認アリタルコトヲ證スル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ハ船員法施行後六个月間ニ雇入ノ公認ヲ受ケル場合及該期間滿了後初メテ雇入ノ公認ヲ受ケル場合ニ雇者ヨリ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ニハ管海官廳ニ於テ雇入ノ公認ヲ爲シタルトキ其要面ニ公認ノ年月日及船舶ノ名稱ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付スヘシ

海上衝突豫防法（明治二十五年六月法律第五號）

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハズ凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖モ帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用ヒサル下キハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ヒルトキハ帆ヲ用フルト用ヒサルトノ別ナク汽船ノ看做スヘシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條　船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日沒ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ揭クヘカラス

第二條　汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ揭クヘシ

一　前檣若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前檣ヲ備ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ澄明ノ白燈一個ヲ揭クヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ揭クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光リヲ發シテ鉸盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射行ヲ左右舷外ヘ十點間ツツ即チ船ノ正首ヨリ各舷正橫後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用フヘシ

二　右舷ニ綠燈ヲ揭クヘシ此燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉸盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射行ヲ船ノ正首ヨリ左舷正橫後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用フヘシ

三　左舷ニ紅燈ヲ揭クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉸盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射行ヲ船ノ正首ヨリ左舷正橫後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用フヘシ

四　本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ內側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル樣ニ爲スヘシ

五　汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ增揭スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ揭ケ其前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條　汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ揭クルノ外ニ白燈三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ樣造ニシテ且同一ノ場所ニ揭クルヲ要ス然レトモ二艘以上ノ船尾ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カルル船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ倘同種ノ白燈一箇ヲ增揭スヘシ

本條ノ引船ハ引カルル船舶ノ操能目標トシテ烟突若ハ後檣ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ揭クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正橫ヨリ前面ニ見ヘサル樣ニ爲スヲ要ス

第四條　事變ノ爲メ運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ（汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ）二個ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ距テ連揭スヘシ此ノ紅燈ハ周圍少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニ在リテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色ノ形象二個ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ（汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ）三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツヽヲ隔テ連揭スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ內上下ノ二個ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周圍少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツヽヲ隔テ連揭シ其ノ上下ノ二

箇ハ紅色球形ヲ用ヒ中央ノ一箇ハ白色菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ雖船信號ト混同スヘカラス雖船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條　航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ掲クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲クヘカラス

第六條　小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ様點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ機各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ス且成ル可ク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル様ニ爲スヲ要ス

此ノ綠光ノ各燈ヲ間遮ヒナク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ハ綠色、紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗リ且適當ノ隔板ヲ備置クヘシ

第七條　總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及櫂艇ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若シ之ヲ掲ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ（三十年法律第四十三號改正ニ追加）

一　四十噸未滿ノ汽船

甲　船ノ前部又ハ煙突若ハ其ノ前面ニ於テ舷綠上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ

乙　第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射行ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ掲クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

二　汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷綠上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三　二十噸未滿ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト櫂ヲ用ウルトニ拘ハラス一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヒタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

四　櫂艇ヲ以テ運轉スル船ハ櫂艇ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラス白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條來項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第八條　水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲ストキハ他船ニ要スル燈ヲ掲クヘカラス單ニ周圍ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間隙ヲ以テ閃火一箇又ハ數個ヲ發スヘシ

水先船ニハ右ノ外綠紅ノ二舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ一時之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

水船人ヲ要スル船舶ハ直付クスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ掲クル代リニ離時之ヲ表示シ又舷燈ヲ兩舷ニ掲クル代リニ一面ハ綠色、一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヒタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ニ從テ之ヲ使用スルヲ得

水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲ササルトキハ其ノ積量ニ應シテ他船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

第九條　（三十年法律第四十三號ヲ以テ刪除）

第十條　他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向ツテ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ檣ノ船尾ニ掲ケ置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鍼盤ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右ヘ六點間宛

射光ノ及フヘキ様隔板ヲ裝置シ成ル可ク舷燈ト同一ノ高サニ掲クヘシ

第十一條　長サ百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ超ヘサル所ニ白燈一箇ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周囲少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲ケ且船尾若ハ其最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一個ヲ掲クヘシ

本條船舶ノ長サ、本船舶籍證書面ノ長サニ依ルヘシ

船路若ハ其ノ最寄ニ於テ乘揚ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尚第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ掲クヘシ

第十二條　各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尚閃火ヲ發シ或ハ雖船信號ト混同セサル燦製信號ヲ發スルヲ得

第十三條　本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラルル船舶ニ增掲スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

第十四條　汽船雙間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ煙突ヨリ黑ク突出カレテ運航スル船舶モ此信號ヲ爲スハ妨ナシト雖モ他ノ信號ヲ爲スヘカラス（三十年法律第四十三號ヲ以テ改正第六項以下刪除）

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲ササルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中信號

第十五條　航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スモノハ左ノ信號器ヲ用フヘシ

汽船ハ汽笛若ハ汽角

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ

汽船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メ得サルトキハ成ル可ク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ運航ニ注意スヘシ

航方

衝突ノ危險ハ其ノ現況ニ依リ我船ニ近寄リ來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其ノ方位ニ變更スルヲ認メサルトキハ危險アルモノト知ルヘシ

第十七條　二艘ノ帆船互ニ近寄リテ衝突ノ虞アルトキハ其ノ一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

一　一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

二　左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

三　一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受クタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

四　一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五　船尾ヨリ風ヲ受クタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條　二艘ノ汽船正シク眞向又ハ殆ント眞向ニ行違フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鍼路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ殆ント眞向ニ行違フテ衝突ノ虞アルトキニ限リ適用スヘシ兩船各其ノ鍼路ヲ保チテ互ニ譬リ行クトキニハ適用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ場合ニ兩船共ニ正シク眞向又ハ殆ント眞向ニ行違ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ檣ト他ノ船ノ檣ト一直線又ハ殆ント一直線ニ見エルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我鍼路ヲ橫切リテ我船ノ前面ニ見エルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條　二艘ノ汽船互ニ航路ヲ橫切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條　帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航船ヲ避クヘシ

第二十一條　本法航方ニ依リ二船ノ內一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其鍼路及速力ヲ保ツヘシ但シ他船ニ於テ天氣晴潔又ハ其他ノ事故ニ因リ航路ヲ避クル船ノ處置ノミニテハ衝突ヲ避ケ能ハサル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ラ亦臨機衝突ヲ避クルニ至當ノ處置ヲ爲スヘシ（三十年法律第四十三號ヲ以テ追加）

第二十二條　本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ル可ク他船ノ前面ヲ橫切ルヘカラス

第二十三條　本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄リ殆ントキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十四條　總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラス他船ノ航路ヲ避クヘシ

總テ他船ノ兩舷正橫後ノ二點以外即チ夜間ニアリテハ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ越過サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其ノ追越船ヲ以テ本法ノ航路橫切船ト爲サス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス

晝間他船ヲ追越サムトスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ內外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十五條　汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十六條　航行中ノ帆船ハ綱或ハ網ヲ川ヰテ漁業ニ從事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但漁船ト雖猥リニ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

第二十七條　本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ首般ノ危險ニ注意スルハ勿論若危切險迫シテ本法ヲ履行スル能ハサル特種ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

第二十八條　本條中短聲トハ大約一秒時間ノ音聲ヲ謂フ

航行中ノ汽船他船ニ近寄リ鍼路ヲ變セントスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ鍼路ヲ通知スヘシ

短聲一發ハ我船鍼路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發　我船鍼路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發　我船全速力ニテ後退ス

警戒ノ音

第二十九條　本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ職務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長海員ヲシテ其責ヲ免レシメサルモノトス

特例

第三十條　本法ハ地方長官ニ於テ規定シタル港、川其ノ他內海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

◉水先法（明治三十二年三月法律第六十三號）

第一條　水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス

水先人ニアラサル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス

第二條　水先免狀ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ授與ス

一　帝國臣民ナルコト

二　圭務大臣ノ定ムル試驗規定ニ依リ試驗ニ合格シタルコト

三　水先人名簿ニ登錄セラレタルコト

第三條　左ノ各號ニ該當スルモノハ水先人タルコトヲ得ス

一　滿二十三年ニ達セサル者及滿六十年以上ノ者

二　剝奪公權者

三　家資分散者及破產者

四　癲癇白痴者及身體不具又ハ廢疾ニシテ業務ヲ營ムニ不適當ナル者

五　水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

第四條　水先人ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

一　公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキ

二　水先免狀ノ行使ヲ停止若ハ假停止セラレ又ハ之ヲ差押ヘラレタルトキ

第五條　水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀及水先法令書ヲ携帶スヘシ

水先人ハ當該官吏若ハ公吏ノ命令ニ依リ又ハ水先人ヲ要招シタル船長ノ要求ニ依リ水先免狀又ハ水先法令書ヲ開示スヘシ

第三十三條　本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十四條　明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第六條　水先人其ノ業務ニ從事スル爲水船ニ乘込ミタルトキハ費間ニ在リテハ水先旗ヲ揭揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ

第七條　水先人ヲ要招セントスルトキハ船長ハ水先信號ヲ爲スヘシ

第八條　水先人水先信號ヲ認メタルトキハ直ニ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタルトキハ水先人ハ自己ニ最モ近キ船舶ノ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ中ニ危險ニ瀕リタル船舶アルトキハ水先人ハ前項ノ規定ニ拘ラス該船舶ノ要招ニ應スヘシ

第九條　二人以上ノ水先人同時ニ要招ニ應シタルトキハ其ノ何レヲシテ水路ヲ導セシムヘキカハ船長ノ選擇スル所ニ依ル

第十條　水先人水先船ヲ去リタルトキハ水先旗ヲ撤去スヘシ

第十一條　水先人水路ヲ導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知スヘシ

第十二條　水先人水路ヲ導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ船長ハ水先信號ヲ撤去シ船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名、船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告知シ且水先人ノ要求アルトキハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ

第十三條　水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶ト水路ヲ導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニアラス

第十四條　水先人水路ヲ導シタルトキハ船長ニ對シ水先案內料ヲ請求スル權利ヲ有ス

前條但書ノ場合ニ於テハ水先人ハ各艘ノ船舶ニ付前項ノ權利ヲ有ス

第十五條　水先案內料ハ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條　水先人ハ水先修業生一名ニ限リ水路ヲ導スヘキ船舶ニ之レヲ伴フコトヲ得但シ二名以上ヲ伴ハントスルトキハ船長ノ承諾ヲ經ヘシ

第十七條　水先區、水先旗ノ樣式及水先信號ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲシテ水先人ノ業務ニ從事スル爲水船ニ乘込ミタルトキハ費間ニ在リテハ水先旗ヲ揭揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ

第七條　水先人ヲ要招セントスルトキハ船長ハ水先信號ヲ爲スヘシ

第八條　水先人水先信號ヲ認メタルトキハ直ニ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタルトキハ水先人ハ自己ニ最モ近キ船舶ノ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ中ニ危險ニ瀕リタル船舶アルトキハ水先人ハ前項ノ規定ニ拘ラス該船舶ノ要招ニ應スヘシ

第九條　二人以上ノ水先人同時ニ要招ニ應シタルトキハ其ノ何レヲシテ水路ヲ導セシムヘキカハ船長ノ選擇スル所ニ依ル

第十條　水先人水先船ヲ去リタルトキハ水先旗ヲ撤去スヘシ

第十一條　水先人水路ヲ導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知スヘシ

第十二條　水先人水路ヲ導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ船長ハ水先信號ヲ撤去シ船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名、船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告知シ且水先人ノ要求アルトキハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ

第十三條　水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶ト水路ヲ導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニアラス

第十四條　水先人水路ヲ導シタルトキハ船長ニ對シ水先案內料ヲ請求スル權利ヲ有ス

前條但書ノ場合ニ於テハ水先人ハ各艘ノ船舶ニ付前項ノ權利ヲ有ス

第十五條　水先案內料ハ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條　水先人ハ水先修業生一名ニ限リ水路ヲ導スヘキ船舶ニ之レヲ伴フコトヲ得但シ二名以上ヲ伴ハントスルトキハ船長ノ承諾ヲ經ヘシ

第十七條　水先區、水先旗ノ樣式及水先信號ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲシテ水先人ノ業務ニ從事スル爲水船ニ乘込ミタルトキハ費間ニ在リテハ水先旗ヲ揭揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ

水先人組合ハ規約ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條　水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ海員審判所ハ裁決ヲ以テ之レヲ懲戒ス

一　過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ加ヘ又ハ之レヲ沈沒セシメタルトキ

二　過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキ

三　業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ

四　亂醉、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

水先人組合ニ屬スル水先人其ノ組合規約中命令ノ規定ニ依リ懲戒ニ付スヘキ事項ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十條　前條ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ノ管轄ハ其ノ水先人ノ住所ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

前項ノ事件海員懲戒法ノ規定ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ト關聯スルトキハ前項ノ管轄ハ海員懲戒法ニ依ル事件ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

第二十一條　水先人ノ懲戒ニ關シ此法律ニ規定ナキモノニ付テハ海員懲戒法ノ規定ヲ準用ス

第二十二條　水先人其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上六百圓以下ノ罰金ニ處ス

水先人ニアラサル者水先區ニ於テ水路ヲ導シ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條　左ノ各號ニ該當スルモノハ二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ノ規定ニ違反シテ水先人ノ業務ヲ營ミタル者及之ヲシテ水路ヲ導セシメタル者

二　第八條第二項第三項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者

三　第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案內料ヲ授受シタル者

四　水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五　詐僞ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若ハ積量ニ付水先人ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫水ノ標識ヲ變更シタル者

六　水路ノ導ヲ要求セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ應シタルモ正當ノ理由ナクシテ水路ヲ導セサル者

七　水路ノ導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲシテ水路ヲ導セシメス又ハ正當ノ理由サクシテ水先人ヲ水先區外ニ伴ヒタル者

八、水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ導シタル者

第二十四條　左ノ各號ニ該當スルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條第六條第十條第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者

二　水先人ヲ要招スル爲ニアラスシテ水先信號又ハ之ト誤認シ易キ信號ヲ爲シタル者

三　水先人第十六條ノ規定ニ依リ水先修業生ヲ伴ヒタル場合ニ於テ之ヲ拒ミタル者又ハ同條但書ノ規定ニ違反シテ水先修業生ヲ伴ヒタル者

四　第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ水先船ヲ艤裝セス又ハ水先船免狀ヲ有セスシテ水先船ヲ使用シタル者

五　水先人ニアラスシテ水先旅若ハ之ト誤認シ易キ旗ヲ船舶ニ揭揚シ又ハ海上衝突豫防法第八條ノ點燈及信號ヲ爲シタル者

六　水先人ニアラスシテ第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ艤裝シタル水先船又ハ之ト誤認シ易キ船舶ヲ使用シタル者

第二十五條　船長水先區ニ於テ水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ導セシメタルトキハ命令ヲ以テ定メタル當該水先區ノ水先案內料ト同額以上二倍以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　水路ヲ導セシメサレハ航行危險ナル場合ニ於テ水先人ヲ得能ハサル爲水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ導セシムルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ水先人ハ各艘ノ船舶ニ付前項ノ權利ヲ有ス

第二十七條　此ノ法律中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者ニ又之ヲ適用ス

附　則

第二十八條　此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　明治十一年第三十七號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十條　明治十一年第三十七號布告ニ依リテ授與シタル水先免狀ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ此ノ法律ニ依リテ授與スル水先免狀ト交換ス

前項ノ交換ヲ了スルマテハ舊水先免狀ハ該免狀ニ記載スル水先區中此ノ法律ヲ依リテ定メタル水先區ニ該當スル部分ニ限リ之ヲ代用スルコトヲ得

舊水先免狀ヲ有スル者第三條ノ各號ニ該當スルトキハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三十一條　此ノ法律施行前ヨリ其ノ施行後マテ引續キ水路ヲ導スル場合ニ於テハ水先案內料ハ明治十一年第三十七號布告ニ依リテ之ヲ算定スヘシ

第三十二條　第十九條第二十條及第二十一條ノ規定ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ亦之ヲ適用ス

一　明治十一年第三十七號布告ニ依リテ審問ヲ要スルモノニシテ此ノ法律ニ依リ懲戒スヘキ行爲ニ發生シ其ノ施行後ニ至リテ發覺シタルトキ

二　前號ノ行爲ニ此ノ法律施行ノ際審問中ナルトキ

第三十三條　此ノ法律施行後五年間ヲ限リ主務大臣ハ第二條第一號ノ規定ニ拘ラス水先免狀ヲ授與スルコトヲ得

前項ニ依リ授與シタル水先免狀ハ前項ノ期間滿了ノ後ト雖其ノ效力ヲ失フコトナシ

此法律ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス（三十二年七月勅令效）

水先法施行細則

（明治三十二年七月遞信省令第三十三號）

第一章　登錄及免狀

第一條　水先人試驗ニ合格シタル者ハ試驗ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ水先區ノ名稱、本籍地、出生ノ年月日及合格ノ年月日ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ登錄ヲ申請スヘシ

第二條　遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ水先人名簿ニ登錄シ第一號書式ノ水先免狀ヲ申請人ニ授與ス

一　水先區ノ名稱
二　氏名
三　本籍地
四　出生ノ年月日
五　試驗ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
六　合格ノ年月日

第三條　前條第二號及第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以內ニ變更ニ係ル新書事項ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

變更ノ登錄ヲ申請スル者ハ登錄事項ノ變更ヲ證スル戶籍謄本ノ書面、外國人ニ在リテハ本國領事ノ書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第四條　遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ變更ノ登錄ヲ爲シ水先免狀ヲ書換ヘ之ヲ水先人ニ交付ス

水先人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第五條　水先人左ノ各號ニ該當スルトキハ其事實アリタル日又ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日以內ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出ヲ抹消ノ登錄ヲ申請スヘシ

一　日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ
二　滿六十年ニ達シタルトキ
三　水先法第三條第二號乃至第五號ノ事項ニ該當シタルトキ
四　水先人試驗規程ノ規定ニ依リ試驗無效トナリタルトキ
五　廢業シタルトキ

水先人失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ現ニ水先免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

抹消ノ登錄ヲ申請スル者ハ水先免狀ヲ申請書ニ添附シテ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ但水先法第三條第五號ノ事項ニ該當シ抹消ノ登錄ヲ申請スル場合ハ此限ニアラス

第六條　遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ抹消ノ登錄ヲ爲ス

水先人又ハ水先免狀ヲ保管スル者抹消ノ登錄ヲ申請スヘキ場合ニ之ヲ爲ササルトキハ遞信省ハ直ニ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ得

第七條　水先人ニ於テ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ登錄ノ訂正ヲ申請スヘシ

遞信省ニ於テ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ認見シタルトキハ其旨ヲ水先人ニ通知ス

前二項ノ規定ハ水先免狀ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八條　水先免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ七日以內ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ

水先免狀ノ再交付ヲ申請スル者ハ手數料一圓ヲ納付スヘシ

第九條　遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ水先免狀ヲ水先人ニ交付ス

水先人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ但水先免狀滅失シタル場合ハ此限ニアラス

第十條　第一條第三條又ハ第八條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手數料ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼用シ之ヲ申請書ニ添附スヘシ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

第十一條　第三條第一項第五條第一項第二項第七條第一項又ハ第八條第一項ニヨリ申請書ヲ遞信省ニ差出スニハ水先人ノ住所ヲ所轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第十二條　水先人公務ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキハ其裁判確定後遲滯ナク本人又ハ水先人免狀ノ保管者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ水先免狀ヲ前條ノ管海官廳ヘ提出スヘシ

一　公權停止ノ理由
二　公權停止ノ期間

三　裁判ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル水先免狀ハ公權停止ノ期間內管海官廳之ヲ保管シ期間滿了ノ後之ヲ水先人ニ還付ス

第二章　水先區

第十三條　水先區ハ左ノ四種トス

一　東京灣水先區安房國洲ノ崎ヨリ相模國城ヶ島四端ヲ經テ鵠磯埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

二　內海水先區　紀伊國田倉埼ヨリ友ヶ島ヲ經テ淡路國生石鼻ニ引キタル線、淡路國押登埼ヨリ阿波國大磯埼ニ引キタル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豐後國地藏埼ニ引キタル線及長門國綱代埼ヨリ筑前國岩屋埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

三　長崎港水先區　肥前國福田埼ヨリ伊王島北端ニ引キタル線及同國島ノ沖南端ヨリ番嶼島南端ヲ經テ深堀ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

四　函館港水先區　渡島國尾花岬ヨリ葛登支岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

第三章　水先案內料

第十四條　水先案內料ハ總噸數千噸又ハ千噸未滿ニシテ喫水十二呎又ハ十二呎未滿ノ船舶ニ付キテハ第一號表ニ定ムル所ニ依リ總噸數千噸若クハ千噸未滿又ハ喫水一呎若クハ一呎未滿ヲ增ス每ニ同表ニ定ムル額ニ百分ノ三ヲ加フ

第十五條　前條ニ於テ喫水ト稱スルハ各水先區ニ付キ水先人水路ヲ嚮導スル爲メ船舶ニ乘込ミタルトキヨリ其嚮導ヲ終ルマテノ間ニ於テ船首又ハ船尾ノ有シタル最深ノ喫水ヲ謂フ

第十六條　水先人船長ノ便宜ニ依リ第一號表ニ揭クル各航路ノ一部ヲ嚮導シタルトキハ特約アル場合ヲ除ク外其全部ニ對スル水先案內料ヲ請求スルコトヲ得

第十七條　水先人水路嚮導中海難其他不可抗力ニ依リ第一號表ニ揭クル各航路ノ全部ヲ嚮導スルコト能ハサルトキハ水先案內料ハ嚮導シタル里程ノ割合ニ應スヘキモノトス

第十八條　水先旗ハ第一號樣式ニ依ル

第十九條　水先旗ハ水先法第六條ノ場合ニ於テハ檣頭旗竿又ハ帆ノ上部其他見易キ所ニ之ヲ揭揚スヘシ

第二十條　水先旗汚染又ハ毀損シテ水先旗タルコトヲ認メ難キニ至リタルトキハ水先人ハ新ニ之ヲ調製スヘシ

第二十一條　水先法第七條ノ水先信號ハ晝間ニ在リテハ第一號若クハ第二號ヲ用ヒ又ハ之ヲ併用シテ爲スヘシ

一　前檣ニ船首旗又ハ國旗ヲ揭揚スルコト

二　萬國普通信號書ニ揭クル水先信號ヲ表示スルコト

三　十五分間每ニ青色熠光ヲ發射スルコト

四　須臾ノ間隔ヲ以テ凡ソ一分間亮明ノ白燈ヲ上甲板ノ舳部ニ於テ表示スルコト

第五章　水先船ノ免狀及艤裝

第二十二條　水先船ハ左ノ條件ヲ具備スヘシ

一　船體ノ外部ハ黑色ト爲スコト

二　船側及大帆ノ上部ニ於テ水先船タルコトヲ明瞭ニ表示スルコト

第二十三條　水先人水先船ヲ使用スルトキハ水先船免狀ヲ受有スヘシ

第二十四條　水先人水先船免狀ヲ受有セントスルトキハ水先船ノ種類、名稱、綱具ノ裝置、長、幅、深及積量ノ記載シタル申請書ヲ遞信省ニ差出スヘシ

水先船水先人ノ所有ニ屬セサルトキハ其所有者ハ前項ノ申請書ニ連署スヘシ

第二十五條　逓信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ水先船ヲ檢査セシメ適當ト認ムルトキハ第二號書式ノ水先船免狀ヲ授與ス

第二十六條　水先船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ逓信省ニ差出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　第八條第一項及第九條ノ規定ハ水先船免狀滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　第二十四條第二十六條又ハ第二十七條ニ依リ申請書ヲ逓信省ニ差出スニハ水先船ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ手數料竇圓ヲ納付スヘシ

第十條ノ規定ハ前項ノ手數料ヲ納付スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　逓信省ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ水先船ニ臨檢セシメ現狀完全ナラスト認ムルトキハ其使用ヲ停止シテ必要ナル修理又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

水先人前項ノ命令ニ違反シテ水先船ヲ使用シ又ハ其修理若クハ設備ヲ爲ササルトキハ水先船免狀ハ其效力ヲ失フ

第三十條　水先船使用スヘカラサルニ至リタルトキ又ハ其使用ヲ廢シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ七日以内ニ事由ヲ具シ第二十八條ノ管海官廳ヲ經由シテ水先船免狀ヲ逓信省ニ返還スヘシ

第六章　水先法令書

第三十一條　水先法令書ハ逓信省ヨリ之ヲ水先人ニ交付ス

第三十二條　水先法令ニ改正アリタルトキハ逓信省ハ改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類又ハ改刷シタル水先法令書ヲ水先人ニ交付ス

第三十三條　水先人改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ水先法令書ノ當該箇所ニ綴込ムヘシ

水先人改刷シタル水先法令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊法令書ヲ返還スヘシ

第三十四條　第八條第一項第九條及第十一條ノ規定ハ水先法令書滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　水先法令書ハ逓信省ノ印ヲ捺シタルモノニアラサレハ其效ヲ有セス

第七章　水路標導ノ證明

第三十六條　水先人水路ノ標導ヲ終リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ得ヘキ標調製シタル書面ニ署名捺印シテ之ヲ船長ニ提出スヘシ

一　船舶ノ名稱、國籍、所有者、積量及喫水

二　水路ヲ標導シタル區域

三　水路ノ標導ヲ始メ及之ヲ終リタル日時

四　水先案内ノ額

船長ハ前項ノ書面ニ前項ノ事項ヲ記入シ且署名捺印シテ之ヲ水先人ハ交付スヘシ若シ文字ヲ削除、訂正又ハ挿入シタルトキニ之ニ認印スヘシ

水先人水先法第十三條但書ノ規定ニ依リ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ標導シタルトキハ各船ノ船長ニ對シ第一項ノ手續ヲ爲シ各船ノ船長ハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサリシ船舶ノ船長ハ其自由ヲ前項ノ書面ニ附記スヘシ

第三十七條　水先法第十六條ニ依リ水先人水先修業生ヲ伴ヒ乘船シタルトキハ水先人ハ水先修業生ヲシテ前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ記載シ得ヘキ標調製シタル書面ニ署名捺印セシメ之ヲ船長ニ提出スヘシ

船長ハ前條第二項及第三項ニ準シ前項ノ書面ニ署名捺印シ之ヲ水先人ニ交付シ水先人ハ之ヲ水先修業生ニ交付スヘシ

第三十八條　水先人ハ水先修業生ノ請求ニ依リ其修業ニ關スル證明書ヲ交付スヘシ

第八章　水先人組合

第三十九條　水先人組合ハ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組合員トス

第四十條　逓信大臣ニ於テ水先人組合ヲ設クヘキコトヲ命シタルトキハ當該水先區ノ水先人三名ニ創立委員ヲ命ス

第四十一條　創立委員ハ組合規約ヲ起草シテ之ヲ當該水先區ノ水先人ノ會議ニ附スヘシ

創立委員ハ會日ヨリ二週間前ニ各水先人ニ組合規約案ヲ添ヘ會日及會場ヲ通知スヘシ

組合規約ハ當該水先區ノ水先人總員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

水先人ハ代理人以テ意見ヲ表示スルコトヲ得

第四十二條　會議ノ通知ヲ受ケタル水先人會議ニ出席セス若クハ代理人ヲ出席セシメサルトキハ規約ノ成案ニ同意シタルモノト看做ス

第四十三條　組合規約ヲ議決シタルトキハ創立委員ハ遅滞ナク其成案ヲ逓信大臣ニ差出シ其認可ヲ申請スヘシ

第四十四條　第四十一條ノ場合ニ於テ意見數說ニ分レ定數ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ逓信大臣ノ裁決ヲ申請スヘシ

第四十五條　組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合ノ名稱

二　組合長及組合副長ノ選舉、任期及職務ニ關スルコト

三　組合員ノ營業ニ關スルコト

四　組合員ノ風紀秩序ニ關スルコト

五　組合ノ會計ニ關スルコト

六　組合ノ會議ニ關スルコト

七　水先修業生ノ資格等ニ關スルコト

八　其他組合ノ處理ニ關シ必要ナルコト

第四十六條　水先人組合ニ組合長組合副長各一名ヲ置ク組合長組合副長ハ組合員ノ選舉ニ依リ上任シ其任期ハ二年以内トス

第四十七條　組合長ハ水先法第三號又ハ第四號ニ依リ組合規約ニ記載シタル事項ニ違反シタルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ警戒ヲ加フ

水先人前項ノ行爲アリタルトキハ組合長ハ組合ノ事務所ヲ管轄スル管海官吏ヲシテ組合ノ會議ニ臨視セシムルコトヲ得

第四十八條　逓信大臣組合規約ヲ認可シタルトキハ其旨ヲ創立委員ニ通達ス

創立委員ハ前項ノ通達ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ組合長組合副長ノ選舉ヲ行ヒ其上任確定シタルトキハ逓滯ナク其氏名ヲ逓信大臣ニ報告スヘシ

創立委員ノ職務ハ前項ノ屆出ヲ爲スニ依リテ終了ス

第四十九條　組合長ハ上任後遅滯ナク組合ノ事務所ヲ定ムヘシ

組合長ノ事務所ヲ定メタル日ヨリ三日以内ニ其所在地ヲ逓信省ニ屆出ツヘシ事務所ノ所在地ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五十條　組合規約ヲ變更セントスルトキハ組合長ハ其成案及變更ヲ要スル事由ヲ具シ逓信大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

第四十一條乃至第四十四條ノ規定ハ組合規約ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十一條　組合長組合副長更迭シタルトキハ新任者ノ氏名及更迭ノ事由ヲ具シ之ヲ逓信大臣ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ハ組合長ノ更迭シタル場合ニ在リテハ新舊組合長ノ連署ヲ以テ之ヲ爲シ組合副長更迭シタル場合ニ在リテハ組合長之ヲ爲スヘシ

第五十二條　組合長ハ毎年一月前一年間ニ於ケル組合員ノ營業ニ關スル狀況及組合ノ會計ニ關スル事項ヲ逓信省ニ報告スヘシ

第五十三條　第四十九條第二項第五十條第一項第五十一條第一項及第五十二條ノ申請、屆出又ハ報告ヲ爲スニハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官吏ヲシテ經由スヘシ

第五十四條　逓信大臣ハ組合規約ノ改正ヲ命シ水路ノ標導ニ關スル事項ヲ組合ニ諮問シ必要ト認ムルトキハ其事項ヲ審議スル爲メ組合會議ヲ開クヘキコトヲ命シ又ハ當該官吏ヲシテ組合ノ會議ニ臨視セシムルコトヲ得

第五十五條　水先人第四十五條第三號又ハ第四號ニ依リ組合規約ニ記載シタル事項ニ違反シタルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ警戒ヲ加フ

水先人前項ノ行爲アリタルトキハ組合長ハ組合ノ事務所ヲ管轄スル管海官吏ヲシテ組合ノ會議ニ臨視セシムルコトヲ得

第五十六條　組合長ハ組合副長ヲ補佐シ其事故ニ依リ職務ヲ行フ能ハサル場合ニハ之ヲ代理ス

海官廳ニ其始末ヲ申告スヘシ

第五十六條　前條第二項ノ申告ヲ爲ス場合ニハ申告者ハ成ルヘク證憑及事實參考トナルヘキ事物ヲ提出スヘシ

第九章　雜　則

第五十七條　水先人其業務ニ從事スルニ當リ海難ニ罹リタルトキハ遲滯ナク管海官廳又ハ警察官署ニ其始末ヲ届出ツヘシ

第五十八條　船長ハ其使用シタル水先人水先法第十九條第一項ノ各號ニ該當スト認ムルトキハ航海日誌及機關室日誌ノ寫ヲ添ヘ前條ノ官廳又ハ官署ニ其始末ヲ申告スヘシ

第五十九條　水先人業務ヲ開始セントスルトキハ書面ヲ以テ其住所ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

水先人其住所ヲ變更シタルトキハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ住所及變更ノ年月日ヲ記載シタル届書ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第十一條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十條　水先人水先區ニ於テ左ノ事項アルコトヲ認メタルトキハ直ニ其狀況ヲ遞信省又ハ管海官廳ニ報告スヘシ

一　航路、航路標識ニ異變アルコト

二　航路ノ妨害トナルヘキモノノ存在スルコト

三　其他航行上危險ノ虞アル事實アルコト

第六十一條　水先人ハ毎年一月其住所ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由シ前一年間ニ於ケル水路ヲ總導シタル船舶ニ關シ第三十六條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出スヘシ

前項ノ書面ニハ第三十六條第二項ノ書面ヲ添附スヘシ

第十章　罰　則

第六十二條　第三條第四條第二項第五條第七條第一項及第三項第八條第一項第九條第二項第十二條第一項第十九條第二十條第二十六條第二十七條第三十條第三十三條第三十四條第三十六條第三十八條第四十一條第一項第四十三條第四十四條第四十八條第二項第四十九條乃至第五十二條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第一項第二項第六十條又ハ第六十一條ニ違反シタル者ハ弐圓以上弐拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第六十三條　本則ハ水先法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條　水先法第三十條第一項ニヨリ同法ニ依リテ授與スル水先免狀ト交換スヘキ舊水先免狀ヲ有スル者ハ同法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ其住所ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由シ舊免狀ノ寫ヲ添ヘ書面ヲ遞信省ニ差出シテ免狀ノ交換ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ左ノ事項ヲ記載シ第一號ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長第二號乃至第四號ノ事項ニ付テハ戸籍吏、外國人ニ在リテハ第一號乃至第四號ノ事項ニ付キ本國領事ノ證明ヲ受ケタル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

一　水先法第三條第二號及第三號ノ事項ニ該當セサルコト

二　氏名

三　本籍地

四　出生ノ年月日

第六十五條　遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ水先人名簿ニ登錄ヲ移シ水先免狀及水先法令書ヲ申請人ニ授與ス

申請人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ前條ノ管海官廳ヲ經由シ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還シ且其住所ヲ届出ツヘシ

第六十六條　水先法第三十一條ノ場合ニ於テハ第三十六條ノ規定ヲ適用セス

第六十七條　本則施行前ヨリ引續キ水先人タル者ハ本則施行ノ翌年一月第六十一條ノ手續ヲ爲スト同時ニ其前年ノ初日ヨリ本則施行ノ前日ニ至ル間及本則施行前ヨリ施行後マテ引續キ水路ヲ總導シタル船舶ニ關シ第三十六條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ニ同條第二項ノ書面ニ相當スルモノヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第六十二條ノ罰則ハ前項ニ違反シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

（書式略ス）

保險法

◉保險業法（明治三十三年三月法律第六十九號）

第一章　總　則

第一條　保險事業ハ主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス、

第二條　保險事業ハ株式會社又ハ相互會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條　保險會社ハ他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第四條　同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ其目的トスコトヲ得

第五條　損害保險ヲ目的トスル會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　定款

二　事業方法書

三　普通保險約款

四　保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類

第六條　生命保險ヲ目的トスル會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ前條ニ揭ケタル書類及ヒ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第七條　普通保險約款ニハ左ニ揭ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一　保險會社カ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキ事由

二　保險契約無効ノ原因

三　保險會社カ其義務ヲ免ルヘキ事由

四　保險會社ノ義務ノ範圍ヲ定ムル方法及ヒ其義務履行ノ時期

五　保險契約者又ハ被保險者カ其義務不履行ノ爲メニ受クヘキ損失

六　保險契約ノ全部又ハ一部ノ解除ノ原因及ヒ其解除ノ場合ニ於テ當事者ノ有スル權利義務

七　保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ノ有無及ヒ範圍

第八條　第五條及ヒ第六條ニ揭ケタル書類ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九條　保險會社ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ本法及ヒ第五條竝ニ第六條ニ揭ケタル書類ノ規定ニ從ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條　主務官廳ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第十一條　主務官廳カ保險會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ依リ其事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ其事業ノ停止ヲ命シ又ハ期間ヲ定メテ業務執行ノ方法若クハ計算ノ基礎ノ變更ヲ命シ其他保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條　保險會社カ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ事業ノ停止若クハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條　保險會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル檢査ヲ爲スコトヲ得

第二章　株式會社

第十四條　保險ヲ營業トスル株式會社ノ定款ニハ商法第百二十條第二號乃至第八號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍

二　設立登用價却ノ方法

第十五條　會社ハ其商號ニ保險ノ種類ヲ示スコトヲ要ス

第十六條　會社ノ資本ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條　株式申込證ニハ第十四條及ヒ商法第百二十六條第二項ニ揭ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十八條　會社ハ第十四條及ヒ商法第百四十一條第一項ニ揭ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第十九條　第五十八條ノ規定ハ株式會社ノ計算ニ之ヲ準用ス但設立登用、及ヒ營業登ノ全額ヲ償却シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ

得ス

第二十條　商法第二百十條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニハ之ヲ適用セス

第二十一條　會社カ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第二十二條　會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ合併契約書及ヒ各會社ノ財産目錄竝ニ貸借對照表ヲ損害保險ニ在リテハ各被險保者ニ生命保險ニ在リテハ各保險契約者ニ送付シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス但其期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

被保險者又ハ保險契約者カ前項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ヲ述ヘタル者ノ保險金額カ會社ノ保險金額ノ十分ノ一以上ナルトキハ會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

會社カ前三項ノ規定ニ依リテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル者ニモ對抗スルコトヲ得

第二十三條　第七十三條第二項、第七十四條及ヒ第七十七條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニ之ヲ準用ス

第二十四條　第七十八條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社カ第二十一條又ハ商法第七十四條第七號、第二百二十一條第二號、第三號ニ掲クタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第二十二條第一項ノ規定ニ依ル催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル者アルトキハ其者ノ保險金額カ會社ノ保險金額ノ十分ノ一未滿ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三章　相互會社

第一節　設立

第二十六條　相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

一　保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍

二　名稱

三　事務所ノ所在地

四　基金ノ總額

五　基金ノ醵出者カ有スヘキ權利

六　社員ノ責任ノ種類

七　基金及ヒ設立費用ノ償却ノ方法

八　剩餘金分配ノ方法

九　會社カ公告ヲ爲ス方法

十　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

第二十七條　相互會社ハ其名稱ニ保險ノ種類ヲ示シ且之ニ相互會社ナル文字ヲ附スルコトヲ要ス

第二十八條　相互會社ノ基金ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基金ノ支拂ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條　相互會社ノ社員ノ數ハ百人ヲ下ルコトヲ得ス

第三十條　發起人ニ非サル者カ社員タラントスルトキハ入社申込證二通ニ保險ノ目的及ヒ保險金額ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス但會社カ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後社員タラントスル者ハ此限ニ在ラス

入社申込證ハ發起人之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　定款作成ノ年月日

二　第二十六條ニ掲クタル事項

三　基金ノ醵出者ノ氏名、住所及ヒ其各自カ醵出スル金額

四　發起人カ報酬ヲ受クヘキトキハ其報酬ノ額

五　發起人カ報酬ヲ受クヘキトキハ其者アルトキハ其者

六　設立ノ際募集セントスル社員ノ數

第三十一條　社員カ豫定ノ數ニ滿タサルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス創立總會ニ於テハ社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第四十三條及ヒ商法第百五十六條第一項、第二項、第百六十一條第三項、第四項、第百六十三條ノ規定ハ相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス

第三十二條　社員カ豫定ノ數ニ滿タル後六个月内ニ發起人カ創立總會ヲ招集セサルトキハ申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得

第三十三條　相互會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第三十四條　取締役ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　第二十六條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第十號ニ掲クタル事項

二　事務所

三　取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

前項ニ掲クタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十五條　商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條乃至第三十八條、第四十條、第四十一條、第四十四條、第四十五條、第百十九條、第百三十三條及ヒ第百三十八條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第二節　社員ノ權利義務

第三十六條　社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ

第三十七條　會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ左ノ三種トス

一　社員ノ全員カ無限ノ責任ヲ負フモノ

二　社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

三　社員ノ全員カ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

第三十八條　社員ハ會社ニ拂込ムヘキ金額ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十九條　社員カ保險料ノ外會社ノ債務ニ關シ醵出スヘキモノアルトキハ其金額及ヒ其醵出ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條　損害保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ會社ノ承諾ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第四十一條　生命保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人ヲシテ其權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得

第三節　會社ノ機關

第四十二條　相互會社ハ定款ヲ以テ社員總會ニ代ハルヘキ機關ヲ設クルコトヲ得此機關ニハ社員總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十三條　社員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條　十分ノ一以上ノ社員ハ總會ノ目的及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但此權利ノ行使ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

商法第百六十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條　商法第百五十六條第一項、第二項、第百五十七條第一項、第百五十八條第一項、第百五十九條、第百六十一條第一項、第三項、第四項及ヒ第百六十三條ノ規定ハ相互會社ノ社員總會ニ於テ之ヲ準用ス

第四十六條　取締役及ヒ監査役ハ社員總會ニ於テ之ヲ選任ス

第四十七條　取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非サレハ同種ノ保險ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員、業務擔當社員、取締役又ハ監査役トナルコトヲ得ス

第四十八條　取締役ハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　社員ノ氏名、住所

二　各社員ノ保險契約ノ種類、保險金額及ヒ保險料

三　第三十七條第三號ノ場合ニ於テ各社員ノ責任ノ限度

第五十條　取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議錄ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且社員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

社員及ヒ會社ノ債權者ハ事業時間内何時ニテモ前項ニ掲クタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條　社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス但起訴ノ請求ヲ爲ス者ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十二條　前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第五十三條、商法第百六十五條乃至第百六十七條、第百六十九條、第百七十條、第百七十四條第二項、第百七十六條、第百七十七條及ヒ第百七十九條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス

第五十四條　社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第五十一條第一項但書、第五十二條及ヒ商法第百八十五條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十五條　商法第百六十七條、第百七十九條乃至第百八十四條、第百八十五條第一項、第百八十六條及ヒ第百八十八條ノ規定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ準用ス

第四節　會社ノ計算

第五十六條　基金ハ每事業年度ノ剩餘金ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ償却スルコトヲ得ス基金ノ醵出者ニ支拂フヘキ利息亦同シ

第五十七條　相互會社ハ損失ノ塡補ニ備フル爲メ每事業年度ノ剩餘金中每年積立ツヘキ金額及ヒ準備金ノ最低額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條　設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ハ十年ヲ超エサル期間内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ每年其一部ヲ償却スルコトヲ得

第五十九條　設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ノ全額ヲ償却シ且第五十七條ノ準備金ヲ塡除シタル後ニ非サレハ基金ヲ償却シ又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ前條ノ期間内ニ於テ基金ノ醵出者ニ利息ヲ支拂フコトヲ妨ケス

第六十條　基金ヲ償却スルトキハ其償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十一條　剩餘金ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ各事業年度ノ終ニ於ケル社員ニ之ヲ分配ス

第六十二條　商法第百九十條乃至第百九十三條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ之ヲ準用ス

第五節　定款ノ變更

第六十三條　定款ノ變更ハ社員總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得但其決議ノ認可ヲ得ルニ付キ必要ナル變更ハ社員總會ノ決議ヲ以テ之ヲ取締役ニ委任スルコトヲ得

第三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十四條　會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ヲ減少セントスルトキハ商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第六節　社員ノ退社

第六十五條　定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス社員ハ事業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條　社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

一　定款ニ定メタル事由ノ發生

二　死亡

三　破産

四　保險關係ノ消滅

第六十七條　退社員ハ定數又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其權利ニ屬スル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條　退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ六个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六十九條　退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ計算ヲ爲スニ當リ會社ニ現存スル財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ足ラサルトキハ退社員ハ其負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムコトヲ要ス

第七十條　退社員カ會社ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ會社ハ其退社員ニ拂戻スヘキ金額ノ中ヨリ其債務ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

第七十一條　無限責任ヲ負フ社員及ヒ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ社員ハ登記所ニ備フル社員名簿ニ退社ノ記載ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付其記載後二年間責任ヲ負フ

前項ノ規定ハ第四十條及ヒ第四十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七節　解散

第七十二條　相互會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生

二　社員カ百人未滿ニ減シタルコト

三　社員總會ノ決議

四　合併

五　破產

六　免許ノ取消

第七十三條　任意ノ解散及ヒ合併ノ決議ハ總社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

前項ノ決議ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第七十四條　合併ノ認可ヲ申請スルニハ申請書ニ合併契約書、財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十五條　商法第七十六條及ヒ第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第八節　清算

第七十六條　相互會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破產ノ場合ヲ除ク外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條　會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第七十八條　會社カ第七十二條第二號、第三號又ハ第六號ニ揭ケタル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フヘキ事由カ解散ノ時ヨリ一个月内ニ生シタルトキニ限リ保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス

前項ノ期間經過ノ後ハ損害保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未タ經過セサル期間ニ對スル保險料、生命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第七十九條　清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ會社財產ヲ處分スルコトヲ要ス

一　一般ノ債務ノ辨濟

二　社員ノ保險金額及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スヘキ金額ノ支拂

三　基金ノ償却

社員ハ保險料ノ外基金ノ償却ニ付キ責任ヲ負フコトナシ

第八十條　殘餘財產ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ制合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配ス

第八十一條　重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但此請求ヲ爲ス社員ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

第八十二條　第四十四條、第五十一條、第五十四條、商法第八十四條、第九十條乃至第九十三條、第九十七條、第九十九條、第百五十九條、第百六十三條、第百七十六條、第百七十七條、第百八十一條、第百八十三條、第百八十四條、第百八十五條第一項、第百九十三條、第二百二十六條、第二百二十七條、第二百二十八條第一項、第二百三十條第一項、第二百三十一條乃至第二百三十三條及ヒ民法第七十九條、第八十五條　商法第七十六條及ヒ第七十八條乃至第八十二條ノ規定ノ相

條、第八十三條ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九節　補則

第八十三條　各登記所ニ相互保險會社登記簿ヲ備フ

第八十四條　相互會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　定款

二　社員名簿

三　社員ヲ募集シタル場合ニ於テハ各社員ノ入社申込證

四　主務官廳ノ免許書又ハ其認證アル謄本

五　創立總會ノ決議錄

第八十五條　相互會社ノ社員名簿ハ登記簿ノ一部ト看做シ社員名簿ニ爲シタル記載ハ之ヲ登記ト看做ス但之ヲ公告スルコトヲ要セス

第八十六條　相互會社ノ支配人ノ選任ノ登記ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅又ハ解任ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條　主務官廳ノ免許ヲ得スシテ保險事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第八十八條　相互會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキノ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十八條　第一項ノ規定ハ相互會社ノ解散又ハ其合併ニ因ル變更者クハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條　非訟事件手續法第二十六條第一項、第三項、第百三十六條乃至第百三十九條、第百四十一條乃至第百六十五條、第百七十三條、第百七十四條第二項、第百七十五條乃至第百七十八條、第百八十八條、第百九十三條第一項、第二項、及ヒ第百九十四條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第九十條　相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要ス

社員名簿ノ記載ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第九十一條　相互會社ニハ營業稅ヲ課セス

第四章　計算

第九十二條　保險會社ハ每年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滯ナク財產目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金竝ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九十三條　保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後前條ニ揭ケタル書類ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手數料ヲ拂フコトヲ要ス

第九十四條　第九十二條ニ揭ケタル書類ノ書式ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十五條　保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒ各事業年度ノ終ニ於テ存スル契約ニ付キ責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第九十六條　生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財產ノ上ニ優先權ヲ有ス

第五章　罰則

第九十七條　主務官廳ノ免許ヲ得スシテ保險事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第九十八條　保險會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

一　保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ

二　生命保險ト損害保險トヲ併セテ營ミタルトキ

三　主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

四　正當ノ理由ナクシテ本法ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメス又ハ其謄本若クハ抄本ヲ交付セサリシトキ

五　第十九條ノ規定ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキ

六　第二十二條ノ規定ニ違反シテ合併ヲ爲シタルトキ

七、第九十五條ノ規定ニ違反シタルトキ

八、第九十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

第九十九條　相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラレ

一　本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二　本法ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ

三　第三十條第二項ノ規定ニ反シ入社申込證ヲ作ラス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四　定款、社員名簿、總會ノ決議錄、財產目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書若クハ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金、剩餘金分配ニ關スル議案ヲ事務所ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

五　商法第百八十一條ノ規定ニ依ル監査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ

第百條　相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

一　第五十六條乃至第六十條ノ規定ニ違反シテ基金ヲ償却シ、其利息ヲ支拂ヒ又ハ剩餘金分配ヲ爲シタルトキ

二　第七十九條第一項ノ規定ニ違反シテ會社財產ヲ處分シタルトキ

三　商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ社員ノ責任ヲ減少シ又ハ合併ヲ爲シタルトキ

四　商法第百七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ反シ破產宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第百一條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附　則

第百二條　本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百三條　商法施行法第九十五條乃至第百十六條ハ之ヲ削除ス

第百四條　本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ其商號ノ種類ヲ示ササルモノハ本法施行ノ日ヨリ三个月內ニ其商號ヲ改メ且本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百五條　本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ營業ノ免許ヲ受ケサリシモノカ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得

非訟事件手續法第二十六條第一項、第百三十四條第一項、第百三十五條及ヒ第百三十五條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百六條　本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル每ニ保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ其閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手數料ヲ拂フコトヲ要ス

第百八條　第三條、第四條、第八條乃至第十三條、第七十三條第二項及ヒ第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ準用ス

第百九條　本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ相當ノ責任準備金ヲ積立テサルモノハ本法施行ノ日ヨリ三个月內ニ其不足額填補ノ方法ヲ定メ主務官廳ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス但填補ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ超エルコトヲ得ス

前項ノ填補ヲ爲シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第百十條　第七十八條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社カ第二十一條又ハ商法第七十四條第三號、第五號、第七號、第百十八條、第二百二十一條第二號、第三號ニ揭ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百十一條　第九十二條及ヒ第九十三條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第百十二條　第二十條乃至第二十二條及ヒ第七十七條ノ規定ハ本法施行

前ニ設立シタル株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第百十三條　第九十八條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役及ヒ清算人ニ之ヲ準用ス

第百十四條　保險會社ノ業務ヲ執行スル社員又ハ取締役カ第百四條又ハ第百九條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

第百十五條　外國人又ハ外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◉保險業法施行規則

（明治三十三年七月農商務省令第十五號）

第一條　保險會社ノ發起人ハ發起ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ保險業法第五條及ヒ第六條ニ定メタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條　發起認可ノ申請ハ株主又ハ社員ヲ募集スル場合ニ於テハ其募集前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　保險事業免許ノ申請ハ總取締役及ヒ總監査役ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ保險業法第五條及ヒ第六條ニ揭ケタル書類ノ外非訟事件手續法第百八十七條第二項第二號乃至第六號及ヒ第九號ニ揭ケタル書類又ハ保險業法第十四條第二項第二號第三號及ヒ第五號ニ揭ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條　保險會社カ保險業法第八條ノ規定ニ依リ書類ノ變更ノ認可申請ヲ爲スニハ申請書ニ理由書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條　保險會社カ商法又ハ保險業法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス但社員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第六條　保險會社ハ保險證券竝ニ保險申込書ノ雛形及ヒ廣告ノ目的ヲ以テ調製シタル印刷物ヲ各一部ツヽ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第七條　保險證券ニハ保險約款ノ全文ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條　生命保險會社ハ保險業法第七條第六號及ヒ第七號ニ定メタル權利ノ範圍ニ付キ當事者ニ拂渡スヘキ金額其標準若クハ第十三號書式ニ準シ其金額ヲ推知スルニ足ルヘキ表ヲ保險證券ニ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ保險證券ニ添附スルコトヲ要ス

保險證券ニ對シ貸付ヲ爲スヘキコト又ハ將來ノ保險料ノ拂込免除ノ爲メニ保險金額ヲ減少スヘキコトヲ定メタルトキ亦同シ

第九條　保險會社カ其財産ヲ利用スルニハ左ニ揭ケタル各方法ニ付キ其五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

一　無擔保貸付ヲ爲スコト

二　同一人ニ貸付又ハ頭金ヲ爲シ又ハ同一人ヲ保證人トシテ貸付ヲ爲スコト

三　同一會社ノ株券若クハ債券ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

四　同一物件ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲コトス

前項第二號及ヒ第三號ニ依リテ利用シタル金額ハ之ヲ通算ス

第十條　事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役及ヒ監査役之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

一　事業年度ニ於ケル定款又ハ普通保險約款ノ變更其他重要ナル事件

二　事業ノ成績（第一號書式ニ準ス）

三　生命保險及ヒ火災保險ニ在リテハ統計（生命保險ニ在リテハ第二號乃至第七號書式、火災保險ニ在リテハ第八號書式ニ準ス）

第十一條　財産目錄、貸借對照表、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金竝ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ハ第九號乃至第十二號書式ニ準シテ之ヲ作ルコトヲ要ス

第十二條　財産目錄ノ一項目中ニ個額三千圓以上ノモノアルトキハ其項目內譯トシテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第十三條　財産目錄及ヒ貸借對照表ノ未收保險料中ニハ次ノ事業年度ニ於テ收入スヘキ保險料ヲ算入スヘカラス

第十四條　保險會社ハ支拂備金トシテ左ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

一　事業年度ニ於テ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テ未タ其支拂ヲ爲ササルトキハ其金額

二　事業年度ニ於テ生シタル事故ノ爲メニ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキコトアリト認ムルトキハ其支拂ヲ爲スニ相當ナル金額

第十五條　生命保險會社ノ責任準備金ハ保險料積立金及ヒ未經過保險料ニ區別スルコトヲ要ス

第十六條　生命保險會社カ純保險料式ニ依リテ保險料積立金ヲ算出セサルトキハ貸借對照表中責任準備金ノ下ニ純保險料ニ依リテ算出シタル金額ヲ附記シ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第十七條　生命保險會社ノ未經過保險料ハ箇箇ノ契約ニ付キ之ヲ計算セサルトキハ其事業年度ニ收入シタル保險料ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條　保險損害保險會社ノ責任準備金ハ事業年度ニ收入シタル保險料（再保險者ニ支拂ヒタル保險料ヲ控除ス）中ヨリ其年度ニ於テ保險料ヲ收入シタル契約ノ爲メニ支拂ヒタル保險金額（再保險者ヨリ得タル保險金額ヲ控除ス）其契約ノ爲メニ積立ツヘキ支拂備金及ヒ其年度ノ營業費ヲ控除シタル殘額ヲ下ルコトヲ得ス

第十九條　損害保險會社カ危險ノ發生セサル場合ニ於テ保險料ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スヘキ契約ヲナストキハ事業年度ニ收入シタル保險料中ヨリ先ツ拂戻ニ充ツヘキ部分ヲ控除シ其殘額ニ付キ前條ノ計算ヲナスコトヲ要ス

會社ノ責任準備金ハ拂戻積立金ノ總額及ヒ前條ノ計算ニ依リテ生シタル殘額ハ合計額ヲ下ルコトヲ得ス

第二十條　前二條ノ規定ニ依リテ計算シタル責任準備金カ保險契約ノ未經過期間ニ對シ不足ナルトキハ會社ハ相當ノ增額ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條　責任準備金算出ノ爲メニ用ヒタル統計表、計算表其他算出ノ基礎及ヒ順序ヲ知ルニ必要ナル材料ハ次回ノ責任準備金算出ヲ結了スルマテ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十二條　任意ノ解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表及ヒ保險契約ノ整理ニ關スル案ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十三條　合併ノ認可申請書ニハ保險業法第七十四條ニ揭ケタル書類ノ外理由書、總會ノ決議錄及ヒ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

合併ノ認可アリタル後六个月內ニ合併ノ手續ニ着手セサルトキハ認可ハ其效力ヲ失フ

第二十四條　保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ本店又ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

前項ノ書類ハ强靭ナル美濃判大ノ紙料ヲ用ユルコトヲ要ス但印刷物ハ此限ニ在ラス

第二十五條　保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類中外國ノ貨幣ヲ以テ價額ヲ示シタル項目ニハ大藏大臣カ告示スル內外貨幣比較表ニ依リ日本ノ貨幣ニ換算シタル金額ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十六條　保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ニシテ日本語ヲ以テ認メタルモノハ之ニ其譯文ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十七條　前二十四條ノ規定ハ保險業法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ準用ス但保險業法施行ノ日ヨリ六个月間ハ第八條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二十八條　保險業法施行前ニ設立シタル保險會社ノ定款ノ規定ニシテ本則ノ規定ニ抵觸スルモノハ其施行ノ日ヨリ六个月內ニ之ニ改ムルコトヲ要ス

第二十九條　保險業法施行前ニ設立シタル會社カ其財産ヲ利用シタル方法カ第九條ノ制限ニ反スルモ之ヲ改ムルコトヲ要セス但保險業法施行

ノ後其利用ノ方法ヲ變更スルトキハ第九條ノ制限ノ趣旨ニ從フコトヲ要ス

第三十條　商法施行前ニ設立シタル合名會社又ハ合資會社ニシテ保險ヲ目的トスルモノカ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社トナサントスルトキハ其認可申請書ニ理由書、決議錄、財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十一條　附則　明治三十二年農商務省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

（書式略ス）

◉保險會社ニ關スル細則

（明治三十二年六月農商務省令第十一號）

第一條　保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ政府ニ差出スヘキ書類ハ本店所在地ノ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス　前項ノ書類ハ强靱ナル美濃判大ノ紙料ヲ用ユルコトヲ要ス但印刷物ハ此限ニ在ラス

第二條　保險會社カ商法施行法第九十九條ノ規定ニ依リ書類變更ノ認可ヲ申請スルトキハ其申請書ニ理由書ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條　保險會社カ商法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツルコトヲ要ス

第四條　二類以上ノ保險ヲ營業トスル會社ニ在リテハ各類ノ收支計算書ヲ作ルコトヲ要ス

第五條　生命保險ヲ營業トスル會社ニ在リテハ其收入保險料及ヒ責任準備金ハ保險契約ノ種類ニ從ヒテ之ヲ計算スルコトヲ要ス

第六條　責任準備金算出ノ爲メニ用ヒタル統計表、計算表其他算出ノ基礎及ヒ順序ヲ知ルニ必要ナル材料ハ次同ノ責任準備金算出ヲ結了スルマテ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第七條　保險會社ハ次ノ一年間ニ各財產ヨリ生スヘキ利益ノ豫算額及ヒ其利益ト財產ノ價格トノ比例ヲ財產目錄ニ記載スルコトヲ要ス

第八條　保險會社ノ計算項目ニシテ外國ノ貨幣ヲ以テ價格ヲ示スモノハ日本ノ貨幣ニ換算スルコトヲ要ス　前項ノ換算ハ大藏大臣カ當ス時ノ內外貨幣比較表ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九條　保險會社ハ第一號書式ニ依リ營業成績一覽表ヲ作リ之ヲ營業報告書ニ添附スルコトヲ要ス

第十條　生命保險ヲ營業トスル會社ハ營業成績一覽表ノ外第二號乃至第七號ノ書式ニ依リ統計表ヲ作ルコトヲ要ス　前項ノ統計表ハ統計年度ノ末日ヨリ起算シテ六箇月內ニ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第十一條　二類以上ノ保險ヲ營業トスル會社ニ在リテハ各類ニ付キ營業成績一覽表及ヒ統計表ヲ作ルコトヲ要ス　前項ノ規定ハ死亡保險、年金保險及ヒ生存保險ノ中二種以上ヲ兼ヲ營ム生命保險會社ニ之ヲ準用ス

第十二條　保險契約ノ性質ニ因リ本則ニ定メタル書式ニ依ルコト能ハサルトキハ準メ書式ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第十三條　保險會社ハ保險證券竝ニ保險申込書ノ雛形及ヒ廣告ノ目的ヲ以テ調製スル印刷物ヲ各一部ツヽ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第十四條　合併ノ認可申請書ニハ總會ノ決議錄及ヒ債權者カ期間內ニ異議ヲ述ヘサリシ旨竝ニ異議ヲ述ヘタル債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタル旨ヲ證スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第十五條　解散ノ認可申請書ニハ總會ノ決議錄及ヒ保險契約ノ整理ニ關スル案ヲ添附スルコトヲ要ス

第十六條　保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ニシテ日本語ヲ以テ認メサルモノハ之ニ其譯文ヲ添附スルコトヲ要ス

第十七條　前十六條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社、合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第十八條　外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營マントスルトキハ其營業ノ認可申請書ニ其最終ノ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

第十九條　第四條乃至第六條及ヒ第八條乃至第十三條ノ規定ハ外國會社ノ日本ニ於ケル保險事業ニ付之ヲ準用ス

第二十條　第一條乃至第三條及ヒ第十六條ノ規定ハ外國會社ニ之ヲ準用ス

第二十一條　商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社又ハ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社カ明治三十二年勅令第二百七十二號第一條第一項又ハ第二條第一項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツルコトヲ要ス

第二十二條　第十八條乃至第二十條ノ規定ハ商法施行前ニ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケタル外國會社ニ之ヲ準用ス

附則

第二十三條　本則ハ商法施行法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年農商務省令第五號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（書式略ス）

◉保險業ニ對スル取締

（明治三十一年八月農商務省令第五號）

第一條　保險業ヲ營マントスル者ハ其營業所ヲ設ケヘキ地ノ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ營業ノ許可ヲ申請スヘシ　前項ノ申請書ニハ日論見書、假會社契約（假定款）及ヒ左ニ揭ケタル事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ但日論見書假會社契約（假定款）中ニ記載シアルモノハ此限ニ在ラス

甲　生命保險業ヲ營マントスル者ニ在リテハ

一　純保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎トシタル豫定利率、死亡生殘表及ヒ其死亡生殘表ノ名稱（若シ死亡生殘表ノ名稱治ク知レサル者ナルトキハ死亡表調製ノ原料、方法及ヒ死亡率表竝ニ平均命數表）

二　純保險料、責任準備金及ヒ解約價格ノ算出方式

三　責任準備金資本金及ヒ其他ノ積立金利用ノ方法

四　營業保險料、純保險料及ヒ附加保險料ノ對照表

五　一被保險者ノ生命ニ關シ支拂フヘキ保險金最高額

六　保險契約ノ種類

七　普通保險約款

八　保險契約締結ノ手續

乙　損害保險業ヲ營マントスル者ニ在リテハ

一　保險料ノ計算ニ關スル統計表

二　前號第二、第三、第七及ヒ第八ニ揭ケタル事項

第二條　保險營業ヲ目的トスル株式會社ノ發起人ハ發起認可ノ申請書ト同時ニ營業許可ノ申請書ヲ差出スヘシ

第三條　保險營業者ハ左ノ事項ヲ其都度營業所所在地ノ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ報告スヘシ

一　登記ヲ受ケタルトキハ其事項及ヒ登記ノ年月日

二　第一條第二項ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ其事項及ヒ其變更ノ年月日

三　每事業年度ノ收支一覽表、財產目錄、貸借對照表、事業竝ニ其成果ノ報告書及ヒ支出殘金ノ處分方法

四　商法第六百九十條ノ規定ニ從ヒテ證券ヲ裁判所ニ寄託シタルトキハ其額、裁判所及寄託ノ年月日

五　代辯人ヲ以テ保險契約ヲ取結フトキハ其氏名及ヒ其營業所所在地

第四條　地方長官ハ保險營業者ノ行爲カ法令ニ違反シ又ハ業務ノ安全ヲ闕キ若クハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ速カニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第五條　明治三十一年七月一日前ヨリ保險業ヲ營ム者ハ左ノ事項ヲ詳具シ明治三十一年九月三十日マテニ營業所所在地ノ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ届出ヘシ但株式會社ニアリテハ第一號及第三號ニ揭ケタル事業ハ届出ツルコトヲ要セス

一　登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日
二　第一條第二項甲號乙號ニ定メタル事項及ヒ會社契約（定款）
三　前年度ニ於ケル收支一覽表、貸借對照表及ヒ財產目錄
四　代辯人ノ氏名及ヒ其營業所ノ所在地

◉生命保險會社其他類似ノ業ヲ營ム會社ノ監視ニ關スル件

（明治二十八年一月司法省民刑第三四二號訓令）

生命保險其他類似ノ業ヲ營ム會社ニ關シテハ近來其營業上弊害少ナカラサル趣ニ付キ是等ノ會社ニ對シテハ特ニ其業務ノ實況ヲ監視シ若シ其營業ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スヘキモノト認ムルトキハ速ニ適法ノ處分ヲ裁判所ニ請求スヘシ

◉外國保險會社ニ關スル件

（明治三十二年六月勅令第二百七十三號）

第一條　外國會社カ日本ニ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ムトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムルコトヲ要ス
商法第六十二條ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス
第二條　外國會社ハ其日本ニ於ケル事業ノ本據及ヒ代表者ノ氏名、住所ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス
第三條　外國會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス、
一　定款
二　日本ニ於ケル事業ノ方法書、
三　普通保險約款
四　保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類
五　最終ノ財產目錄、貸借對照表及ヒ損益計算書
六　生命保險ヲ目的トスルモノニ在リテハ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類
第四條　政府カ外國會社ノ營業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ外國會社カ政府ノ命令ニ違反シタルトキハ政府ハ其營業ノ停止又ハ代表者ノ改任ヲ命スルコトヲ得
第五條　外國會社ハ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作リ每ニ遲滯ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ政府ニ差出タルコトヲ要ス
第六條　商法施行法施行前ニ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケタル外國會社ハ商法施行法施行ノ日ヨリ六个月內ニ政府ノ免許ヲ得ルコトヲ要ス
商法施行法第九十五條第二項ノ規定ハ前項ノ外國會社ニ之ヲ準用ス
非訟事件手續法第百二十六條第一項、第百三十四條第一項、第二項及ヒ第百三十五條ノ規定ハ外國會社ノ營業ヲ禁止スル場合ニ之ヲ準用ス
第七條　第一條、第二條、第四條、第五條及ヒ商法施行法第九十八條乃至第百一條ノ規定ハ商法施行法施行前ニ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケタル外國會社ニ之ヲ準用ス
附　則
此勅令ハ商法施行法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉外國保險會社ニ關スル件

（明治三十三年九月勅令第三百八十號）

第一條　外國會社カ日本ニ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ムトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムルコトヲ要ス
商法第六十二條ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス
第二條　外國會社ハ其日本ニ於ケル事業ノ本據及ヒ代表者ノ氏名、住所ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス
第三條　外國會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス、
一　定款
二　日本ニ於ケル事業ノ方法書、
三　普通保險約款
四　保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類
五　最終ノ財產目錄、貸借對照表及ヒ損益計算書
六　生命保險ヲ目的トスルモノニ在リテハ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類
前項第一號乃至第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル書類ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ其效力ヲ生セス
第四條　外國會社カ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ其日本ニ於ケル事業ノ停止若クハ代表者ノ改任ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得
第五條　主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ外國會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得
外國會社カ供託ヲ命セラレタル場合ニ於テハ主務官廳ノ認許シタル有價證券ヲ以テ其金額ニ代フルコトヲ得
第六條　日本ニ於ケル保險契約者、被保險者、保險金額ヲ受取ルヘキ者又ハ外國會社ノ社員ハ供託物ノ上ニ優先權ヲ有ス
第七條　外國相互會社ノ日本ニ於ケル一般ノ債權者ハ社員及ヒ外國ニ於ケル債務者ニ對シ供託物ノ上ニ優先權ヲ有ス
第八條　外國會社ハ每年一回一定ノ時期ニ於テ其日本ニ於ケル事業ノ報告書ヲ作リ之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス
第九條　外國會社ノ本國ニ於テ作リタル財產目錄、貸借對照表、事業報告書及ヒ損益計算書ハ遲滯ナク之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス
第十條　外國會社ノ代表者ハ定款、日本ニ於ケル社員ノ名簿及ヒ前二條ニ掲ケタル書類ヲ日本ニ於ケル事業ノ本據ニ備フルコトヲ要ス
日本ニ於ケル保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ前二條ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險契約ノ定ムル處ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手數料ヲ拂フコトヲ要ス
第十一條　外國會社カ其事業ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リテ優先權ヲ有スル者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供スルニ非サレハ供託物ノ返還ノ請求スルコトヲ得ス
第十二條　主務官廳カ日本ニ支店又ハ事務所ヲ設ケタル外國會社ノ免許ヲ取消シタルトキハ其處分確定ノ後遲滯ナク其旨ヲ支店又ハ事務所ノ所在地ノ登記所ニ通知スルコトヲ要ス
登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ支店又ハ事務所ノ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス
第十三條　外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル
一　本令ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
二　第八條又ハ第九條ニ掲ケタル書類ヲ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
第十四條　外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル
一　保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ
二　生命保險ト損害保險トヲ併セテ營ミタルトキ
三　主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
四　主務官廳ノ檢查ヲ妨ケタルトキ
五　主務官廳ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
六　正當ノ理由ナクシテ本令ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメス又ハ其謄本若クハ抄本ヲ交付セサリシトキ
第十五條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス
第十六條　保險業法第一條、第三條、第四條、第七條、第九條乃至第十一條及ヒ第九十七條ノ規定ハ外國會社ニ之ヲ準用ス
第十七條　商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條乃至第三十八條、第四十條、第四十一條、第二百五十五條乃至第二百五十八條及ヒ保險業法第八十五條、第八十六條、第九十條、第九十一條ノ規定ハ外國相互會社ニ之ヲ準用ス
第十八條　各登記所ニ外國相互保險會社登記簿ヲ備フ
第十九條　外國相互會社カ日本ニ事務所ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ其日本ニ於ケル事業ノ本據及ヒ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且之ニ左ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス
一　代表者タル資格ヲ證スル書面
二　會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面
三　會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

四　日本ニ於ケル社員ノ名簿
五　主務官廳ノ免許書又ハ其認證アル謄本
前項第一號乃至第三號ノ書面ハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受クタルモノナルコトヲ要ス

第二十條　外國相互會社ノ裘代者カ支配人ノ選任ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其日本ニ於ケル事務所設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ且之ニ支配人ノ選任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十一條　非訟事件手續法第百三十九條、第百四十一條乃至第百四十九條、第百五十一條、第百五十四條乃至第百六十五條、第百七十三條第一項、第百七十四條第二項、第二百三條及ヒ第二百四條ノ規定ハ外國相互會社ニ之ヲ準用ス

第二十二條　第一條乃至第六條、第八條乃至第十一條及ヒ第十三條乃至第十六條ノ規定ハ外國人カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ之ヲ準用ス

附　則

第二十三條　本令ハ明治三十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條　本令施行前日本ニ支店、事務所又ハ代理店ヲ設クタル外國人又ハ外國會社ハ其施行ノ日ヨリ六箇月內ニ其日本ニ於ケル事業ノ本據ヲ主務官廳ニ屆出ツルコトヲ要ス

第二十五條　第四條乃至第十五條、第十七條、第二十條、保險業法第一條、第三條、第四條、第九條乃至第十一條、第九十七條及ヒ非訟事件手續法第百七十三條第一項、第百七十四條第二項ノ規定ハ本令施行前ニ日本ニ支店、事務所又ハ代理店ヲ設クタル外國人又ハ外國會社ニ之ヲ準用ス

第八類　刑事

◉刑法（明治十三年七月太政官第三十六號布告）

刑法別冊ノ通改定候條此旨布告候事
但實際施行ノ期日ハ追テ布告スヘキ事（十四年第三十六號布告ヲ以テ十五年一月一日ヨリ實施ノ旨ヲ公布ス）

◉刑法附則（明治十四年十二月太政官第六十七號布告）

刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
右奉　勅旨布告候事

（別冊）

刑法附則
刑法附則目錄
第一章　主刑執行
第二章　監視
第三章　假出獄及ヒ特別監視
第四章　刑事裁判費用
第五章　賠償處分

刑法附則
第一章　主刑執行

第一條　死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立會典獄ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キコトヲ告示シタル後押丁ヲシテ之ヲ決行セシム但其時限ハ午前十時前トス

第二條　死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條　死刑ノ執行ヲ爲シタル時ハ書記其始末書ヲ作リ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條　左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

元　始　祭
孝明天皇祭
紀　元　節
春季皇靈祭
仁孝天皇祭
神武天皇祭
六月大祓
秋季皇靈祭
神嘗祭
天　長　節
後桃園天皇祭
新　嘗　祭
光格天皇祭
十二月大祓

第五條　死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ檢查セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ產後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘシ

第六條　死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ典獄之ヲ許可シ下付スルコトヲ得

第七條　死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルコトヲ得

第八條　死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齡職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告スヘシ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前
犯罪ノ地
犯人住居ノ地

第九條　徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監獄管理長官ヨリ內務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送スヘシ

第十條　徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十一條　流刑ノ囚幽閉中獄內ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許スヘシ

第十二條　流刑ノ囚幽閉ヲ免スヘキ者アル時ハ典獄ヨリ內務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受クヘシ

第十三條　徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者窠臼ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨スヘシ

第十四條　流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ典獄ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條　流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期內ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行スヘシ

第十六條　懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十七條　禁獄輕禁錮ノ囚獄內ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許スヘシ

第十八條　服役限內更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以內ハ工錢ヲ給與セス

第十九條　囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條　罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

第二章　監視

第二十一條　監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條　監視ニ付ス可キ者ハ臨メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送スヘシ（十五年第四十二號布告ヲ以テ全條改正）

第二十三條　犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附スヘシ

第二十四條　（同上布告ヲ以テ削除）

第二十五條　警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到著ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滯シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フヘシ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送スヘシ

第二十六條　犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限間遵守スヘキ條件ヲ諭聞カセ監視ノ票ヲ下付スヘシ

第二十七條　監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一　每月二度所轄ノ警察所ニ到リ其薩慢ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ屆出ツヘシ

二　酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三　事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ケ可シ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス

四　往復一日程ヲ過ク地ニ旅行スルコトヲ許サス

第二十八條　特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアルヘシ

第二十九條　警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送スヘシ

第三十條　他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與スヘシ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數內歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納スヘシ

第三十一條　旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滯シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸著ノ日旅券ニ添ヘ警察署ニ差出スヘシ

第三十二條　監視ニ付スル者住居ヲ改ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸著スル費力ナキ者亦同シ

第三十三條　監獄中ノ別房ニ留置シタル者限內引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸著スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシムヘシ

第三十四條　刑期限內再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ竝ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條　罰金ノ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條　監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ懲改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ共事實ヲ上申シ內務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條　假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フヘシ

第三章　假出獄及ヒ特別監視

第三十八條　假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレンコトヲ內務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受クヘシ

第三十九條　假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付スヘシ

第四十條　假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載スヘシ

一　本人ノ籍貫氏名年齡住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二　殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三　假出獄中ハ特別監視ニ付スヘキ事

四　假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條　（三十一年法律第十一號民法施行法第十四條ヲ以テ削除）

第四十二條　假出獄ヲ許スヘキ者ハ臨メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシムヘシ（十五年第四十二號布告ヲ以テ改正）

第四十三條　特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條　特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一　每週間一度所轄ノ警察所ニ至リ其謹愼ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ屆出ツヘシ

二　酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三　事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受クヘシ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス

四　往復一日程ヲ過ク地ニ旅行スルコトヲ許サス

第四十五條　特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアルヘシ

第四十六條　假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル典獄ニ遞送スヘシ

主刑滿限ノ後監視ニ付スヘキ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從ヲ處分スヘシ

第四十七條　假出獄ヲ許スヘキ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置スヘシ

第四章　刑事裁判費用

第四十八條　審審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與スヘキ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用トス

第四十九條　證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金弐拾錢乃至金五拾錢ノ範圍

內ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス（十六年第三十九號布告及ヒ二十八年法律第三號ヲ以テ改正）

第四十九條乙　醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ日當ハ出頭一度ニ付金三十錢乃至金五圓ノ範圍內ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム

第四十九條丙　證人、醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ旅費ハ海陸路滿一里ニ付キ金五錢乃至金拾錢ノ範圍內ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路開線以上アル時ハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第四十九條丁　證人、醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ止宿料ハ一日ニ付キ金貳拾錢乃至金五拾錢ノ範圍內ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但滿八里以上ノ地ヨリ來リ滯在スル時ニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十條　證人、醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ日當、旅費及止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セス（二十八年法律第三號ヲ以テ改正）

第五十一條　證人日當ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條ニ從ヒ償金ヲ裏求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條　鑑定通辯又ハ翻譯等ニ付キ多數ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スル時ハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得（三十三年法律第二號ヲ以テ改正）

第五十三條　裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章　賠償處分

第五十四條（三十一年法律第十一號ヲ以テ削除）

第五十五條（同上）

第五十六條（同上）

第五十七條（同上）

第五十八條（同上）

第五十九條（同上）

第六十條（同上）

第六十一條　刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條　贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得

第六十三條　贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

◉上訴取下ノ場合ニ於ケル刑期起算方ノ件（明治二十五年十月司法省刑事甲第三五九號訓令）

上訴ノ取下ヲ爲シタルトキハ上訴ノ管轄裁判所ニ於テ其取下ヲ受理シタル日ヨリ刑期ヲ起算ス可シ

但本文ニ牴觸スル從前ノ訓令ハ之ヲ取消ス

◉屋外竊盜罪處分法（明治二十三年十月法律第九十九號）

第一條　家屋其他ノ建造物外ニ於テ犯シタル竊盜ニシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ遂ケタルモ其贓額五圓ニ滿サル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條　田野、山林、川澤、池沼、湖海ニ於テ其產物ヲ竊取セントシ又ハ牧場ニ於テ其獸類ヲ竊取セントシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ竊取シタルモ其贓額五圓ニ滿サル者亦前條ニ同シ

第三條　前二條ニ記載シタル贓額ハ犯罪ノ地及ヒ其時ニ於ケル物價ニ據リ裁判所之ヲ定ム但贓物現存セサルトキハ其市等ノ價格ニ據ルヘシ

◉決鬪罪處分法（明治二十二年十二月法律第三十四號）

第一條　決鬪ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條　決鬪ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條　決鬪ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條　決鬪ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

情ヲ知テ決鬪ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條　決鬪ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

第六條　前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

◉命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件（明治二十三年九月法律第八十四號）

命令ノ條項ニ違犯スル者ハ各其ノ命令ニ規定スル所ニ從ヒ二百圓以內ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

◉省令廳令府縣令警察令ニ關スル罰則ノ件（明治二十三年九月勅令第二百八號）

第一條　各省大臣ハ法律ヲ以テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外其ノ發スル所ノ省令ニ二十五圓以內ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二條　地方長官及警視總監ハ其發スル所ノ命令ニ十圓以內ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

◉公署、公吏竝公署ノ印、文書、免狀鑑札ニ關スル件（明治二十三年十月法律第百號）

刑法中官廳、官署ニ關スル條項ハ公署ニ適用シ官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ適用シ官ノ印、文書及免狀、鑑札ニ關スル條項ハ公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ適用ス

◉陸軍上等卒刑法特ニ官吏ノ爲メニ定メタル罪ヲ犯シタルトキハ官吏ニ準ス（明治十五年八月司法省丁第四十一號達）

今般太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

明治十五年八月十五日　太政官達

陸軍上等卒ニシテ刑法特ニ官吏ノ爲メニ定メタル罪ヲ犯シタル時ハ都テ官吏ニ準シ候儀ト可心得此旨相達候事

◉憲兵卒其職務ニ關スル犯罪處斷方（明治十五年十二月太政官第七十三號布告）

憲兵卒其職務ニ關シ罪ヲ犯シタル時ハ官吏犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

憲兵卒ノ職務ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ官吏ニ對スル犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

◉勳章記章類似標章佩用禁止（明治二十八年八月勅令第百十八號）

勲章又ハ勲命ニ依リ製定セラレタル各種ノ記章ニ類似ノ標章ハ何等ノ形狀ヲ問ハス公然佩用スルコトヲ得ス犯ス者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

外國ノ勲章記章竝ニ日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ因リ變更スルノ限ニアラス

◉資格ナクシテ勲章徽章ヲ擅ニ佩用スル者處分方

（明治二十八年八月勅令第百十八號）

勲章又ハ勲命ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章ニ類似ノ標章ハ何等ノ形狀ヲ問ハス公然佩用スルコトヲ得ス犯ス者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

外國ノ勲章記章竝ニ日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ因リ變更スルノ限ニアラス

◉勲章記章類似標章佩用禁止方心得

（明治二十八年八月内務省訓令第六百三十六號）

今般勅令第百十八號ヲ以テ勲章記章類似標章佩用禁止ノ件發布相成候ニ付テハ概ネ左ノ主旨ニ依リ取扱ハルヘシ尤モ本令ノ施行ニ付テハ犯罪者ノ處罰ヨリ注意ノ製止ヲ主トセラレルヘシ

勲章記章類似標章佩用禁止方心得

第一　勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章トハ首トシテ從軍記章褒章（紅綠藍綬）憲法發布記念章、大婚二十五年祝典三章等ヲ指スモノト知ルヘシ

第二　類似ノ標章トハ地金ノ何タルト圖樣ノ如何トヲ問ハス其章形及綬色ノ勲章記章ニ見紛ハシキモノヲ云フ其要點左ノ如シ

一　綬ヲ以テ章ヲ鉤懸シ勲章記章ノ如キ體裁ヲ爲シ之ヲ肋部又ハ腋下ニ佩用スルモノ

二　無綬ノ章ト雖モ星章ヲ佩フヘキ肋部ニ佩用スルモノ

三　綬ヲ單用スルモノト雖モ其染色形狀勲章記章ノ綬ト類似ノモノ

四　綬ヲ單用スルモノト雖モ其染色形狀勲章記章ノ綬ト類似ノモノヲ公然佩用スルコトヲ得ストハ屋外、公然ノ集會、公然ノ儀式ノ席又ハ公衆群集ノ場所等ニ於テ佩用スルコトヲ得サルヲ云フト知ルヘシ

但協會ノ類ノ會員ニシテ其會員ノミニ限リ屋内又ハ屏障アル場所ニ集會スル場合ニ於テ其會ノ標章ヲ佩用スルモノノ如キハ概ネ公然ノ佩用ニアラサルモノトシテ取扱フヘシ

第四　一見玩具タリ打扮具タルコト分明ナル物ヲ歌舞遊戲又ハ兒女ノ遊戲ニ用ユル場合ハ本令ノ問フ所ニ非スト知ルヘシ

◉帶刀禁止及違犯者處分方

（明治九年三月太政官第三十八號布告）

自今大禮服着用竝ニ軍人及警察官吏等制規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀ヲ被禁候條此旨布告候事

但違犯ノ者ハ其刀ヲ可取上事

◉富籤賣買者等處分方

（明治十五年五月太政官第二十五號布告）

第一條　凡富籤賣買ノ牙保若クハ幇助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上金五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條　凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ讓リ受ケタル者亦同シ

第三條　第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條　富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタルモノニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條　富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條　富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

右奉　勅旨布告候事

◉富籤類似其他射倖ニ關スル件

（明治三十三年五月内務省令第二十六號）

賣買其ノ他ノ取引ニ附隨シテ富籤類似其ノ他射倖ノ方法ヲ用ユルコトヲ提供スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ警視廳府縣長官ハ東京府ニ於テハ警視總監ハ其ノ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其命ニ違背シタル者及情ヲ知リテ之ト取引シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

◉死刑者犯由揭示方

（明治十五年二月司法省達丙第三號）

處刑ノ者犯由揭示ノ儀ニ付明治七年五月當省第九號ヲ以テ相達置候旨モ有之候處今般新刑法實施ニ付テハ明治十四年十二月第六十七號公布刑法附則第八條ニ據リ自今左ノ通改正候條此旨相達候事

一　死刑ノ執行アリタルトキハ重罪裁判所書記ニ於テ左ノ雛形ニ據リ公告案ヲ製シ三日間該廳門前ニ揭示シ且別ニ宣告書ノ謄本ヲ製シ犯罪ノ地竝犯人住居ノ地方（東京ハ警視廳）府縣ヘ速ニ送達スヘシ

警視廳府縣ニ於テハ重罪裁判所書記ヨリ死刑宣告書ノ謄本送達アレハ左ノ雛形ニ據リ犯罪ノ地竝犯人住居ノ地何レモ三日間通衢ニ榜示公告スヘシ

死刑宣告榜示公告雛形

重罪裁判所門前榜示

川紙堅質ノ品ヲ擇用ス

宣告書全文ヲ揭ク	

犯人ノ地又ハ犯人住居ノ地榜示

宣告書全文ヲ揭ク	
右之通宣告相成候ニ付公告スルモノ也	警視總監名 又ハ府縣長官名

◉刑死者ノ墓標、祭祀等ニ關スル件

（明治二十四年七月内務省令第十一號）

第一條　刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍年齡、生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記入スルコトヲ得ス

其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス

異樣ノ記標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス

第二條　所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニ在ラス

第三條　刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第四條　前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五條　犯罪ニ關シ現ニ捜査、起訴、勾留、服刑中ノ者若シクハ捜査、起訴、勾留、服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官（東京府ハ警視總監）ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲クル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

◉監視假出獄上申方

（明治十七年七月內務司法兩省達乙第三十二號）

刑法附則ニ從ヒ監視假免ノ警察署假出獄ノ典獄ヨリ其事實ヲ具シ直ニ上申致來候處自今其所屬長官ヲ經由スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

◉刑法附則ニ從ヒ典獄假出獄、警察官ヨリ監視假免上申方

（明治三十一年一月監甲第二號通牒）

刑法附則ニ從ヒ典獄ヨリ假出獄警察官ヨリ監視假免ヲ上申スルニ方リテハ其所屬長官ヲ經由スヘキ成規ニ付從來進達書ヲ添付シテ御差出相成候處定例ノモノニ付其經由ノ證トシテ該上申書ニ檢印スルニ止メ自今進達書ヲ添付スルヲ要セサルコトニ決定相成候條依命此段及通牒候也

◉假出獄上申書差出方ノ件

（明治二十九年一月警獄發第四號通牒）

數囚同時ニ假出獄御上申ノ場合ニ於テ從前進名ヲ以テ上申相成候向モ有之候處者シ其內一名ニ對シ照會往復ヲ要スルモノ有之節ハ之カ爲メ他ノ認可スヘキモノモ空シク遷延致シ候儀モ不勘候條右等ノ場合ニ於テハ關今貴官ノ進達書及典獄ノ上申書等總テ一名毎ニ御添付相成候樣致度此段及通牒候也

◉假出獄、監視事務所屬ニ關スル件

（明治三十三年六月監甲第一〇號通牒）

假出獄ニ關スル事項ハ從來刑法附則第三十八條ノ明文ヲ以テ內務司法兩大臣ノ權限ニ屬セラレ候處來七月一日ヨリ監獄事務ノ主管ヲ司法大臣ニ移サレタルニ就テハ同日以後ハ當然事ヲ司法大臣ノ權限ニ屬スルモノト御了知相成度又監視假免ニ關スル事項ハ依然內務司法兩大臣ノ權限ニ屬シ候ヘ共其事務ハ官制上監獄局ノ取扱ニ屬スルニ付來ル七月一日以後監視假免ニ關スル文書ハ司法省ヘ御差出相成度此段依命及通牒候也

◉假出獄申渡書式

（明治十五年四月內務省番外達）

已決ノ囚ニ假出獄ヲ許ストキハ別紙書式ニ倣ヒ宣告狀附與スヘシ此旨相達候事

（別紙）

假出獄宣告狀

某管下國郡町村番地某子弟要女

族籍

何　某

某年　月　日生

明治何年何月何年何ヶ月

北方儀明治何年月日某裁判所ニ於テ何刑若干期ノ言渡ヲ受ケ來ル明治何年月日ニ至ラハ滿期ノ處其受刑以來能ク獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀相顯ハレ本刑刑期ヨリ已ニ四分ノ三ヲ經過スル由テ其ノ筋ノ允許ヲ受ケ假出獄差許候事

某集治監
某監獄署　典獄　何　某印

年　月　日

◉假出獄ノ考據ニ關スル件

（明治十八年六月內務省監獄局長通牒）

假出獄ノ考據トスヘキ舊表ハ舊刑法ニ依リテ處刑セラレタル者ハ勿論內規第五條新刑法ニ依テ處刑セラレタル者ハ同內規第二條ニ依リテ之ヲ付與スヘキ例ナルニ或ハ新刑法受刑者ニ貸表數個ヲ一併ニ付與シ或ハ新舊刑法受刑者ニ例揚ノ期ニ從ヒ貸表ヲ與ヘテ假出獄ノ詮議ス可キ筈之處其不足ノ儘ニテ上申相成候向モ無之トセス自然其事ノアルトキハ夫レカ爲メ特ニ照會ヲ要シ日數ヲ費シ候間右樣ノ儀無之樣厭メ御注意相成度因テ此段爲念申進候也

追テ據表セラレタル者ヲ假出獄アランコトヲ申寘アルトキハ特ニ勿論時限ノ行狀ヲ詳細御記載相成度候也

◉假出獄停止手續

（明治十八年九月內務卿連署司法省達丙第七號）

假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ左ノ手續ニ依リ處分スヘシ此旨相達候事

假出獄停止申渡書式

府縣族籍	
刑名	何
刑期	某
	年齡

其方儀受刑以來獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀著明ナルニ由リ何年　月　日假出獄ヲ許シ其出獄ヲ停止シ證票取上候事

年　月　日　　某集治監
某監獄署　典獄　何　某印

◉輕禁錮囚假出獄ノ件

（明治二十年十一月司法省刑事局長通牒）

罰金ヨリ換ヘタル輕禁錮囚假出獄ノ儀ニ付今般別紙ノ通改メテ京都府ヘ內訓相成候條爲御心得此段長官ノ命ニヨリ及御通牒候也

（別紙）

京都府知事　北垣國道

明治十八年三月十一日付伺ニ對スル指令ノ之ヲ取消シ更ニ左ノ通心得ヘシ

刑法第五十三條重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者假ニ出獄ヲ許ス云云トアルハ罰金ヨリ換ヘタル輕禁錮ヲ包含セサルモノトス

右訓令ス

◉假出獄刑期計算方

（明治二十三年三月内務省警保局長通牒）

假出獄上申ニ係ル囚徒ノ刑期四分ノ三計算方區々ニ渉リ訂正等ノ手數ノ爲メ時日遷延候ニ付以來別紙算出例ニ依リ調査相成候樣致度此段及御通牒候也

（別紙）

刑期四分ノ三算出例

一　刑期ノ暦ニ依ルモノハ暦ニ從ヒ左ノ如ク計算スルモノトス

例　明治二十一年　此ノ四分ノ三　四年六箇月

刑期六年一月五日實告　刑期四分ノ一

自明治二十一年一月五日　同　二十二年七月四日

至同　二十二年七月五日　刑期四分ノ二

自同　二十四年一月五日　刑期四分ノ三

至同　二十四年七月四日

自同　二十五年七月五日　滿期

至同　二十七年一月四日

其刑期年ト月トニ跨リ則チ何年何月ト科セラレタルモノニアリテハ宣告ヨリ滿期マデ現日數ニ直シ之ヲ四分シテ以テ其三ヲ見ルモノトス但シ此四分ノ三ヲ見ルニ當リ日數ノ都合ニ依リ除シ得サル端ノ時間一日ヲ生スルトキハ四分ノ三中ヘ併算スルモノトス

◉假出獄證票

（明治二十六年十二月内務省訓令第二十九號）

明治二十二年七月警察訓令第三十三號ノ相廢シ名稱原籍因人身分帳在監人名目錄放免歷簿出監證死亡帳假出獄證票別冊ノ通相定ム（身分帳ハ十三號ニ移ス）

（別冊）

假出獄證票

身分　何　某

名籍原籍ノ樣本ニ倣ヒ詳記スヘシ

身材　同上

容貌

罪質

刑名

附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受ケ何年月日ヨリ執行何年月日滿期殘期何年月日間假出獄ヲ許ス

此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ何年月日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ノ警察署ニ約手何日迄ニ到著シテ此證書ノ檢印ヲ受ケタル上住宅ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事

一　此者ハ本刑期限内特別監視ニ付セラレタル事

一　此者假出獄更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルトキハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル事

一　此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滯留スルトキハ滯留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住スヘキ地ノ警察署ニ到著ノ上之ヲ差出スヘキ旨申渡シタル事

左之通心得サセ假出獄ノ證票ヲ與フル者也

年　月　日　　典獄　某　　印

◉監視期限計算方ノ件

（明治二十一年六月司法省刑第七二九號内訓）

監視期限計算方ノ儀ハ刑法第四十條ニ依リ主刑ノ終リタル日ヨリ起算シ刑法附則第三十四條ノ特例ヲ除クノ外ハ如何ナル場合ニ於テモ其期限ノ經過スヘキモノトス依テ左ノ場合ノ如キハ監視期限ニ算入ス可キ儀ト心得ヘシ但本文ニ抵觸スル從前ノ指令内訓ハ總テ取消ス

一　被監視者他ノ犯罪ノ爲メ未決勾留セラレタル日數
但此場合ニ於テハ後犯ノ裁判確定前日迄ノ日數ヲ算入ス

二　監視規則違犯中及ヒ監視期限間逃走中ノ日數

三　賭博犯ノ懲罰中及ヒ密賣淫犯ノ懲戒中ノ日數

◉假出獄上申添付書類ノ件

（明治二十七年十二月警保局令第六七號通牒）

假出獄ヲ裏申スルニハ慥ト注意ヲ加ヘ其囚人ニ對スル入監前ノ生活職業親屬ノ有樣犯罪ノ性質及入監中ノ行狀悔悛ノ顯著從業ノ熟遂等ヲ稽察シ尚出監後自活ノ方法及引取人ノ身元等ヲ調査スルハ當然ノ儀ニ候處其上申ノ際ハ是等書類ノ添付ナク單ニ宣告書執行指揮書及行狀錄ノ援拳ヲノミ添付セラルル向往往有之右ハ必竟刑法附則第三十八條ノ規定ニ依ラレタル儀ニ候得共調査上差支ヲ生シ往往復照會ヲ要スル爲メニ允許ノ遷延ニ渉ルノ嫌モ有之候條爾今ハ宣告書執行指揮書ノ外身分帳中ノ身上票、視察表、賞罰表、罰金表、行狀表、ノ謄寫且警察署等ニ對シ引取人ノ身元本犯ノ財産等ノ探偵ヲ爲サシメタル書類ノ寫ヲ添付相成候樣致度爲御心得此段及御通牒候也

◉被監視者引取人取調方

（明治十七年六月内務省乾達第二四八號訓示）

監視ニ付スヘキ者ノ住居地又ハ引取人等ハ本人ノ申立ニ據ルト雖モ其申立相違或ハ詐欺ニ出ルモノ往往有之執行上差支不少趣就テハ申立疑ハシキト認ムルニ於テハ典獄ヨリ該地戸長ニ照會シ主刑滿期ノ時其回答書ヲ添ヘ證迹セシノ候樣可取計此旨訓示候事

◉監視執行地取調方

（明治二十七年九月内務省訓第六六號）

監視ニ附スヘキ者ノ住居地ニ送致中逃走シタル時逮捕ノ儀ニ付別紙ノ通リ警視總監ヨリ上申候條右ハ監視ヲ執行スヘキ地ノ官署ニ於テ逮捕ノ處分ニ及フヘキ儀ト心得ヘシ

但被告人ノ申立タル地ニ住居ナキ者ハ送致ヲ爲シタル地ノ官署ニ於テ

◉被監視人旅行中監視票ニ認印ノ件

（明治十七年三月内務省達乙第十九號）

監視ニ付セラレタル者他ノ地方ニ旅行スルトキハ必ス監視票ヲ攜帶セシメ其滯留數日ニ渉ルモノハ滯留地ノ警察署ニ到リ謹愼テ表示官吏ノ認印ヲ受ケシム可シ此旨相達候事

但官吏ノ認印ハ監視票ノ裏面旅行中欄内ニ捺印スヘシ

◉逃走監視者逮捕方

（明治十六年二月司法省内訓）

監視ニ付セラレタル者住居ノ地ニ送致中逃走シタル時逮捕ノ儀ニ付別紙ノ通リ警視總監ヨリ上申候條右ハ監視ヲ執行スヘキ地ノ官署ニ於テ逮捕ノ處分ニ及フヘキ儀ト心得ヘシ

但被告人ノ申立タル地ニ住居ナキ者ハ送致ヲ爲シタル地ノ官署ニ於テ

右處分ヲ爲スヘキ者トス此旨及內訓候也

（別紙）

監視ニ付セラルヘキ者送致途中逃亡之際治罪手續之儀上申

刑法附則第二十五條ニ依リ監視ニ附セラル可キ者ハ旅券ヲ附與シ送致途中本人逃亡セシ場合ニ於テハ現ニ監視ノ執行ヲ爲スヘキ地ノ警察署ニ於テ治罪ノ手續爲致置候得共他府縣ニテハ其取扱區々ニシテ實際差支ヲ生シ候條一定ノ取扱ニ相成候樣至急御訓示相成度此段上申候也

◉被監視人護送費用ノ件

（明治十五年六月內務省訓示乾第甲第一八九號）

凡ソ監視ニ付セラレシ犯人ノ住所還地ニ在テ一日程ヲ過クル者典獄若クハ檢察官ヨリ最近ノ警察署ヘ護送シ來ルトキハ刑法附則第二十五條ノ手續ニ依ル可キ處中ニハ警察官逃ヲ以テ送付スル向モ有ノ儘ニ相聞ヘ右ハ刑法附則ノ成文ニ背キ且費用ニモ差響キ候儀ニ付右等ノ儀無之樣可致爲念此旨訓示候也

◉旅行中特別監視ニ係ル掲載方

（明治十五年五月內務省達乙第三十一號）

本年當省乙第十九號達刑法附則第二十二條ニ因リ附與スル旅券第四項ノ但書ハ特別監視ニ附セラレタル者ニ限リ挿入シ尋常監視ニ附セラレタル者ニ挿入セス及ヒ監視票竝ニ旅行券ニ警察署トアルハ警察分署ヲモ含包セル儀ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

◉監視票旅券書式

（明治十五年三月內務省達乙第十九號）

刑法附則中監視票旅券共別紙書式ノ通相定候條各廳ニ於テ調製シ下附スヘシ此旨相達候事

監視票

但紙質堅緻ナルモノヲ用ユヘシ

表

	何府縣何郡何町何番地住又ハ寄留何某
刑名刑期	何年何月何日宣告　何年何月何日滿期　族籍
監視	何年何月何日起　何年何月何日滿　何　某
罪質犯數	明治何年何月生　何年何月何年何月

監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一每月二度所轄ノ警察署ニ到リ謹愼ナルコトヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ

但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルコト能サルトキハ其事由ヲ屆出ヘシ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三事故アリテ其住居ヲ轉移セントスルトキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

四擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムコトヲ得サル事故アルトキハ其事由ヲ警察署ニ具申シ許可ヲ受クヘシ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此票ヲ下付スル者ナリ

東京ニテハ　何警察署　警察使　何　某　印

署　明治何年何月何日

府縣ニテハ　何府縣何警察署　警部　何　某　印

裏

認印表

（明治十六年三月乙第十號ヲ以テ裏面認印表改正ス）

旅券

何府縣何區何町何番地住又ハ寄留何某

何郡何村何番地住　子弟妻女同居

刑名刑期	何年何月何日宣告　何年何月何日滿期　族籍
監視	何年何月何日起　何年何月何日滿　何　某
罪質犯數	明治何年何月何日生　何年何月何年何月

一此者何府縣何區郡何町村某方ヘ旅行スルコトヲ許可ス

一何年何月何日本地ヲ發途ス

一先方ノ地若シ途中滯在スル二滯在スル日數何日間トス

一何年何月何日歸宅スルモノトス

先方ノ地若シ途中滯在スルニ到レハ此旅券ヲ直ニ其ノ地ノ警察署ニ出シテ官吏ノ認印ヲ受クヘキ事

旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムコトヲ得スシテ滯滯シタル時ハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ證書ヲ請ヒ歸著シタルトキ若クハ先方ノ地ニ到レハ此旅券ニ添ヘ速ニ之ヲ其警察署ニ示スヘキ事

歸著シタルトキハ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事

右刑法附則第三十條ニ依リ下付スル者也

東京ニテハ　何警察署　警察使　何　某　印

署　明治何年何月何日

府縣ニテハ　何府縣何警察署　警部　何　某　印

裏

認印表

某警察署	何年何月何日ヨリ何年

右處分ヲ爲スヘキ者トス此旨及內訓候也

（別紙）

監視ニ付セラルヘキ者送致途中逃亡之際治罪手續之儀上申

刑法附則第二十五條ニ依リ監視ニ附セラル可キ者ノ旅券ヲ附與シ送致途中本人逃亡セシ場合ニ於テハ現ニ監視ノ執行ヲ爲スヘキ地ノ警察署ニ於テ治罪ノ手續爲致候得共他府縣ニテハ其取扱區々ニシテ實際差支ヲ生シ候條一定ノ取扱ニ相成候樣至急御訓示相成度此段上申候也

◉被監視人護送費用ノ件

（明治十五年六月內務省訓示乾醫甲第一八九號）

凡ソ監視ニ付セラレシ犯人ノ住所違地ニ在テ一日程ヲ過クル者典獄若クハ檢察官ヨリ最近ノ警察署ヘ護送シ來ルトキハ刑法附則第二十五條ノ手續ニ依ル可キ處中ニハ警察部邊ヲ以テ送付スル向モ有之哉ニ相聞ヘ右ハ刑法附則ノ成文ニ背キ且費用ニモ差響キ候儀ニ付右等ノ儀無之樣可致爲念此旨訓示候也

◉旅行中特別監視ニ係ル揭載方

（明治十五年五月內務省達乙第三十一號）

本年當省乙第十九號達刑法附則第二十二條ニ因リ附與スル旅券第四項ノ但書ハ特別監視ニ附セラレタル者ニ限リ挿入シ尊常監視ニ附セラレタル者ニ挿入セス及ヒ監視票逆ニ旅行券ニ警察署トアルハ警察分署ヲモ含包セル儀ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

◉監視票旅券書式

（明治十五年三月內務省達乙第十九號）

刑法附則中監視票旅券共別紙書式ノ通相定候條各縣ニ於テ調製シ下附スヘシ此旨相達候事

表

監視票

何府縣何區何町何番地住又ハ寄留何某
何郡何村子弟妻女同居

刑名刑期　何年何月何日宣告　何年何月何日滿期　族籍

監視　何年何月何日起　何年何月何日滿　何　某　何年何月生

罪質犯數　明治何年何月何年何月

監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一每月二度所轄ノ警察署ニ到リ擧慥ナルコトヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ

但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルコト能サルトキハ其事由ヲ屆出ヘシ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三事故アリテ其住居ヲ轉移セントスルトキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

四擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムコトヲ得サル事故アルトキハ其事由ヲ警察署ニ具申シ許可ヲ受クヘシ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此票ヲ下付スル者ナリ

東京ニテハ　何警察署　警察使　何　某

署　何年何月何日　府縣ニテハ　何府縣何警察署　警部何　某印

裏

認印表

面

旅券

何府縣何區何町何番地住又ハ寄留何某
何郡何村子弟妻女同居

族籍　何　某

何年何月生

明治何年何月何年何ケ月

一此者何府縣何區何町何番地住又ハ寄留何某

一何年何月何日本地ヲ發途ス

一先方ノ地ニ滯在スル日數何日間トス

一何年何月何日歸宅スルモノトス

一若シ途中滯在スルニ到レハ此旅券ヲ直ニ其ノ地ノ警察署ニ出シテ官吏ノ認印ヲ受クヘキ事

旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムコトヲ得スシテ淹滯シタル時ハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ證書ヲ請ヒ歸著シタルトキ若クハ先方ノ地ニ到レハ此旅券ニ添ヘ速ニ之ヲ其警察署ニ示スヘキ事

歸著シタルトキハ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事

右刑法附則第三十條ニ依リ下付スル者也

東京ニテハ　何警察署　警察使　何　某印

署　明治何年何月何日　府縣ニテハ　何府縣何警察署　警部何　某印

裏

認印表

某警察署何年何月何日ヨリ何年	、、、、、、、、
	、、、、、、、、
	、、、、、、、、

面

旅券

何府縣何區何町何番地住又ハ寄留何某
何郡何村子弟妻女同居

族籍　何　某

何年何月生

明治何年何月何年何ケ月

一此者何府縣何區何町何番地住又ハ寄留何某

一何年何月何日本地ヲ發途ス

一先方ノ地ニ滯在スル日數何日間トス

一何年何月何日歸宅スルモノトス

一若シ途中滯在スルニ到レハ此旅券ヲ直ニ其ノ地ノ警察署ニ出シテ官吏ノ認印ヲ受クヘキ事

旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムコトヲ得スシテ淹滯シタル時ハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ證書ヲ請ヒ歸著シタルトキ若クハ先方ノ地ニ到レハ此旅券ニ添ヘ速ニ之ヲ其警察署ニ示スヘキ事

歸著シタルトキハ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事

右刑法附則第三十條ニ依リ下付スル者也

東京ニテハ　何警察署　警察使　何　某印

署　明治何年何月何日　府縣ニテハ　何府縣何警察署　警部何　某印

裏

認印表

何月何日マテ何府縣何區何町何番地何某方ニ滯在ス印	、、、、、、、、
	、、、、、、、、
	、、、、、、、、
	、、、、、、、、
	、、、、、、、、
	、、、、、、、、
	、、、、、、、、
	、、、、、、、、

（明治十六年三月乙第十號ヲ以テ裏面認印表改正ス）

表

特別監視票

一　特別監視ノ期間ハ左ノ條件ヲ以テ何年何月何日ヨリ何年何月何日迄ノ間トス

二　被監視人ハ住所ヲ移シ又ハ旅行ヲ為サントスルトキハ警察署ニ到リ其許可ヲ受クヘシ

三　事由アリテ警察署ニ到ルコト能ハサルトキハ其事由ヲ具シ代人ヲシテ出頭セシムヘシ

附加監視何年何月何日迄

刑名	刑期	罰金	監視ノ始期	監視ノ終期
	何年何月	何圓	何年何月何日	何年何月何日

住所	族称	戸主ノ氏名	戸主トノ続柄	出生地	出生年月日	職業
何村何番地						
何郡何町何番地	何族	何某	妻	何県何郡何村	明治何年何月何日	農
何郡何町何番地	何族	何某	子	何県何郡何村	明治何年何月何日	学生

面

明治　何年　何月　何日

何署印

右刑法第十一條第二十六條ニ因リ申請ノ旨ヲ此票ヲ以テ受ケヘキ者ナリ

東京ニテハ何警察署

何警察署

何警察官

何警察官

何部何課

何　某　㊞

（注意）

一　酒類ノ飲ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ得サル事項ヲ受ケヘキ者ハ左ノ一項ヲ削除スヘシ

二　自己ノ刑ノ執行ニ關シ他ノ府県ニ轉移セントスルトキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

三　事由アリテ住居ヲ轉移シ又ハ旅行ヲ為サントスルトキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

四　住所ニ於テ一日ヲ超エテ滞在セントスルトキハ警察官吏ニ届出ツヘシ

五　假出獄ノ期間ハ刑ノ執行ニ算入セス

六　假出獄ノ期間中ハ第二十六條ニ從ヒ警察署ニ於テ許サレタル場合ヲ除クノ外住居ヲ轉移シ又ハ旅行ヲ為スコトヲ得ス

七　假出獄ノ期間中ハ第二十六條ニ從ヒ警察署ニ於テ許サレタル場合ヲ除クノ外住居ヲ轉移シ又ハ旅行ヲ為スコトヲ得ス

八　假出獄ノ期間中ハ第二十六條ニ從ヒ警察署ニ於テ許サレタル場合ヲ除クノ外住居ヲ轉移シ又ハ旅行ヲ為スコトヲ得ス

九　假出獄ノ期間中ハ第二十六條ニ從ヒ警察署ニ於テ許サレタル場合ヲ除クノ外住居ヲ轉移シ又ハ旅行ヲ為スコトヲ得ス

十　假出獄ノ期間中ハ第二十六條ニ從ヒ警察署ニ於テ許サレタル場合ヲ除クノ外住居ヲ轉移シ又ハ旅行ヲ為スコトヲ得ス

十一　假出獄ノ期間中ハ第二十六條ニ從ヒ警察署ニ於テ許サレタル場合ヲ除クノ外住居ヲ轉移シ又ハ旅行ヲ為スコトヲ得ス

十二　假出獄ノ期間中ハ第二十六條ニ從ヒ警察署ニ於テ許サレタル場合ヲ除クノ外住居ヲ轉移シ又ハ旅行ヲ為スコトヲ得ス

（裏面ニ特別監視票表面雛形ヲ印刷ス）

特別監視票表面雛形

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
認印												

初年		二年		三年		四年		五年	
十五日以前	十六日以後	十五日以前	十六日以後	十五日以前	十六日以後	十五日以前	十六日以後	十五日以前	十六日以後
㊀出頭ノ日ヨリ何日以内	疾病ニ付不出頭	旅行中							

	八月	九月	十月	十一月	十二月

刑事訴訟法

◉刑事訴訟法（明治二十三年法律第九十六號）

（明治三十二年三月法律第七十三號ニテ中改正）

本文時之

此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行シ其日ヨリ治罪法ヲ廢止ス

◉皇室ニ對スル罪申出ノ件

（明治十六年一月司法省第百五十七號達）

刑法第二編第一章ニ記載セル重罪輕罪ヲ犯スヘキ者ハ有之間敷筈ニ候得共萬一之ニ於テハ不容易儀ニ候條右等ノ事件ニ關シ告訴告發アリタル時ハ速ニ當省ヘ申出スヘシ此旨相達候事

◉同罪ニ付告訴告發アリタルトキ申出方ニ付注意

（明治十六年一月司法省第一五八號通達）

刑法第二編第一章ニ記載セル重罪輕罪ヲ犯セシ者有之節ハ速ニ當省ヘ御開申可有之旨今般御遵相成候付テハ其時時當省ヨリ指令ノ上處分可相成儀ト御了知可有之此段長官ノ命ニ據リ申進候也

◉普通治罪法、陸海軍治罪法交涉處分法（明治十八年五月太政官第十二號布告）

普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交涉ノ件處分法左ノ通制定ス但從前ノ成規中本則ニ牴觸スルモノハ當分施行セス（二十三年法律第九十六號ヲ以テ刑事訴訟法ヲ發布シ普通治罪法廢止）

第一條　常人ニシテ陸軍刑法若クハ海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ普通裁判所ニ於テ之ヲ審判ス但刑ノ執行ハ普通ノ規則ニ從フ

第二條　軍人常人共ニ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ軍人ハ軍法會議ノ判決ニ付シ常人ハ普通裁判所ノ公判ニ付ス軍衙ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ常人ハ審問ノ上證據書類ト共ニ之ヲ管轄ノ普通裁判所檢事ニ送致シ普通裁判所ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ軍人ハ審問ノ上證據書類ト共ニ之ヲ被告人ノ所屬長官若ハ陸海軍檢察官ニ送致スヘシ

第三條　敵前軍中臨戰合圍ノ地若クハ海軍諸艦ニ供スル船舶ニ在テ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ常人ト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得但戒嚴令第十一條第十二條ニ揭クルモノハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スヘシ

第四條　軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ付テハ軍法會議又ハ普通裁判所ノ管渡ニ對シ普通治罪法ニ定メタル手續ニ從ヒ大審院ニ上告スルコトヲ得但軍法會議ノ管渡ニ對シ上告スルハ被告人ニ限ルヘシ

第五條　多衆ノ軍人常人團結殺傷其他疑獄ニ係ル罪ヲ犯シタルトキハ軍

官法司會同審問スルコトヲ得

第六條　軍法會議ト普通裁判所トヲ問ハス既ニ確定シタル裁判ノ效力ハ互ニ之ヲ侵スコトヲ得ス

◉軍法會議ノ言渡ニ對シ上告ノ時取扱方（明治十八年十月海丙達第五十七號）

海軍一般

本年第十二號布告第四條ニ依リ軍法會議ノ言渡ニ對シ上告スルトキハ主理北鎭明書ヲ作リ訴訟書類ヲ添ヘ所管長官ヲ經テ大審院ニ送致スル筈ト可心得此旨相達候事

◉管轄ヲ即定シ難キ事件取扱方（明治二十三年九月司法省刑甲第一八七號訓令）

裁判所構成法第十六條第三號ニ刑法第二編第一章ヲ除キ其他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情第二ニ揭クタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局ヨリ區裁判所檢事ニ移付シタルモノト有之今此法文ニ拘泥シテ解釋スルトキハ區裁判所檢事右等ノ犯罪ヲ發見スルモ直ニ其裁判所ニ起訴スルコトヲ得ス一々北事件ヲ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局ニ送付シ其移付ヲ待タサルヲ得サルカ如シ果テ然ラハ徒ニ手數ト費用トヲ要シ訴訟遲滯スルノミナラス勾留ヲ受クタル被告人ノ如キハ速ニ護送セラルヽニ至リ官民共ニ不便ヲ極ムルヤ必然ナリ茲ニ立法ノ旨趣ハ輕罪中ノ輕キモノハ官民雙方ノ便宜ノ爲メ捜査ノ地ニ於テ裁判シ其落着ヲ速カナラシメントスルニ在リ左レハ犯人普通ノ感情ニ於テ同條第二號ニ揭クタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルヲ要セスト認ムル犯罪例ヘハ山林田野ニ於ケル窃盜ニシテ其贓額寡少ナルモノ又ハ知人爭論ノ末毆打シテ傷々ノ日數間疾病休業ニ至ラシメタルモノヽ類ニシテ加重ノ情狀ナキ犯罪ハ地方裁判所若ハ其支部ノ檢事ヨリ豫メ其種類ヲ指定シテ區裁判所檢事ニ處分ヲ委託シ置キ以テ每件移付ノ爲メニ要スル往復ノ繁ヲ省ク樣取斗フヘシ但區裁判所檢事ニ於テ事件ノ模樣ニ依リ二月以上ノ禁錮又ハ百圓以上ノ罰金ニ處スルコトヲ要スルト認ムルモノハ地方裁判所若ハ其支部ノ檢事ニ送付スヘキト勿論ナリトス

◉幼者ノ裁判管轄ノ件

（明治二十四年四月司法省總務局長通牒記甲第一一九四號通達）

刑法第三百六十六條等ノ犯罪ニシテ其幼者ナルトキハ減シテ二年以下ノ禁錮ニ該ルモ其管轄ハ仍ホ地方裁判所若ハ其支部ニ屬スヘキ筋ニ有之然ルヲ往々區裁判所ニ於テ處斷スル向有之趣右等不都合ノ儀無之樣注意相成度爲念此段及通達候也

◉常人ノ犯罪取扱等ニ關スル訓示（明治三十二年十月官房第四三二七號達）

海軍官憲ハ法令ニ規定セル特別ノ場合ヲ除キテハ一般常人ニ對シ司法權若ハ警察權ヲ行使スル機關ニアラサルヲ以テ軍機保護法、要塞地帶法、軍港要港規則等專ラ軍事上ノ目的ノ爲メニ制定セラレタル法規ト雖モ其之ヲ常人ノ犯シタル場合ニ於テハ刑事訴訟法ノ規定ニ依據シ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ之ヲ地方ノ檢事若ハ司法警察官ニ告發シ又現行犯者ヲ逮捕シタルトキハ之ヲ地方ノ司法警察官若ハ巡査憲兵ニ引渡ス等法定ノ手續ヲナシ其處分ニ委スヘキモノニシテ法令ニ特別ノ規定アル場合ノ外自ラ常人タル嫌疑者ヲ拘留引致シ若ハ犯罪捜索檢案ヲ爲ス等荷モ人ノ自由、財產ヲ侵害スル如キ行爲ハ之ヲ爲スヲ得ス又改訂條約實施外人內地雜居ノ今日ニ於テハ外人ナリトテ法令若ハ條約ニ規定アル場合ノ外特殊ノ取扱ヲ爲スヲ得サル儀ニ有之候條爲心得此旨相達候事

得此旨相通ス

◉大林區署職員中技師モ裁判所構成法及刑事訴訟法中ノ以謂林務官ナル概稱中ニ包含スルノ件

（明治二十五年十月司法省參刑甲第三六二號通牒）

大林區署職員中技師モ裁判所構成法第十八條竝刑事訴訟法第四十七條ノ林務官ナル概稱中ニ包含スル儀ニ付キ別紙甲號之通農商務大臣ヨリ照會有之乙號之通當省大臣ヨリ回答相成候條爲御心得此段及通牒候也

（別紙甲號）（明治二十五年九月農商務大臣ヨリ司法大臣宛）

去ル二十三年五月中法律第六號裁判構成法第十八條竝裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ニ關スル之儀ニ付山林局長ヨリ貴省書記官及照會候處同年五月文第三九五號ヲ以テ貴省文書課長ヨリ一般林務ニ從事スルモノノ概稱ニシテ單ニ林務官ノミヲ指稱シタルモノニ無之旨回答ノ趣モ有之然ルニ客年七月勅令第百四十四號ヲ以テ大小林區署官制改正相成大林區署職員中ニ技師ヲ置カレ候得共右官制第四條ニ依レハ是又均シク林務ニ從事スル官吏ニシテ其職務上他ノ農林官ト異ナル點無之候得ハ右技師モ構成法第十八條竝刑事訴訟法第四十七條ノ林務官ナル概稱中ニ包含スルモノト見解致シ候處別段御意見無之候ニ於テハ此段及御照會候也

（別紙乙號）（明治二十五年十月司法大臣ヨリ農商務大臣宛）

本年九月二十三日付庚第九七號ヲ以テ大林區署職員中技師ハ裁判所構成法第十八條竝刑事訴訟法第四十七條ノ林務官ナル概稱中ニ包含スル儀ニ付キ御照會ノ趣御見解相成ル儀ニ付キ御照會ノ趣御見解ノ通ニテ別段異存無之候此段及回答候也

◉證人呼出ニ關スル件

（明治十八年二月司法省訓示）

刑事ノ控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ證人等ノ訊問ヲ要スル時ハ可成證人等所在地ノ裁判所ニ嘱託シ事情已ムヲ得サル場合ニ限リ呼出シ條樣致スヘキ可シ此旨及内訓候事

◉刑事控訴手續心得

（明治十八年三月司法省訓示）

第一條　公訴ト私訴トヲ問ハス輕罪裁判所ノ始審ノ言渡ニ對シ控訴ヲ爲サントスル者ハ治罪法ニ定メタル期限内ニ同第三百三十九條ニ從ヒ控訴ヲ受クヘキ裁判所長宛ニテ其申立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出サシム可シ

（説明）刑事裁判所ニ爲シタル私訴ハ其控訴ノ期限及ヒ手續等總テ治罪法ニ從フ故ニ本年第二號布告第一條第二條第五條ノ如キハ私訴ノ控訴ニ付テモ亦之ヲ適用ス可キ者トス

控訴ノ期限ハ治罪法第三百六十六條ニ從フ可キハ勿論ナリト雖モ開廷裁判ニ依リ罰金以下ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人及ヒ私訴ノ裁判ニ關席シタル者（禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ除ク）故障ヲ爲サスシテ直ニ控訴ヲ爲サントスルトキハ同法第三百三十九條ニ從ヒ言渡書ノ送達アリタル日内ニ其申立ヲ爲ス可キモノトス

又控訴ハ申立書ヲ以テ受理ノ條件ト爲ス可キニ因リ控訴ヲ受ク可キ裁判所長宛ニテ之ヲ差出ス可キモノトス

控訴ノ申立書ニハ成可ク控訴ノ趣意ヲ記載シ就中治罪法第三百六十五條第一但書及ヒ第四ノ場合ニ於テハ其原由ヲ記載シ且何レノ場合ニ於テモ證據書類ヲ添フルコトヲ得セシム可シ

（説明）控訴ハ事實ノ覆審ニシテ必シモ始審裁判ニ於テ不法ノ手續アリタルト否トニ拘ハラサルニ因リ法律ハ別段其趣意又ハ原由ヲ明示スルコトヲ命セスト雖モ始審裁判ノ全部ヲ抗擊スルアリ幾部ヲ抗擊スルアリ治罪法第三百六十五條第一但書及ヒ第四ノ場合ノ如キハ定リタル原由ニ付テノミ抗擊スルアリ證メヲ明示スルハ取調ヲ容易ナラシムルノ一助ナル可シ其證憑書類ヲ添フルモ亦同シ

第二條　被告人公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴ヲ爲サントスル時ハ前條ノ申立書ニ本年第二號布告第三條ニ從ヒ現金拾圓ヲ添ヘ之ヲ差出サシム可シ若シ保證金ヲ添ヘサルトキハ申立書ヲ領收ス可カラス

（説明）本年第二號布告第三條ハ保證金ヲ納メサル者ニハ控訴ヲ許ササルノ旨趣ナリ故ニ保證金ハ申立書ニ附署シタル者ニシテ保證金ヲ添ヘサル申立書ハ受理ノ條件タルヘキ者ト看做ス可ラス

第三條　原裁判所ノ書記局ニ於テ控訴ノ申立書ヲ受取タルトキハ治罪法第三百三十九條第二項ニ從ヒ直ニ其旨ヲ對手人ニ通知ス可シ但申立書ニ控訴ノ趣意及ヒ原由ヲ記載シタルトキハ其謄本又ハ抜書ヲ送達スルヲ要ス

又前項ノ通知書ニハ治罪法第十九條第二十一條ニ從ヒ控訴ヲ受ク可キ裁判所所在ノ地ニ假住所ヲ定ム可キコトヲ記載スルヲ要ス

（説明）第一項但書及ヒ第三項ハ共ニ注意ノ條件タルニ過キス第一項但書ハ第一條第二項ニ起因スル第二項ハ假令此記載ナシト雖モ訴訟關係人ハ當然假住所ヲ定ム可キハ勿論ナル可シ但路程ノ猶豫日數ハ第一項ノ通知又ハ送達ヲ受クタルヨリ起算セサル可カラス

第四條　原裁判所ノ書記ハ控訴ノ申立アリタルヨリ二十四時間ニ控訴一件表ヲ作リ控訴書類ヲ其裁判所檢察官ニ差出ス可シ但公判始末書ハ整頓ヲ待テ之ヲ差出スコトヲ得

裁判整用ノ保證金ハ其裁判所ノ會計課ニ送致シ其旨ヲ控訴一件表ニ記載スヘシ

第五條　原裁判所ノ檢察官控訴書類ヲ受取タルトキハ調査シタル上ニテ控訴一件表ニ認印シ治罪法第三百四十條第一項ニ從ヒ公訴ノ控訴ニ係ルトキハ三日内私訴ノ控訴ニ係ルトキハ二十四時内ニ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ書記局ニ之ヲ送致ス可シ又同條第二項ノ意見書ハ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ檢察官宛ニテ控訴書類ト同時ニ之ヲ差出ス可シ

第六條（明治二十四年十月司法省令第十二號ヲ以テ削除）

第七條（明治二十四年十月司法省令第十二號ヲ以テ削除）控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ書記控訴書類ヲ受取タルトキハ簿册ニ登記シタル上ニテ之ヲ裁判所長ニ差出ス可シ裁判所長ハ控訴一件表ニ認印シ主任判事ヲ指定ス可シ

第八條　控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ書記ハ前條ノ手續ヲ終リタル後速ニ控訴書類ヲ其裁判所ノ檢察官ニ差出シ檢察官ハ速ニ之ヲ檢閲シタル上ニテ主任判事ニ送致シ同時ニ訴訟關係人ノ呼出ヲ請求ス可シ

第九條　主任判事ハ治罪法第三百四十一條ニ從ヒ書記ヲシテ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發セシム可シ但訴訟關係人ヨリ假住所ヲ定メタル屆出サルトキハ原裁判所ヨリ控訴ヲ受ク可キ裁判所マテノ路程ノ猶豫日數ヲ經過シタル後ニ非サレハ呼出ノ手續ヲ爲ス可カラス

（説明）呼出狀ハ訴訟關係人控訴ヲ受ク可キ裁判所所在ノ地ニ定メタル假住所ニ送達ス可キ者ニシテ其本住所ニ送達スルヲ要スル者ニ非ス故ニ原裁判所ヨリ控訴ヲ受ク可キ裁判所ニ至ルマテノ路程ニ應シ猶豫ノ日數ヲ與ヘ其經過スルヲ待テ呼出ノ手續ヲ爲ササル可ラス若シ其日數ヲ經過スルモ仍ホ假住所ヲ定メサルトキハ直ニ闕席裁判ヲ爲スコトヲ得可キモノトス

現ニ勾留ヲ受タル被告人ニ付テハ控訴ヲ受クヘキ裁判所附ノ監倉ニ送致セラレタル後ニ非サレハ呼出狀ヲ發スル事ヲ得ス

第十條　證人鑑定人ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ呼出スコトヲ得

裁判長ハ治罪法第六十一條ニ從ヒ前項ノ處分ヲ本人所在ノ地ノ豫審判事若クハ治安判事ニ嘱託シ同法第二百八十六條第二項ノ旨趣ニ基キ公廷ニ於テ其書類ヲ朗讀シタルトキハ訴訟關係人ヨリ強テ本人ノ出廷ヲ請求スルコトヲ得可カラス

第十一條　檢察官控訴ヲ爲シ又ハ被告人附帶ノ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テハ本年第二號布告第三條ニ定メタル保證金ヲ差出スニ及ハスト雖モ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキハ同布告第四條ニ從ヒ其費用ヲ豫納セシム可シ

第十二條　控訴ノ公判手續ハ治罪法ニ定メタル輕罪ノ公判手續ニ從フ可キモノトス

第十三條　裁判長ハ先ツ控訴ノ申立人ヲシテ控訴ノ旨趣ヲ陳述セシム可シ

（説明）控訴ハ申立書ノミヲ以テ受理スヘキニ因リ第一條第二項ニ於テ説明シタル如ク原裁判ノ全部又ハ幾部ヲ抗撃スルモノナリヤ若クハ定リタル原由ニ付テ抗撃スルモノナリヤ及ヒ其理書ヲ求ムルノ旨趣ヲ一定セサレハ辯論ノ手續頗ル錯雜ニ渉ル可シ裁判長ハ訴訟ノ順序ヲ保タシムル爲メ本條ノ手續ヲ爲スハ必要ナル處分ナリトス

又書記ナシテ訴訟書類中控訴ノ裁判ニ必要ナル部分ヲ朗讀セシム可シ

（説明）佛國ノ如キハ幕任判事ヲ命シ豫メ控訴書類ヲ取調ヘ公廷ニ於テ報告ヲ爲サシムト雖モ我治罪法ニ於テハ之ヲ設ケサルニ因リ審理ノ手續ヲ容易ナラシムル爲メ必要ナル書類ヲ朗讀セシメサル可カラス

第十四條　公判ニ取掛ル前附帶ノ控訴ヲ爲サントスル者ハ其申立書ヲ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ書記局ニ差出サシメ書記ハ第三條第一項ニ從ヒ其旨ヲ對手人ニ通知ス可シ

第十五條　公廷ニ於テ直ニ附帶ノ控訴ヲ爲サントスル者ハ其旨ヲ裁判長ニ申立シム可シ此場合ニ於テ附帶控訴ノ對手人ヨリ請求アルトキハ答辯ノ爲メ二日ヨリ多カラサル猶豫ヲ與フルコトヲ得

（説明）附帶控訴ノ對手人ハ其答辯ノ準備ヲ爲ササル可カラサルヲ以テ治罪法第三百四十一條第二項ニ基キ二日ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得可キモノトス

第十六條　控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ其職權ヲ以テ判決スルヲ得ヘキ條件ヲ除クノ外原裁判ノ幾部ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ他ノ部分ニ付テ判決ヲ爲ス可カラス但判決ノ影響ヲ受ク可キ條件ハ此限ニ在ラス

第十七條　控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ判決ヲ爲スニハ治罪法第三百四十四條ニ從ヒ控訴ニ係ル原裁判ノ全部幾部ヲ認可スルノ言渡ヲ爲シ又ハ其全部幾部ヲ取消シ更ニ言渡ヲ爲ス可シ

又原裁判ヲ認可シタルトキヲ取消シタルトキヲ問ハス被告人ナシテ原裁判費用又ハ控訴ノ裁判費用ヲ負擔セシム可キトキハ同時ニ其言渡ヲ爲ス可シ

私訴ノ裁判費用ハ訴訟關係人ノ請求ニ因リ治罪法第三百七條末項ノ規則ニ從ヒ其言渡ヲ爲ス可シ

第十八條　控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ左ニ定ムル所ニ從ヒ公訴ノ裁判費用ヲ負擔セシム可キモノトス

一　檢察官控訴ヲ爲シタル場合ニ於テハ被告人ノ敗訴タルトキヲ問ハス控訴ノ裁判費用ハ官ノ負擔タル可シト雖モ原裁判ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ控訴ノ裁判ニ於テ免訴無罪又ハ管轄違ノ言渡ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外原裁判費用ノ負擔ヲ免カルルコトヲ得ス原裁判ニ於テ無罪免訴ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ控訴ノ裁判ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル場合モ亦同シ

二　被告人ノ控訴ニ係ルトキハ其敗訴シタル場合ノミ原裁判費用及ヒ控訴ノ裁判費用ヲ負擔セシム可シ但控訴ノ裁判ニ於テ免訴無罪又ハ管轄違ノ言渡ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外敗訴セスト雖モ原裁判費用ノ負擔ヲ免カルルコトヲ得ス

三　附帶ノ控訴ニ付テハ被告人自ラ其申立ヲ爲シ敗訴シタル場合ノミ其費用ヲ負擔セシム可シ但免訴無罪又ハ管轄違ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ此限ニ在ラス

第十九條　控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ爲シタル手續及ヒ裁判言渡ニ付テハ治罪法第三百七十一條ニ從ヒ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

控訴ヲ受ケタル裁判所ノ言渡外ノ條件ト雖モ其職權ヲ以テ判決スルコトヲ得ヘキ者ニ付テハ亦前項ニ同シ

◉札幌根室各始審裁判所治罪手續

（明治十五年六月太政官第三十號布告）

札幌根室ノ各始審裁判所ニ於テハ當分ノ内治罪ノ手續便宜取計且重罪犯ハ之ヲ審訊シ證據擬律按ヲ具ヘ檢事局（大審院ヲ除ク）ニ圖館控訴裁判所ノ批可ヲ得ヲ後宣告スヘシ

◉刑事訴訟記錄ヲ簡約ニスヘキ件

（明治三十三年八月司法省民刑甲第七四號通牒）

刑事訴訟記錄往々浩瀚ニ渉リ取扱上甚不便不利勘ナカラス右ハ事件ノ性質審理ノ模樣ニ依リ一概ニ論斷スルコトヲ得サルヘク勿論ノ儀ニ有之候ヘトモ法律ノ許ス範圍内ニ於テ可成之ヲ簡約サラシムルノ方法ヲ採リ實際ノ利便ヲ圖ルコトニ御注意相成度此段及通牒候也

◉刑事訴訟法第二百四十九條ニ依リ上告裁判所ヨリ訴訟記錄返還ノ節第二審經由ノ件

（明治二十四年四月司法省訓令刑甲第一六五號）

地方裁判所　檢事正
區裁判所　檢事

刑事訴訟法第二百四十九條ニ依リ上告裁判所ヨリ訴訟記錄返還ノ節ハ必ス第二審裁判所ヲ經由シテ第一審裁判所ヘ返還スヘキ旨各控訴院檢事長及大審院檢事總長ヘ訓令セリ

◉控訴裁判所カ刑ノ執行ヲ爲シタル時執行月日ヲ明ニシ記錄ヲ一審裁判所ニ返還スヘキ件

（明治二十四年五月司法省訓令刑甲第一四二號）

控訴裁判所ニ於テ刑ノ執行ヲ爲スヘキトキハ其控訴審ニ於テ確定セシト上告審ニ於テ確定セシトヲ問ハス罰金科料ナレハ完納又ハ換刑言渡ノ後體刑ナレハ執行指揮ノ後其月日ヲ明ラカニシ第一審裁判所ニ訴訟記錄ヲ返還スヘシ

◉數名ノ囚徒ニ係ル書類ト雖モ一經ニスヘカラサルノ件

（明治二十一年四月司法省刑第三八五號通牒）

從來特赦ノ儀ニ付上申相成候者數名ノ囚徒ニ係ル書類ヲ取纏メ一通ノ書面ト爲シ御差出相成候向往々有之候處右ニテハ取扱上不都合有之候ニ付キ以後ハ各囚別個ニ御認メ相成候樣致度且ツ右ノ趣集治監典獄ヲ除クノ外管内監獄署典獄ヘモ御通知相成度此段及御通牒候也

◉訴訟記錄送致方ノ件

（明治三十二年五月司法省民刑甲第一〇七號通知）

本年二十八日當省民刑甲第四四號訓令ノ儀ニ付別紙寫ノ通リ通牒致置候條爲念此段及御通知也

（別紙）

司法省民刑甲第一〇七號（明治三十二年五月司法次官ヨリ大審院長控訴院長地方裁判所長宛）

司法事務取扱ニ關シ別紙寫ノ通檢事ニ訓令相成居候處右訓令ノ事項ハ裁判所ノ事務ニモ關係ヲ有スル儀ニ付爲御心得此段及通牒候也

◉訴訟記錄送致方ニ付注意

（明治三十二年五月司法省民刑甲第一〇七號通牒）

訴訟關係人ヨリ上訴ノ申立アリタル場合ニ於ケル訴訟記錄送致方ノ件ニ關シ別紙寫ノ通檢事ヘ通牒致置候條爲御心得此段及通牒候也

追テ本文檢事ヘノ通牒書ニ添付セシ統計表ハ別ニ添附セサルヲ以テ檢事局ヘ送致セシ分御一覽相成度此段申添候也

（別紙）

司法省民刑甲第六五號（明治三十二年四月司法次官ヨリ檢事宛）

訴訟關係人ヨリ上訴ノ申立アリタルトキハ檢事ハ速ニ其訴訟記錄ヲ上訴裁判所ノ檢事ニ送致スヘキハ勿論ノ儀ニ有之候處近來兎角其送致方遲延スルコト有之趣ニ付取調ヘ候處左表ノ如キ結果ヲ得タリ右ハ止ムヲ得サル事情ニ基因スルモノトハ存候得共事件ノ處分上少ナカラサル影響ヲ及ホス儀ニ付自今成ルヘク遲延セサル樣御注意相成度爲念此段申進候也

（表ハ略ス）

◉裁判言渡ノ謄本又ハ抜書ヲ求ムル者無資力者ヘ無代下渡ノ件

（明治十四年十二月司法省達丁第三十一號）

本年本月甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ抜書ヲ求ムル者代價ノ儀無資力ニシテ上納スル能ハサル者ニ限リ無代價ニテ下渡スモ不苦儀ト可心得此旨相達候事

◉檢察官ニ於テ執行指揮ニ要スル言渡謄本交付ノ件

（明治十五年二月司法省丙第五號達）

檢察官ニ於テ裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮スルニ當リ其命令書若クハ言渡書ノ謄本ヲ要スル時ハ讀書記局ニ於テ速ニ其謄本又ハ抜書ヲ作リ交付スル可キ儀ト心得可シ此旨相達候事

◉犯人ヲ司獄官ヘ護送スルトキ宣告書謄本送達ノ件

（明治十五年三月司法省達第八號）

處刑宣告ノ後犯人ヲ司獄官ヘ護送セシムル際ニ於テハ監獄則ニ從ヒ檢察官ヨリ有宣告書ノ謄本ヲ司獄官ヘ送達スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

◉已決囚ノ犯罪宣告書謄本司獄官ヘ送達ノ件

（明治十七年六月司法省丙第三號達）

已決囚ノ犯罪ニ付キ之ヲ裁判所ニ呼出シ審理ノ末刑ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ明治十五年當省丙第八號達ニ依リ檢察官ヨリ其宣告書ノ謄本ヲ司獄官ニ送達スルハ勿論自今已決囚ニ對スル其他ノ宣告ニ付テモ其豫審ニ係ルト公判ニ係ルトヲ問ハス書記ヨリ宣告書ノ謄本ヲ司獄官ニ送致シ又證人トシテ出廷セシメタル已決囚ノ濟ニ至リタル時ハ亦書記ヨリ其旨ヲ司獄官ヘ通知ス可キ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

◉令狀用紙

（明治十八年八月司法省丁第十六號達）

明治十四年當省丁第二十八號達送達書呼出狀召喚狀勾引狀勾留狀監狀宣誓書式第一號及ヒ明治十七年當省丁第八號達民事呼出狀竝送達書書式第一號ニ用紙美濃紙ノ類ト記載有之候處右ハ半紙ヲ以テ換用スルモ苦シカラス此旨相達候事

◉民刑事判決言渡用紙

（明治二十三年十一月司法省總第九〇號訓令）

民事刑事ノ判決言渡書用紙ハ憲法有效ノ日ヨリ別紙雛形ノ通相定ム

但本文ノ期日切迫ニ付差向使用スヘキ用紙ハ此際ニ限リ各廳ヘ廻送スヘシト雖モ若シ期日迄ニ到達セサル向ハ從前ノ罫紙ヲ用ヒ（天皇ノ名ニ於テ）ノ文字ヲ雛形ノ式ニ據リ記入シテ（御紋章ハ記スルニ不及）使用スヘシ又民事ノ判決言渡書用紙ハ本年法律第六十五號民事訴訟用印紙法實施ニ至ル迄ハ從前ノ罫紙ヲ用ヒ是亦前記ノ文字ヲ記入スヘシ

右訓令ス

別紙

裁判言渡書

府縣國郡市町村番地身分職業　原告何　某

府縣國郡市町村番地身分　代言人　何　某

府縣國郡市町村番地身分職業　被告何　某

府縣國郡市町村番地身分　代言人　何　某

右何某ヨリ何某ニ對スル何々ノ訴訟ヲ審理シ原告被告雙方代言人ノ陳述ヲ聽クニ

訴訟入費ハ何々之ヲ負擔ス可シ

明治何年何月何日某地方裁判所公廷ニ於テ

第何番ノ裁判ヲ言渡ス者也

裁判長判事　名　姓

陪席判事　名　姓

陪席判事　名　姓

裁判所書記　名　姓

◉刑事判決原本用紙ノ件

（明治二十六年六月司法省庶第五八號通牒）

刑事判決原本用紙ノ儀ニ付左記甲號東京控訴院長ノ伺ニ對シ乙號ノ通リ指令相成候仍テ爲御心得此段及御通牒候也

（甲號）

東京控訴院長伺　（明治二十六年六月二日）

刑事判決原本用紙ハ從來美濃判ヲ用ヒ來リ候處本年一月當院管內各地方裁判所長招集ノ際刑事訴訟書類ノ用紙ハ管內一定ノ爲メ且經費節減ノ一端トモ相成ル樣ニ付可成半紙判ヲ用ユル事ニ決議致シ候就テハ刑事判決原本用紙モ自今半紙判ヲ用ユル事ニ相改メ度明治十二年本省丁第七號達及同年本省庶務課通達ノ趣モ有之差支ナキ義トハ存候得共明治八年太政官第五十二號達ノ次第モ有之ニ付爲念一應相伺候也

（乙號）

指令　（明治二十六年六月九日）

明治二十六年六月二日第三〇一七號伺刑事判決原本用紙ノ件伺出ノ通

◉判決書ノ抄本ヲ以テ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ニ於ケル抄本記載方ノ件

（明治二十六年十月司法省民刑甲第九二號訓令）

右付則訓別決番ノ令號ノ之抄本ハ檢非違使ヲ以テ局ヘ即刑ノ令ノ發送ノ條件ニ於テ此旨心得指揮スヘシ可ル場合ニ於テ抄本記載所方ノ件ニ

司法省民刑甲第九二號（明治二十六年十月司法省訓令）

書類ヲ檢非違使ヘ送ルニ付テハ即刑ノ令ノ發送ノ條件ニ於テ此旨心得指揮スヘシ可ル場合ニ於テ抄本記載所方ノ件ニ

（用紙美濃紙）

| | | |

召喚狀

何裁判所
書記官 裁判所 氏名 印

明治 年 月 日 何裁判所 出頭 可致者也

住所 身分 職業 氏名	名
右云々ノ事件ニ付訊問ノ爲	
送達シタル場所	
送達シタル月日時	
若シ能ハサル時ハ其事由	
受取人ノ署名捺印	

何裁判所
書記官 裁判所 氏名 印

右之通取扱候也
明治 年 月 日
使丁 氏 名 印

呼出狀

何裁判所
書記官 裁判所 氏名 印

明治 年 月 日 何裁判所 出頭 可致者也

住所 身分 職業 氏名	名
右云々ノ事件ニ付訊問ノ爲	
送達シタル場所	
送達シタル月日時	
若シ能ハサル時ハ其事由	
受取人ノ署名捺印	

（御印）

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ　一葉ヲ受取人ヘ渡シ　足ヲ中斷シテ

何裁判所
書記官 裁判所 氏名 印

右之通取扱候也
明治 年 月 日
使丁 氏 名 印

檢事官印

拘引狀

住所 身分 職業 氏名	名
右云々ノ事件ニ付訊問ノ爲	
送達シタル場所	
送達シタル月日時	
若シ能ハサル時ハ其事由	
受取人ノ署名捺印	

頭有之何月日時常裁判所ニ出頭可致者也

何裁判所
陪審判事氏名印
書記氏名印

右之通取扱候也
明治　年　月　日
巡査及憲兵　氏　名印

宣誓書
公平且誠實ニ鑑定人タル義務ヲ履行ス可キコトヲ誓フ
明治　年　月　日　某　印

◉既決囚逃走者ニ對シ發スル令狀ノ件

（明治十五年四月司法省達丙第十四號）

既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ノ儀ニ付テハ昨明治十四年丙第二十號ヲ以テ相達置候處始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ現ニ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ警部ニ於テ令狀ヲ發スル儀ト可心得此旨更ニ相達候事

◉同上ノ件

（明治十四年十二月司法省丙第二十號通）

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相達候事

◉逃走囚ニ令狀ヲ發スル手續

（明治十五年二月司法省丙第六號）

始審裁判所檢事ヨリ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ逃捕狀ヲ發スル手續ハ左ノ通心得可シ此旨相達候事

第一條　逃捕狀ニハ典獄ノ報知書ニ依リ第二號書式ニ準シ逃走シタル囚徒ノ本籍身分氏名人相等ヲ詳記スヘシ

但管轄地ノ内外ニ拘ハラス急速ノ際巡査ヲシテ令狀ヲ帶行セシムル時ハ人相ヲ記載セサルモ妨ナシ

第二條　管轄地内ハ令狀ヲ警察署又ハ警察分署ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第三條　管轄地外ハ第一號書式ニ準シ人相書ヲ作リ之ヲ始審裁判所檢事ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事ハ該人相書ニ依リ自己ノ氏名ヲ以テ更ニ逮捕狀ヲ作リ之ヲ管轄地内ノ警察署又ハ警察分署ニ配付シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第四條　司法警察官ニ於テ逮捕シタル囚徒ヲ受取タル時ハ之ヲ管轄檢事ニ送致シ檢事ハ其旨ヲ囑託ヲ爲シタル檢事ニ照會シ別段ノ事由アルニ非サレハ逮捕ノ地ニ於テ刑ノ執行ヲ爲ス可シ

「第一號」　（一ハ朱書）

人相書

「本籍身分」
「氏　名」
「年　齡」

丈	
顏色	
頭髮	
眼	
眉	
鼻	
口	
耳	
齒	
音聲	
瘡痕	
疵所	
鬚髯ノ有無	
其他特徵	

「裏」

人相書

丈	
顏色	
頭髮	
眼	
眉	
鼻	
口	
耳	
齒	
音聲	
瘡痕	
疵所	
鬚髯ノ有無	
其他特徵	
長所	
父母妻子	
逃走ノ際著用衣服	
同上ノ際持去物品	
姓名	

明治　年　月　日時　何裁判所之印

「何裁判所
檢事「氏　名」印」

「裏」　「第二號」

逮捕狀

「本籍身分」
「罪名竝ニ刑名及ヒ其期限」　「氏　名」　「年　齡」

右者「何方」ニ於テ處刑中明治「何」年「何」月「何」日「何」時「何」分逃走候ニ付逮捕ノ御處分有之度候也

「何裁判所
檢事「氏　名」殿

明治　年　月　日　「何裁判所之印」

「何裁判所
檢事「氏　名」印」

「裏」　「第二號」

逮捕狀

「本籍身分」 「罪名竝ニ刑名及ヒ其期限」	「氏　名」 「年　齡」
執行シタル月日時	
執行シタル場所	

右者「何方」ニ於テ處刑中明治「何」年「何」月「何」日「何」時「何」分逃走（捕狀ニハ「シタル以下有之ニ」ノ二字ヲ除ク）「シタル趣ニ付テ「何」裁判所檢事ヨリ逮捕方囑託有之候ニ付嚴重捜索ヲ遂ケ見當リ次第逮捕ス可キ者也

但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ捜索ス可シ

家宅捜索ヲ爲シタル時ハ其事由

拘引スルコトヲ得ルハ捕狀ニハ「シタル時ハ其事由

右之通取扱候也
明治年月日
「巡査又ハ憲兵氏名印」

◉外國公使館傭内國人ニ對ス

ル令狀（明治十六年三月司法省達丙第一號）

刑事裁判上在本邦外國公使館ニ關ハレタル內國人ニ對シ發スヘキ令狀ハ明治七年第百二十八號公達ニ據リ公使館ニテ唯諾ノ上執行セシムヘキハ勿論ニシテ其唯諾ヲ經ルノ手續ハ明治十四年第五十三號公達ノ旨モ有之ニ付大審院或裁判所ハ其事柄ヲ明記シ當省ヘ申出指令ノ上其令狀ヲ發シ又警視廳府縣ニ於テハ其長官ヨリ外務省ヘ申出右唯諾ヲ經ルノ手續キヲ了シ令狀ヲ執行セシムヘキ儀ト心得ヘシ爲念此旨相達候事

但本文令狀執行省ハ專ラ明治七年第百二十八號公達ノ旨趣ニ據リ聊不都合ノ取計無之樣厚ク注意セシムヘシ

◉區裁判所檢事ノ發スル勾留狀ノ件（明治二十六年六月司法省民刑甲第一三九號通知）

區裁判所檢事カ司法警察官ヨリ現行犯人ノ送致ヲ受ケタル場合ニ於テ勾留狀ヲ發スルコトヲ得ルヤ否ノ件ニ付長崎控訴院檢事長大島貞敏ヨリ別紙甲號ノ通リ請訓有之乙號ノ通リ訓令相成候條此段及通知候也

別紙

（甲號）

長崎控訴院檢事長大島貞敏請訓　明治二十六年五月二十七日　壹千三第一一五四號

區裁判所檢事カ司法警察官ヨリ現行犯人ノ送致ヲ受ケタル場合ニ於テ勾留狀ヲ發スルコトヲ得ルヤ否ノ儀ハ從來法律ノ解釋上意見ヲ異ニスルヨリ實際ノ取扱方各地一定セス其意見ノ異ナル要點ハ左ニ記載スル處ノ甲乙ノ兩說ニ過キスト雖トモ實際上勾留狀ヲ發スルノ權ヲ有スルト否トハ大ナル相違ニシテ若シ發スルコトヲ得サルトセハ屋外窃盜就中掏摸犯ノ如キ一所不定ノ徒ニ於テハ勿論ニ幾得共法律上明文無之儀ニ付疑義ヲ一定スル能ハス即チ甲乙ノ兩說ヲ掲ケ訓示ヲ仰キ候

甲說　地方裁判所檢事司法警察官ヨリ現行犯人ヲ受取タル場合ニ付テハ刑事訴訟法第百四十八條ニ「云々勾留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ云々」トアルモ區裁判所檢事ニ付テノ規定ナキカ爲メ論者或ハ之ヲ以テ區裁判所檢事ニ此場合ニ於テモ勾留狀發付ノ權ナキモノトセリ其說ニ從フ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ輕罪ハ最モ輕微ニシテ彼レ違警罪ト殆ト擇フ所ナクレハ法律ハ之レカ未決勾留ヲ望マス又其必要ナキモノナリ是レ區裁判所檢事ノ爲メ第百四十八條ト同一ノ規定ナキ所以ナリト然レトモ此說畢竟誤謬タルヲ免レス何ヲ以テ云爾曰ク他ナシ該條ノ主眼タル專ラ豫審ヲ請求ス可キコトヲ規定スルニ在リテ敢テ此場合ニ於テモ勾留狀發付ノ權アルコトヲ認メントニハアラス法文ニ所謂「勾留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ云々」トハ唯其勾留狀ヲ發シタルト否トヲ問ハス云々ノ意義タルニ過キサルノミ蓋第百四十四條及第百四十六條ハ檢事臨檢シタル場合ノ規定ナリト雖モ其臨檢シタル場合ニ於テハ勾留狀ヲ發シ得可クシテ臨檢セサル場合ニ於テハ其齊シク現行犯人タルニ拘ラス勾留狀ヲ發シ得可ラサルノ理由ナキコト固ヨリ論ヲ俟タス而シテ其區裁判所檢事ノ爲メ同一ノ規定ナキ所以ノモノハ是レ豫審ヲ請求ス可キ場合ナキカ爲メニハアラサルナリ又論者ハ區裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ輕罪ハ素ト輕微ナルカ故ニ法律ハ之レカ未決勾留ヲ望マス云々ト云フモ果シテ然ランニハ何カ故ニ特リ檢事ノ臨檢シタル場合ニノミ其必要アリテ之ヲ許ストカ爲スカ檢事ハ勾留狀ヲ發セスシテ直チニ犯人ヲ逮捕シ諸多ノ取調ヲ爲シ得ヘキニアラスヤ況ンヤ司法警察官假令豫審ヲ爲シ犯人ヲ捕逮セル場合ニ在テハ檢事一應訊問ヲ爲シ其當ニ起訴スヘキモノト起訴スヘカラサルモノト及勾留ヲ要ス可キモノト否ラサルモノトヲ判別スルハ寧ロ人權ヲ重スル所以ナルノミナラス區裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ輕罪ハ其輕微タルニ拘ハラス夫ノ屋外窃盜就中掏摸犯ノ如キ一所不定ノ徒輩タル多クシテ實際未決勾留ヲ必要トスルモノ其多キニ居ルコト證フ可ラサルヲ以テヤ若シ夫レ法律カ勾留狀ヲ發シタル場合ニ於テ起訴ヲ限ルニ三日ヲ以テセルモノハ恐クハ輕罪ナルニ果日稽延スルノ弊アル可ラサルヲ警醒スルニ外ナラサルノミ是レ豈勾留狀發付ノ權限如何ニ關スルモノナランヤ要スルニ區裁判所檢事現行犯人ヲ受取タルトキハ一應訊問シタル上勾留狀ヲ發シ得可シト爲スハ法律解釋上其當ヲ得タルモノナルヲ信スルナリ

乙說　刑事訴訟法現行犯人ノ豫審ニ於テ區裁判所檢事カ勾留狀ヲ發シ得ルハ單ニ同法第百四十六條ノ場合自ラ臨檢シタル時ニ限ルモノニシテ此場合ト雖トモ勾留日數ヲ制限シテ三日內ニ起訴スヘキコトヲ規定シタル其他司法警察官等ヨリ送致ヲ受ケタルトキハ第六十三條ニ依リ起訴スルノ自ラ勾留狀ヲ發スルヲ得サルモノトス是地方裁判所檢事ト自カラ區分ヲ異ニスルモノニシテ單寃區裁判所ノ管轄ノ事件ノ禁錮二月以下ノ微罪ニ止リ治ント違警罪ト同視スヘキモノナレハ法律ハ此輕微ノ被告人ヲ臨スル勾留スルヲ好マス又之ヲ勾留シテ捜査ヲ爲スノ必要ナキヲリ故ニ自カラ臨檢シタル場合ニ於テモ猶勾留狀ヲ發シタル時ハ三日內ニ起訴スヘシト特例ヲ設ケ他ノ送付ヲ受ケタル時ハ勾留狀ニ付テ何等ノ規定ナシ直ニ訴ヲ起サシムル法意ナルコトヲ知ルヘシ何故ニ區裁判所檢事ニハ自カラ臨檢シタル時ハ勾留狀ヲ發シ得テ他ノ送付ヲ受ケタル時ハ之ヲ發シ得サルヤハ最視易キ理アリ其自カラ臨檢スルニ當リテハ自カラ勾留狀ヲ發スルニアラサレハ其取調ヲ爲シ起訴スル迄ノ間被告人ヲ拘束スルノ道ナシ故ニ三日間ヲ限リテ之ヲ許セリ他ノ送付ニ係ル場合ハ已ニ司法警察官ノ假拘審ヲ終リタルモノナルヲ以テ大凡被告事件ハ認メ得ヘク之ヲ取捨スルニ付區裁判所檢事ニ於テ更ニ勾留シテ之ヲ捜査スルノ必要ナク概シテ直ニ訴ヲ起シ得ヘシ已ニ訴ヘテ勾留ノ必要アラハ公判判事ニ於テ勾留狀ヲ發スルヲ以テ毫モ支障ナキヤリ又區裁判所檢事ニ對スル權限ニ付テハ地方裁判所檢事ニ於ケル如ク第百四十六條ニ於テ勾留狀ヲ發シ得ル以上ハ之ヲ期推捜引シテ他ノ送付ヲ受ケタル場合モ發シ得ルモノトスヘシ法ニ明文ナシト雖解釋上然ラサルヲ得スト是其職權ノ同一ナルヘキノミナラス其輕重ノ別等差ノ順序ヲ察セサル既ニ云フヘシ抑現行犯ノ豫審ニ於ケル司法警察官ニ職スル被告人ヲ勾留セシメサルヲ欲シテナリ區裁判所檢事ハ自ラ臨檢シタル時ニ限リ發シ得ルモ起訴ノ期限ヲ三日內ト定メ他ノ送付ヲ受ケタル時ハ直ニ訴ヲ起サシム輕微ノ被告人乘ト勾留セシムルヲ欲セサレハナリ地方裁判所檢事ハ令狀及起訴ニ付期間ノ制限ナシ輕重難易一概スヘカラス嚴然ノ順序ナリトス

◉勾引狀ノ期限ハ總テ休日ヲ算入スヘカラス（明治十五年二月司法省達丙第四號）

治罪法ニ定メタル勾引狀ノ期限ニハ總テ休暇ノ日ヲ算入ス可カラス但平常休暇ナキ官署ニ付テハ此例ヲ用ヒサル儀ト可心得此旨相達候事

◉治罪法第百三十五條ノ被告人逮捕取扱手續（明治十五年二月司法省達丁第十四號）

治罪法第百三十五條ニ從ヒ豫審判事ヨリ各控訴裁判所檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ若クハ其檢事長ヨリ管轄地內ノ檢事ニ捜査及逮捕ノ處分ヲ命スル時ハ本年本省丙第六號達第一號書式ニ照依シテ人相書ヲ作リ其命ヲ受ケタル檢事ハ第二號書式ニ照依シテ逮捕狀ヲ作ルヘシ此旨相達候事

◉刑事ニ關スル證人呼出狀書

式ノ件

（明治三十三年六月司法省民刑甲第六五號通牒）

刑事々件ニ關スル證人呼出狀ノ書式ニ付テハ治罪法實施以來一ノ慣行有之候處其後民事訴訟法ノ實施ト共ニ民事ニ關スル證人呼出狀ノ書式ニ付テモ亦一ノ成例アリ固ヨリ法文ノ規定上民事刑事ノ證人呼出狀ニ付記載事項ニ差異アル點ニ付テハ彼是ノ間自ラ差異ノ生スルハ當然ノ儀ニ有之候得共元來裁判所ヨリ呼出ス證人ハ其民事タルト刑事タルト又檢事ヨリ呼出ス證人タルトヲ問ハス等シク證人トシテ出廷ノ義務ヲ盡スニ過キサルモノナレハ其取扱ニ差異アルモノハ固ヨリ其形式ニ付テノ外其實質ニ付テハ刑事ニ關スル證人呼出狀モ民事ニ關スル證人呼出狀ノ振合ニ準スル樣御取計相成候樣致度此段及通牒候也

◉勾引狀ヲ以テ引致セシ者夜間留置方

（明治十四年十月太政官第五十九號布告）

治罪法中裁判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限リ裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事（二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第七十三條參照）

◉刑事被告人抑留等ニ關スル件

（明治三十二年二月司法省民刑甲第四四號訓令）

改正條約實施セラレ外國人ナシテ我法權ノ下ニ服從セシムルノ日將ニ近キニ在ントス我司法事務ノ如キ宜シク大刷新ノ法ヲ講シ改善ノ途ヲ擇ヒ以テ遺憾ナキヲ期スヘキハ刻下ニ於ケル最大急務ナリトス顧フニ檢察ノ事務タル所謂人權ノ消長ニ重大ノ關係ヲ有スルモノナルカ故ニ人ノ權理自由ハ容易ニ之ヲ侵害セサルヲ以テ職務ノ本旨ト爲シ其責任ハ之ヲ嚴明ニシ愼重而カモ其敏活ヲ計ルハ其局ニ當ル者ノ最モ注意ヲ要スルトコロナルヘシ各位ニ於テハ平素是等ノ點ニ付キ充分ノ注意アルヘキハ本大臣ノ確信スルトコロナリ然レトモ今ヤ緊要ノ時機ニ際會スルヲ以テ本大臣ハ尚ホ玆ニ將來各位カ採ルヘキ方針ニ付最モ必要ト認メタル數個ノ要件ヲ摘示シ以テ各位ノ注意ヲ喚起セムトス

一　從來司法警察官ニ於テ或ハ事體明確ナラサルニ已ニ被告人ヲ拘束シ起訴ヲ檢事ニ求メ檢事モ亦多少其情實ヲ斟酌シ之カ處分ヲ爲スニ方リテモ往往之ヲ遲延シ數日ノ後ニ至テ漸ク之ヲ放還シ若クハ強テ之ヲ豫審或ハ公判ニ附シ又ハ犯罪ノ事體未タ明確ナラサルニ一片ノ推測ヲ以テ先ツ之ヲ豫審又ハ公判ニ付シ果證ノ發見ヲ萬一ニ期スルモノナキニ非サルカ如シ如斯ハ人權ヲ重ンスル所以ノ旨趣ニ背戻スルモノニシテ深ク注意セサルヘカラサル點ナリトス故ニ被告事件猶檢事ノ處分內ニアル間ニ於テ十分ニ事實ノ搜査ヲ遂ケ苟モ訴ヲ起ス以上ハ必ス有罪判決ヲ受クヘシト確信シ得ヘキモノニ限リ始メテ起訴ノ手續ヲ爲シ其職責ヲ全フスルコトヲ力ムヘシ

一　司法警察官ニ於テモ亦常ニ此意ヲ體シ寡ク人權ヲ傷ケサラムコトニ注意セシメ事體輕微ニシテ罪證明確ナラスト思料スルカ又ハ犯罪ノ證憑ハ具備スルニモセヨ其害惡ノ程度極メテ微少ニシテ公益上敢テ處罰スルノ必要ナシト思料スル事件ニ付テハ司法警察官ニ於テハ速ニ搜査ヲ結了シ引致シタル被告人ハ假リニ之ヲ釋放シ之ニ關スル記錄ノミ送致シ徒ラニ被告人ノ自由ヲ拘束スルカ如キコトナカラシメンコトヲ力ムヘシ

一　苟モ逃走若クハ證據湮滅ノ虞ナキ限リハ務メテ保釋責付ヲ許シ人ノ自由ヲ尊ンスヘキハ勿論ナルニ從來之ヲ許可シテ差支ナキ場合ニモ尚ホ其實行ヲ躊躇スルモノヽ如シ之ヲ既往ノ統計ニ徵スルニ現ニ明治三十年ニ於ケル全國ノ裁判所ニ於テ豫審中勾留ノ人員ハ二萬八千八百七十九人ニシテ其中保釋責付ヲ許可シタルモノ六百六十七人實ニ百分ノ二弱ニ過キス斯ノ如クンハ保釋責付ノ制度ハ徒法ニ過キスト非難スルモノアルモ強ヲ之ヲ以テ過言ナリト云フヘカラス故ニ爾今一層之カ實用ニ注意シ一旦勾留シタル被告人ニ對シテハ豫審中ナルト公判中ナルト又檢事ノ處分內ニアル間ニ於ケルトヲ問ハス常ニ審理ノ進行ヲ觀察シ格別差支ナキ限リハ速ニ保釋責付ヲ許スコトニ意ヲ用ヒ倘ホ被告人ニ於テ來タ其ノ請求ヲ爲サヽルトキト雖トモ檢事ヨリ進ンテ之ヲ許可スルノ憑ヲ裁シ猥リニ滯獄日數ノ增加スルヲ防クヘシ

一　裁判所ノ進行迂緩ニシテ滯獄ノ日數長キニ弱ルトキハ往々世人ノ痛嘆スル處ナリ是固ヨリ裁判所內部ノ制規手續ヲ辭ニセサルニ因ルト雖トモ裁判所亦其責ナシトセス試ニ控訴院ノ成績ニ付三十年度ニ於ケル統計ニ徵スルニ控訴ノ件數ハ新舊ヲ併セテ五千九百三十五件ニシテ其既濟ハ四千八百五十六件ナリ即チ一廳一日ノ處分僅ニ一件八餘ニ過キスシテ其處分日數ハ平均五十一日餘ヲ費シ滯獄日數一人平均四十九日ニ彌レリ孰レモ控訴事件ハ概シテ犯罪事實錯綜シ容易ニ結審シ難キ事情ニ依ルナルヘシト雖トモ而カモ其局ニ當ルモノ亦大ニ省ミル處アルカラス地方裁判所以下ニ於テ事體簡單ニシテ證據亦完備セリト認ムルモノハ其現行犯タルト非現行犯タルトヲ問ハス速ニ起訴ノ手續ヲ爲シ被告人異議ナキニ於テハ事件受理ノ當日若クハ翌日ニ於テ裁判宣告ヲ受ケシムルノ取計ヲ爲シ控訴院ニ於テモ亦適當ノ處置ヲ講シ以テ裁判ノ進行ヲ速カニシ滯獄ノ日數ヲ減少セシメンコトヲ力ムヘシ

以上訓示スル處ノ外改良刷新ノ實ヲ擧クルニ足ルヘシト思料スルモノハ之ヲ下僚ニ諭リ上司ニ詢ヒ著々實行シ毫モ遺憾ナキコトヲ期セラルヘシ

◉檢事現行犯ノ被告人ヲ受取リタル場合ニ關スル件

（明治二十四年二月司法省刑甲第八〇號刑事局長ヨリ檢事ヘ通牒）

檢事現行犯ノ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時間以內ニ訊問スル後ニアラサレハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス然ルニ檢事不得止事故アリテ即時訊問スルコト能ハス一時留置セサルヲ得サル場合ニ於テハ監獄署ニ送致セス最寄警察署內ノ留置場ニ留置セシムルコトニ內務省ヘ協議スミニ付右樣御取計相成度且ツ此場合ニ於テハ可成速ニ被告人ヲ訊問シ不都合無之樣御注意有之度爲御心得此段及通牒候也

◉勾引狀ヲ以テ引致シタル刑事被告人取扱方

（明治三十二年六月司法省民刑甲第一二六號通牒）

勾引狀ヲ以テ引致シタル刑事被告人取扱方ノ件ニ關シ別紙寫ノ通リ浦和地方裁判所檢事正ヘ照會致候條爲御心得此段及通牒候也

（別紙）

司法省民刑甲第一二六號（明治三十二年六月司法省民刑局長ヨリ浦和檢事正宛）

貴管內警察署留置場增築ノ儀地方廳ヘ御協議相成候趣ノ處刑事訴訟法ノ改正ニ因リ幾分カ留置人ヲ增加スルコトモ可有之候ヘトモ地方廳ニ於テモ急速增築ヲ爲シ難キ事情有之趣ニ付明治二十三年十二月司法省刑甲第三七一號訓令明治二十四年二月司法省刑甲第八〇號刑事局長通牒竝ニ同年十月司法省參甲第三八六號總務局長通牒ノ趣旨ニ依リ從來ノ留置場ニテ不都合ナキ樣御處分相成度此段及照會候也

◉檢證ノ爲メ囚人護送ノ件

（明治十五年六月司法省丁第三十三號達）

審理ノ都合ニ依リ檢證ノ爲メ囚人召遣他所出張候節ハ其地ノ警察官ヘ護送引致方通知可致尤モ右護送ニ關スル費用ハ渾テ警察費ヨリ支拂ノ筈ニ候條此旨相達候事

◉同上ノ件

（明治十五年六月內務省乙第三十五號）

裁判所ニ於テ檢證ノ爲メ囚人ヲ召遣シ他所出張ノ節ハ巡查ヲシテ護送セシムヘシ此旨相達候事

但護送巡査ノ旅費其他囚人ニ關スル費用共渾テ警察費ヨリ支辨スヘシ

◉檢事ニ於テ囚人又ハ刑事被告人押送方（明治三十一年二月司法省訓令第一號）

檢事ニ於テ囚人又ハ刑事被告人ヲ遞傳護送セシムルトキハ遞傳狀ヲ作リ護送人ニ交付シ來リタル處明治三十年十一月勅令第四百十五號囚人及刑事被告人押送細則ノ發布アリタルニ仍キ自今檢事ハ遞傳狀ヲ作ラス囚人又ハ刑事被告人ヲ發送スヘキ官署ニ對シ必要ナル書類ヲ添付シテ共押送方ヲ指揮スル儀ト心得可シ

◉保釋責付中ノ被告人取締方心得（明治十六年十一月司法省丙第八號達）

保釋責付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシムヘキ儀ニ付保釋責付ヲ爲スノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セシムル可シ但其言渡書ノ紙尾ニ記載印刷スルモ妨ケナシ

第一條　治罪法第二十一條ニ從ヒ假住所ヲ定メ屆置クヘキコトハ言ヲ俟タス其裁判所ノ管轄地外ニ旅行スルコトヲ得ス若シ止ムヲ得サル事由アルトキハ其旨ヲ檢事ニ申立許可ヲ受ク可シ

第二條　裁判所ノ管轄地内ト雖モ住所外ニ於テ一泊以上滯在スルトキハ滯在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通知シ置ク可シ

第三條　代言人辯護人又ハ代人トシテ法廷ニ出頭シ其他議會集會等公然ノ場所ニ臨會スルコトヲ得ス

第四條　治罪法第百二十一條ニ適當スル者及ヒ前數條ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第二百十六條第二項ニ從ヒ保釋ヲ取消ス可シ其責付ヲ受ケタル者モ亦同シ

◉刑事被告人保釋許否裁判所ノ件（明治二十八年五月司法省民刑甲第二六五號通牒）

刑事被告人保釋ノ儀ニ關シ別紙甲號ノ通長崎控訴院檢事長ヨリ請訓有之乙號ノ通訓令相成候條爲御心得此段及通牒候也

甲號（明治二十七年十二月長崎檢事長ヨリ司法大臣宛）

刑事被告人保釋ノ儀ニ付請訓

裁判所刑事部判事カ被告人ノ請求ニ對シ保釋許否ノ決定ヲ爲ス事ニ付從來一定ノ標準無之ニ依リ或ハ各所意見ヲ異ニシ取扱方一定セス爲メ種々ノ議論ヲ生シ實際上或ハ差閊ヲ生セサルヲモ保シ難シ各種意見ノ大別ヲ擧レハ

甲說　保釋許否ノ權ハ刑事訴訟法ニ於テ豫審判事ニ限リ與ヘタルモノニシテ公判裁判事ハ保釋願ニ對シ許否ノ決定ヲ爲シ得ヘキモノニ非ストノ事

理由　治罪法ニ於テハ公判々事ニモ保釋許否ノ權ヲ與ヘアリシモ刑事訴訟法ニ於テハ之ヲ許スノ明文ナシ現時各裁判所ニ於テ此許否ノ取扱ヲ爲スハ據ルヘキ法文アルニ非ス唯治罪法以來ノ習慣ト刑事訴訟法第百七十八條ニ勾留狀ヲ發スル權アル以上ハ其反對保釋ヲ許スノ權モ自カラ可ラストノ見解ニ過キス如此不當ノ見解ヲ以テ保釋ノ許否ヲ爲スカ如キハ越權ノ處分ト云ハサルヲ得ス元來公判部ニ於テハ事件ノ起訴ヲ受クルニ從ヒ順次直チニ裁判ヲ爲スヘキ性質ナルカ故ニ起訴ト裁判ノ間ニ於テ保釋ノ必要ヲ生スル如キ長日數ヲ要スルモノニ非サルハ立法ノ精神ナリト雖況ンヤ其事件ノ開廷ニ至ル迄ハ獨リ裁判長ノ手裏ニ存シ未タ合議ニ附シタルモノニ非ス刑事訴訟法カ公判々事ニ此許否ノ權ヲ與ヘサルハ寔トニ當然ノ事ナル可シ若シ公判々事ニ此權ヲ與ヘタルモノトスレハ其決定或ハ大ニ原告官タル檢事ノ不利益ヲ生シ搜査ノ道ヲ塞キ證據ノ湮滅スル等ハ免ル可ラサルニ付檢事カ其決定ニ對シ法律上運動ノ道モ必スナカル可ラサルニ非規定ヲ設ケサルハ即公判々事ニ許否ノ權ヲ與ヘサルカ故ナル可シ

乙說　公判々事ノ保釋願ヲ許否スルハ當然ニシテ法律ニ違背セストノ事

理由　治罪法ニ明文アリテ刑事訴訟法ニ明文ナキハ勿論ナレヒ立法ノ精神ハ決シテ改正シタルニ非ス明文ヲ掲ケル迄ノ必要ナク無論保釋許否ノ權ヲ與ヘタルモノナリ且ツ刑事訴訟法第百七十八條ニ勾留狀ヲ發スルノ權アル以上ハ其反對保釋ヲ許スノ權アルハ勿論ナリトス

丙說　公判々事カ保釋許否ヲ爲シ得ヘキハ乙說ト同意ナレトモ獨リ上告裁判所ニ限リ保釋願ヲ受理スヘキモノニ非ストノ事

理由　上告裁判所ハ法律點ノミヲ審理シ事實ノ如何ニ立入ルヘキニ非サル故保釋ノ許否ハ無論爲スヘキモノニ非ス

意見ノ衝突ヲ大別スレハ有ノ三點ニ止ルカ如シ乙丙兩說ノ如ク公判々事ニ於テ保釋願ヲ許否スヘキモノトスレハ上告中ノ被告人カ何レニ向テ保釋願ヲ提出スヘキヤ原裁判所即第二審廳ニ於テ受理スルトセンカ第二審廳ハ既ニ判決言渡後ニ係リ此被告人ニ對シ管轄權ヲ有セサレハ保釋願ヲ許否スルノ權ナキハ勿論ナルヘク上告審ニ於テ保釋願ヲ受理セサルハ素ヨリ當然ニシテ大審院ノ例例亦然リハラハ上告中ニ係ルモノハ保釋願ヲ爲スヘキ道ナキモノト爲サヽルヲ得ス然ルニ今日ノ習慣ニ依レハ上告中ノ原裁判所ニ於テ許否セサルカ故ニ該被告人ノミ無告ノ民ト爲スコトヲ得ス止ムヲ得ス原裁判所ニ於テ取扱フヘシト云フニ過キス保釋願ノコトハ管轄ニ關係ナシトスレハ格別ナレヒ乙說及丙說ニ云フ如ク公判々事ニ此許否ノ權ヲ與ヘタルモノトスルモ唯其事件ノ繫屬中ニ止リ既ニ裁判言渡ヲ爲シタル上ハ該裁判所ハ其事件ヲ離脫シタルモノナルニ依リ即チ管轄ニ非サル被告人ニ對シ保釋ノ許否ニ限リ取扱フヘキ權利アリト云フヲ得サル可シ若シ此ノ如キ場合ニ於テハ唯便宜上原裁判所ニ於テ許否スルモ差支ナシトスレハ第一審ト第二審ニ於ケルモ同樣ニシテ第一審ノ判決ヲ受ケ控訴ノ申立ト同時ニ保釋願ヲ提出シ未タ身柄送致前ニ係ルモノハ便宜第一審廳ニ於テ許否スルモ差支ナシト云ハサルヲ得ス此ノ如キ見解ヲ下スニ於テハ法律上管轄ノ事等ハ殆ント數ナキニ至ル可シ

以上論シ來ル處ニ依リ疑義ヲ約言スレハ

第一　保釋許否ノ權當例事ノ職權ニ止リ公判々事ニハ及ハサル乎否

第二　公判々事モ保釋ノ許否ヲ爲シ得ルトスルモ上告中ニ係ルモノハ保釋願ノ道ナキモノトスルヤ否

第三　保釋ノ許否ハ其事件裁判所ニ繫屬中ニ限ルモノトスレハ第一審ノ判決ヲ受ケ來タ控訴申立以前ニ於テハ保釋願ヲ爲スノ道ナキヤ否

以上述フル處ノ如ク從來議論一定セサル而已ナラス當管內ノ實例ニ於テモ或ハ原裁判所ニテ便宜許否スルモアリ或ハ必ス繫屬裁判所ニ移送スルモアリ當控訴院ノ如キモ從來ハ上告中ニ係ルモノモ便宜當院ニ於テ許否セシ處近頃既ニ事件ヲ離脫シタル裁判所ハ該被告人ニ對シ管轄權ヲ有セサル故上告中ノモノニ對シ保釋ノ許否ヲ爲スヘキモノニ非スト論定シ大審院ヘ移送スルコトヲ爲シタル處大審院ハ保釋願ヲ受理セストノ附箋ヲ爲シ返却セシニ付更ニ再ヒ繫議シテ上告中ニ係ルモノハ便宜當院ニテ許否スルコトニ決シ管轄ノ議論等ハ全ク立消ト相成タリ

故ニ檢事トシテ或ハ意見ヲ付シ或ハ執行ノ指揮ヲ爲スニ管內區々ノ取扱タルヲ免レス裁判所ニ一定ノ標準ナキ公正ヲ得サルトスルモ檢事ニ於テハ管內一般一定ノ法律解釋ヲ以テ取扱ハシメ度候條前數項ニ述フル處孰レソ解釋ニ從ハシムヘキ哉一定ノ訓示ヲ仰キ候也

乙號（明治二十八年五月司法大臣訓令）

長崎控訴院檢事長　大島貞敬

明治二十七年十二月十一日乙第四四一號訓訓刑事被告人保釋ノ件ハ左ノ通心得可シ

一　裁判所（公判ヲ爲ス裁判所）モ保釋ノ請求ヲ許否スルノ職權アルモノトス

二　上告中ノ事件ニ付テハ控訴裁判所ニ於テ保釋ノ請求ヲ許否スヘキモノトス

三　第一審判決後控訴申立前ニ於テハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

◉保釋責付ハ成ル可ク之ヲ許スノ件

（明治三十三年八月司法省民刑甲第七四號通牒）

從來重罪事件ノ公判中被告人ニ對シ保釋責付ヲ許シタル事例極メテ稀レナル由ニ有之候處右ハ事件ノ性質上保釋責付ヲ許シ得ヘキモノ少ナキニ山ル等種々ノ理由有之儀ト致思考候得共被告人逃走罪證湮滅ノ虞ナク其他特殊ノ事情ナキ場合ニ於テハ重罪事件ノ被告人ニ對シテモ可成保釋責付ヲ許サルル方針ニテ御處理相成度此段及通牒候也

追テ御參考ノ爲メ別紙大審院總會ノ決議書添付候也

（別紙）

昨年十二月二十七日付ヲ以テ御諮問相成候件ニ對シ裁判所構成法第百四十一條ニ依リ本院總會ニ於ヲ左ノ如ク議決ス

重罪公判ニ付セラレタル被告人精神錯亂シ數年間取調ヲ爲スノ途ナク醫師ノ診斷ニ於テモ監外ニ出シ療養ヲ加フルニ非サレハ到底治癒ノ見込ナシト云フ如キ場合ニ於テハ裁判官ハ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

右及具申候也

明治二十六年一月二十三日

大審院長心得
判事　名村泰藏

司法大臣伯爵山縣有朋殿

◉贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則

（明治九年四月太政官第五十七號布告）

（明治九年五月大藏省布達甲第十二號）

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節贋造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

贋造金銀貨紙幣等取扱規則

第一條　新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋子其面前ニ於テ斷截シ速ニ其最寄警察出張所或ハ屯所或ハ區戶長ニ差出シ其願末ヲ申立ツヘシ若シ官廳ニ關スルトキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ

但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ速ニ遞送主ヘ報告スヘシ

第二條　鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改メテ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ同等ノ品ト引換相渡シ其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞ヘシ

第三條　若シ正貨ト定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其贋造品ハ第一條ニ依ル

第四條　古金銀貨幣贋造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ

第五條　贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

◉同則第一條心得

（明治九年五月大藏省布達甲第十二號）

本年四月太政官第五十七號公布贋造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ其持主ノ面前ニ於テ斷截云々ト掲載有之然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト五拾圓拾圓ト五圓二圓ト一圓半圓ト二十錢十錢何レモ竪横ノ寸法同樣ニ付數字ヲ描改シ五圓札ヲ拾圓ニ拾錢札ヲ二十錢或ハ半圓ニ變換セシ類比々有之右ハ素ヨリ贋製ノ品ト雖モ異リ斷截候テハ不都合ニ付該紙幣發見候ハヽ裏面ノ紋色別紙ノ通各種毎ニ竪ヒ描改ノ證ヲ所持人ヘ明示シ其儘警察出張所等ヘ差出同所ニ於テハ右紙幣ノ原因其外取糺處分相濟候ハヽ引換切ニ取計紙幣寮ヘ相納候儀ト可相心得此旨布達候事

百圓札　裏面淡紅地ニ紋色深紅
五十圓札　同　淡黒地ニ同　青
十圓札　同　淡紅地ニ同　紫
五圓札　同　淡黒地ニ同　青
二圓札　同　橙黄地ニ同　茶褐色
一圓札　同　淡青地ニ同　深青
半圓札　同　白地ニ同　淡褐色
二十錢札　同　白地ニ同　青
十錢札　同　白地ニ同　緑

◉僞造證書沒收否ノ件

（明治十八年三月司法省內訓）

僞造證書沒收處分ノ儀ニ付是迄指令若クハ內訓及照候次第モ有之候處今般神戶始審裁判所長判事高木勃ヨリ別紙甲號ノ諮訓ニ對シ乙號ノ通及內訓候條爲心得此旨及內訓候也

（別紙甲號）　明治十八年一月　神戶始審裁判所長

僞造證書沒收否ノ儀諮訓

凡ソ僞造證書行使ノ被告事件ニ付其行使シタル僞證書ニシテ其詐僞セラレタル人ノ所有貨金證書ノ如キハ其ニ係ル場合ニ於テハ之ヲ沒收スルヲ得ス若シ審理中押收シアルトキハ右所有主ニ還付ノ言渡ヲ爲スヲ可キ者ト心得居其歸ハ區ヨリ是レ犯罪ノ用ニ供シタル物件ナルモ既ニ他人ノ所有ニ屬シ而シテ又法律ニ於テ禁制シアル物件トハ爲シ難キヲ以テナリ然ルニ頃日明治十五年六月十五日大津縣裁判所檢事伺御指令ヲ十九日見レハ「刑法ニ於テ罪ヲ問フヘキ場合ニシテ其犯罪ノ用ニ供シタル時ハ沒收スヘシ」トアリ此御指令ノ旨趣ニ依レハ刑法第四十三條第二ヲ適用スヘキ者ノ如シ果シテ然ラハ其犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ヲ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得サルニ付現ニ他人ノ保有ニ屬スレハ之ヲ沒收ス可カラサルナリ又明治十六年栃木始審裁判所ノ諮訓ニ對シ同年二月御內訓ニハ「僞造證書ハ沒收シテ訴訟書類ト共ニ保存スヘシ」トアリ此御內訓ハ何ノ法律ト理由ニ依リ沒收スヘキヤヲ明示アラサレトモ恐クハ刑法第四十三條第一項ニ照シ沒收ス可キ者トセラレタルカ如シ果シテ然ラハ前御指令ト後ノ御內訓ト其旨趣二樣ニ渉リ彼是疑團氷釋シ難シ就テハ該證書ノ類ニシテ其被害者ノ手ニ所有スル時仍ホ之ヲ沒收スヘキ者トスレハ刑法四十三條第一ニ依ルヘキヤ或ハ第二ニ依ルヘキヤ抑モ又沒收ス可ラサル者ニ候哉何レニシテモ其理由御明示被下度右仰內訓候也

（乙號）　明治十八年三月

別紙請訓ノ趣僞主ニ於テ保有スヘキ證書ニ係ルトキハ裁判確定後檢察官ニ於テ其僞造變造部分ヲ證書ノ紙尾又ハ裏面ニ朱書シ捺印シテ還付スル儀ト心得可シ此旨及內訓候也

◉貨紙幣僞造變造ニ干スル判決謄本大藏省ヘ送致方ノ件

（明治二十五年三月司法省參刑甲第二二六號訓令）

金銀銅貨幣及紙幣（政府及銀行ノ發行共）ノ僞造變造ニ關スル犯罪事件ニ付キ大藏大臣ヨリ照會ノ次第モ有之候條右事件ノ判決言渡アリタルトキハ其謄本一部直ヲニ大藏省主計局ヘ送致ス可シ

◉通貨及證券模造取締法

（明治二十八年四月法律第二十八號）

第一條　貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ賣買スルコトヲ得ス

第二條　前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條　第一條ニ掲クタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條　第一條ニ掲クタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

◉僞造等ノ貨紙幣ヲ沒收スルノ言渡ヲ執行シタルトキ大藏省ヘ届出ノ件

（明治二十八年五月司法省民刑甲第七六號訓令）

僞造變造ノ貨幣僞造ノ紙幣又ハ模造ノ紙幣ヲ沒收スルノ言渡ヲ執行シタルトキハ其都度犯人ノ族籍氏名竝ニ處斷ノ年月日ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ僞造變造又ハ模造ノ貨紙幣各種一個宛檢事局ヨリ直接ニ大藏省ヘ送致スヘシ特別ノ事由アルカ爲メ貨紙幣ヲ大藏省ヘ交付シ難キ場合ニ於テハ一應同省ニ送致シ用濟ノ上更ニ還選ヲ求ムルモ妨ケナシ

但本文僞造變造ノ貨幣及ヒ僞造ノ紙幣ハ可成明治二十五年當省參甲第一二二六號訓令ニ依リ裁判所ヨリ判決謄本ヲ大藏省ニ送致スルト同時ニ送致スル樣取計フ可シ

（明治二十八年五月司法省民刑局長ヨリ檢事宛）

司法省民刑甲第七六號（明治二十八年四月大藏大臣ヨリ司法大臣宛）

沒收ノ僞造貨紙幣等大藏省ヘ送致方ノ件ニ關シ本日訓令相成候處右ハ大藏大臣ヨリノ照會ニ因リ訓令相成リタル儀ニ付爲御心得別紙往復書寫甲乙丙三通及御送致候也

甲號（明治二十八年三月大藏大臣ヨリ司法大臣宛）

從來貨紙幣僞造變造又ハ模造等ノ犯罪者ニ對スル判決謄本御送付相成居候處右等ノ場合ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル僞造變造又ハ模造ノ貨紙幣御用濟ノ上ハ其都度御送付ヲ受ケ當省ニ於テ參考ノ爲メ備置度候ニ付自今右判決謄本送付ノ際同時ニ該犯罪用ノ貨紙幣相添送付可致旨金圓各裁判所ヘ御訓示相成樣致度此段及御照會候也

乙號（明治二十八年四月司法大臣ヨリ大藏大臣宛）

貨紙幣僞造變造又ハ模造ノ犯罪者ニ對スル判決謄本送付ノ際同時ニ該犯罪用ノ貨紙幣送付方ノ儀ニ關シ本年三月十一日乾第四一九號ヲ以テ御照會ノ趣了承變造紙幣ニ付テハ檢事局ニ於テモ從來明治九年御省甲第十二號布達ニ準シ取扱居候儀ニ付右ノ外御省ヘ送致スル可キモノ無之答ニ候僞

造變造ノ貨幣及僞造ノ紙幣ヲ沒收シタル場合ニ於テハ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ無假物ハ破壞廢棄シ有假物ハ破壞ノ上竪却スルコトニ相成居候今般御照會ノ趣旨僞造變造ノ貨紙幣悉皆ノ送致ヲ必要トセラル、儀ニ候得ハ沒收物件取扱ノ手續ニ違背スルヲ以テ御照會ニ應シ難ク候得共僞造變造ノ貨幣及僞造ノ紙幣中參考ノ爲メ各種一個宛送致候儀ナレハ別段不都合無之候條右ニテ御差支無之候ハヽ其旨檢事局ヘ訓令可致候尤特別ノ事情ニ因リ貴省ヘ交付致シ難キ場合ニ於テハ檢事局ヨリ一應貴省ニ送致シ參考ニ供シタル上返還方申出候コトモ可有之ニ付此旨兼メ御了知置相成度候又御照會書中模造ノ貨紙幣トアルハ本月五日公布相成候本年法律第二十八號第一條中ニ記載シタル如キモノヲ指ス儀ニ候哉尚其趣旨御明示相成度候本件ニ付テハ檢事局ヘ訓令致候都合モ有之御問答旁此段及御照會候也

追テ貨紙幣僞造變造ニ關スル犯罪事件判決謄本ノ送致方ハ曩ニ裁判所ヘ訓令致置候處今般御照會相成候沒收ノ貨紙幣送致方ハ檢事局ヘ訓令致ス可キ筋ニ付貨紙幣ノ送致ト判決謄本ノ送致ヤハ或ハ前後致シ候コトモ可有之候此段申添候也

丙號（明治二十八年四月大藏大臣ヨリ司法大臣宛）

民甲第三四號ヲ以テ僞造貨幣送致方ノ儀ニ關シ御照會之趣了承右ハ左ノ通リ有之候間可然御取計有之度此段御依頼旁及御回答候也

第一段　變造紙幣ノ義致了承候

第二段　各種一個宛ニテ宜敷且返還方之義致了承候

第三段　模造貨紙幣ノ義御見解ノ通ニ有之候

追書　致了承候

◉國事ニ關スル犯罪ノ爲メ諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ關スル件

（明治二十七年六月法律第二十號）

第一條　明治三年九月十日太政官布告藩制施行ヨリ同九年八月太政官第百八號布告實施マテノ間ニ於テ國事ニ關スル犯罪ノ爲家祿賞典祿ヲ沒收セラレタル者及本法施行ノ日ニ於テ現ニ其ノ家名繼襲ヲ許サレタル者ニ限リ其ノ沒收セラレタル當時ノ祿高ニ基キ明治九年太政官第百八號布告第一條ノ率ニ據リタル金祿公債證書額ニ相當スル金額ヲ一時國庫ヨリ支出シテ之ヲ給與ス

第二條　前條ノ祿高ハ明治四年七月二十日士族卒祿高取調ニ關スル民部省達同年同月二十四日同件取調ニ關スル太政官布告及同年九月賞典祿取調帳竝士族卒祿高人別取調帳等ニ關スル大藏省達明治八年太政官第百三十八號布告ニ基キ調査シタル祿高ニ依ルモノトス但シ祿高調査以前ノ收祿ニ係ルモノハ收祿ノトキ實際給與ヲ受ケタル祿高ニ依リ前條ノ祿高ヲ金額ニ換算スルノ必要アル場合ニ於テハ明治八年太政官第百三十八號布告ニ依ル

第三條　第一條ニ依リ給與ヲ受ケムトスル者ハ國事ニ關スル犯罪ノ處刑ヲ宣告セラレタル裁判所又ハ其ノ事務引繼ヲ受ケタル官廳ヨリ本法第四條ノ認定及收祿ニ係ル證明書ヲ受ケ地方廳ニ出願スヘシ但シ本法施行ノ日ヨリ三箇月内ニ其ノ認定及證明ヲ求メス又ハ認定及證明ヲ受ケタル日ヨリ一箇月内ニ出願ヲ爲サヽル者ハ第一條ノ給與ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　本法ニ於テ國事ニ關スル犯罪トハ其ノ處刑ヲ宣告シタル裁判所又ハ其ノ事務引繼ヲ受ケタル官廳ニ於テ刑法第百十七條、第百十九條、第百二十一條、第百二十三條、第百二十五條、第百二十六條、第百二十七條、第百二十九條、第百三十條、第百三十一條、第百三十二條、第百三十三條及第百三十四條ノ罪ト同視スヘキ認定ヲ經タルモノヲ云フ

◉同件取扱手續

（明治二十七年六月司法省令第六號）

第一條　本年法律第二十號第三條ノ規定ニ依リ裁判所ヘ出願スル者ハ其ノ本籍地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ其支部トス

司法省佐賀萩其他ノ臨時裁判所ノ宣告ニ係ルモノニ付テハ大審院ヲ以テ事務引繼ヲ受ケタル官廳トス

第二條　裁判所ニ於テ犯罪ノ認定及收祿ノ證明ニ付請求ヲ受ケタルトキハ訴訟記錄ニ依リ之ヲ調査シ認定及證明ヲ與フ可シ

認定及證明書ニハ受刑者ノ族籍氏名認定及證明ノ年月日及裁判所名ヲ記載シテ廳印ヲ捺ス可シ

認定及證明ヲ與ヘサルトキハ其旨ヲ請求者ニ告知ス可シ

第三條　法律第二十號第三條但書ニ記載シタル期限後ノ請求ニ付テハ認定及證明ヲ與フ可ラス

第四條　第一條ニ記載シタル裁判所ニ於テ訴訟記錄ヲ保存セサルトキハ之ヲ保存スル裁判所ニ認定及證明ノ請求書ヲ移送シ其旨ヲ請求者ニ告知ス可シ

移送ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ前二條ニ從ヒ處分ス可シ

◉同件取扱手續

（明治二十七年六月陸軍省令第十二號）

第一條　明治二十七年法律第二十號第三條ニ記載シタル事務引繼ヲ受ケタル官廳ハ陸軍ニ在テハ當時處刑ヲ宣告シタル軍衙ノ事務ヲ承繼シタル師管軍法會議トス

第二條　軍法會議ニ於テ犯罪ノ認定及收錄ノ證明ニ付請求ヲ受ケタルトキハ訴訟記錄ニ依リ之ヲ調査シ認定及證明ヲ與フヘシ

認定及證明書ニハ受刑者ノ族籍氏名認定及證明ノ年月日及軍法會議ノ名ヲ記載シ其會議ノ印ヲ捺スヘシ

認定及證明ヲ與ヘサルトキハ其旨ヲ請求者ニ告知スヘシ

第三條　法律第二十號第三條但書ニ記載シタル期限後ノ請求ニ付テハ認定及證明ヲ與フヘカラス

第四條　第一條ニ記載シタル軍法會議ニ於テ訴訟記錄ヲ保存セサルトキハ之ヲ保存スル軍法會議ニ認定及證明ノ請求書ヲ移送シ其旨ヲ請求者

ニ告知スヘシ
移送ヲ受ケタル軍法會議ニ於テハ前二條ニ從ヒ處分スヘシ

◉犯罪ノ認定及收祿ノ證明ヲ受ケントスル者ノ取扱方

（明治二十七年六月海軍省令第五號）

第一條　明治二十七年法律第二十號第三條ニ記載シタル事務引繼ヲ受ケタル官廳ハ海軍ニ在テハ東京軍法會議トス

第二條　犯罪ノ認定及收祿ノ證明ヲ受ケントスル者ハ其請求書ニ左ノ事項ヲ記載シ本籍地ノ市町村若クハ區戸長ノ戸籍上ノ證明書ヲ添ヘ且處刑ノ宣告又ハ收祿ニ關スル公文書等アルモノハ之ヲ添付スヘシ

一　處刑ヲ宣告シタル軍衙
一　受刑者受刑當時ノ族籍氏名

第三條　東京軍法會議ニ於テ犯罪ノ認定及收祿ノ證明ニ付請求ヲ受ケタルトキハ訴訟記錄ニ依リ之ヲ調査シ認定及證明ヲ與フヘシ

認定及ヒ證明書ニハ受刑者ノ族籍氏名認定及證明ノ年月日及軍法會議ノ名ヲ記載シ議印ヲ捺スヘシ

認定及證明ヲ與ヘサルトキハ其旨ヲ請求者ニ告知スヘシ

第四條　法律第二十號第三條但書ニ記載シタル期限後ノ請求ニ付テハ認定及證明ヲ與フヘカラス

◉犯罪ノ認定及收祿ノ證明請求方

（明治二十七年六月陸軍省告示第七號）

國事ニ關スル犯罪ノ爲メ諸祿ヲ沒收セラレタル者又ハ其家名繼承人ニ於テ明治二十七年法律第二十號及陸軍省令第十二號ニ依リ犯罪ノ認定及收祿ノ證明ヲ受ケントスルトキハ其請求書ニ左ノ事項ヲ記載シ本籍地ノ市長村長若クハ區戸長ノ戸籍上ノ證明書ヲ添ヘ且處刑ノ宣告又ハ收祿ニ關スル公文書等アルモノハ之ヲ添付スヘシ

一　處刑ヲ宣告シタル軍衙
一　受刑者受刑當時ノ族籍氏名

◉犯罪ノ爲メ沒祿セラレタル者及其繼襲人ニ國庫金給付ニ付犯罪ノ認定及收祿ノ證明ニ係ル取扱手續

（明治二十七年六月司法省告示第二七號）

本年法律第二十號及司法省令第六號ニ據リ國庫ニ關スル犯罪ノ爲メ諸祿ヲ沒收セラレタル者又ハ其家名繼承人ニ於テ裁判所ヨリ犯罪ノ認定及收祿ノ證明ヲ受ケントスルトキハ其請求書ニ左ノ事項ヲ記載シ且處刑ノ宣告又ハ收祿ニ關スル公文書等アル者ハ之ヲ添付スヘシ

一　處刑ヲ宣告シタル軍衙
一　受刑者受刑當時ノ族籍氏名

◉檢視上變死者解剖ノ件

（明治十年二月太政官第二十二號布告）

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事（檢事派出ナキ地方ハ其地方長官）ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルコトヲ得

◉官廳內、工場等ニテ變死傷者檢視處分ノ件

（明治十三年二月太政官第十四號達）

官廳內竝ニ官有ノ工場及ヒ艦船等ニテ變死ニ係ル者及ヒ重傷死ニ至ル者ハ近傍ノ警察所ヘ報知シ檢視ヲ受クヘシ

但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限リ處分アリシ警察官ノ檢視ヲ要セサル分及ヒ遠洋航海中ニ係ルモノハ此限ニアラス

◉死亡診斷書死體檢案書竝死產證書死胎檢案書記載事項ノ件

（明治三十三年九月內務省令第四十一號）

第一條　醫師ハ其ノ作爲スヘキ死亡診斷書又ハ死體檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　死亡者ノ氏名、其ノ職業及其ノ出生ノ年月日
二　病死者ニ在テハ其ノ病名、自殺者ニ在テハ其ノ手段、自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其ノ種類
三　發病ノ年月日
四　死亡ノ年月日時及其ノ場所

第二條　醫師及產婆ハ其ノ作爲スヘキ死產證書又ハ死胎檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　父ノ氏名、職業、私生子ニ在テハ母ノ氏名、職業及父母ノ出生ノ年月日
二　死胎ノ嫡出子庶子私生子別及男女別
三　經產ノ月數
四　分娩ノ年月日時及其ノ場所

附則

本令ハ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

◉醫師產婆ノ作爲スヘキ死亡診斷書死體檢案書死產證書死胎檢案書ノ樣式及記載方ノ件

（明治三十三年十月內務省訓令第二十八號）

第一　死亡診斷書、死體檢案書樣式

死亡診斷書（死體檢案書）

一　氏名
二　男女ノ別
三　出生ノ年月日
四　死亡者ノ職業（職業ナル職業家計主ナル職業）
五　病死、自殺、其他ノ變死、中毒ノ別（病死、自殺、其他ノ變死者ニ在テハ其ノ種類）
六　病名、（自殺者ニ手段及中毒者ニ在テハ發病ノ年月日（變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク）
七　死亡ノ年月日時
八　死亡ノ場所
九　右證明（檢案）候也

年　月　日　醫師　住所　何某　印

記載方

一　戸籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
二　經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
三　自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齡何歲ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
四　死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ、

死亡者若シ幼者、老者婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ

自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

五　病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤ申告ナルヤノ別ヲ記スヘシ

六　病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス

同時ニ二種以上ノ疾病ニ罹リ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ續發病若クハ胎後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ

全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ

自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之ハ縊死、刃傷、入水等ノ別ヲ記スヘシ

七　變死者及申告者ニ在テハ其種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒、「アルコール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ

病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

八　病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラス死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニ在テ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

九　死亡ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地（番戸、番屋數）ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ漂著セル死體トナルトキハ其漂著シタル場所ヲ記スヘシ此ノ場合ニハ其下ニ漂著ト記スルヲ要ス

第二　死産證書、死體檢案書

樣式

死産證書（死胎檢案書）

一　父ノ氏名（私生子ノ場合ニ在テハ母ノ氏名）

二　父ノ出生ノ年月日（私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク）

三　母ノ出生ノ年月日（私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク）

四　父ノ職業（私生子ノ場合ニ在テハ母ノ職業）

五　姙娠ノ月數

六　分娩ノ年月日時

七　分娩場所

八　死胎ノ男女ノ別

九　死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明（檢案）候也

年　月　日　　住所　醫師（産婆）　何某　印

記載方

一　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ

二　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

三　死胎ノ何タルニ拘ハラス其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

四　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ

五　姙娠ノ月數ノ受孕ヨリ分娩ニ至ル姙娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト做シタル第幾月日ニ該當スルカヲ記スヘシ

六　分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ書スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

七　分娩ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地（番戸、番屋數）ヲ記スヘシ

八　死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ

九　死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ

◉帶勳者犯罪屆出方

（明治十五年三月司法省丙第九號達）

帶勳者罪ヲ犯シ公權ヲ剝奪又ハ停止スルノ言渡アルトキハ其罪狀並刑名宣告文ノ寫ヲ以テ當省ヘ可屆出此旨相達候事

但勳章公權ノ者ハ勳記勳章並年金證共收奪ノ上當省ヘ可差出候事

◉勅奏任官華族帶勳有位者ノ犯罪奏聞ノ件

（明治十五年三月司法省丙第十一號達）

今般太政官ヨリ別紙ノ通リ御達相成候條此旨相達候事

（別紙）

（明治十五年三月二十二日太政官達）

勅奏任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ當該檢察官ヨリ司法卿ニ具狀シ司法卿共罪由ヲ奏聞シテ處分スヘシ但現行犯罪ニ係ル者ハ處分シテ後ニ奏聞スルコトヲ得此旨相達候事

◉同上ノ件

（明治十六年四月司法省第一八三四號丙訓）

客年當省丙第十一號ヲ以テ相達候太政官達但書現行犯ノ場合ニ於テ疑例ヲ言渡濟ノ上其申候向モ有之候處右但書ニ現行犯ニ關シテハ奏聞ヲ待タス檢察官ニ於テ急速ヲ要スル處分ヲナスコトヲ許スモノニシテ其裁判ノ如キハ固ヨリ奏聞ノ後ニアラスヘキモノナレハ檢察官ハ一面急速ヲ要スル處分ヲナシ一面當省ヘ具狀スヘキ儀ト心得ヘシ此旨及內訓候事

◉勅奏任官華族有位帶勳者犯罪取扱方

（明治十六年五月司法省達丙第二號）

勅奏任官華族竝ニ有位帶勳者犯罪取扱方ノ儀ニ付別紙ノ通太政官ヘ相伺候處ノ朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

但御指令文中十五年三月二十二日附御達ハ同年當省丙第十一號達ト可相心得事

（別紙）

勅奏任官華族犯罪取扱方ノ儀伺

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪取扱方ノ儀ニ付テハ明治十五年三月二十二日附ヲ以テ御達有之候處其罰金ニ處スヘキモノト雖モ或ハ本人ヲ出廷セシムル場合モ有之且又拘留ノ刑ニ處シ及ヒ罰金科料ヲ納完セサル節ハ則換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ニ處ス可キ儀モ有之候條右本人ヲ出廷セシムル場合及ヒ換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スヘキ時ハ矢張其時々奏聞可致儀ト相心得可然哉此段相伺候也

明治十六年三月三十一日　　司法卿　大木喬任

太政大臣三條實美殿

（朱書）

伺ノ通

但十五年三月二十二日附其省ヘ達中帶勳有位者トアルハ勳六等以上從六位以上ヲ指シタル儀ト可相心得事

明治十六年五月八日

◉叙功者犯罪取扱方ハ勳六等以上ノ者ト同一ニスヘキ件

（明治二十八年九月司法省民刑乙第五六九號訓令）

叙功者犯罪取扱方ハ勳六等以上ノ者ト同一ニスヘシ

右訓令ス

◉帶勳者叙功者竝ニ從軍記章ヲ有スル者ノ上告事件ノ判決確定シタルトキ第二審裁判所ノ長ヨリ賞勳局總裁ニ具申書ヲ提出スヘキ件

（明治二十九年五月司法省民刑乙第四四九號通牒）

帶勳者叙功者竝ニ從軍記章ヲ有スル者ノ犯罪事件判決確定シタルトキハ明治十九年閣令第十九號第二條及明治二十九年閣令第三號ニ依リ賞勳局總裁ヘ具申可相成處上告審ニ於テ判決確定シタル事件ニ付テハ該具申書ハ第二審裁判所ノ長ヨリ御差出相成候樣致度此段及御通牒候也

◉從軍記章ノ褫奪及佩用停止取扱手續ノ取扱上變更事項ノ件

（明治三十二年七月司法省民刑乙第一九五九號通牒）

本年勅令第三百九號ヲ以テ從軍記章褫奪及佩用停止取扱手續ニ關スル件公布相成候ニ付取扱上左記ノ事項ニ變更ヲ生スルコトニ相成候條第一從來明治二十七八年從軍記章受領者ノ犯罪ニ限リ具申ヲ要シタルモ今後ハ一般ノ從軍記章受領者ノ犯罪ニ付具申ヲ要ス

第二　從來從軍章受領者勾留セラレタルトキハ勾留具申ヲ要シタルモ今後ハ勾留具申ヲ要セス

第三　從來從軍記章受領者重罪ヲ犯シタルトキハ從軍記章ヲ收奪スルコトヲ得サリシモ今後ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノノ例ニ依ルコトトナリタルニ付例決確定ノ具申ヲ爲シ從軍記章褫奪狀ニ依リ記章證狀ヲ收奪スルコトヲ要ス

右ハ勳令ヨリ生スル當然ノ結果ニ過キサレトモ從來ノ取扱振モ有之義ニ付爲念此段及通牒候也

◉帶勳者犯罪事件ノ具申書記載方

（明治三十三年十一月司法省民刑乙第一七五六號通牒）

帶勳者竝從軍記章受領者ノ犯罪事件賞勳局總裁ヘ具申ノ儀ニ付テハ明治十九年閣令第十九號及明治三十二年勅令第三百九號ノ規定有之候處實際ノ取扱上往々行違ヲ生シ之カ爲メ關係各廳ノ手數ヲ要スルコト少カラス候條左記ノ事項御注意相成候樣致度此段及通牒候也

一　公訴ノ提起前又ハ提起後帶勳者（叙功者ヲ包含ス以下同シ）ヲ勾留シタルトキハ明治十九年閣令第十九號第八條及第九條ニ依リ勾留ノ具申ヲ爲スヲ可キ儀ニ有之候處往々其具申ヲ遺漏シ例決確定ノコトノミヲ具申セラルル向有之候ニ付勾留ノ即時右具申相成度尙ホ勾留ノ當事該具申ヲ遺漏シタル事件ニ付テモ後日之ヲ發見セハ直ニ具申ノ手續相成度事

二　從軍記章受領者ノ犯罪ニ付テハ明治三十二年勅令第三百九號ニ依リ勾留ノ具申ヲ要セサル儀ニ候處往々同具申書ヲ進達セラルル向有之全ク無用ノ手續ニ有之候條單ニ有罪ノ例決確定シタル場合ニ於テノミ具申相成度事

三　帶勳者ニ對シ勾留ノ具申ヲ爲シタル後ニ豫審免訴ノ決定又ハ有罪、無罪ノ例決確定シタルトキハ明治十九年閣令第十九號第二條及第八條第二項ニ依リ其旨具申セラルヘキ儀ニ有之候ニ付御注意相成度事

十　具申書下例決書寫トニ於テ氏名ノ相違セルモノ往々有之候ニ付御注意相成度事

十一　數人ニ對シ勾留具申又ハ裁判確定ノ具申ヲ爲ス場合ニ於テ二人以上ヲ併合シテ同一具申書ニ記載セラルル向有之右ハ處理上差支ノ原少カラス候ニ付總令同時ニ勾留又ハ例決ヲ決爲シタルトキト雖モ各別ニ具申相成度事

十二　裁判確定ノ具申ヲ爲ス場合ニ於テハ其具申書ニ確定シタル旨御明記相成度事

十三　重罪ノ刑ニ處セラレタル帶勳者ハ明治十九年閣令第十九號第二條及七刑法第三十一條、第三十二條ニ據リ當然勳章年金ヲ褫奪セラルヘキモノニ有之此場合ニ於ケル勳章勳記功記年金證等ノ收奪ハ附加刑ノ執行處分ニ屬シ候條帶勳者ニ對シ重罪ノ例決確定シタルトキハ其裁判所ノ檢事ハ直ニ收奪ノ手續ヲ了シ當省ヘ御差出相成度事

但從軍記章受領者ニ付テハ重罪ノ場合ニ於テモ明治二十二年勅令第三百九號ニ依リ重禁錮ニ處セラレタル場合ト同一ノ取扱ニ依ルヘキ儀ニ付司法大臣ノ訓令ヲ待チテ記章證狀收奪方御取計相成度事

十四　收奪執行ノ場合ニ於テ本人ノ受書又ハ手續書等御送付相成候際「別紙受書相添」又ハ「別紙手續書ノ通」等ト記載アルニ拘ハラス其受書又ハ手續書等添付漏ノモノ有之候爲メ屢々無用ノ手數ヲ要シ候元來此等ノ書面ハ必ラスシモ御送付相成ルニ及ハサル儀ニ付成ル可ク手數ヲ省キ候樣致度事

十五　褫奪狀ヲ傳達スルニ際シ本人ニ於テ勳章勳記功記年金證又ハ從軍記章同證狀等ヲ紛失シ到底收奪スルコト能ハサル場合ニ於テ往々褫奪狀ヲ返戻セラルル向有之候處勳章勳記功記年金證從軍記章同證狀等ハ縱令紛失セルモ褫奪狀ハ必ス傳達ス可キ儀ニ有之而シテ褫奪狀ヲ傳達スルモ收奪ノ手續ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ詳細其事由ヲ御上申相成度若シ本人所在不明ニシテ傳達方ヲモ取計フコト能ハサルトキハ其所在判明スルマテ褫奪狀ハ其儘留置其旨御上申相成度事

十六　具申書又ハ勳章勳記功記年金證從軍記章同證狀等ヲ直接賞勳局ヘ

發送セラルル向有之候處右ハ總テ當省ヲ經由スル樣御取計相成度事
以上

◉有位者犯罪處分ノ結果具申ノ件

（明治三十四年三月司法省民刑甲第三七號訓令）

有位者犯罪處分ノ結果具申ノ儀ニ關シ別紙ノ通裁判所ヘ訓令セリ

（別紙）

司法省民刑甲第三七號（明治三十四年三月司法大臣訓令）

有位者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其判決確定シタルトキハ明治十五年當省丙第十一號達及明治十六年當省丙第二號達ニ依リ檢事ヨリ當省ニ具申シタル事件ナルト否トニ拘ハラス最終ノ處分ヲ爲シタル裁判所ノ長（區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ヲ包含ス）ヨリ宣告書ノ謄本（上訴ニ因リ完結シタル事件ニ付テハ各審級ニ於ケル宣告書）ヲ添ヘ當省ヲ經由シテ內閣總理大臣ニ具申ス可シ

但本文ノ手續ヲ爲シタル事件ニ付テハ明治二十八年當省民乙第二六四號訓令ニ定メタル具申ヲ爲スニ及ハス

◉大赦施行手續

（明治二十二年二月司法省訓令第三號）

本年勅令第十二號ヲ以テ大赦ノ儀公布相成候ニ付テハ右施行方左ノ手續ニ從フヘシ

大赦施行手續

第一條　本年勅令第十二號ニ依リ救免ヲ得ヘキ罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否トヲ問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否トヲ別タス總テ救免ヲ得ル者トス

第二條　救免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ其言渡未タ確定セサル者言渡確定スルモ未タ其執行ニ著手セサル者及ヒ其執行中ニ係ル者ニ對シテハ原裁判所ノ檢察官ヨリ速ニ救免ヲ得タル旨ヲ通知シ在監中ノ者ハ之ヲ救免スヘシ

第三條　數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者若クハ數個併料セラレタル者又ハ刑期限內再ヒ罪ヲ犯シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者救免ヲ得タルニ因リ更ニ救免ヲ得サル罪ノ刑ヲ執行スヘキトキハ救免ヲ得タル罪ニ付執行シタル刑ヲ通算ス

若シ數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者ノ裁判言渡（裁判言渡中救免ヲ得タル罪ノミニ付刑期金額ヲ示シ其他ノ罪ニ付テハ之ヲ示サルノ類ヲ爲シタル裁判所ニ非ラサルヲ謂フヘシ）アルトキハ檢察官ヨリ刑ノ言渡

第四條　救免ヲ得ヘキ囚人原裁判所ノ管轄地外ノ監獄ニ在ルトキハ典獄ヨリ最近ノ始審裁判所（本廳又ハ支廳）檢察官ニ通知スヘシ

通知ヲ受ケタル檢察官第二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ原裁判所ノ檢察官ニ通知スヘシ

第五條　救免ヲ得ヘキ罪ニ付監視又ハ特別監視執行中ニ係ル者ハ執行地ノ警察官ヨリ原裁判所ノ檢察官ニ通知スヘシ若シ其執行地原裁判所ノ管轄地外ニ係ルトキハ最近ノ始審裁判所（本廳又ハ支廳）檢察官ニ通知スヘシ

通知ヲ受ケタル檢察官ハ監視又ハ特別監視ヲ免スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　救免ヲ得ヘキ罪ニ付豫審又ハ公判中ニ係ル事件ニ付テハ檢察官（上訴中ノ事件ニ付テハ其上訴ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官）ヨリ公訴ヲ拋棄スルノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　救免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終リタル者ヨリ救免ヲ得タル旨ノ證明ヲ請フトキハ檢察官ニ於テ事實ヲ精査シ證明ヲ與フヘシ

第八條　勅令第十二號第一條第十九項第二段及ヒ第二十項第二段ニ記載シタル犯罪ニ付テハ檢察官ニ於テ發行シタル新聞紙又ハ出版シタル文書圖畫ノ性質其他裁判言渡ニ認メタル事實ニ因リ政治ニ關スル意思ニ出テタル者ナルト否トヲ査定スヘシ

第九條　大赦ノ施行ニ付疑ヒアルトキハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十條　大赦ノ施行ニ關スル處分ハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ報告スヘシ

◉大赦放免ノ證明申出方

（明治二十二年二月司法省告示第二號）

本年勅令第十二號ニ依リ救免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終リタル者ニシテ救免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得ント欲スルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ申出ツヘシ

但明治十四年以前司法省佐賀、萩、九州、其他ノ臨時裁判所ニ於テ處斷ヲ受ケタル者ハ大審院檢事長ニ申出ツヘシ

◉特赦申立ノ書類ニ付注意

（明治二十五年十一月司法省參刑甲第四〇六號訓令）

特赦申立ノ書類ハ御前ヘ進奏スルモノナルニ付キ最モ愼密ノ取扱ヲ要スル儀ニ候處右書類中或ハ文字ヲ誤脫スルモノアリ字畫整正ナラサルモノアリ或ハ甲書面ト乙書面ト齟齬スルモノアリ其キニ至テハ特赦申立ノ理由ト事實ト適合セサルモノアリ其失體少カラス候條自今特赦申立書ニハ再犯ノ慮ナキコト自活ニ差支ナキコト等特赦ノ結果ニ必要ナル事實ヲ詳記シ囚人ノ行狀錄等ニ至ル迄完全ニ調整シ若シ止ムコトヲ得ス文字ノ變更增減ヲ爲シタルトキハ訴訟書類ノ例ニ倣ヒ其變更增減ヲ表示シ前顧ノ如キ不都合ナキ樣注意スヘシ

◉差押物一年間公告ノ後處分方ノ件

（明治十五年五月司法省丙第二十號達）

犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ依テ得タル物件ハ本案ノ裁判ヲ言渡ス迄ニ所有主ヲ發見セサルトキハ刑法第四十三條第四十四條ニ從ヒ本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ言渡ヲ爲スヘシト雖モ右ノ物件ハ之ヲ其裁判所所在ノ地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間（公告シタル日ヨリ起算ス）ニ所有主ヲ發見シタルトキハ檢察官ヨリ直ニ之ヲ還付ス可シ此旨爲心得相違候事

但檢察官ニ於テ保存スヘカラサル物件又ハ保存スルニ付費用ヲ要スヘキ者ト思料スル時ハ公賣ノ處分ヲ爲シタル上其代金ヲ保存シ置クヘシ

◉差押物所有主ヘ假下渡ノ件

（明治十五年六月司法省達丙第二十四號）

犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件ハ轉輾シテ他人ノ手ニ在リ及ヒ沒收スヘキモノ若クハ證憑ノ爲メ官ニ保存シ置クヲ必要トスルモノヲ除クノ外ハ裁判官檢察官司法警察官ニ於テ實際ノ便宜ニ因リ裁判言渡アルマテ其所有主ヘ假ニ之ヲ下渡シ置クコトヲ得ヘシ此旨爲心得相違候事

◉證據物件ニシテ所有主不分明ノ物處分ノ件

（明治二十六年六月司法省會檢甲第四四四號通牒）

犯罪ニ關スル證據物件トシテ裁判所又ハ檢事局ニ領置シタルモノヲ還付スヘキ場合ニ於テ其所有主不分明ナル等ニ因リ之ヲ還付スル能ハサルモノ處分方ノ義本年六月二日本省刑甲第九〇號ヲ以テ次官ヨリ各檢事ヘ通牒之次第モ有之候ニ付テハ物件處分濟ノ後所有者ヨリ還付等申出候節本人ヘ賠償セサルヲ得サル場合モ可有之然ルニ從來裁判所ニテ沒收物件ヲ處分スルニ些少ノモノハ何品外何點トシテ取纏メ賣却シ來リ候向モ有之

然ルトキハ他日本人ヘ賠償ニ際シ差支ヲ生シ候ニ付右通牒ニ依リ記分スルモノハ一物件毎ニ評價セシメ置却候樣御取計相成度此段爲念及御通牒候也

◉船長運轉手機關手ノ職務上ノ過失懈怠アリタルトキハ刑事證憑ノ充分ナルモノ外海事審問ヲ先ニシ公訴ヲ後ニスヘキ件

（明治二十六年三月司法省民刑甲第六七號通知）

船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務上ノ過失懈怠アリタルトキハ刑事證憑ノ充分ナルモノ外成ル可ク海事審問ヲ先ニシ公訴ノ提起ヲ後ニスル儀ニ付キ別紙甲號ノ通遞信大臣ヨリ協議有之乙號ノ通回答相成候條此段及御通知候也

（別紙）甲號（明治二十六年三月遞信大臣ヨリ司法大臣宛）

船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ航海若クハ碇泊中過失懈怠ニ因リ雖破衝突等ノ事件ニ付公訴ノ提起アリタルトキハ海事審問ノ時機ヲ失シ不都合少ナカラサル場合ヲ生シ候就テハ此等ノ事件ニ過シ刑事證憑ノ充分ナルモノハ格別ナレトモ可相成ハ海事審問ヲ先ニシ公訴ノ提起ヲ後ニスルヲ以テ便宜ト存候間貴省ノ御意見如何可有之歟此段及御協議候也

乙號（明治二十六年三月遞信大臣ヨリ司法大臣宛）

明治二十六年三月九日付發遞第六五號ヲ以テ船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ航海若クハ碇泊中過失懈怠ニ因リ雖破衝突等ノ事件アリタルトキハ海事審問ヲ先ニシ公訴ノ提起ヲ後ニスルヲ以テ便宜ト存候間貴省ノ御意見如何可有之歟此段及御協議候也

（別紙）甲號（明治二十六年三月遞信大臣ヨリ司法大臣宛）

船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者職務上ノ過失懈怠アリタルトキハ刑事證憑ノ充分ナルモノノ外成ル可ク海事審問ヲ先ニシ公訴ノ提起ヲ後ニスル儀ニ付キ別紙甲號ノ通遞信大臣ヨリ協議有之乙號ノ通回答相成候條此段及御通知候也

（別紙）甲號（明治二十六年三月遞信大臣ヨリ司法大臣宛）

船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ航海若クハ碇泊中過失懈怠ニ因リ雖破衝突等ノ事件ニ付公訴ノ提起アリタルトキハ海事審問ノ時機ヲ失シ不都合少ナカラサル場合ヲ生シ候就テハ此等ノ事件ニ過シ刑事證憑ノ充分ナルモノハ格別ナレトモ可相成ハ海事審問ヲ先ニシ公訴ノ提起ヲ後ニスルヲ以テ便宜ト存候間貴省ノ御意見如何可有之歟此段及御協議候也

乙號（明治二十六年三月遞信大臣ヨリ司法大臣宛）

明治二十六年三月九日付發遞第六五號ヲ以テ船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ航海若クハ碇泊中過失懈怠ニ因リ雖破衝突等ノ事件アリタルトキハ海事審問ヲ先ニシ公訴ノ提起ヲ後ニスルヲ以テ便宜ト存候間貴省ノ御意見如何可有之歟此段及御協議候也

◉要塞傍近地檢證ニ關スル件

（明治三十二年七月司法省民刑甲第一三七號通牒）

要塞傍近地檢證ニ關スル件ニ付別紙甲號ノ通司法大臣ヨリ陸軍大臣ヘ照會相成候處乙號ノ通回答有之候條爲御心得往復書寫相添此段及通牒候也

（別紙）

甲號

司法省民刑甲第一〇五號（明治三十二年五月司法大臣ヨリ陸軍大臣宛）

要塞傍近地檢證ニ關スル件ニ付別紙寫ノ通廣島控訴院檢事長一瀬勇三郎ヨリ上申候處要塞近傍ニ於ケル水陸ノ形狀ヲ測量模寫撮影筆記ヲ爲スニ付テハ明治三十一年勅令第百七十六號ノ禁令モ有之候ヘトモ豫審判事檢事檢證ノ爲メ其一部ノ形狀ヲ測量模寫撮影筆記スルハ該勅令ノ禁令範圍外ニ屬スル儀ト思考候ニ付其旨訓令可致見込ニ有之候ヘトモ一應貴省ノ御意見致承知度此段及御照會候也

乙號

陸軍省送甲第一〇一七號ノ一（明治三十二年六月陸軍大臣ヨリ司法大臣宛）

送甲第一〇一七號ノ一部ノ形狀ヲ測量模寫撮影筆記スルハ明豫審判事檢事等檢證之爲メ水陸ノ形狀ヲ測量模寫撮影筆記スルヤ否之義ニ付照會之趣了承右ハ來意之通禁令範圍外ニ屬スル意見ニ有之候此段及回答候也

丙號

司法省刑甲號一二五號（明治三十二年六月司法大臣ヨリ陸軍大臣宛）

要塞傍近地檢證ニ關スル件ニ付本月六日送甲第一〇一七號ノ一ヲ以テ御回答ノ趣領承右ニ依リ廣島控訴院檢事長ヘ別紙ノ通訓令致シ置候處本件ハ要塞司令官ノ了知ヲ要スル儀ト思考候ニ付同官ヘモ御訓令相成候樣致度此段及照會候也

丁號

陸軍省送甲第一一二七號（明治三十二年六月陸軍豫審判事檢事要塞傍近地檢證ニ關スル件要塞司令官ヘ訓令之義ニ付民刑甲第一二五號ヲ以テ御照會之趣了承右ハ本月六日送甲第一〇一七號ニヲ回答之當時關係官衙ヘハ既ニ訓令置候間右樣了知相成度此段及回答候也

◉軍機保護法中ノ祕密ニ關スル件

（明治三十二年八月司法省民刑甲第一七四號通牒）

軍機保護法中軍事上祕密ニ關スル件ニ付別紙寫ノ通陸軍次官ヨリ內牒有之候條爲御參考此段及通牒候也

（別紙）

陸軍省送甲第一三三七號（明治三十二年七月陸軍次官ヨリ司法次官宛）

今般軍機保護法發令相成候處同法中軍事上祕密ノ文字ノ意義汎濶ナルモ右ハ專ラ國防及作戰ノ利害ニ重大ノ關係ヲ有スルモノニ就テノ謂ニシテ祕密ヲ要スル總テノモノニ就ヒテノ謂ヒニ非サルコトノ立案ノ當時御協議ニ及置候通ニ有之而シテ其無形ニ屬スル諸般ノ事項ハ豫想シテ之ヲ列擧スルヲ得スト雖モ其有形ニ屬スルモノヽ內閣書ニ至テハ略之ヲ豫定シ置クコトヲ得ヘキニ因リ當部內ニ於テハ別紙記載ノ如キモノヲ以テ所謂軍事上祕密ニ屬スルモノトスルノ內議ニ有之爲御參考及內牒候也

（別紙）

陸軍機密第號書

一、作戰計畫要領書、作戰計畫訓令、來年度作戰計畫訓令

二、大本營動員計畫令、動員計畫令、動員計畫訓令、要塞防禦計畫書、要塞動員計畫訓令、來年度陸軍各部隊動員計畫概見表、動員計畫調查報告規則、動員用兵器被服糧食器具材料貯藏區分表、動員計畫竝ニ作戰計畫ニ伴フ鐵道船舶輸送計畫ニ關スル圖書、兵器表、要塞彈藥備附規則

三、國防用防禦營造物ニ依ル圖書及要塞近傍一萬分一以上ノ梯尺圖

四、戰時大本營編制、戰時編制理由書、陸軍軍備擴張理由書

五、戰時軍用通信書（電信暗號、信號書ノ類）

六、諜報（最モ祕密ヲ要スルモノ）及祕密ヲ要スル外國地圖

七、其他前諸項ト同一程度ノ祕密ヲ要スルモノ

◉要塞傍近地檢證ニ關スル件

（明治三十二年九月司法省民刑甲第二一〇號通牒）

本年七月一日當省民刑甲第一三七號ヲ以テ要塞傍近地檢證ニ關スル件ニ付及通牒置候處北後軍機保護法及要塞地帶法ノ發布アリタルヲ以テ更ニ司法大臣ヨリ別紙甲號ノ通陸軍大臣ヘ乙號ノ通海軍大臣ヘ照會相成候處丙號ノ通陸軍大臣ヨリ丁號ノ通回答有之候條爲御心得往復文書寫相添此段及通牒候也

（別紙）

甲號

司法省民甲第一六五號（明治三十二年七月司法大臣ヨリ陸軍大臣宛）

要塞傍近地ノ檢證ニ關スル件ニ付テハ本年六月六日送甲第一〇一七號ノ一ヲ以テ御回答ノ次第モ有之候處本年法律第百四號ヲ以テ軍機保護法同一ヲ以テ御回答ノ次第モ有之候處本年法律第百四號ヲ以テ軍機保護法同第百五號ヲ以テ要塞地帶法發布セラレ水陸ノ測量模寫撮影錄取ニ關スル禁令ヲ設ケラレ候ヘトモ右禁令ハ明治三十一年勅令第百七十六號ト同一ノモノニ付民事刑事ノ檢證ニ付テハ前御回答ノ通等シク禁令ノ範圍外ニ屬スル儀ニ可有之ト思考候ヘトモ爲念御意見承知致度若御異見無之候ハ

ハ其旨要塞司令官ヘ更ニ御訓令相成候樣致度此段及照會候也

乙號

（明治三十二年八月司法）
（大臣ヨリ海軍大臣宛）

司法省民刑甲第一八二號

要塞地帶内ノ檢證ニ關スル件ニ付別紙甲號ノ通陸軍大臣ヘ及照會候處乙號ノ通回答有之候右ハ貴省ニ於テモ同一ノ御意見ニ可有之ト思考致候ニ付御異見無之候ハヽ其向ヘ御訓令相成候樣致度此段及照會候也

丙號

（明治三十二年八月陸軍）
（大臣ヨリ司法大臣宛）

陸軍省送甲第一三八一號

要塞地帶内ノ檢證ニ關スル件ニ付照會之趣了承右ニ付テハ民刑甲第一六五號ヲ以テ要塞地帶内ノ檢證ニ關スル件ニ付照會之趣了承於當省ハ異存無之候間來意之趣夫々訓令致置候此段及回答候也

丁號

（明治三十二年八月海軍）
（大臣ヨリ司法大臣宛）

官房第三六九五號ノ三

要塞地帶内民事刑事ノ檢證ニ關スル件ニ付甲第一八二號照會之趣了承右當省ニ於テハ異存無之候又軍港要港内ニ於テモ同樣ト被存候條併セテ夫々訓令致置候此段及回答候也

●軍機保護法ニ揭ケタル營造物内檢證ノ件

（明治三十四年六月司法省民刑甲第一一八號民刑局長通牒）

軍機保護法第五條ニ揭ケタル營造物内ノ檢證ノ件ニ付別紙甲號ノ通函館控訴院檢事長工藤則勝ヨリ請訓有之乙號ノ通訓令相成候條爲御參考此段及通牒候也

（別紙）

甲號

（明治三十四年五月二十七日行第五）
（七號工藤函館控訴院檢事長請訓）

要塞傍近地檢證ニ關スル件ニ付テハ明治三十二年七月一日付ヲ以テ民刑局長ヨリ通牒有之候得共軍機保護法第五條ニ所謂營造物内ニ入ルコトヲ得可キヤ否ノ點ニ付何等ノ訓令無之然ル處今回當管内ニ於テ右營造物内ニ入リタルモノト見得ベキヤ否ノ疑問ニ關スル案件有之檢證スヘキ必要ヲ生シ候得共如何セン曾テ許可ノ命令ナキニ因リ妄塞司令部ハ營造物内ノ檢證ヲ承諾セサルニ至レリ故ニ向後例之ハ營造物内ニ於ケル犯罪ニシテ被害者其營造物内ニ在ヲ死亡シ又ハ其犯罪ノ痕跡ヲ遺存シアリ且其行害者通常人ナルトキハ豫審判事又ハ檢事ハ即時檢證ヲ爲ス可キハ勿論公判判事ト雖モ檢證ヲ爲スニ非ラサレハ其按件ヲ判定シ難キ場合ニ於テハ右營造物内ト雖モ檢證シ得ヘキ樣致度茲ニ請訓候也

乙號

（明治三十四年六月二十五日司法省）
（民刑甲第一二八號司法大臣訓令）

函館控訴院
檢事長　工藤則勝

本年五月二十七日行第五七號請訓軍機保護法第五條ニ揭ケタル營造物内檢證ノ件ニ付陸軍大臣海軍大臣ヘ及照會候處別紙ノ通リ兩大臣ヨリ回答有之候條此旨相心得可シ

但本文檢證ニ付テハ司法警察官ヘモ此旨傳達ス可シ

右訓令ス

（別紙）

（明治三十四年六月十五日送）
（第七九〇號陸軍大臣回答）

民甲第一〇七號ヲ以テ營造物内ノ檢證ニ關シ御照會ノ趣了承右ニ付テハ當該師團司令部ヘ別紙寫ノ通相達置候此段及回答候也

（陸軍省回答別紙）

第一師團司令部

左之通要塞司令官ニ示達スヘシ

明治三十四年六月十五日

陸軍大臣男爵　兒玉源太郎

判事檢事及司法警察官ヨリ檢證ノ爲メ陸軍ノ所管ニ係ル國防用防禦營造物ニ出入ノ承認ヲ請求シ來リタルトキ要塞司令官ニ於テ事急ヲ要シ且他ニ特別ナル差支ナシト認ムル場合ニハ直ニ其請求ヲ承認シ否ラサル場合ニハ事由ヲ具シ本大臣ニ報告スヘシ又直ニ承認シタルトキハ事由ヲ具シ本大臣ノ指揮ヲ待ツヘシ又直ニ承認シタルトキハ事由ヲ具シ本大臣ニ報告スヘシ

（明治三十四年六月十日海總機密第二〇二號ノ三海軍大臣回答）

軍機保護法第五條ニ揭ケタル營造物内ノ檢證ニ關シ民甲第一〇七號ヲ以テ御照會ノ趣異存無之別紙之通夫々訓令致置候此段及回答候也

追テ不得止場合之外該檢證處分ヲ爲サス且圖面作成ノ必要有之場合ニ於テモ必要以外ニ精密ニ至ラサル樣其筋ヘ訓令相成度此旨申添候也

（海軍省回答別紙）

民事刑事ノ檢證ノ爲メ判事又ハ檢事カ軍機保護法第五條ニ記載スル防禦營造物内ニ入ルハ同禁令ノ適圍外ニ付此旨心得ヘシ

三十四年六月十日

海軍大臣

各鎭守府司令長官
要港部司令官　宛
臨時海軍建築部長

●罰則ノ違犯者ヲ訴出ル者賞與給付方

（明治十三年二月司法省丙第一號達）

諸罰則中違犯者ヲ見届ケ訴出ル者ハ非賣トシテ科料又ハ罰金ノ半高ヲ給付スト之アルハ其違犯者無力ニシテ科料又ハ罰金ノ全部ヲ完納スル能ハサルトキハ實地徵收セシ金高ノ半額ヲ給付スル儀ト心得ヘク此旨相達候事

但本文ニ抵觸セル從前ノ伺指令ハ總テ取消候事

●贓物等官ニテ送致中途又ハ領置中紛失盜難ノ時處分方

（明治十三年二月司法省丙第六號）

贓物等官ニ於テ送致中途又ハ領置中遺失及ヒ盜難ニ罹リタルトキ賠償處分ノ儀ニ付甲號ノ通若手續ヨリ伺出太政官ヘ伺ノ上乙號ノ通及指令候條之レニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消候爲心得此旨相達候事

甲號

領置中ノ金品盜難等ニ罹リタル處分方ノ儀ニ付伺

一盜難等ノ贓金品及ヒ罪囚ノ所持金ヲ官廳ニテ領置中盜難ニ罹リ其盜犯捕ニ就クモ貧力ナキ時ハ國ヨリ事主ノ損失ニ歸ス可キ筋無之ニ付官之ヲ辨償ス可キ哉

一前條盜難ニ罹リタルノ形跡明瞭ニシテ盜犯未タ捕ニ就カス又ハ該金品ヲ送致途中遺失シタルニ其證據顯然シテ未タ得者ノ無之如キハ其監守者ハ相當ノ處分ニ及ヒ事主ヘハ官ヨリ之ヲ辨償ス可キ哉

右處分方ニ疑義ヲ生シ候ニ付至急御指令有之度此段相伺候也

乙號　指令三月三日

兩條共伺ノ通

●裁判言渡書謄本、拔書費用

（明治十四年十二月司法省甲第七號達）

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者ハ用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨相達候事

●公訴裁判費用裁判所ヨリ支辨ノ件

（明治十五年七月司法省達丙第二十六號）

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者ノ用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨相達候事

裁判所ヨリ支出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事
但從前ノ指令內訓本文ニ抵觸スル件々ハ取消候事

◉警察署ノ處分ニ屬スル費用ハ裁判費ニ立タサル件

（明治十六年十一月司法省達丙第九號）

刑事ニ付警察官ノ處分ニ屬スル費用ハ起訴ノ前後ニ拘ハラス裁判費用ニ相立タサル者トス然レトモ豫審判事ノ囑托ヲ受ケ豫審處分ヲ爲シタル場合ハ此限リニアラス此旨爲心得相達候事
但本文ニ抵觸スル指令內訓ハ取消候事

◉刑事ニ付警察官ノ處分ニ屬スル費用ノ件

（明治十七年二月內務省達乙第十八號）

刑事ニ付警察官ノ處分ニ屬スル費用ノ儀ニ指令又ハ訓示及歷次第モ有之候處豫審判事ノ囑托ヲ受ケ豫審處分ヲ爲シタル場合ヲ除ク外ハ起訴ノ前後ニ拘ハラス裁判費用ニ相立タサル儀ニ付之ニ矛盾スル指令及訓示ハ都テ取消候條此旨爲心得相達候事

◉罰金科料等ノ納人各地ニ散在ノ時徵收納付方

（明治十九年十二月司法省訓令第三十號）

罰金科料等ノ納人各地ニ散在シタルトキハ歲入取扱順序第十六條ニ依リ徵收方ヲ他ノ裁判所ヘ囑託シ取扱ハ本年當省令受託裁判所ノ收入ニ組込ミ納付スヘシ

◉假出獄者ノ罰金ヲ完納セス他ニ轉シタル場合ニ於ケル處分方ノ件

（明治二十年十二月內務省警保局長通牒）

司法大臣ヨリ控訴院檢事長始審裁判所檢事ヘ左ノ通リ內訓相成候條爲御心得此段及御通牒候也

控訴院檢事長　始審裁判所檢事

重輕懲鋼ニ處セラレ罰金ヲ附加セラレタルモノ未タ其罰金ヲ納完セスシテ主刑ニ付假出獄ヲ得他ノ地方ヘ轉住シタル場合ニ於テハ前ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ヨリ犯人現住地ノ檢察官ニ囑托シテ其罰金徵收若クハ換刑ノ處分ヲ爲サシムヘシ

右內訓ス

◉罰金及科料徵收方ノ件

（明治二十四年七月司法省刑甲第三一九號訓令）

罰金及科料ノ言渡確定シタルトキハ納完期限內ト雖モ其徵收ニ着手シ該期限ヲ過クルモ可成之ヲ徵收スルノ手續ヲ爲シ仍ホ納完セサル者ニ對シテハ强制執行ヲ爲サス直ニ換刑處分ヲ請求スヘシ
但シ本文ニ抵觸スル從前ノ指令內訓等ハ取消ス

◉附帶ノ私訴裁判言渡ノ執行

願書ニ印紙貼用有無ノ件

（明治二十一年二月司法省民第一〇七號通牒）

刑事附帶ノ私訴ニ對シ裁判アリシ若ハ裁判言渡ノ執行願書ニ訴訟用印紙貼用有無ノ儀ニ付農商務省山林局長ヨリ照會ニ對シ長官ノ決裁ヲ經テ別紙之通及回答候條爲御心得此段及御通牒候也

（別紙）（司法省民事局長ヨリ農商務省山林局長宛）

本月廿一日附ヲ以テ客歲十二月廿三日附民第一四三號訴訟用印紙貼用方ノ儀ニ付及御回答候書面第二項ニ係ル裁判執行願ヲ爲ス場合ハ素ト治罪法ヲ以テ支配セラレタルモノニ付其執行願書ニハ訴訟用印紙貼用ニ及ハサル儀ニ可有之被同法第四百六十九條ニ民事ノ規則ニ從フトアルヲ見レハ或ハ訴訟用印紙貼用ヲ要スヘキ樣ニモ相見候ニ付乍御照會ノ趣了承右刑事ニ附帶スル私訴ノ裁判言渡ニ對シ上訴ヲ爲ス場合ニ於テハ治罪法ノ手續ニ依ルヲ以テ訴訟用印紙貼用ヲ要セスト雖モ其裁判言渡ノ執行ニ付テハ治罪法第四百六十九條ニ民事ノ規則ニ從フトアルニ據リ執行願書ニ於テハ該印紙貼用ヲ要スル儀ト致思考候此段及御回答候也

◉繰替拂ヲ爲シタル刑事裁判費用二十三年度ヨリ經費ノ仕拂ニ相立テ徵收セシモノハ歲入ト爲スノ件

（明治二十三年三月司法省會檢甲第二一五號訓令）

從來繰替拂ヲ爲シ來リタル刑事裁判費用ハ二十三年度ヨリ經費ノ仕拂ニ相立被告人ノ負擔ニ歸シ徵收セシモノハ歲入トシテ相當ノ手續ヲ以テ金庫ヘ拂込ムヘシ

◉刑事裁判證人ヘ支給スヘキ旅費其他共經費ノ仕拂ニ立テ被告人ヨリ徵收セシモノハ歲入ト爲スノ件

（明治二十三年九月司法省會檢甲第一二二號訓令）

明治十四年十二月第六十七號布告刑法附則第四章刑事裁判費用中證人ヘ支給スヘキ旅費其他トモ明治二十三年十一月一日ヨリ裁判所經費ノ仕拂ニ相立被告人ノ負擔ニ歸シ徵收セシモノハ明治二十三年三月會檢甲第二一五號訓令ノ手續ヲ爲スヘシ
但明治十五年六月當省丙第二十五號及明治十九年三月會本第一三一號達ハ明治二十三年十月三十一日限リ廢止ス

◉歲出科目刑事裁判費ヨリ支出スヘキモノニシテ未記ノ分編入方

（明治二十五年七月司法省會檢甲六七四號通牒）

歲出科目刑事裁判費ヨリ支出スヘキモノニシテ未記之分編入方往々各廳區々ニ渉ルノ傾キ有之會計檢查院ヨリ打合ノ次第モ有之候ニ付自今右ニ據リ整理相成度此段及通牒候也
但シ弐拾五年度分ニシテ已ニ本文ニ抵觸セシ支出アラハ此際總テ科目訂正有之度候

一死体檢證解剖等ノ爲メ要スル發掘人足其他是ニ伴フ費用
一死体其他臨檢先ニ於テ押收セシ證據品運送費用
一臨檢先ニ於ア證人鑑定人等ヘ召喚狀送達ノ爲メ要スル費用
一寫眞費

一臨檢先席料（證人訊問等ノ爲メ借リ入レタルモノ）
一臨檢先ニ於テ押收セシ證據品保全ノ爲メ眞上タル物品代價等（流動體ノ證據品ヲ入ルヽ瓶或ハ防腐藥等）
一臨檢先ニ於テ證據品蒐集ノ爲メ植物其他ニ損害ヲ加ヘタル賠償金ノ類

右ハ刑法附則ノ裁判費用或ハ執達吏立換金等歸入明瞭ナルモノハ之ヲ除キ其他ノ豫審公判ニ於テ要セシ費用ノ概略ヲ掲クタルモノニシテ檢事ニ於テ起訴前捜査上要セシ費用ハ素ヨリ他ノ相當科目ヨリ支出スルモノトス

◉刑事裁判費用ニ係ル歳入返納金ノ不納關損處分ハ上申ニ及ハサルノ件

（明治二十八年四月司法省會出甲第四〇五號司法次官通牒）

刑事訴訟費用ニ係ル歳入返納金調定ニ對スル不納關損處分ノ儀從來上申ノ向ハ自今其儀ニ及ハス事件主任官ノ通報ニ基キ直ニ處分相成可然此段及御通牒候也

◉外國艦船乘組員逮捕留置ニ關スル援助法ニ基キ要スル裁判所所屬經費支出科目ノ件

（明治三十二年九月司法省會主甲第一〇三四號通牒）

外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ノ規定ニ基キ要スル裁判所所屬經費支出科目ノ件今回訓令相成候處同法第十條ニ依リ領事官ヨリ右支出金額ノ辨償ヲ受ケタル場合ニ於テハ歳入ニ編入シ本年度歳入科目第四款雜收入第三項辨償及違約金第一目辨償金ノ目ヘ收入整理可相成此段及御通牒候也

◉罪囚證人竝無罪解放者等ノ旅費日當支給方ノ件

（明治九年五月太政官第六三號布告）

明治七年七月第七十八號同年十一月第百二十七號同八年五月第七十四號布告及同七年七月第九十一號同年十一月第百五十八號達ヲ廢シ證人竝無罪解放ノ者等ノ旅費支給方ノ儀今般更ニ左ノ通相定當五月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事

一罪囚ノ證人タルヘキト思量シ裁判官ニ於テ呼出ス者探索上ニテ捕ニ就キ及裁判官ノ呼出ヲ受テ無罪ニ歸スル者人違又ハ官吏ノ其人名ヲ誤寫スル等ニテ呼出シタル者各官廳ヨリ呼出有罪ト認メ呼出サルヽ者モ亦同シ（第百三十二號布告ヲ以テ廢シ）

一裁判官ノ下「又ハ警察官吏」ノ六字ヲ加）

（第百三十二號布告ヲ以テ廢シ）

（但推紙ノ爲メ手錠繩付等ニテ護送及監倉入圍中等官費ヲ以テ仕賄ノ時日ハ別ニ給セス

旅費日當　金五拾錢
滯留日當　金三拾錢

一該廳ヨリ片道二里以上十里迄ハ旅費日當一日分ヲ給シ爾餘一日十里ヲ以テ往返共之ヲ給シ滯在中ハ其日數ニ應シ滯留日當ヲ給スヘシ（十里以上ノ端里數二里ニ滿タサルハ切捨トス一里以上ハ旅費日當一日分ヲ給ス但二里未滿ノ地ヨリ呼出セシ者ハ辨當料金二錢五厘ヲ給ス但片道二里以上滿五里迄ノ地ヲ一日間ニ往來スルモ日當ハ一日分ノ外給セス尤モ二里未滿ノ地ヨリ呼出セシ者ハ辨當料金二錢五厘ヲ給ス（第百七號布告ヲ以テ但書增補）

一各裁判所裁判所無之地方ハ其縣廳ニヨリ呼出ヲ受テ無罪ニ歸スルモノ旅費ハ其呼出タル裁判所方ハ其縣廳ニヨリ之ヲ給ス其他ハ總テ本當廳寄留ノモノハ其寄留地ノヨリ給スルニ付證人及附添ヲ命スル者等ノ如キハ間紙中ノ日數竝ニ往復里程ヲ詳記シ其裁判官ノ證印ヲ請ケ旅費受取方ヲ申請スヘシ

（第百三十二號布告ヲ以テ各裁判所ノ下割註ヲ除キ「及ヒ警察官吏」ノ六字ヲ加ヘ其呼出タルノ下「裁判所」ノ三字及割註ヲ刪除シ「廳」ノ一字ヲ加フ第百五十一號布告ヲ以テ無罪ニ歸スルモノハ下「人違又ハ官吏ノ其人名ヲ誤寫スル等ニテ呼出シタルモノ」ノ二十四字ヲ增補ス）

◉免訴無罪者ノ證人等官費ニ歸スル費用受渡方

（明治十八年一月司法省丁第二號達）

免訴無罪者ニ係ル證人鑑定人通辯人飜譯人等旅費日當其他ノ費用官ノ擔當ニ歸スルモノハ豫審終結及公判言渡ノ即日其請求書ヲ以書記局ヨリ會計課ヘ報告シ渡シ方取計フ可シ此旨相達候事

但從前本文ノ通報告ナサス會計年度經過セシモノハ其遲延シタル事由書ヲ添付シ速ニ報告致ス可シ

◉證人、鑑定人其他ノ旅費ハ往復里數通算支給ノ件

（明治二十一年四月司法省會檢第一八號通達）

刑法附則第四十九條ノ旅費ハ片道一里未滿ハ切捨ヘキ旨十七年（一月）乾第二號ヲ以テ及通達置候處旅費規則モ往復通算ノ事ニ相成候ヘハ右旅費モ亦通算候方重當ト見込候條二十一年度以降往復通算支給有之度此段及御通牒候也

◉官吏職務上刑事々件ノ證人トシテ裁判所ヘ出頭シタル旅費日當請求等ノ件

（明治二十八年五月司法省會檢甲第二一三號）

官吏職務上ニ係リ刑事裁判ノ證人トシテ裁判所ニ出頭シタルトキ旅費日當請求方ハ明治十七年太政官第五十七號達ニ依ル儀ニ候處本年法律第三號ヲ以テ刑法附則ヲ改正セラレ其第五十條ニ於テ旅費日當ノ請求期限ヲ定メラレタルニ由リ被告事件ノ結果ニ因リ旅費日當ヲ請求スルト否トヲ決定スルヲ得サルニ付有志政官捜本文ノ自然消滅ニ歸シタルモノニ候條被告事件ノ結果如何ニ拘ハラス豫審終結前又ハ公判決前ニ本人ヨリ請求シ裁判所ニ於テモ其請求ニ因リ旅費日當支給相成可然候但其請求シタル金額ハ該達但書ニ依リ從前ノ通歳入ヘ納付スル儀ニ有之候此段及御通牒候也

◉非常急行檢證ノ爲メ隨行醫師旅費ノ件

（明治二十九年五月司法省會檢甲第一八一號通牒）

豫審判事、檢事等實地檢證ノ際醫師ヲ從ヘ非常急行スル場合ニ於テ右鑑定人ノ旅費刑法附則ノ額ニテハ不足スルノ理由ヲ以テ實費拂ヲ爲シタル向有之候得共右ハ規定ノ額ニ超過シ不都合ニ付萬一右ノ如キ仕拂ヲ爲セシ個所ニシテ會計檢査院ノ責任判決未濟ノモノ有之候ハヽ此際規定ノ額迄低減シ過剩ノ分ハ返納方取計ハレ度此段及御通牒候也

◉檢事カ犯罪捜査ノ爲メ要シ

タル費用ノ件

（明治三十三年三月司法省會主乙第一三三七號通牒）

檢事カ犯罪捜査ノ爲メ要シタル費用ノ儀從來臨費旅費雜給及雜費ノ項ヨリ支辨セシ處明治三十三年度歲出科目ニ於テ該費途ヲ裁判費ノ項ニ編入セラレ候ニ付テハ左記ノ分類ヲ以テ各目整理相成度尤モ有旅費日當宿泊料支給額及計算ノ方法ハ從前ノ通明治三十年十一月會檢甲第三三〇號訓令備外國人及備員以下內國旅費規則ニ據ル儀ニ有之候此段及御通牒候也

記

證人通辯醫師等旅費手當　參考人鑑定人通辯人等ノ旅費日當宿泊料及手當（報酬テ特ニ給スルモノ）ノ類

差押物件買入雜費　物品ノ保管料　諸物品ノ購入費又ハ借入料、寫眞料、運搬賃及人夫賃ノ類

◉憲兵職掌中行政警察事務規程

（明治十四年十月內務省乙第五十二號達）

憲兵職掌中行政警察事務ノ儀別紙ノ通及達示候條爲心得此旨相達候事

（別紙）

憲兵本部

行政警察ニ關スル事務別紙規程ノ通相心得執行可致此旨相達候事

（別紙）

行政警察事務規程

第一條　行政警察ハ人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ其事務ヲ大別シテ左ノ四項トス

一　人民ノ妨害ヲ防護スルコト

二　法章ノ違犯ヲ視察スルコト

三　健康ヲ看護スルコト

四　國事ニ關スル犯罪ヲ未萌ニ捜索警防スルコト

第二條　行政警察事務執行ノ際司法警察事務ニ逐運スル事アリト雖モ其事務ヲ混同スヘカラス

第三條　行政警察ノ事務ヲ執行スルニ當リ他ノ警察事務官吏其場ニ臨ミタルトキハ其處分ヲ專務官吏ニ讓ルヘシ

◉公廷取締、被告人看護ノ爲メ巡査押丁使用ノ件

（明治十四年十月太政官第八十六號達）

治罪法實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公廷取締ノ使用ニ供スルタメ其院長所長ノ照會ニ應シ一名又ハ數名ノ巡査爲相詰又勾留被告人審問中ハ其護送ノ巡査或ハ押丁ヲシテ守卒トシテ公廷ニ入リ看護セシムヘシ此旨相達候事

◉犯人、證人等拇印ニ關スル件

（明治十四年十二月司法省丙第十六號達）

治罪法中犯人證人等拇印ノ條々實印無之者ニ限リ從來ノ慣例ニ依リ拇印爲致候儀ト心得此旨相達候事

◉新聞條例ニ傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論記載方ノ件

（明治十九年六月司法省訓令第十號）

新聞紙條例第三十三條ニ傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ストアルハ公判ノ中ヨリ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ總テ其訴訟ノ當日ノ辯論ヲ記載スルコトヲ得サル儀ニシテ裁判官傍聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辯論ノミヲ指スモノニ非ス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣ニ付此旨心得ヘシ

◉行政官署ノ書類捜索ニ關スル件

（明治十九年七月司法省刑第六〇三號訓令）

行政官署ニ於テ犯罪ノ事實發見ノ爲メ書類捜索等ノ處分ヲ行フヘキ場合ニ於テハ豫メ其事由ヲ通知シ禮儀ニ渉ルコト無之候樣注意可致又速急ヲ要スル場合ノ外ハ必ス其長官區長ノ犯罪ニ付テハ郡區長郡例トヘハ戶長ノ犯罪ニ付テハ府知事縣令ノ如シ區告シ其許諾ヲ得タル上ニテ右ノ處分ヲ爲スヘシ

右訓令ス

◉既決囚參考ノ爲メ裁判所ヘ呼出方心得

（明治十九年十一月內務省警保局長通牒）

已決囚召喚ノ儀ニ付別紙ノ通司法大臣ヨリ裁判所ヘ內訓相成候條爲心得此段及御通牒候也

（別紙）

司法省刑第七四一號　明治十九年十月

裁判所　大審院ヲ除ク

刑事ノ審判上事實參考ノ爲メ已決囚ヲ召喚スルコト往々有之趣ニ候處右ハ其逃走ノ機會ヲ與ヘ且刑罰ノ效用ヲ滯フスル等ノ恐アルヲ以テ自今事ノ重要ナルモノニシテ他ニ充分ナル證憑ナク且其取調方ヲ囑託スルコトヲ得サル場合ニ非サレハ召喚スヘカラサル儀ト心得ヘシ

右內訓ス

◉命令及言渡ノ執行指揮ハ檢事ノ職權ニ屬スル件

（明治二十三年十一月司法省文第二七六二號訓令）

治罪法第三十四條第三項ニ依リ裁判所命令及ヒ言渡ノ執行ノ指揮ハ檢事ノ職權ニ屬シ候處刑事訴訟法ニ其明文ナキヲ以テ事務執行上往々疑義ヲ生スル趣右命令執行ハ裁判所構成法第六條ニ依リ當然檢事ノ職權ニ屬シタルモノト心得ヘシ

◉檢察官ノ急速事務取扱方ノ件

（明治二十三年十二月司法省刑甲第三七一號訓令）

刑事裁判官及ヒ檢察官ハ裁判所開廷後又ハ休暇ノ日ト雖モ其急速ヲ要スル管掌事務取扱方ニ付何時ニテモ差支之ナキ樣豫メ手續ヲ爲シ置クヘシ

◉議員選擧ノ訴訟ニハ檢事會スヘキノ件

（明治二十五年五月司法省參刑甲第二七八訓令）

檢事

議員選擧ニ關スル訴訟事件ハ公益上關係ヲ有スルコト勘カラス就テハ該訴訟事件ノ口頭辯論ニハ立會ヲ爲スヘシ

◉無期刑ノ囚徒更ニ罪ヲ犯シタル場合處罰方ノ件

（明治十五年五月司法省第三二一四號內則）

無期刑ノ囚徒又罪ヲ犯シタル時ハ裁判所ニ於テ刑法各本條ニ依リ裁判宣告ヲ爲シタル後仍ホ司獄官吏ニ於テ監獄則ニ依リ懲罰スル儀ト心得可シ

此旨及内訓候也

◉上告中餘罪發覺又ハ更ニ罪ヲ犯シタルトキ刑ノ執行方ノ件

（明治十五年十二月司法省達刑甲第六六八一號）

刑事上告中餘罪發覺シ又ハ更ニ罪ヲ犯シタルトキハ大審院ノ判決ヲ待タス直チニ相當ノ裁判ヲ爲シ上告ニ係ル事件ノ刑期ニ拘ハラス其執行ヲ爲ヘシ若シ大審院ニ於テ判決アリタル後其刑重キトキハ執行官ニ於テ刑法第百二條ニ從ヒ既ニ役過セシ日數ヲ控除シ餘ル刑期ヲ執行スヘキ義ト心得ヘシ此旨及内訓候事

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令内訓ハ取消候事

◉賣藥規則違犯者ヨリ取上ケタル鑑札回送方ノ件

（明治十七年十月司法省第四五五四號内訓）

明治十年第七號布告賣藥規則ニ依リ該規則違犯者ヨリ鑑札ヲ取上ケタル時ハ其都度鑑札交付ノ地方廳ヘ回送致ス可キ旨ニ候條爲心得此旨及内訓候事

◉民刑事判決ハ國外ニ於テ執行シ得ヘカラサルノ件

（明治二十五年九月司法省刑甲第三三〇號通牒）

明治二十五年九月廿七日參刑甲第三三〇號ヲ以テ内地裁判所ノ判決執行ヲ清國朝鮮國駐在ノ領事ニ囑托スヘカラサル旨司法大臣ヨリ訓令相成候處内地裁判所ノ判決ヲ國外ニ於テ執行スヘカラサルハ公法上ノ通義ナルコトハ右訓令ニモ示サレタル通リニ付民事訴訟法第五百五十七條第二項ニ外國駐在ノ本邦領事ニ依リ强制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑托ス可シトアルハ特別ノ條約アル場合ニ限リ適用スルコトヲ得ル法條ニシテ今日ニテハ清國朝鮮國ニ於テモ之ヲ適用スヘキモノニ非ストノ省議ニ出タル儀ニ有之候右ハ豫テ御心得モ可有之候ヘトモ爲念此段及通牒候也

◉廳府縣ヨリ司法事務ニ關スル廳府縣令發布ノ報告アリタル時ハ其都度裁判所檢事局ノ回覽ニ附スル件

（明治二十五年十二月司法省民刑甲第五號通牒）

廳府縣ヨリ司法事務ニ關スル廳府縣令發布ノ報告アリタルトキハ其都度其裁判所檢事局ノ回覽ニ附シ候樣御取計相成度長官ノ命ニ依リ此段及通牒候也

◉休暇中ノ裁判事務取扱ニ付注意

（明治二十八年七月司法省（職秘第一〇四九號訓令）

休暇中裁判事務取扱方ニ付テハ其中止スヘキモノヽ著手セサルモノ、著手スヘキモノヽ中止スヘカラサルモノ等、法律上例然規定相成居候處近來休暇中ニ至レハ刑事訴訟ニ遲滯ノ觀ヲ呈シ隨テ未決囚ノ滯獄ノ日數延長シ地方稅ニ影響ヲ及ホシ候趣相聞ヘ候右者果シテ遲滯ノ原因トナルニ於テハ不都合之至ニ候條刑事訴訟ハ勿論其他進行ス可キ事件裁判所構成法第百二十九條規定之通平常ト同シク勵行ス可シ

右訓令ス

◉新聞及雜誌ニ掲ケタル裸體畫ニシテ猥褻ニ渉ルモノノ起訴心得

（明治三十一年四月司法省民刑甲第八九號訓令）

新紙條例ニ依リ發行スル新聞紙及雜誌ニ掲ケタル裸體畫ニシテ猥褻ニ渉ルモノアルトキハ新聞紙條例第三十三條ノ違犯トシテ起訴スヘキ儀ト心得可シ

◉同上ニ付内務大臣ヨリ地方長官ヘ訓令ノ件

（明治三十一年四月司法省民刑甲第八九號ヨリ檢事局長宛）

新聞紙及雜誌ニ掲載スル裸體畫取締ニ關スル件ニ付本日當省大臣ヨリ訓令相成候處本件ニ付テハ別紙ノ通内務大臣ヨリ各廳府縣長官ヘモ訓令相成居ニ付爲御心得此段申進候也

訓令案

新聞紙條例ニ依リ發行スル新聞紙雜誌ニ掲ケタル裸體畫ニシテ左ノ各項ニ該當シ風俗ヲ壞亂スルモノト認メタルトキハ直ニ告發シ裸體ニ於ケル繪畫彫刻模型等ノ觀物場與行場若クハ展覽會競進會場等ニ關シテ左ノ各項ニ關ルモノアルトキハ說諭ノ上取除カシムヘシ

第一項　正面被而其ノ他如何ナル形體ハ拘ハラス裸體ニシテ陰部ヲ描出スルモノ

第二項　腰令陰部ヲ描出セサレトモ背面又ハ横臥若クハ其ノ他如何ナル形體ニ拘ハラス陰部ノ位置ヲ直接ニ推定シ得ラレテ其淫猥ニ渉ルモノ

第三項　高尚純潔ナル目的ヲ以テ古代ノ神仙、若クハ淫猥ナラスシテ他ノ目的ヲ以テ描出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

右訓令ス

年　月　日　　内務大臣

廳府縣長官

◉諸罰則

（明治三十四年七月一日現行）

民法　明治二十九年四月法律第八十九號

同施行法　同三十一年六月法律第九號

民事訴訟法　同三十一年六月法律第十一號

土地收用法　同二十三年三月法律第二十九號

戸籍法　同三十三年三月法律第三十九號

公證人規則　同三十一年六月法律第十一號

辯護士法　同十九年八月法律第二號

刑法　同二十六年三月法律第七號

決鬪罪處斷方　同十四年布告第三十六號

屋外窃盜罪處分法　同二十二年十二月法律第三十四號

陸軍刑法　同二十三年十月法律第九十九號

海軍刑法　同二十四年十二月布告第六十九號

同年同月布告第七十號

刑事訴訟法　同二十三年十月法律第九十六號
裁判所構成法　同二十三年二月法律第六號
會計檢查官懲戒法　同三十三年三月法律第二十一號
行政裁判所長官評定官懲戒令　同三十三年七月勅令第三百五十四號
豫戒令　同二十五年一月勅令第十一號
石油取締規則　同十六年二月
遺失物法　同三十二年三月布告第六號
氷雪營業取締規則　同三十三年七月法律第八十七號
娼妓取締規則　同三十三年七月內務省令第三十七號
浴場取締　同年十月同令第四十四號
治安警察法　同年五月同令第二十五號
銃砲、火藥類取締法　同年同月同令第二十六號
同法施行規則　同三十三年三月法律第三十三號
同法施行細則　同年同月勅令第三百六十六號
宿泊屆其他ノ件　同年同月內務省令第四十三號
行政執行法　同年七月法律第三十六號
同法執行令　同年同月勅令第二百五十三號
水難救護法　同二十三年十月法律第九十六號
古物商取締法　同二十三年二月法律第六號
同法施行細則　同年三月內務省令第八號
質屋取締法　同三十三年七月法律第二十一號
同法施行細則　同年八月內務省令第九號
爆發物取締罰則　同十七年十二月布告第三十二號
富籤賣買ノ斡旋ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者ノ處分法　同十五年五月布告第二十五號
刑死者ノ墓標等ニ關スル件　同二十四年七月內務省令第十一號
通貨及證券模造取締法　同二十八年八月法律第二十八號
勳章記章ニ類似ノ標章僞用禁止ノ件　同年同月勅令第百十八號
精神病者監護法　同三十三年三月法律第三十八號
同法施行規則　同年六月內務省令第三十五號
商法　同二十三年三月法律第三十二號
同法ニ依リ發行スヘキ債券ノ件　同年八月法律第六十號
破產法　同年四月法律第七十一號
同法施行法　同年八月法律第五十九號
商法ニ關スル有限破產者處斷方　同年十月法律第百〇一號
保險業法　同三十三年三月法律第六十九號
外國保險會社ニ關スル件　同年九月勅令第三百八十號
取引所法　同二十六年三月法律第五號

茶業組合規則　同二十年二月農商務省令第四號
重要輸出品同業組合法　同三十年四月法律第四十七號
產業組合法　同三十三年三月法律第三十四號
重要物產同業組合法　同年同月法律第三十五號
北海道牛馬賣買規則　同十一年十二月開拓使乙第二十九號布達
葉煙草專賣法　同二十九年三月法律第三十五號
狩獵法　同三十四年四月法律第三十三號
同法施行規則　同年同月法律第三十四號
漁業法　同年六月農商務省令第七號
臘虎膃肭獸獵法　同年四月法律第三十四號
鐵業條例　同二十八年三月法律第十號
同例施行細則　同二十九年九月法律第二十七號
鐵業警察規則　同年同月同令第七號
砂鐵採取法　同二十六年三月法律第十六號
同法施行細則　同二十六年二月同第十二號
馬匹調查及檢查施行規則　同三十年三月農商務省令第四號
種牝馬檢查法　同年同月陸軍省令第四號
同法施行細則　同年同月法律第十二號
蠶種檢查法　同年五月農商務省令第四號
同法施行細則　同年三月法律第十號
蠶絲檢查法　同年六月農商務省令第八號
森林法　同三十二年三月法律第四十五號
國有林野部分林規則　同三十年四月法律第四十六號
社寺保管林規則　同三十二年八月勅令第三百六十二號
特許法　同年同月法律第三十六號
意匠法　同年同月法律第三十七號
商標法　同年同月法律第三十八號
東京府區內清酒輸入規則　同二十一年十二月勅令第八十八號
踏鐵工免許規則　同二十三年四月法律第三十一號
北海道ニ於ケル鹿ノ捕獲停止　同二十五年十一月農商務省令第十六號
度量衡法　同二十四年三月法律第三號
同法施行規則　同年七月農商務省令第十一號
開港港則　同三十年七月勅令第百三十九號
耕地整理法　同三十二年三月法律第八十二號
肥料取締法施行規則　同三十四年五月農商務省令第五號
害蟲驅除豫防法　同二十年七月勅令第二十九號
橫濱正金銀行條例　同二十三年八月法律第七十二號
銀行條例　同年同月法律第七十三號
貯金銀行條例　同十七年五月布告第十八號
兌換銀行券條例　同年六月農商務省令第八號

日本勸業銀行法	同二十九年四月法律第八十二號
農工銀行法	同年同月法律第八十三號
北海道拓殖銀行法	同三十二年三月法律第七十六號
米有價證券取引市場設立	同二十九年三月農商務省令第一號
稅關貨物取扱法	同三十二年三月法律第五十三號
日本興業銀行法	同三十三年三月法律第七十號
租稅條例	明治十七年三月布告第七號
賣藥自用者ニ於テ無印紙買受ケ讓受ケ又ハ所持スルモノ處分方	同二十九年十月大藏省令第三十一號
醬油稅則	同二十一年六月勅令第四十七號
同則施行細則	同年八月大藏省令第九號
賣藥印紙稅規則	同十五年十月布告第十五號
沖繩縣酒類出港稅則	同二十一年三月勅令第十二號
同則施行細則	同年七月大藏省令第七號
取引所稅法	同二十六年三月法律第六號
民事訴訟用印紙法	同二十三年八月法律第十五號
酒造稅法	同二十九年三月法律第二十八號
營業稅法	同年同月法律第三十三號
保稅倉庫法	同三十年三月法律第十五號
所得稅法	同三十二年二月法律第十七號
印紙稅法	同年三月法律第五十四號

關稅法	同年同月法律第六十一號
自家用醬油稅法	同三十三年三月法律第四十三號
法人カ租稅及煙草專賣ニ關シ事犯アル場合ノ件	同三十三年三月法律第五十二號
稅關貨物取扱法	同二十九年三月農商務省令第一號
酒精及酒精含有飲料稅法	同三十二年三月法律第五十三號
麥酒稅法	同三十三年三月法律第七十號
砂糖消費稅法	同年同月法律第十二號
國稅徵收法	同年同月法律第十三號
噸稅法	同三十年三月法律第二十一號
傳染病豫防法	同三十二年三月法律第二十八號
海港檢疫法	同三十年三月法律第三十六號
衛生試驗所ノ印紙ヲ貼付シタル藥品ノ外衛生試驗所ノ保證又ハ試驗濟等ノ文字記入禁止	同三十二年二月法律第十九號
藥品營業並藥品取扱規則	同二十二年三月法律第十號
賣藥規則	同十年一月布告第一號
病牛馬羊豕ノ死體發掘ニ關スル件	同二十六年八月農商務省令第十四號
獸醫免許規則	同二十三年八月法律第七十六號
種痘規則	同十八年十一月布告第三十四號
コッホ結核病治療液使用ノ件	同二十四年五月內務省令第三號
獸疫豫防法	同三十年三月法律第六十號

獸醫ノ封緘ニ印紙ヲ貼布スル者ハ衛生試驗所檢查印紙ト同色若クハ之ニ紛ハシキモノヲ用ユヘカラス藥品其他飲食物ノ檢者ヲ營業トスルモノハ衛生試驗所又ハ同等ノ文字ヲ用ユヘカラサルノ件	同三十年三月內務省令第二號
阿片法施行細則	同三十年三月內務省令第四號
醫療用藥品ノ檢查證明ヲ業務トスル者取締方	同三十年九月內務省令第二十六號
汚物掃除法施行細則	同三十三年三月內務省令第五號
畜牛結核豫防法	同三十四年四月法律第三十五號
產婆規則	同三十二年七月勅令第三百四十五號
阿片法	同三十年三月法律第二十七號
未成年者喫煙禁止法	同三十三年三月法律第三十三號
牛乳營業取締規則	同三十三年十月內務省令第十五號
清涼飲料水營業取締規則	同三十三年六月內務省令第三十號
牛乳營業取締規則第五條第二號牛乳中ニ移行スヘキ藥劇藥處方ニ關スル件	同三十三年十月內務省令第四十六號
有害性著色料取締規則	同三十三年四月內務省令第十七號
飲食物用器具取締規則	同三十三年十二月內務省令第五十號
飲食物其他ノ物品取締	同三十三年二月法律第十五號
商船規則	明治三年一月布告
西洋形船海員雇入雇止規則	同十二年二月第九號布告
外國船乘込規則	同年三月第三十號布告
鐵道犯罪罰例	同六年三月第百一號布告

航路標識條例	同二十一年十月勅令第六十八號
船燈信號器及救命具取締規則	同二十八年四月遞信省令第四號
海技免狀取扱規則	同三十年五月遞信省令第八號
電氣事業取締規則	同三十年六月遞信省令第十四號
私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則	同三十年七月遞信省令第二十四號
航海奬勵法	同二十九年三月法律第十五號
造船奬勵法	同二十九年三月法律第十六號
船舶職員法	同二十九年四月法律第六十八號
海員懲戒法	同二十九年四月法律第六十九號
船舶檢查法	同二十九年十二月遞信省令第二十五號
北海道移住民規則	同二十九年四月拓殖務省令第三號
船舶檢查法	同二十九年六月法律第六十七號
同法施行細則	同二十九年五月遞信省令第六號
海難其他ノ事實屆出ノ件	同二十九年六月遞信省令第十九號
北海道移住民渡航船舶取締規則	同三十一年八月內務省令第八號
船舶法	同三十二年二月法律第四十六號
船員法	同三十二年三月法律第四十七號
水先法	同年同月法律第六十三號
同法施行細則	同年七月遞信省令第三十三號
河川法第六十八條ニ依レル個則	同三十三年四月勅令第百四十八號

同法第四十七條ニ因ル罰則　明治三十三年七月勅令第三百號
私設鐵道法　同年三月法律第六十四號
鐵道營業法　同年同月法律第六十五號
海上衝突豫防規則ニ記載シタル燈及敲鐘製造ノ件　同三十四年五月第三十四號布告
軍用電信法　明治二十七年六月法律第五號
海底電信線保護萬國聯合條約罰則　同十八年七月布告第十八號
水底電信線路ニシテ拔錨漁業探盪等ノ罰　同十六年二月第五號布告
郵便法　同三十三年三月法律第五十四號
鐵道船舶郵便法　同年同月法律第五十六號
電信法　同年同月法律第五十七號
私設電信規則　同三十四年九月遞信省令第四十八號
軍港要港規則違犯者處分　同二十三年九月法律第八十三號
徵兵令　同二十二年一月法律第一號
徵發令　同十五年八月第四十三號布告
陸地測量標條例施行細則　同二十八年八月陸軍省令第十七號
陸軍六週間現役兵條例施行細則　同二十八年七月勅令第三百五十二號
陸軍補充兵召集規則　同年十一月勅令第二十七號
陸軍服役條例　同二十九年六月勅令第二百三十八號
屯田後備役兵村及下士兵卒監視規則　同年同月勅令第二百三十九號
陸海軍兵役ニ編入スル學生トナリ又ハ之ヲ免セラレタル者屆方ノ件　同年七月陸軍省令第十六號
陸軍豫備後備役下士兵卒及歸休兵正當ノ事由ナクシテ個圖點呼ニ會セサル件　明治二十九年七月陸軍省令第十八號
陸軍召集條例　同年十一月勅令第三百六十四號
要塞地帶法　同三十二年七月法律第百五號
要塞近傍ニ於ケル水陸測量等ノ取締　同三十一年七月勅令第百七十六號
要塞地帶法施行規則　同三十三年六月陸軍省令第十四號
馬匹去勢法　同三十四年四月法律第二十四號
陸軍召集條例　同三十二年十月勅令第三百九十八號
軍機保護法　同三十三年七月法律第百四號
海軍召集條例　同三十一年十月勅令第二百四十七號
測量標規則　同二十一年七月勅令第五十八號
要塞地帶法施行規則　同三十三年六月海軍省令第十六號
水路測量標條例　同年五月法律第三十八號
陸地測量標條例　同年三月第二十三號
徵兵事務條例　同二十九年同月勅令第百十二號
朝鮮國ニ於ケル歩行規程　明治十六年四月第十一號布告
同國ニ於ケル日本人貿易規則　同年十月第三十四號同
日本朝鮮兩國通漁規則　同十七年十二月
日本遞信省及獨逸郵便省間ニ締結セル小包郵便物交換約定　同二十三年一月
移民保護法　同二十九年四月法律第七十號

同法施行細則　同年五月
外國旅券規則　外務省令第三號
條約、慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件　同三十三年六月外務省令第二號
清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法　同三十二年七月勅令第三百五十二號
私立學校令　同二十九年四月法律第八十號
教科用圖書檢定規則　同三十二年八月勅令第三五九號
府縣會議員選舉規則　同二十九年同月勅令第二十五號
衆議院議員選舉法　同三十三年三月法律第七十三號
市町村會議員選舉規則　同二十三年五月法律第三十九號
議會幷議員保護法　同二十二年十一月法律第十二號
衆議院議員選舉取締ニ關スル罰則　同三十一年七月勅令第百六十九號
貴族院規則　同二十三年十二月貴族院決議
澁職法　同三十四年七月法律第十七號
衆議院議員選舉法　同二十二年二月法律第三號
同法罰則　同二十三年五月法律第四十號
同法罰則補則　明治二十六年四月法律第十五號
出版法　同二十年十二月勅令第七十五號
新聞紙條例　同三十年六月勅令第三百十六號
著作權法　同三十二年三月法律第三十九號
同法施行ニ關スル件　同年六月勅令第三百十六號
古社寺保存法　同三十一年七月法律第四十九號

◉樺戸集治監囚人輕罪以下治罪手續（明治十五年十二月司法省達第三百四十一號）

樺戸集治監ノ囚人ニ對シ訊問ヲ要スル等ノ事アレハ本年第十六號同第四十一號公布ノ趣モ有之ニ付該監司獄官ヘ囑託スルヲ得ヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

◉空知集治監囚人輕罪以下治罪手續（明治十五年八月太政官第四十一號布告）

空知集治監ノ囚人閉ノ者トモ假出獄免關即チ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ
但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

◉樺戸集治監囚人輕罪以下治罪手續（明治十五年三月太政官第十六號布告）

樺戸集治監ノ囚人閉ノ者トモ假出獄免關即チ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ
但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

◉樺戸、空知集治監拘禁ノ囚人訊問ハ監獄司獄官ヘ囑託シ得ルノ件（明治十五年十二月司法省達第三百四十一號）

樺戸及空知ノ集治監ニ拘禁中ノ囚人ニ對シ訊問ヲ要スル等ノ事アレハ本年第十六號同第四十一號公布ノ趣モ有之ニ付該監司獄官ヘ囑託スルヲ得ヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

◉樺戸、空知集治監囚人重罪

犯ノ時處分方

（明治十六年十一月太政官第三十八號布告）

假出獄免幽罪ヲ犯シ重罪ニ該ル者ハ當分ノ內札幌始審裁判所ニ於テ明治十五年六月第三十號布告ニ準シ處分スヘシ

樺戸空知兩集治監ノ囚人明ノ者トモ

◉釧路集治監囚人輕罪以下ノ裁判及治罪手續

（明治十八年十二月太政官第四十二號布告）

釧路集治監囚人假出獄免幽罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

違警罪處分

◉地方違警罪目發布屆出方

（明治十四年八月太政官第七十七號達）

刑法第四百三十條ニ依リ各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタルトキハ之ヲ主務ノ省ヘ屆出ヘシ此旨相達候事

◉各地方違警罪目設定公達心得方ノ件

（明治四年十一月內務省甲外達）

本年八月第七十七號公達中主務ノ者トアルハ內務司法兩省ヲ指稱シタル儀ニ候條爲心得此旨相達候事

◉軍人制服著用乘馬ノ者ハ刑法第四百二十七條第三項ノ限外トス

（明治十五年四月太政官第二十二號達）

刑法第四百二十七條第三項夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者ト有之候處軍人制服ヲ著用乘馬シタルモノハ右ノ限ニ無之候條此旨相達候事

◉埋葬取締規則違犯者處分方

（明治十七年十月太政官第八十二號達）

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

◉違警罪即決例

（明治十八年九月太政官第三十一號布告）

第一條　警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄區內ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニアラス

第二條　即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヰス被告人ノ陳述ヲ聞キ證憑ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼ヒ出シタルト雖出廷セサルトキハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齡身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限竝ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日內第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日內トス

第六條　警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時內ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條　第五條ニ定メタル期限內ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條　科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條　科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ言渡ス非一圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ卽日ニ計算ス

第十條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ第五條ニ定メタル期限內之ヲ留置ス但刑期五日內ナル時ハ其日取ニ過クルコトヲ得

第十一條　保證金ニ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直ニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フ

第十二條　留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタルトキハ直ニ留置ヲ解クヘシ

第十三條　留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折算シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

◉陸軍軍人軍屬違警罪處分例

（明治十九年五月勅令第四十四號）

第一條　陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪卽決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直ニ其所屬ノ長官若クハ艦船團長ニ通知ス可シ

第三條　卽決ノ言渡ニ對シテハ海軍常設軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ海軍治罪法ニ從フ

第四條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪卽決例第五條ニ記載シタル期限內ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ卽決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ

第五條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時內ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管司令官ニ送致ス可シ

第六條　軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條　卽決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタル時ハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條　軍法會議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

◉海軍軍人軍屬違警罪處分例

（明治二十二年十月法律第二十五號）

第一條　海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪卽決例ニ依リ憲兵部ニ、於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直ニ其所屬ノ長官若クハ艦船團長ニ通知ス可シ

第三條　卽決ノ言渡ニ對シテハ海軍常設軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ海軍治罪法ニ從フ

第四條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪卽決例第五條ニ記載シタル期限內ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ卽決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ

第五條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時內ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ長官ニ送致ス可

シ

第六條　海軍軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條　即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署海軍軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ艦船團長又ハ被告人所在ノ地ノ軍法會議主理ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條　海軍軍法會議ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

◉海軍軍人軍屬違警罪處分通知方

（明治三十年五月海軍省訓令第一號）

海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ヲ憲兵隊若クハ警察署ニ於テ違警罪即決例ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ所屬ノ長官若クハ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

◉裁判言渡ノ謄本拔書費用ハ違警罪ニ限リ徵收セス

（明治十五年三月司法省達丙第十二號）

明治十四年十二月當省甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ下付スル費用ハ當分違警罪ニ限リ徵收セサル樣取計フヘシ此旨相達候事

◉違警罪裁判言渡書ノ謄本又ハ拔書下付ノ費用ノ件

（明治十八年十二月司法省達丙第十號）

明治十五年三月當省丙第十二號ヲ以テ違警罪裁判言渡書ノ謄本又ハ其拔書ヲ下付スヘキ費用ハ當分徵收スヘカラサル旨相達置候處本年九月第三十一號ヲ以テ違警罪即決例公布相成候ニ付テハ自今該裁判ノ正式ニ係ハルモノハ該費用ヲ徵收シ其即決ニ係ハルモノハ從前ノ通取計フヘシ此旨相達候事

司法警察

◉司法警察官執務心得

（明治二十六年九月司法省訓令第七號）

第一編　總則
第二編　捜査
　第一章　捜査着手
　第二章　捜査處分
　　第一節　證據及ヒ犯人ノ捜査
　　第二節　被告事件送致
第三編　假豫審
　第一章　檢證、捜索及物件差押
　第二章　證人訊問
　第三章　鑑定
　第四章　被告人逮捕
　第五章　被告人訊問
司法警察官執務心得
　第一編　總則

第一條　司法警察官ハ犯罪ノ捜査ヲ爲シ現行犯罪ノ假豫審ヲ行フヲ以テ其職務トス

第二條　左ニ記載シタル官吏、公吏等ハ司法警察ノ職務ヲ行フニ付キ檢事ノ指揮ヲ受ク可キモノトス

一　警視、警部長、警部
二　憲兵將校、下士
三　島司
四　郡長
五　市町村長及ヒ之ヲ置カサル地ニ於テ其職務ヲ行フ吏員
六　林務官
七　北海道集治監ノ典獄
八　海船ノ船長

第六以下ニ記載シタル者ハ各其主管ニ關スル犯罪ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ

第三乃至第五ニ記載シタル者ハ急速ヲ要スル場合ヲ除ク外成ルヘク其處分ヲ第一第二ニ記載シタル者又ハ主管ノ者ニ謀ル可シ

第三條　警視總監、府縣知事（東京府知事ヲ除ク）ハ各其管轄地内ニ於テ犯罪搜査ノ權ヲ有スト雖モ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フヲ例トス此場合ニ於テモ成ル可ク其處分ヲ檢事ニ謀ル可シ

第四條　司法警察官ノ職務ハ寢後ノ別ナク休暇ト雖モ之ヲ行フ可キモノトス

第五條　司法警察官ノ職務ヲ行フハ迅速ニシテ事機ヲ失ハサルコトヲ要ス

第六條　司法警察官ノ職務ヲ行フハ緻密ニシテ細大ノ事物ニ注目スルコトヲ要ス

第七條　司法警察官ノ職務ヲ行スハ能ク秘密ヲ守リ犯人逃走、罪證湮滅人心動搖ノ弊ナカラシメ且被告人其他ノ者ノ名譽ヲ毀損スルコトナキヲ要ス

第八條　司法警察官ノ職務ヲ行フハ大事ニ臨ニシテ小事ニ寬ナラサル可カラス

又濫ニ人ノ隱蔽ヲ許クコトナキヲ要ス

第九條　司法警察官ノ職務ヲ行フハ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ノ外強制ヲ用フルコトヲ得ス

第十條　司法警察官ハ職務時間外ト雖モ急速ヲ要スル事件アルトキハ成ル可ク其處分ヲ爲サル可カラス

第十一條　司法警察官ハ其ノ部署ヲ擴張シ公衆ヲ除クコトニ着眼スル可シ

一個ニ犯罪ヲ檢舉スルコトノ多數ナルノミヲ以テ其職務ヲ疎スモノト爲スヘカラス

第十二條　奸惡ノ徒ハ巧ミニ法網ヲ脫スルコトヲ圖ルモノナレハ司法警察官タル者宜シク其犯情ヲ看破スルコトニ注意ス可シ

第十三條　司法警察官ハ捜査ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フ可キハ勿論ナリト雖モ事爭ニ其指揮ヲ待ツヘキモノニ非ス故ニ犯罪アルニ當テハ直チニ捜査ニ着手セサル可カラス

第十四條　司法警察官、被告人又ハ被害者ト親屬若クハ故舊ナルトキハ嫌疑ヲ避クル爲メ成ル可ク其處分ヲ他ノ司法警察官ニ讓ルヘシ

第十五條　司法警察官職務ヲ行フ場合ニ於テ其制服ヲ着用セサルトキハ司法警察官タルノ證據ヲ携帶スヘシ若シ請求スル者アル時ハ之ヲ示スヘシ

第十六條　司法警察吏職務ヲ行フニ際シ必要トスルトキハ警察署憲兵屯營ニ照會シテ巡査、憲兵上等兵ヲ使用スルコトヲ得但事機緊急ナルトキハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十七條　司法警察官ハ各其行政上ノ管轄區域内ニ於テ職務ヲ行フヲ例トス但假豫審處分ヲ除ク外時宜ニ依リ他ノ管轄區域内ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十八條　司法警察官捜査ヲ爲スニ付テハ犯罪ノ性質、場所及ヒ被告人ノ身分ニ付キ制限アルコトナシ

第十九條　司法警察官他ノ司法警察官ヨリ其管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事件ニ付キ補助ノ求メアルトキハ之ニ應ス可シ豫審判事ノ求メニ付テモ亦同シ

第二十條　司法警察官左ニ記載シタル犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ之ヲ檢事局ニ報告ス可シ

一　刑法第二編第一章第二章及第三章第一節ノ犯罪
二　高等官、華族、有位、帶勳者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪
三　外國人ノ犯罪及ヒ外國人ニ對シタル犯罪
四　重要ノ犯罪又ハ公衆ノ耳目ヲ惹クヘキ犯罪

第二十一條　陸海軍軍人、軍屬ノ犯罪ニ付テハ陸海軍治罪法及其違警罪

處分ヲ例ニ從ヒ處分ス可シ但訴水兵又ハ召集中ノ陸海軍刑事被告人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　外國公使館ニ關スル事件ニ付テハ明治七年第百二十八號證發行ノ日、場所ニ於テ記載シテ署名捺印シ物件ニ在テハ其事由ヲ記載シ若ハ之ニ認印シ其封皮ニ署名捺印シ又ハ之ヲ封緘シ且封皮ニ年月日ヲ記載スル場合ニ於テハ其事由ヲ記載スル可シ但削除ノ部分ハ認メ得ス

第二十三條　本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ身體、家宅、物件ニ關スル處分ニ付テハ本邦ノ裁判所ハ其國ノ慣例ニ從ヒ處分ス可シ

第二十四條　司法警察官ノ作ルヘキ書類ニハ所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日、場所ヲ記載シテ署名捺印シ物件ニ在テハ其事由ヲ記載シ若ハ之ニ認印シ其封皮ニ署名捺印シ又ハ之ヲ封緘シ且封皮ニ年月日ヲ記載スル場合ニ於テハ其事由ヲ記載スル可シ

第二十五條　被告人、證人其他ノ署名捺印ヲ要スル書類ハ之ヲ本人ニ代書シ本人ヲシテ拇印若クハ捺印セシメタルトキハ其ノ氏名ヲ代書シ本人ヲシテ拇印若クハ捺印セシメタル旨ヲ附記ス可シ

第三節　捜査

第二十六條　捜査ハ犯罪ノ證據及ヒ犯人ヲ檢擧シ公訴ノ提起及ヒ實行ノ資料ヲ得ル爲ニ以テ目的物トス

第二款　捜査着手

第二十七條　捜査ハ現行犯、告訴、告發、自首、新聞、風聞其他凡ソ犯罪アルコトヲ認知シ又犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ着手スヘキモノトス

第二十八條　告訴、告發ノアリタル場合ニ於テ告訴ヲ告發ヲ却下スル可キモノニ非ス其捜査ニ着手ス可キ事件アルトキハ拘ラス之ヲ受ケ相當ノ手續ヲ爲ス可シ

第二十九條　告訴、告發ハ却下ス可キモノニ非ス其捜査ニ着手ス可キ事件アルトキハ拘ラス之ヲ受ケ相當ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十條　書面ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨趣不明ノ點アルトキハ其取調ヲ爲ス可シ

第三十一條　口述ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ檢事又ハ司法警察官吏ニ於テ調書ヲ作ル可シ

第三十二條　告訴、告發ニ付キ期滿ノ更ノ申立アリタルトキハ本人ヲシテ調書ヲ作ラシムヘシ

第三十三條　告訴、告發ヲ爲シタル者ニ於テ其事件ノ調書ヲ作ルヘキ場所ニ出頭セサルトキハ其事件ヲ取下ケタルモノト看做ス可シ

第三十四條　被告人ヲ逮捕シタル者ハ直ニ之ヲ檢事ニ送致ス可シ但逮捕ノ時ヨリ四十八時間内ニ檢事ニ送致スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ疏明シ檢事ノ指揮ヲ請フ可シ

第三十五條　檢事ハ被告人ヲ逮捕シタル者ヨリ送致ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間内ニ被告人ヲ訊問シ逮捕ノ必要ナキトキハ直ニ之ヲ釋放ス可シ

第三十六條　檢事ハ被告人ヲ訊問シ逮捕ノ必要アリト思料スルトキハ裁判官ニ對シ勾引狀ノ請求ヲ爲ス可シ

第三十七條　檢事ハ被告人ヲ訊問シ勾引狀ノ請求ヲ爲ス可キ場合ニ於テ被告人ニ住居ナキトキ又ハ逃走ノ虞アルトキハ裁判官ニ對シ勾留狀ノ請求ヲ爲ス可シ

第三十八條　檢事ハ勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ裁判官ニ對シ被告人ノ住居、身體、物件ノ檢索ヲ請求ス可シ

第三十九條　檢事ハ勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ裁判官ニ對シ被告人ノ住居、身體、物件ノ檢索ヲ請求ス可シ

第四十條　檢事ハ勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ裁判官ニ對シ被告人ノ住居、身體、物件ノ檢索ヲ請求ス可シ

第四十一條　新聞紙上ニ犯罪ニ關スル記事ヲ掲載シ又ハ犯罪ニ關スル風說ヲ流布シタル者アリト思料スルトキハ其犯罪ニ關スル證據物ヲ發見スルニ注意ス可シ

第三節　捜査

第四十二條　捜査ハ犯罪ノ原因、性質、方法、時機、日時、場所、被害者ノ慘狀、多數ニ被害者アル場合ニ於テハ其ノ數、被告人ノ氏名年齢、職業、出生ノ地、住所本籍、身分、品行、前科ノ有無及ヒ證據ノ關スルコト其他證據ト爲ルヘキ一切ノ事物ヲ取調フルニ在リ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ狀況ニ注意ス可シ

第一節　證據及ヒ犯人ノ捜査

第四十三條　犯罪ノ場所又ハ證據物ノ在ル場所ニ於テハ其捜査ヲ必要トスルトキハ之ヲ捜索シ又ハ檢證ス可シ

第四十四條　犯罪ニ關スル書類又ハ證據物ヲ發見スルニ必要ナルトキハ之ヲ差押ス可シ

第四十五條　犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ハ所有者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置シ又ハ保管セシムルコトヲ得

領置シタル物件ハ其品目ヲ記載シ且目錄ヲ作リ所有者又ハ保管者ニ渡ス可シ

第四十六條　前二條ノ處分官署公署ニ在ルトキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハルヘキ者ノ許諾ヲ得ルヲ要ス

第四十七條　捜査上必要トスルトキハ犯罪ノ事實ヲ知ルヘシト思料スル者又ハ被告人ヲ呼出シ若クハ其所在ニ於キ臨檢ヲ捜索スルコトヲ得又ハ口頭ヲ以テ報知ス可シ

第四十八條　前條ノ場合ニ於テ被告人其他ノ者ノ陳述ハ之ヲ錄取ス可シ

第四十九條　捜査上鑑定ヲ必要トスルトキハ之ヲ命サシムルコトヲ得其結果ハ鑑定者ニ鑑定セシムヘキ事項ヲ指定シテ之ヲ命サシムルコトヲ得

第五十條　物件ノ原形ヲ變スニ非サレハ鑑定ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ鑑定ヲ爲サシムル可ラス但腐敗其他ノ原因ニ因リ其物件ヲ保存スヘカラサル時ハ此限ニ在ラス

第五十一條　鑑定ノ爲メ犯罪ノ解剖ヲ必要トスルトキハ檢事ノ許可ヲ受ケ可シ其解剖ハ必要ナル部分ノ外之ヲ爲サシムル可ラス

第二節　被告事件送致

第五十二條　被告事件ノ要領ヲ得ルトキハ送致ノ手續ヲ爲ス可シ但送致後ト雖モ必要ナルトキハ仍ホ捜査ヲ爲ス可シ

第五十三條　被告事件ヲ送致スルトキハ證據物件及ヒ意見ヲ添ヘ且參考ト爲ル可キ書類ヲ送付ス可シ

第五十四條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第五十五條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第五十六條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第五十七條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第五十八條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第五十九條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第六十條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第六十一條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第六十二條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第六十三條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第六十四條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第六十五條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第六十六條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第六十七條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第六十八條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第六十九條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第七十條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第七十一條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第七十二條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第七十三條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第七十四條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第七十五條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第七十六條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第七十七條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第七十八條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第七十九條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第八十條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第八十一條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第八十二條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第八十三條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第八十四條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第八十五條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第八十六條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第八十七條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第八十八條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第八十九條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第九十條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第九十一條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第九十二條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第九十三條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第九十四條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第九十五條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第九十六條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第九十七條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第九十八條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第九十九條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第百條　檢事ハ事件ヲ送致シタル後檢事局ニ於テ犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ追送ス可シ

第五十九條　假釋證書ニ署名ヲ爲サシメタル場合ニ於テ假釋證書ヲ交付スルトキハ逃亡ニ之ヲ準用ス

第六十條　假釋證書ニ於テハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所、其他犯罪ニ關スル證據ニ付キ取調ヲ爲スノ必要アル事項ヲ記載スヘシ

第六十一條　假釋證書ニ關スル訴訟書類ハ檢事ニ於テ之ヲ保管ス

第六十二條　假釋證書ニ付テモ亦其取調ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ前條ノ例ニ依ル

第六十三條　假釋證書ハ裁判所ノ命令ニ依リ之ヲ取消スコトヲ得

第六十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第六十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第六十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第六十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第六十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第六十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第七十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第七十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第七十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第七十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第七十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第七十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第七十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第七十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第七十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第七十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第八十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第八十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第八十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第八十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第八十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第八十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第八十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第八十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第八十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第八十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第九十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第九十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第九十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第九十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第九十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第九十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第九十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第九十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第九十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第九十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百二十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百二十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百二十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百二十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百二十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百二十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百二十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百二十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百二十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百二十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百三十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百三十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百三十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百三十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百三十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百三十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百三十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百三十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百三十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百三十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百四十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百四十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百四十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百四十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百四十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百四十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百四十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百四十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百四十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百四十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百五十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百五十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百五十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百五十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百五十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百五十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百五十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百五十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百五十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百五十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百六十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百六十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百六十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百六十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百六十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百六十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百六十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百六十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百六十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百六十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百七十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百七十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百七十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百七十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百七十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百七十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百七十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百七十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百七十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百七十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百八十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百八十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百八十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百八十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百八十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百八十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百八十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百八十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百八十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百八十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百九十條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百九十一條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百九十二條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百九十三條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百九十四條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百九十五條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百九十六條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百九十七條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百九十八條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第百九十九條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

第二百條　假釋證書ハ假釋中ノ行狀ニ關シ裁判所ノ命令ニ依リ檢事ヲシテ調査セシムルコトヲ得

ラ作ラシメ又ハ一個ノ鑑定書ニ其意見ヲ記載セシムヘシ
鑑定書ニハ鑑定セシ年月日ヲ記載シ署名捺印シ爭點ニ契印セシム可シ

第九十八條　鑑定書ニ不明不備ノ點アルトキハ更ニ其說明書ヲ作ラシメ鑑定書ニ添證ク可シ

第四章　被告人逮捕

第九十九條　禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯准現行犯ニシテ被告人現場ニ在ルトキハ直チニ之ヲ逮捕ス可シ但被告人ノ身分又ハ事件ノ模樣ニ因リ其逮捕ヲ必要トセサルトキハ此限ニアラス

第百條　現行犯、准現行犯ニ付キ被告人ヲ追跡スル場合ニ於テハ其追及シタル場所ノ如何ニ拘ハラス直チニ之ヲ逮捕スルコトヲ得但日出前日沒後ハ戶主又ハ之ニ代ハル可キ者ノ承諾アルニ非ラサレハ他人ノ家宅内ニ侵入ス可カラス

第百一條　被告人ヲ逮捕スルニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用フ可シ
被告人兇器ヲ持シ抗拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ用フルモ決シテ自衛ノ區域ヲ踰ユ可カラス

第百二條　假釋書ノ場合ニ於テハ現場ニ在ラサル被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得
被告人他ノ管轄地内ニアルトキハ其他ノ司法警察官ニ勾引狀ヲ送致シ其執行ヲ囑託ス可シ
若シ其事件急速ヲ要スルトキハ逕ヲ憲兵、上等兵ヲシテ勾引狀ヲ帶行セシメ又ハ電報ヲ以テ逮捕ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得其囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ其名ヲ以テ勾引狀ヲ發ス可シ

第百三條　勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ護送途中及引致シタル時ヨリ四十八時間内ハ留置場ニ入レ置クコトヲ得

第百四條　勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ釋放ノ場合ヲ除ク外前條ノ期限内ニ檢事局ニ送致スルノ手續ヲ爲ス可シ
勾引狀ナクシテ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テモ亦同シ

第百五條　常人ニ於テ現行犯、准現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サントスルトキハ成ル可ク其便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ル可シ

第百六條　現行犯、准現行犯ニ付キ巡査、憲兵、上等兵又ハ常人ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ速捕ノ事由及ヒ申告ノ趣旨ニ付キ調書ヲ作ル可シ逮捕ヲ爲シタル者ヨリ手續書ヲ差出シタルトキハ其相違ナキヤ否ヤヲ取調ヘ之ヲ調書ニ添證ク可シ

第百七條　勾引狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名職業、住所及年月日時ヲ記載ス可シ其氏名分明ナラサルトキハ容貌體格等ヲ明示ス可シ

第百八條　勾引狀ハ巡査、憲兵、上等兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

第五章　被告人訊問

第百九條　假釋書ニ於テハ取證ノ機ヲ失セス且被告人ノ利益ヲ損セサル爲メ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢證、搜索、物件差押及ヒ證人訊問ニ付キ急速ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第百十條　被告人ニハ先ツ左ノ事項ヲ訊問ス可シ
一　氏名、年齡、身分、職業、住所、出生ノ地
二　有位又ハ帶勳者ナルヤ否
三　前科ノ有無若シ前科アルトキハ其罪名刑名裁判言渡ヲ爲シタル廳名及ヒ其年月日

第百十一條　被告人ヲ訊問スルニハ穩和ヲ旨トシ且其年齡、身分、性質等ヲ斟酌シ一樣ノ訊問ヲ爲ス可カラス

第百十二條　訊問ヲ爲スニハ平易ノ語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス又簡明ヲ旨トシ拙メ疑似ニ渉ルコトヲ避ク可シ

第百十三條　被告人ニハ自由ニ發言セシム可シト雖モ餘事ニ渉ラシメサルコトニ注意ス可シ

第百十四條　訊問ハ一事項毎ニ其端ヲ更メ成ル可ク同時ニ數時項ヲ訊問ス可カラス
數罪具發ノ場合ニ於テハ成ル可ク一罪ノ訊問終リタル後他罪ニ及フ可シ

第百十五條　數人共犯ノ場合ニ於テハ成ル可ク各別ニ訊問シ其通謀ヲ防ク可シ且職ク事實ヲ得可シト思料スル者ヨリ訊問ヲ爲ス可シ

第百十六條　證據物件ハ時機ヲ計リ之ヲ被告人ニ示シ其辯解ヲ爲サシム可シ

第百十七條　事實發見ノ爲メ必要ナル場合ニアラサレハ被告人ヲシテ他ノ被告人又ハ證人ト對質セシム可カラス

第百十八條　第九十二條ハ被告人訊問ニ付テ亦之ヲ通用ス可シ

第百十九條　被告人ノ擧動ハ事實發見ノ端緒トナルコトアルニヨリ其言語、氣色等ニ注意ス可シ

第百二十條　被告人ノ自狀アリト雖モ一概ニ事實ト做ス可カラス其自狀ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調ブルコトニ注意ス可シ

第百二十一條　訊問ニ付テハ即時ニ其調書ヲ作リ問答ノ始末及ヒ被告人ノ擧動等遺漏ナク記載ス可シ

第九十三條ノ手續ハ被告人訊問調書ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

◎司法警察規則附錄

（明治七年九月太政官第百二十八號達）

第一條　外國公使館屬員ノ事

外國公使ハ我國臣ヲ以テ屬僕スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴充スル時ハ其家族並ニ公使館屬員（書記官隨員公使ノ僕隷書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僕隷等總テ公使館ノ名籍ニアルモノヲ云フ）及ヒ其家屋車馬迄モ同樣ナリト思料スヘシ

第二條　内國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ傭ハレ公使館ノ名籍ニアル間ハ公使館ノ屬隷トシ見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ訊問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ歷テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待テ後引出スヘシ尤モ其者ヲ處分スルハ公使館ノ關係スルコトニアラス

第三條　内國人各公使館及書記官ニ傭ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ届出外務省ハ其届書ヲ逃ニ司法警察官吏ヘ送遞シ證クヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置クヘシ若シ途中ニテ或人ヲ引留其名籍ノ在ル所ヲ聞糺ス時公使館ニ傭ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ遂クタル後其處分ヲ施スヘシ若其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述フル時ハ公使館ヘ同道シ右ノ如ク處置ス可シ

但重科ニテ捕縛セサルヲ得サルモノハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條　外國公使館内ヘハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留メル者奔逃シテ門内ヘ匿入セシ等急駈ノ間モ猶豫スヘカラサルトキハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受ケテ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條　右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外國員ハ勿論車馬家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ下スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其處分ヲ爲スヘシ

外國公使屬員罪ヲ犯ス並犯罪ノ内國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條　外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火强姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ飛人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシカタキ時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報告シ之ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ決シテ手鎖捕縛等ノ事アル可ラス或ハ屬員ノ内國人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼レヨリ引渡ヲ受クルノ手續ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

第七條　犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ自狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル内國人現ニ公使館内ニ傭ハレテ公使館ニ住居スルトキハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館ヘ照會ヲ乞館主ニ引渡ヲ要求シ其入ヲ受取リテ後之レヲ捕縛スヘシ若シ館主之レヲ拒ムトキハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ムヘシ

◎司法警察官外國人ニ關スル執務心得

（明治三十二年七月司法省民刑甲第一四二號訓令）

司法警察官外國人ニ關スル執務心得別冊ノ通相定ム

司法警察官外國人ニ關スル執務心得

第一條　司法警察官外國人ニ關シテ其職務ヲ行フニハ此執務心得ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外明治二十六年民刑甲第一七四號司法警察官執務心得ニ從フ可シ

第二條　司法警察官外國公使館員其他外國人ニ關係アル犯罪事件ヲ認知シタルトキハ速ニ所轄檢事ニ報告ス可シ

逃亡犯罪人又ハ外國艦船乘組員ノ逮捕、留置ニ關シ檢事ノ指揮ニ因リ取扱ヒタル事項ニ付テモ亦同シ

第三條　司法警察官外國公使其家族竝ニ公使館屬員、書記官竊員公使ノ僕隷書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僕隷等ニ於テ公使、使館ノ名義ニアル者ヲ云フ及ヒ公使館ニ及ホスコト能ハサルモノトス

公使ノ居宅別莊又ハ其宿泊スル場所其他車馬、什器、家舍等ニ付テモ亦同シ

第四條　司法警察官外國公使館ニ關スル事件ニ付キ其職務ヲ行フニハ左ノ規定ニ從フ可シ

一　公使館ノ名義ニ在ル內國人ニ對シテ逮捕若クハ取調ヲ要スルトキハ速ニ所轄檢事ニ報告シ其指揮ヲ待ツ可シ

二　犯罪者タル內國人現ニ公使館ニ館內ニ住居シ逃亡ノ恐アルトキハ警戒其他必要ノ處分ヲ爲シ前號ノ手續ヲ爲ス可シ

三　公使館內ニハ其館主ノ請求アル時ノ外立入可カラス若シ重大ノ罪ヲ犯シタル者逃走シテ館內ニ入リ潛隱スル可カラサルトキハ門番ニ告ケ館主ノ許可ヲ受ケタル後館內又ハ邸內ヲ捜索ス可シ

四　公使館書記ノ住宅內ニ在ル內外屬員ニ對シテ職務ヲ行フノ必要アルトキハ第一號ノ手續ニ從フ可シ其車馬、家舍等ニ付テモ亦同シ

五　公使館ノ屬員ナル內外國人館外ニ於テ現ニ重大ナル罪ヲ犯シ確證アリテ猶豫シ難キトキハ其場ニ引留置手錠捕縄等ノ第一號ノ手續ヲ爲ス可シ但重大ノ罪ヲ犯シ逮捕ヲ必要トスルトキハ前號ノ規定ニ從フ

六　公使館外ニ於テ內國人ヲ取調ヘ若クハ逮捕セントスルニ當リ公使館ノ屬人ナリト主張スルトキハ第一號ノ手續ヲ爲ス可シ但重大ノ罪ヲ犯シ逮捕ヲ必要トスルトキハ前號ノ規定ニ從フ

第五條　司法警察官ハ外國軍艦ボートヲ包含內ニ於テハ其職務ヲ行フコトヲ得ス

內外人ヲ問ハス重要ナル罪ヲ犯シタル者逃亡シテ帝國ノ港內ニ在ル外國軍艦內ニ入リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ其艦長ニ對シ任意引渡ヲ請求スルコトヲ得

第六條　司法警察官ハ帝國港內ニ碇泊スル外國軍艦ニ屬スル軍人軍屬ニ對シテハ其職務ヲ行フコトヲ得ス

其軍人軍屬ニシテ軍艦ヲ離レテ罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ逮捕處分ヲ爲スノ外所轄檢事ニ報告シ其指揮ヲ待ツ可シ

第七條　司法警察官ハ任命國ノ臣民ナル帝國駐在ノ外國總領事、領事、副領事、代辨領事及ヒ代理領事ノ犯罪ニ付テハ之ヲ逮捕シ若クハ留置スルコトヲ得ス但帝國ノ法律ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スヘキ罪ヲ犯シタルトキハ此限ニ在ラス

第八條　司法警察官ハ帝國駐在ノ外國領事官メ事務所及ヒ居宅內ニ於テモ其職務ヲ行フコトヲ得但記錄書類ハ公私ヲ問ハス之ヲ檢閱シ若クハ差押フルコトヲ得ス其公用ノ記錄書類館外ニ在ルトキ亦同シ

領事官カ其任命國ノ臣民ニアラサルトキ又ハ其任命國ノ臣民ナルモ商業工業其他ノ營業ニ從事スルトキハ其私用書類ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ適用セス

第九條　前二條ニ揭ケタル場合ニ於テハ急速處分ヲ要スルモノノ外所轄檢事ニ報告シ其指揮ヲ待ツ可シ

第十條　司法警察官ハ帝國ノ領海若クハ港內ニ在ル外國商船內ニ於テモ、其職務ヲ行フコトヲ得但乘組員船內ノ犯罪ニ付テハ左ノ場合ニアラサレハ其職務ヲ行フコトヲ得ス

一　帝國ノ陸上若クハ港內ノ安寧、秩序ヲ害シタルトキ

二　帝國ノ臣民又ハ乘組員以外ノ者ニ關係アルトキ

第十一條　司法警察官、其職務ヲ行フニ當リ領海又ハ港內ニ在ル外國商船ノ出港若クハ進行ノ停止ヲ必要ナリト認ムルトキハ速ニ所轄檢事ニ報告シ其指揮ヲ待ツ可シ

第十二條　外國人口頭ヲ以テ告訴、告發又ハ自首ヲ爲サントスル場合ニ於テ言語通セサルトキハ便宜事ヲ用ヒ其陳述ヲ錄取ス可シ

前項ノ場合ニ於テ司法警察官ノ作製シタル調書ハ通事ニ依リ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ通事及本人ヲシテ署名若クハ署名捺印セシメ其旨ヲ付記ス可シ

第十三條　外國人外國語ヲ以テ口頭ノ告訴、告發又ハ自首ヲ爲シタル場合ニ於テ司法警察官、通事ニ依ラスシテ調書ヲ作製シタルトキハ自ラ之ヲ通譯シテ本人ニ讀ミ聞カセ署名若クハ署名捺印セシメ其旨ヲ付記ス可シ

第十四條　外國人法律上代理人ノ資格ヲ以テ告訴ヲ爲スニ付キ其資格ニ關スル領事ノ證明書ヲ提出スルトキハ成ルヘク其譯文ヲ添付セシム可シ

第十五條　犯罪事件ニ關シ外國人ヨリ提出スル告訴狀、告發狀、自首狀、鑑定書、委任狀其他ノ書類ハ外國語ナルトキト雖モ受理ス可シ但提出者ヲシテ成ルヘク譯文ヲ付セシム可シ

第十六條　外國人ヨリ提出スル外國人ノ委任狀ニハ相當ノ印紙ヲ貼用シ其署名又ハ印章ヲ以テ之ヲ抹消セシム可シ

第十七條　告訴告發ノ取下及ヒ變更ニ付テハ第十二條、第十三條及ヒ第十五條ノ規定ヲ準用ス

第十八條　外國人ノ爲スヘキ署名ハ外國文字ナルモ妨ナシ

第十九條　司法警察官外國人ノ現行犯アルコトヲ認知シ假檢審ヲ必要ナリト思料スルトキハ速ニ其處分ニ着手シ一面之ヲ所轄檢事ニ報告ス可シ

其他ノ場合ニ於テハ急速ヲ要スルモノノ外檢事ノ指揮ヲ待テ着手ス可シ

第二十條　司法警察官假檢審ノ爲メ調書ヲ作製スルニ當リ日本語ニ通セサル外國人立會ヒタルトキハ便宜通事ニ依リ之ヲ讀ミ聞カセ通事ト共ニ署名若クハ署名捺印セシム可シ

第二十一條　外國人ナル被告ニ對シテハ左ノ事項ニ付テモ訊問ヲ爲ス可シ

一　國籍

二　帝國ニ於ケル住所又ハ居所

三　外國ニ於テ受刑ノ有無

四　帝國ニ來リタル時期及ヒ目的

五　本國ヲ去リタル時期

六　家族ノ有無及ヒ其住所又ハ居所

七　帝國ノ勳章又ハ年金ヲ受領シ居ルヤ否ヤ

被告人ノ陳述ヲ聽クニ付テモ亦前項ニ列記シタル事項ニ注意ス可シ

第二十二條　被告人、證人、鑑定人ニ外國人ニシテ日本語ニ通セサルトキハ通事ヲ用ヒ訊問ヲ爲シ其調書ハ通事ニ依リ本人ニ讀ミ聞カセ通事及本人ヲシテ署名若クハ署名捺印セシム可シ

第二十三條　外國人ノ官吏、公吏ノ職務ニ關スル事項其他身分職業ニ因リ知リ得タル事項ニシテ默祕スヘキ義務アルモノニ付テハ本人ノ承諾アルニ非レハ供述ヲ爲サシムルヲ得ス

第二十四條　帝國駐在ノ外國領事館ニ於テ檢證、捜索、物件差押ヲ爲ス場合ニ於テハ領事官又ハ其代理者ノ立會アルコトヲ要ス

第二十五條　司法警察官、外國領事官ノ駐在スル帝國港內ニ在ル外國商船ニ逃キ檢證、捜索、物件差押、逮捕、訊問其他强制的處分ヲ爲サントスルトキハ該領事官ヲシテ立會フコトヲ得セシムル爲メ豫メ相當ノ日時ヲ定メ其旨ヲ通知ス可シ官署ニ於テ其乘組員ヲシテ證言又ハ陳述ヲ爲サシムルトキ亦同シ

領事官又ハ代理者ニシテ指定ノ日時ニ出頭セサルトキハ其國席ニ拘ハラス前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ作製シタル調書ニハ領事官ニ立會ヲ通知シタルコト及ヒ其立會ノ有無ヲ記載ス可シ

領事官ノ駐在セサル港ニ於テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第二十六條　外國人ニ對シ發スル呼出狀、召喚狀、勾引狀ニハ便宜譯文ヲ付ス可シ

第二十七條　外國人ニ對シ命狀ヲ執行スルトキハ成ルヘク外國語ニ通スル

ル巡査、憲兵上等兵ヲ使用スル可シ

第二十八條　非現行犯ノ場合ニ於テモ被疑者タル外國人ノ國籍分明ナラス又ハ帝國内ニ住所若クハ居所ヲ有セサルモノニシテ罪證明白ナルトキハ其承諾ヲ得テ之ヲ官署其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

第二十九條　外國人ニ對シ任意出頭ヲ求ムル爲メノ通知ハ口頭タルト書面タルトヲ問ハス便宜外國語ヲ以テスルヲ爲スコトヲ得

第三十條　日本語ニ通セサル外國人ノ隣逃ヲ聽ク爲メ通事ヲ用ヒタルトキハ聽取書中ニ其通事ノ職業住所氏名ヲ記載スヘシ

第三十一條　外國人ヨリ差押ヘタル物件又ハ其承諾ヲ得テ領置シタル物件ニ關シ交付スヘキ目錄ニハ便宜譯文ヲ添付スル可シ

第三十二條　外國人ニ就キ假釋署又ハ捜査處分ヲ爲ストキハ成ルヘク外國語ヲ以テ官職氏名ヲ記シタル名刺ヲ交付スル可シ巡査、憲兵上等兵第二十八條ノ職務ヲ行フトキ亦同シ

第三十三條　外國人ノ國籍、身分、職業、氏名又ハ船舶、器具ノ名稱等ハ假名ヲ以テ之ヲ記シ成ルヘク其傍ラニ原字ヲ付記スル可シ

第三十四條　外國人ノ國籍、氏名、年齢、職業其他犯罪事件ニ關シ取調ノ必要アルトキハ帝國駐在ノ外國領事官ニ照會スルコトヲ得

領事官所在地以外ノ司法警察官ハ其所在地ノ司法警察官ニ嘱託シテ前項ノ照會ヲ爲スコトヲ得

第三十五條　外國官署、公署、帝國駐在ノ外國公使館及ヒ帝國港内碇泊ノ外國軍艦艦長ニ照會ヲ要スル事項アルトキハ其旨ヲ所轄檢事ニ申出ツ可シ

第三十六條　逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ檢事ノ發シタル逮捕狀、假逮捕狀ヲ執行スルニ當リ本人ノ携帯スル物件ハ之ヲ差押ヘ其目錄ヲ作リ本人ト共ニ檢事ニ引渡ス可シ

◉司法警察官ノ發スル令狀書式

（明治十四年十二月司法省達丙第十七號）

警視廳　府縣　東京府ヲ除ク

治罪法令狀樣式別紙丁第二十八號ノ通大審院裁判所ヘ相違候條其旨相心得ヘク且司法警察官ニ於テ令狀ヲ發スル時ハ左ニ照準シテ取計フヘシ此旨相達候事

司法省達丁第二十八號　明治十四年十二月十二日

大審院　裁判所

治罪法中ニ揭ケタル送達書呼出狀召喚狀拘引狀拘留狀收監狀及宣誓書式別紙ノ通相定候條右ニ照準スル可シ此旨相達候事

◉司法警察官現行犯ヲ受取リタル時取調ヘ方ノ件

（明治二十三年十二月司法省刑甲第二八號司法省刑事局長通牒）

司法警察官現行犯卽ニ付現場ニ臨檢セス巡査又ハ憲兵卒等ヨリ被告人ヲ受取タルトキハ豫審處分トシテ被告人ヲ訊問スルコトヲ得サレトモ司法警察訓則ニ依リ捜査處分トシテ被告人ヲ取調フルハ差支ナキ儀ニ有之候條長官ノ命ニ依リ爲御心得此段及通牒候也

◉司法警察事務ニ關スル細則設定スルニ付警察ノ費用等ニ關シ豫メ各監督官ト協議スヘキ件

（明治三十年十月司法省民刑甲第一八〇號訓令）

今般司法警察事務ニ關スル細則設定ノ件及訓令候處右細則ヲ設定スルニ付警察ノ費用警察官吏ノ員數其他警察官吏身分ノ監督上ニ關係ヲ及ホスヘキ場合ニ於テハ豫メ各監督官ト協議ヲ遂ケ不都合ナキ樣取計フ可シ

司法省民刑甲第一八〇號（明治三十年十月司法大臣訓令）

司法警察ノ事務ハ裁判所構成法ノ施行ニ因リ專ラ檢事ノ監督ニ屬シ其事務ニ關スル細則等ハ檢事ニ於テ設定ス可キモノニ付明治十九年當省訓令第一號ハ當然消滅シタル儀ト心得可シ右訓令ス

◉警察事務上巡査ヲシテ警部ノ代理ヲナサシムル件

（明治十四年十月司法省達丙第十三號）

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得已場合ニ於テハ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ不苦候條此旨相達候事

但代理ヲ命スヘキ巡査ノ姓名ハ豫メ其地方輕罪竝巡警頭裁判所ヘ通牒致シ置候儀ト心得ヘシ

◉憲兵將校以下司法警察事務執行ノ件

（明治十五年五月太政官第二十三號布告）

憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡査ト同シク司法警察ノ事ヲ行ハシム

◉司法官吏ヨリ巡査、兵員要求使用手續

（明治十四年九月太政官第八十二號達）

第一條　裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡査又ハ憲兵卒ヲ使用スルコトヲ得

但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條　前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ渉ル時ハ直チニ鎭臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要スルコトヲ得

◉司法官吏ヨリ巡査兵員要求使用手續

（明治十四年十二月司法省達丙第十五號）

治罪法實施ノ上ハ豫審判事檢證及ヒ物件差押ノ事件ニ付急遽ヲ要スル場合直ニ巡査ヲシテ同行シ又ハ所在ノ巡査ヲ使用スル儀ニ可有之候條豫テ可達置此旨相達候事

◉司法警察官假豫審處分立會人ノ件

（明治二十八年三月司法省民刑局長通牒）

（第四〇號司法省民刑甲號之通香川縣知事ヨリ伺出有之乙號之通訓令相成候ニ付爲御心得此段及通牒候也）

（別紙）甲號

司法警察官假豫審處分ノ場ニ付伺　明治二十八年二月香川縣知事

刑事訴訟法第九十二條ニ依レハ豫審判事ノ臨檢捜索物件差押被告人證人ノ訊問ニ付テハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トシ且ツ裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ル能ハサルトキハ立會人二名アルヲ要シ而テ書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル其處分ハ無效タルノ規定アリ之レ裁判所書記ナルモノハ假令豫審判事ニ隨伴シタルモノヽ如キモ其名稱ニヨリ自カラ獨立ノ職務ヲ以テ一ツノ證據力ヲ有スルニ依リ此規定アルモノト考料セリ然ルニ同法第百四十七條ニ於テ司法警察官ニ許サレタル現行犯ノ豫審處分ニ付テハ別ニ立會人ヲ要スルノ規定ナク又元ヨリ警察署ニ書記ナルモノナキヲ以テ同件處分ヲ爲スノ間レナシ故ニ司法警察官ノ假豫審處分ニ在テハ御省明治廿六年九月訓令司法警察官執務心得第七十條第七十一條ノ場合ヲ除ク外立會人ヲ要セス處分シ可然モノト認メ居候處偶大審院ニ於テハ司法警察官カ假豫審處分ノ場合被告人證人參考人等ノ訊問ニ立會人ヲ用ヒスシテ爲シタル調書ハ遂法トシテ無效ノ判決ヲ下サレタル趣果シテ大審院判決ノ如ク立會人二名ヲ要スルモノトセハ現場ニ於テハ兎モ角引續キ被告人證人等ヲ警察署ニ於テ取調フル場合ハ之レニ立會セシムル其人ナシ若シ他ヨリ特ニ立會人

ナ呼出サンカ之レニ給ス可キ旅費日當ヲ支辨スルノ途ナク巡査ナシテ立會セシメンカ裁判所書記ノ如キ職權アルモノニアラスシテ巡査ハ警部ノ指揮命令ニ服從ス可キモノナルヲ以テ到底證據力ヲ有スルモノト認ムルヲ得ス就テハ前段見解ノ通司法警察官執務心得第七十條第七十一條ヲ除ク外ハ司法警察官ノ假豫審處分ニ付キテハ警察署ノ內外ヲ問ハス立會人ナクシテ其處分ヲ爲スモ無論差支無之義ト心得可然哉爲念相伺候也

乙號（明治二十八年二月訓令）

本月十八日保第二一四號伺司法警察官假豫審處分方ノ件ハ司法警察官執務心得第六十一條ノ通ニ付同心得申特別ノ規定アル場合ヲ除ク外立會人ヲ要セサル儀ト心得可ン

右訓令ス

◉清國朝鮮國駐在領事ニ屬スル司法警察官監督

（明治十五年七月司法省內訓）

本月二十四日電信朝鮮國各港在留領事ニ屬スル司法警察官ヲ監督スルハ見込ノ通猶清國ノ儀モ同樣心得ヘシ此旨內訓ニ及フ

長崎控訴裁判所檢事長訓令（十五年七月）

朝鮮各港駐在ノ領事兼判事ニ屬スル司法警察官ハ當職ニ於テ監督ノ權アルハ勿論ト心得可キヤ電信ニテ內訓ヲ仰ク

◉外國汽船乘組員鬪爭事件處置ニ關スル件

（明治三十二年八月司法省民刑甲第一九七號次官通牒）

長崎港碇泊中ノ米國汽船乘組員鬪爭事件ノ訴出ニ對スル同地水上警察署ノ處置ニ關スル件ニ付キ別紙甲號ノ通外務次官ヨリ照會有之乙號ノ通同答致置候條爲御心得此段及通牒候也

（別紙）

甲號（明治三十二年八月送第四六號外務次官申牒）

長崎港碇泊中ノ米國汽船乘組員鬪爭事件ノ訴出ニ對スル同地水上警察署ノ處置ニ關シ別紙寫ノ通長崎縣知事ヨリ申報有之候處領事官ノ最惠國待遇ニ關スル條約規定ノ解釋ニ付テハ先般御照會ニ對シ及御回答候通日獨及日白間ノ如ク領事職務條約ニヨリ相互報酬ノ條件ヲ以テ彼我駐在領事官ニ許可シタル特別ノ權利及職權ハ同一ノ相互報酬ノ條項アルノ爲メノミヲ以テ直ニ他國領事官ニモ屬スル義ニ無之ト理會致候間右樣御了知ノ上今後ノ扱振ノ爲メ可然御取計置相成度此段申進候也

別紙

外國人ニ關スル件（明治三十二年七月長崎縣知事申報）

本月廿一日正午十二時頃當時長崎港碇泊中ナル米國汽船センテンニヤ號事務長「チヤールス、スチンプソン」ナル者長崎水上警察署ニ出頭シ先刻同船ニ於テ乘組員「チヤールス、ヂヤンクソン」ト「ハルマン、プレウイ」トノ間ニ鬪爭ヲ生シ「ヂヤクソン」ハ七八寸位ノ洋刀ヲ以テ「プレウイ」ノ胸部ヲ刺傷シタルニヨリ「プレウイ」ハ直ニ陸上ノ米國人療業所ニ入レ治療ヲ施シ一面米國領事ヘ對シ加害者ノ處分ヲ請求シタル處同領事ヨリ最早今日ハ改正條約實施ノ後ナルニ付日本官衙ヘ訴フヘシト申付クラレタルニ依リ日本官衙ニ於テ處分アラハ加害者ヲ引渡スヘシト申立テタルモ右ハ外國商船內ニ於ケル外國人間ノ犯罪ニシテ別ニ帝國陸上又ハ港內ノ安寧秩序ヲ害シタル實ナキニ付處分ノ必要ナキモノトシ檢事正ヘモ問合ノ上加害者ハ本船ヘ連レ戻ラシメタル旨同警察署ヨリ報告アリタリ

右及報告候也

乙號（明治三十二年八月司法省民刑甲第一七七號司法次官回答）

本月七日送第四六號ヲ以テ長崎港碇泊中ノ米國汽船乘組員鬪爭事件ノ訴出ニ對スル同地水上警察署ノ處置ニ關シ御照會ノ趣領承右ハ當省ニ於テ司法警察官外國人ニ關スル執務心得取調ノ際同心得中ニ領事職務條約

ノ施行ニ關スル規定ヲ設ケ改正條約施行上關係ヲ及ホスヘキ儀ニ付訓令前段省ノ御意見承知致度旨當省大臣ヨリ貴省大臣ヘ照會相成候處領事職務條約ノ施行ニ關スル同心得第十條ノ規定即司法警察官ハ帝國ノ領海若クハ港內ニ在ル外國商船內ニ於テモ其職務ヲ行フコトヲ得但乘組員船內ノ犯罪ニ付テハ左ノ場合ニアラサレハ其職務ヲ行フコトヲ得ス一帝國ノ陸上若クハ港內ノ安寧秩序ヲ害シタルトキ二帝國ノ臣民又ハ乘組員以外ノ者ニ關係アルトキトアル項ニ付テハ何等御異見無之ニ付其儀訓令相成候後當省ニ於テ右執務心得ノ規定ハ施行上不都合ノ點アルヲ發見シタルニ付通商航海條約及領事職務條約中領事官最惠國待遇ニ關スル規定ノ解釋ニ付キ貴省ノ御意見ヲ求ムルノ必要ヲ生シ本年七月二十一日當省民刑甲第一六七號ヲ以テ及御照會候末御回答ニ接シタルヲ以テ裁判所及檢事局ヘ通牒致置タル次第ニ有之御申越ノ事件ハ右通牒到著前ノ處分ニ係ル儀ト致思考候條右樣御了承相成度此段及回答候也

第九類　犯人引渡、領事職務條約、領事裁判

◉日米犯罪人引渡條約

（明治十九年十月勅令）

日本國亞米利加合衆國犯罪人引渡條約譯文

日本皇帝陛下及ヒ亞米利加合衆國大統領ハ兩國內竝ニ其管轄內ニ於テ司法事務ヲ益周到ナラシメ及ヒ犯罪ヲ防止センカ爲メ下ニ揭クル犯罪ニ付有罪ノ宣告若クハ告訴告發ヲ受ケ來タ處分ヲ經スシテ逃亡スル者ハ其情狀ニ據リ互ニ之ヲ引渡スノ便宜ナルヲ認メ之レカ爲メ條約ヲ締結スルコトニ決シ日本皇帝陛下ハ外務大臣伯爵井上馨ヲ亞米利加合衆國大統領ハ日本駐劄特命全權公使リチヤード、ピー、ハツパードヲ各其全權委員ニ命セリ因テ雙方全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ齟齬適式ナルヲ認メ左ノ條々ヲ議定ス

第一條　締約國一方ノ管轄內ニ於テ第二條ニ揭クル犯罪ニ付有罪ノ宣告若クハ告訴告發ヲ受ケタル者他ノ一方ノ管轄內ニ於テ發見セラレタルトキハ締約兩國政府ハ本條約ニ開列スル情狀及ヒ制限ニ遵ヒ互ニ之ヲ引渡スヘシ

第二條

一　謀殺、謀殺未遂犯、其他殺人罪
二　貨幣ノ僞造若クハ變造、僞造若クハ變造貨幣ノ發行或ハ行使、公債證書、北利札、銀行紙幣、其他公衆ノ信用ヲ受クヘキ證書類ノ僞造竝ニ其發行若クハ行使
三　文書ノ僞造若クハ變造竝ニ其行使
四　監守盜即チ官吏又ハ監守人締約國一方ノ管轄內ニ於テ公金ヲ使用スル罪竝ニ備主ノ損害トナルヘキ被備人ノ監守盜
五　强盜若クハ五十弗以上ノ竊盜
六　重刑ニ當ル罪ヲ犯ス目的ヲ以テ夜間若クハ晝間他人ノ家宅ヲ破壞シ之ニ侵入スル罪
七　重刑ニ當ル罪ヲ犯ス目的ヲ以テ官衙、國立銀行、私立銀行、貯蓄銀行、財產管理會社及保險會社竝ニ其他會社ノ家屋ヲ破壞シ若クハ破壞セスシテ之ニ侵入スル罪
八　僞證及僞證敎唆
九　强姦
十　放火
十一　國際法ニ於テ海賊ト認ムル罪
十二　引渡ヲ請求スル國ノ旗章ヲ揭ケタル船舶ヲ洋航行中其船內ニ於テ犯シタル謀殺、謀殺未遂犯、及ヒ其他殺人罪
十三　惡意ヲ以テ鐵道、馬車鐵路、船舶、橋梁、家屋及ヒ公用建物竝ニ其他ノ建物ヲ破壞シ若クハ破壞セント謀リ其所爲人命ニ危害ヲ生スヘキモノ
十四　銀行營業者、受托人、銀行若クハ財產管理會社ノ頭取役員ノ詐僞ニシテ現今法律ニ據リ罪トナルヘキモノ

第三條　請求ニ係ル人引渡ノ請求ヲ受ケタル國ニ於テ審判中ナルトキハ之ヲ引渡スト引續キ之ヲ審判スルトハ該國ノ隨意タルヘシ但其審判該逃亡人ノ引渡ヲ請求スル罪ノ爲メニアラサルトキハ一時其引渡ヲ遲滯スルコトアルモ終ニ之ヲ拒クコトヲ得ス

第四條　若シ請求ニ係ル人ヲ政事上ノ犯罪ニ付審判シ若クハ處刑セントスルノ目的ヲ以テ引渡ヲ請求シタルト認ムルトキハ其引渡ヲ爲ササルヘシ又引渡サレタル人ハ其引渡前ニ犯シタル政事上ノ犯罪ニ付審判若クハ處刑セラルルコト無ルヘシ

第五條　引渡請求ハ締約國相互ノ外交官ヲ經テ之ヲ爲スヘシ若シ外交官其國內又ハ其所在ノ地ニ駐留セサルトキハ高等領事官之ヲ爲スヘシ已ニ有罪ノ宣告ヲ受ケタル逃亡人ノ引渡ヲ請求スルニハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告又ハ其裁判官ノ職權ニ付相當行政官ノ證明書及ヒ其行政官ノ職權ニ付日本又ハ合衆國ノ公使若クハ領事ノ證明書ヲ添フヘシ若シ逃亡人告訴告發ヲ受ケタルノミナルトキハ請求國ニ於テ發シタル逮捕狀ノ公寫及其逮捕狀ヲ發スルノ根據トナリタル證據書

逃亡犯罪人引渡條例

（明治二十年八月勅令第四十二號）

第一條　本條例ニ於テ條約國トハ現ニ帝國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シ若ハ將來締結スルノ權アル外國ヲ謂フ

第二條　犯罪人引渡ニ關スル條約ニ定メタル所ノ犯罪ニ付テハ其條約ニ定メタル所ニ從ヒ又條約ニ定メサル犯罪ニ付テハ左ノ規定ニ從ヒ條約國ノ請求ニ應シ其逃亡犯罪人ヲ引渡スヘシ

一　條約國ニ於テ逃亡犯罪人ヲ引渡スヘキ旨ヲ申出テタルトキ

二　犯罪人引渡條約ニ支障ナキ限リ且請求國ニ於テ同樣ノ場合ニ自國ノ臣民ヲ引渡スヘキ旨ノ條款アルトキ

第三條　條約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アリタルトキハ本條例ニ定ムル所ノ條款ニ據ルノ外ノ條款ニ因リ其手續ヲ爲スヘキハ本條例ニ定ムル所ニ從フ

一　引渡ノ請求ハ眞正ノ證文又ハ裁判上ノ犯罪ニ付權限アル官ノ爲シタル逮捕狀ニ依リ之ヲ證明シタルトキニ非サレハ之ヲ許サス

二　引渡ノ目的タル犯罪カ本人ニ於テ犯シタル政事上ノ犯罪ニ非ス又ハ其犯罪ニ付帝國內ニ於テ裁判ヲ經タルトキハ之ヲ許サス

第四條　逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪ノ外ノ非行ニ付帝國內ニ於テ若ハ其逮捕前ニ犯シタル他ノ罪ニ付テモ其引渡請求ニ應シ其逃亡犯罪人ノ引渡ヲ爲スヘシ但其犯罪カ引渡ヲ爲シタル後ニ非サレハ裁判ヲ經又ハ刑ヲ執行セラルヘキモノニ非ス

第五條　帝國ト外國トノ犯罪人引渡條約ヲ締結シタルトキハ逃亡犯罪人ノ逮捕ニ關シ其條約ニ定メタル所ニ從ヒ又條約ニ定メサル事項ニ付テハ本條例ニ定ムル所ニ從フヘシ

第六條　本條例ニ於テ犯罪ニ付帝國裁判所ニ於テ條約國ノ裁判所ニ於テ若ハ其裁判所ノ認可ヲ經テ發シタル逮捕狀ニ記載シタル犯罪ハ其逃亡犯罪人カ逃走シタル國ニ於テ犯シタルモノト看做ス

第七條　本條例ニ依リ發シタル逮捕狀ハ本條例ニ定ムル所ニ從ヒ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ可ト爲スヘキ之ヲ證明スルニ足ルヘキ證據アルモノトス

第八條　被告人ノ逮捕ニ關シ證據不充分ナルカ又ハ其他ノ事由ニ因リ引渡ヲ爲スヘカラサルトキハ之ヲ釋放スヘシ

第九條　帝國ニ於テ之ヲ支辨シ又ハ條約ニ定メタル所ニ從ヒ條約國ニ於テ支辨スヘキ費用ハ其引渡ヲ請求シタル國ニ於テ之ヲ辨償スヘシ

第十條　假逮捕狀ニ據リ逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ二月ヲ過キ尚ホ相當ノ期限內ニ其引渡ノ請求ヲ爲サヽルトキハ之ヲ釋放スヘシ但シ引渡ヲ爲シタル後ニ限リ本條ノ請求ヲ爲スヲ妨ケス

第十一條　第九條ニ定メタル例外ノ場合ヲ除ク外ハ引渡請求ヲ爲シタル國ノ條約ニ定メタル順序ヲ經テ引渡ノ請求アリタル逃亡犯罪人ニ付テハ何人ヲモ其目的ヲ以テ逮捕シ又ハ拘禁セラルヘキ旨ノ證明アルニ非サレハ之ヲ引渡スヘカラス

一　逮捕狀ハ眞正ノ證文ニシテ帝國ノ裁判所又ハ權限アル官ノ發シタルモノタルコト

二　有罪ノ判決ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ發シタル證明書又ハ其宣告ヲ爲シタル裁判官ノ署名ヲ證スル公文アルコト

第十二條　外務大臣引渡請求ヲ爲ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シ且帝國ノ利益又ハ體面ニ關スル重大ノ事件ニ關係セサルトキハ其請求ヲ司法大臣ニ移付スヘシ

司法大臣本條ノ請求ヲ受ケタルトキハ逃亡犯罪人ノ所在ヲ探知シ且其逮捕狀ニ據リ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ命シ逮捕狀ヲ執行セシムヘシ

第十三條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十四條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十五條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十六條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十七條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十八條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十九條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二十條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二十一條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二十二條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二十三條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二十四條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二十五條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二十六條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二十七條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二十八條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二十九條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第三十條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第三十一條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第三十二條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第三十三條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第三十四條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第三十五條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第三十六條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第三十七條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第三十八條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第三十九條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第四十條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第四十一條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第四十二條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第四十三條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第四十四條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第四十五條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第四十六條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第四十七條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第四十八條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第四十九條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第五十條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第五十一條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第五十二條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第五十三條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第五十四條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第五十五條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第五十六條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第五十七條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第五十八條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第五十九條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第六十條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第六十一條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第六十二條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第六十三條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第六十四條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第六十五條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第六十六條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第六十七條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第六十八條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第六十九條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第七十條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第七十一條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第七十二條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第七十三條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第七十四條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第七十五條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第七十六條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第七十七條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第七十八條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第七十九條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第八十條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第八十一條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第八十二條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第八十三條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第八十四條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第八十五條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第八十六條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第八十七條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第八十八條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第八十九條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第九十條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第九十一條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第九十二條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第九十三條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第九十四條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第九十五條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第九十六條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第九十七條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第九十八條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第九十九條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第百條　逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル檢事ハ其逮捕ノ事由ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

發セシムヘシ

第十三條　上席檢事前條ニ揭ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附錄第二號書式ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條　請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シ若クハ假逮捕シタルトキハ其逮捕狀ヲ發シタル上席檢事又ハ之レヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ引移スヘシ

上席檢事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ領來ヲ直ニ司法大臣ニ具申スヘシ

司法大臣上席檢事ノ具申ニ接シタルトキ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ逮ニ該檢事ニ送付スヘシ但被告人ヲ釋放スヘキノ命令ヲ發スルトキハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條　告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人逃ナキコト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢事該書類ノミニテハ證據不充分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得

有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人逃ナキコト及其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ認定スヘシ

第十六條　上席檢事被告人ノ訊問ヲ結了シタルトキハ訊問書ニ其處分方ニ關スル意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ具申スヘシ但上席檢事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類ヲ返却スヘシ

司法大臣該檢事ノ具申ニ接シタルトキハ附錄第三號書式ニ依リ引渡狀ヲ發スルカ又ハ逮捕シタル者ヲ釋放スヘシ

第十七條　逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月以上留置セラルルコトナカルヘシ

第十八條　司法大臣ハ左ノ場合ニ限リ引渡狀ヲ發スルコトヲ得

一　引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ若シ其告訴告發ヲ受ケタル罪ヲ帝國內ニ於テ犯シタルモノトセハ帝國ノ法律ニ據リ被告人ヲ審判ニ付スルニ充分ナル犯罪ノ證據アリト認メタルトキ

二　有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ相當裁判所ニ於テ其宣告ヲ爲シタルコトヲ認メタルトキ

第十九條　開廷裁判ニ依リ有罪ノ宣告ヲ受ケタルモノハ其引渡ヲ請求シタル締約國トノ間ニ特別ノ約款アルニ非レハ本條例ニ於テハ之ヲ告訴告發ヲ受ケタル者ト爲シ有罪ノ宣告ヲ受ケタルモノト認メス

第二十條　逮捕シタルモノヲ釋放シ又ハ其引渡ノ爲メ引渡狀ヲ發シタルトキハ司法大臣ハ引渡請求書及附屬書類ニ其執行シタル手續及其理由ノ略記ヲ添ヘ之ヲ外務大臣ニ返付スヘシ

第二十一條　引渡狀ヲ發シタル後何人ヲモ一月以上留置スルコトヲ得ス但此期限內ニ之ヲ帝國外ニ引取ラサルトキハ請求國相當官吏ニ於テ正當ノ事由ヲ示スニアラサレハ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節本人ト共ニ悉ク之レヲ交付スヘシ

第二十三條　司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一外國ヨリ他ノ外國ニ引渡シタル者ノ帝國內海陸ノ通行ヲ認可スルコトヲ得

本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ添ヘ相當ノ順序ヲ經由シタル照會書ヲ外務大臣ニ於テ受領シタルトキニ限ル但シ帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ約款ナキトキハ該照會書ノ外仍請求國ノ政府ニ於テ之ト同一ノ場合即チ第三國ヨリ帝國ニ逃亡犯罪人ヲ引渡シタル場合ニ該請求國內海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキノ保證ヲ爲シタルトキニ限ル

（附屬書式略ス）

◉外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法（明治三十二年三月法律第六十八號）

第一條　外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關シ締盟各國トノ通商航海條約又ハ領事職務條約ニ依リテ爲スヘキ援助ハ當該領事官ノ請求ニ依リ檢事之ヲ行フ

第二條　左ノ場合ニ於テハ檢事ハ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ニ應スルコトヲ得

第一　逮捕又ハ留置スヘキ者カ帝國ニ於テ重罪輕罪ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ付キ訴追ヲ受ケ又ハ處刑中ナルトキ

第三　第八條ニ據リ放免シタル艦船乘組員ニ對シ更ニ同一ノ事件ニ付キ請求アリタルトキ

第四　領事官カ援助ノ請求書ニ船舶登錄證及艦船乘組員名簿ノ正當ナル抜萃又ハ乘組員タルコトヲ證明スルニ足ルヘキ公文書ヲ添付セサリシトキ

第五　領事官カ援助ニ關スル費用ノ支辨ヲ保證セサリシトキ

第三條　檢事カ領事官ヨリ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ請求ヲ正當ナリト認メタルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　檢事カ艦船乘組員ノ逮捕ヲ命スヘキ場合ニ於テハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五條　逮捕狀執行ノ命ヲ受ケタル者カ其指定シタル者ヲ逮捕シタル時ハ逮捕狀ヲ發シタル檢事ニ引致スヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ハ直ニ之ヲ訊問シ人違ナシト認メタルトキハ速ニ當該領事官ニ引渡スヘシ

第七條　逮捕シタル艦船乘組員ニ付領事官ヨリ留置ノ請求アリタルトキハ檢事ハ之ヲ監獄ニ留置セシムヘシ

第八條　留置シタル艦船乘組員ニ付領事官ヨリ放免ノ請求アリタルトキ又ハ逮捕ノ日ヨリ六箇月以內ニ於テ引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ放免スヘシ

第九條　逮捕狀ノ發付及其ノ執行ニ付テハ刑事訴訟法中勾留狀ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條　援助ニ關スル費用ハ檢事ニ於テ當該領事官ニ對シ其ノ實費額ノ請求ヲ爲スヘシ

第十一條　檢事ハ領事官ヨリ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ司法大臣ニ報告ス可シ其ノ援助ヲ爲スヘキモノニ非スト認メタルトキ又ハ援助ノ手續ヲ終リタルトキ亦同シ

◉朝鮮海岸ニ於テ犯罪ノ日本漁民取扱條規（明治十六年十月公布）

第一條　朝鮮國ノ約定海岸ニ於テ日本國人朝鮮國ノ法禁ヲ犯シタルトキハ水陸共左ノ箇條ニ照シ取扱フヘシ

第二條　朝鮮國官吏ハ法禁ヲ犯セル日本國人ヲ取押ヘタルトキハ其ノ罪證ヲ具錄シ之ヲ添テ其日本人ヲ最寄開港場ノ日本領事官ヘ引渡シ相當ノ處分ヲ要求スヘシ日本領事官ハ速ニ其ノ要求ニ應シ之ヲ審査シ照律處斷スヘシ但シ朝鮮國官吏取押又ハ護送ノ際苛虐ノ取扱ヲナスコト無ルヘシ

第三條　犯罪ト認ムヘキ日本人ヲ海陸孰レヨリ護送スルモ朝鮮官吏ノ勝手タルヘシ但シ成丈速カニ護送シ事故ナクシテ徒ニ犯罪ヲ其ノ地ニ淹留スヘカラス

第四條　朝鮮國ノ約定海岸ニ於テ罪ヲ犯セシト認ムル日本人ヲ海路ヨリ護送スルトキハ朝鮮官吏日本人ノ船舶ニ乘込或ハ別船ニ在テ之ヲ引率ル倶ニ其便宜ニ任ス如シ陸路ヨリ護送スルキハ其ノ日本船ハ逐テ引渡ス迄ノ間ハ地方官ニテ之ヲ監守シ毀失セシムルコト無ルヘシ且其船具漁具其ノ外運搬シ難キ物品ハ目錄ニ作リ罪犯ニ添テ之ヲ送附スヘシ

第五條　若シ薪水食糧ヲ得ルカ爲メ又ハ獲タル所ノ魚類ヲ賣買スル爲メ上陸シ陸上ニ於テ其ノ犯罪同行中若干名ノミニ係ルトキハ其若干名ノミヲ此ノ手續ニ依テ護送シ其ノ他ハ之ヲ勾引スルコト無ルヘシ又海上ナレハ其ノ犯罪ヲ除クノ外殘員猶航海ニ堪ルトキハ朝鮮官吏ハ其ノ犯罪ノミヲ護送シ其ノ他ハ之ヲ放還スヘシ

第六條　此ノ規則ハ實行ノ上更ニ增損スヘキモノアレハ雙方協議改正スルヲ得ヘシ

右確實ナルヲ證シ兩國ノ各委任大臣玆ニ記名調印スルモノ也

大日本國明治十六年七月二十五日

大朝鮮國開國四百九十二年六月二十二日

全權大臣辨理公使竹添進一郎印

全權大臣皆辨交涉通商事務閔泳穆印

日獨領事職務條約

（明治二十九年八月二十六日批准同年十一月十八日伯林ニ於テ交換同月十九日公布）

日本國皇帝陛下及獨逸帝國ノ名義ヲ以テスル獨逸國皇帝普魯西皇帝陛下ハ相互ニ領事官ヲ接納シ且右領事官カ日本國及獨逸國ニ於テ其ノ職務ヲ施行スルニ際シ享受スヘキ權利、特權及免除ニ關シ一層明確ノ規定ヲ設ケムコトヲ欲シ領事職務條約ヲ締結スルコトニ決定之カ爲メ日本國皇帝陛下ハ獨逸國駐劄帝國特命全權公使子爵青木周藏ヲ獨逸國皇帝普魯西國皇帝陛下ハ其ノ國務大臣外務大臣男爵「アドルフ、マルシャル、フォン、ヒーベルスタイン」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ依テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ眞好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ條條ヲ協議決定セリ

第一條　兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ニ於テ總領事、領事、副領事及代辨領事ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラストスル場所ヲ除クノ外之ヲ他ノ一方ノ各港、各都市及各地ニ置クコトヲ得ヘシ但右ノ制限ハ別國ニ對シテモ均シク之ヲ適用スル場合ニ非サレハ兩締盟國ノ一方ニモ適用セサルヘシ

兩國ノ總領事、領事、副領事、代辨領事、領事館書記生、筆生、領事館事務員及屬員ハ兩國ニ於テ最惠國ノ同等官吏ニ許與シ若ハ將來許與スヘキ一切ノ權利、免除及特權ヲ享受スヘシ

第二條　總領事、領事、副領事及代辨領事ハ各其ノ本國ニ於テ定メラレタル書式ニ據ル所ノ委任狀ヲ差出シタルトキハ兩國互ニ之ヲ接納承認シ而シテ其ノ認可狀ハ無料ニテ之ヲ付與スヘシ然ル上ハ右領事官ハ兩國カ互ニ許與スル所ノ諸權利及免除ヲ享受スヘキモノトス

委任狀ヲ差出スニ當リ該領事官ノ管轄區域ヲ通知シ且將來之カ變更ヲ生シタルトキモ亦其ノ旨ヲ通知スヘシ

認可狀ヲ付與シタル政府ニ於テ若シ其ノ認可狀ノ取消ヲ至當ト認メタルトキハ其ノ理由ヲ示シテ以テ之ヲ取消スノ權利ヲ有ス

第三條　領事官ニシテ其ノ任命國ノ臣民ナルトキハ民事ニ於テハ引致留置セラルヽコトナク刑事ニ於テモ駐在國ノ法律ニ從ヒ重罪ト見做サヽルヘキ犯罪ノ場合ニ非サレハ拘留ヲ受クルコトナカルヘシ又陸海軍ノ宿營及損資ヲ免カルヘシ又該領事ハ商業、工業其ノ他ノ營業又ハ職務外ニ營利事業ニ從事セサル者ニ限リ對人稅、奢移稅竝ニ直接又ハ對人的性質ヲ有スル各種ノ負擔及損資ヲモ免セラルヘシ但シ關稅、內國消費稅、地方消費稅若ハ其ノ駐在國內ニ於テ取得シ若ハ占有スル所ノ土地ニ對スル賦課金ハ免除ノ限ニ在ラス

商業ニ從事スル領事官ハ其ノ特權ニ託シテ商業上ノ債務ヲ免カルルコトヲ得ス

領事官ヲ引致シタル場合ニハ之ヲ引致シタル國ノ政府ヨリ直チニ其ノ旨ヲ該領事等ノ所屬國ノ公使館ニ通知スヘシ

第四條　總領事、領事及其部下ノ書記生、筆生竝ニ副領事、代辨領事ハ駐在國ノ裁判所ニ於テ必要ト認メラルヽトキハ該裁判所ニ出廷シテ證言ヲ爲スヘキ義務アルモノトス尤モ此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ公文ヲ以テ其ノ出廷ヲ請求スヘシ

前記ノ官吏ニシテ職務若ハ疾病ノ爲メ出廷スルコト能ハサルトキハ民事ノ場合ニ限リ裁判官ハ其ノ居宅ニ就テ供述ヲ聽キ若ハ其ノ國ニ行ハルヽ所ノ定式ヲ履ミ供述書ヲ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ前記ノ官吏ハ指定ノ期日內ニ裁判所ノ請求ニ應シ而シテ其ノ供述書ニハ署名ノ上官印ヲ捺シテ之ヲ送遞スヘシ

第五條　總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ事務所若ハ其ノ居宅ノ門戶ニ其ノ事務所タルコトヲ表示スル文字ヲ記シ本國ノ徽章ヲ揭クルコトヲ得

前記ノ官吏ハ其ノ事務ノ家屋上ニ本國國旗ヲ揭クルコトヲ得又港內ニ於テ職務上ニ使用スル各船舶ニモ均ク其ノ本國國旗ヲ揭揭スルコトヲ得

第六條　領事官ノ記錄書類ハ何時モ侵スヘカラサルモノトス而シテ駐在國ノ官憲ハ何等口實ヲ以テスルモ該記錄中ノ書類ヲ檢閱シ又ハ差押ユルコトヲ得サルモノトス

領事官ニシテ其ノ任命國ノ臣民ナルトキハ民事ニ於テハ引致留置セラルヽコトナク刑事ニ於テモ駐在國ノ法律ニ從ヒ重罪ト見做サヽルヘキ犯罪ノ場合ニ非サレハ拘留ヲ受クルコトナカルヘシ又陸海軍ノ宿營及損資ヲ免カルヘシ又該領事ハ商業、工業其ノ他ノ營業又ハ職務外ニ營利事業ニ從事セサル者ニ限リ對人稅、奢移稅竝ニ直接又ハ對人的性質ヲ有スル各種ノ負擔及損資ヲモ免セラルヘシ但シ關稅、內國消費稅、地方消費稅若ハ其ノ駐在國內ニ於テ取得シ若ハ占有スル所ノ土地ニ對スル賦課金ハ免除ノ限ニ在ラス

商業ニ從事スル領事官ハ其ノ特權ニ託シテ商業上ノ債務ヲ免カルルコトヲ得ス

領事官ヲ引致シタル場合ニハ之ヲ引致シタル國ノ政府ヨリ直チニ其ノ旨ヲ該領事等ノ所屬國ノ公使館ニ通知スヘシ

第四條　總領事、領事及其部下ノ書記生、筆生竝ニ副領事、代辨領事ハ駐在國ノ裁判所ニ於テ必要ト認メラルヽトキハ該裁判所ニ出廷シテ證言ヲ爲スヘキ義務アルモノトス尤モ此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ公文ヲ以テ其ノ出廷ヲ請求スヘシ

前記ノ官吏ニシテ職務若ハ疾病ノ爲メ出廷スルコト能ハサルトキハ民事ノ場合ニ限リ裁判官ハ其ノ居宅ニ就テ供述ヲ聽キ若ハ其ノ國ニ行ハルヽ所ノ定式ヲ履ミ供述書ヲ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ前記ノ官吏ハ指定ノ期日內ニ裁判所ノ請求ニ應シ而シテ其ノ供述書ニハ署名ノ上官印ヲ捺シテ之ヲ送遞スヘシ

第五條　總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ事務所若ハ其ノ居宅ノ門戶ニ其ノ事務所タルコトヲ表示スル文字ヲ記シ本國ノ徽章ヲ揭クルコトヲ得

前記ノ官吏ハ其ノ事務ノ家屋上ニ本國國旗ヲ揭クルコトヲ得又港內ニ於テ職務上ニ使用スル各船舶ニモ均ク其ノ本國國旗ヲ揭揭スルコトヲ得

第六條　領事官ノ記錄書類ハ何時モ侵スヘカラサルモノトス而シテ駐在國ノ官憲ハ何等口實ヲ以テスルモ該記錄中ノ書類ヲ檢閱シ又ハ差押ユルコトヲ得サルモノトス

領事官ニシテ其ノ任命國ノ臣民ナルトキハ民事ニ於テハ引致留

領事官ニシテ其ノ任命國ノ臣民ニ係リ商業工業又ハ其ノ他ノ營業ニ從事セサルトキハ其ノ事務所及居宅ハ何時モ侵スヘカラサルモノトス

駐在國ノ當該官憲ハ犯罪取調ノ爲メノ外何等ノ口實ヲ以テスルモ該事務所及居宅ニ侵入スヘカラス又該事務所及居宅內ニ在ル書類ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ檢閱シ又ハ差押ユルコトヲ得ス尤モ該事務所及居宅ハ何等ノ事情アルモ犯罪人ノ庇護所ト爲スヘカラス

第七條　總領事、領事、副領事及代辨領事ノ死亡、不在若ハ其ノ他事故アル場合ニハ其ノ部下ノ書記生又ハ筆生ニシテ獨逸國又ハ日本國ノ當該官憲ニ豫メ其ノ資格ヲ通知アリタル政府ニ於テ一時領事官ノ職務ヲ執行スルコトヲ得而シテ其ノ職務執行中ハ領事官ノ受クル所ト同一ノ諸權利及免除ヲ享受スヘシ但シ領事官ノ爲メニ定ムル所ノ條件及制限ニ依ルヘシ

第八條　總領事及領事ハ事故アルカ及ハ一時不在ナルトキハ本國政府ノ認可及駐在國政府ノ承諾ヲ經テ領事代理ヲ任命スルコトヲ得又其ノ管轄區域內ノ都市港及其ノ他ノ場所ニハ代辨領事ヲ任命スルコトヲ得右領事代理又ハ代辨領事ハ之ヲ任命シタル領事者タル其本國政府ヨリ委任狀ヲ受ケヘシ該領事代理及代辨領事ハ本條約中領事官ノ爲メ定ムル所ノ特權ヲ享受スヘシ但シ領事官ノ定ムル所ノ制限ニ依ルヘシ

第九條　兩國間ニ現存スル條約、取極若ハ國際法ニ違反スル事件アルトキハ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其管轄區域內ニ在ル所ノ駐在國ノ裁判所若ハ行政官廳ニ向テ救濟ヲ求メ且右等官廳ニ向合シ竝ニ自國臣民ノ權利、利益ヲ保護スル爲メ申立ヲ爲スノ權アルモノトス而シテ右等官廳ニ於テ之ニ對シ相當ノ措置ヲ爲サヽルトキハ前記ノ領事官ハ本國代表者不在ノ場合ニ限リ直接ニ之ヲ其ノ駐在國ノ政府ニ申出ルコトヲ得

第十條　兩國ノ總領事、領事、副領事及代辨領事又ハ其ノ部下ノ書記生ハ本國ノ法律、命令ノ許スル限リハ左ノ權利ヲ有スヘシ

一、領事事務所、領事官所在地、當事者ノ住所又ハ本國ノ船舶內ニ於テ本國ノ船長、船員、乘客、商人及其ノ他ノ本國臣民ノ陳述ヲ聽クコト

二、本國臣民ノ單獨法律行爲、遺言竝ニ本國臣民相互ノ間及本國臣民ト駐在國臣民又ハ駐在國在留ノ他國人トノ間ニ取結ヒタル契約竝ニ該領事官ノ任命國ノ版圖內ニ在ル「地所ニ關シ及右版圖內ニ於テ處辨スヘキ法律行爲ニ關シ駐在國臣民」又ハ駐在國在留他國人ノ取結ヒタル契約ヲ證錄シ及之ヲ證明スルコト

三、本國官廳又ハ官吏ヨリ發スル所ノ總テノ文書ヲ翻譯シ及之ヲ證明スルコト

前記諸書類ノ原本又ハ其謄本拔萃及翻譯ハ右領事官ニ於テ之ヲ證明シ其官印ヲ捺シタル上ハ兩國ニ於テ公證人又ハ兩國ノ一方ノ當該官吏、公吏若ハ裁判官ノ登錄證明シタルト同一ノ效力ヲ有スルモノトス但シ前記諸書類ニ就テハ之ヲ執行スヘキ國ノ法律ニ從ヒ印紙稅及其ノ他ノ手數料賦課金ヲ拂フヘキモノトス

第十一條　兩國ノ代表者總領事、領事、副領事ハ其任命國ノ法律ノ許ス限リハ其ノ國ノ法律ノ規定スル所ニ從ヒ其ノ國臣民ノ婚姻ヲ取扱フ權アルモノトス

此ノ規定ハ結婚者ノ一人カ駐在國ノ臣民ナルトキハ之ヲ適用セサルモノトス

前記ノ規定ニ從ヒ婚姻ヲ取扱ヒタルトキハ當該領事官ヨリ其旨直チニ地方官廳ニ通知スヘシ

第十二條　兩國ノ代表者總領事、領事及副領事ハ其ノ任命國ノ法律命令ニ從ヒ其ノ國臣民出生死亡ヲ證明スルノ權アルモノトス

前項規定ハ駐在國ノ法律ニ從ヒ當事者カ駐在國ノ當該官廳ニ出生及死亡届ヲ爲スヘキ義務ヲ妨ケサルモノトス

第十三條　總領事、領事及副領事ハ各其ノ本國臣民ノ後見人及保護人ヲ命シ又其本國ノ法律ニ從ヒ後見人及保護ノ施行ヲ監督スルノ權アルモノトス

第十四條　兩國ノ一方ノ臣民若ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ死亡シタルトキハ左ノ規定ニ遵フヘキモノトス

日本國臣民獨逸國ニ於テ又ハ獨逸國臣民日本國ニ於テ各本國總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ノ駐在地若ハ其近傍ニテ死亡シタル場合ニハ地方ノ當該官廳ヨリ直チニ其旨ヲ該領事官ニ通知スヘシ

若領事官ニ於テ地方ノ當該官廳ニ先タチ死亡ノコトヲ知リタルトキハ該領事官ヨリ其ノ旨ヲ地方ノ當該官廳ヘ通知スヘシ

領事官ハ其ノ職權又ハ當事者ノ請求ニ依リ死亡ニ屬スル一切ノ所持品、動產及書類ニ封印ヲ施スノ權アルモノトス但シ之ニ封印スルニ先タチ該領事官ト立會共同封印ヲ施スヘキ職權ヲ有スル地方ノ當該官廳ニ通知スヘシ

右共同封印ハ地方ノ官吏ノ協力アルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス但シ地方ノ當該官廳ニ於テ領事官ヨリ共同封印ノ開封ニ立會フヘキ請求ヲ受ケタルトキヨリ四十八時間以內ニ臨場セサルトキハ領事官ハ地方ノ官吏ノ立會ヲ待タス單獨ニシテ開封スルコトヲ得ヘシ若シ地方ノ官吏ニシテ立會タルトキハ領事官ハ開封ノ後該地方ノ官吏ノ面前ニ於テ作リタル調書ニ連署スヘシ但シ地方ノ當該官廳ハ右職務上ノ協力ノ爲メ何等ノ手數料ヲモ要求スル權ナキモノトス

二、地方ノ當該官廳ハ其ノ國ノ慣例ニ依リ又ハ其ノ國法律ノ規定スル所ニ依リ死亡者ノ遺產處分ノ開始及相續人、債權者ノ徵召ニ關スル廣告ヲ爲シ其ノ旨ヲ領事官ニ通知スヘキモノトス但シ領事官ハ該官廳ニテ右ノ廣告ヲ爲シタル爲メ自ラ同樣ノ廣告ヲ爲スノ權利ヲ妨クルヿトナカルヘシ

三、死亡者ノ動產ニシテ之ヲ原狀ノ儘ニ保存シ難クトキハ遺產ニ對シ巨多ノ費用ヲ要スヘキ場合ニ於テハ領事官ニ於テ駐在國ノ法律及慣例ニ從ヒ賣却ニ付スルコトヲ得

四、領事官ハ遺產目錄ニ登記シタル所持品及有價物件竝ニ債務者拂入金、所得金、其ノ他動產ヲ賣却シタルトキハ其ノ代金ヲ地方ノ當該官廳ニテ遺產ニ關シ最終ノ旅費ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ十箇月間又地方ノ當該官廳ニテ右廣告ヲ爲サヽリシトキハ死亡ノ日ヨリ起算シテ十二箇月間駐在國ノ法律ニ從ヒ保管供託物ト爲シ預リ置クヘシ

但シ領事官ハ死亡者ノ治療費、埋葬費、雇人給料、借家賃、裁判費、領事官諸手數料及其ノ他同樣ノ費用竝ニ死亡者遺族ノ爲メ養料ヲ要スルトキハ其ノ費用ヲモ豫メ遺產中ヨリ之ヲ控除スルノ權アルモノトス

五、前項ノ規定ノ外領事官ハ死亡者ノ動產及不動產維持ノ爲メ相續人ノ利益ト認ムル一切ノ處置ヲ爲スノ權アルモノトス遺產ハ領事官ニ於テ自ラ之ヲ管理シ若ハ他人ヲ撰テ代理人ト爲シ領事官ノ名義ヲ以テ之ヲ管理セシムルコトヲ得ルモノトス又死亡者ノ所有ニ屬スル有價物件ハ公私ヲ論セス何レノ處ニ在テモ領事官ニ在テモ其引渡シヲ求ムル權アルモノトス

六、若本第四項ニ揭クル期間ニ駐在國ノ臣民若ハ第三國ノ臣民又ハ人民ヨリ死亡者ノ遺產ニ對シテ爲シタル要求ニ關シ爭議ヲ生シタルトキハ其ノ裁判權ハ遺產相續權又ハ遺產ニ關スル事項ノ外駐在國ノ裁判所ニ專屬スルモノトス

死亡者ノ遺產ニシテ其ノ債務ヲ完濟スルニ足ラサルトキハ駐在國ノ法律ノ許ス限リハ債權者ヨリ地方ノ當該官廳ニ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ破產ノ宣告アリタル後ハ領事官ハ地方ノ當該官廳又ハ破產管財人ニ諸書類所持品及有價物件ヲ引渡スヘシ而シテ引渡ノ際ニハ領事官ハ其ノ本國臣民ノ利益ヲ保護スル職責アルモノトス

七、本條第四項ニ揭クル期限ノ終ニ至リ遺產ニ對シ何等ノ請求ヲモ爲ス者アラサルトキハ領事官ハ駐在國ニテ定ムル所ノ稅率ニ照シ遺產ノ負擔ニ屬スル一切ノ費用及仕拂金ヲ支拂タル上之ヲ受取リ而シテ清算ノ上正當ノ相續人ニ引渡スヘシ但シ領事官ハ其ノ本國政府ヘノ外ハ何人ヘモ右ニ關スル清算書ヲ差出スヲ要セサルモノトス

八、兩國ノ一方ノ臣民ノ遺產ノ處分開始、管理及清算ニ關シ他ノ一方ニ於テ生シタル一切ノ事件ニ付テハ當該總領事、領事、副領事及代辨領事ハ法律上相續人ヲ代表スルノ職權ヲ有シ且ツ委任狀ヲ以テ其ノ委任權ヲ證明スルヲ要セスシテ職務上其ノ代理者ト認メラルヘキモノトス

因テ領事官ハ其ノ駐在國ノ當該官廳ニ自身ニ出頭シ若ハ該國ノ法律ニ從ヒ代理人タルヘキ資格ヲ有スル者ヲ代理者トシテ出頭セシメ以テ遺產ニ關スル一切ノ事件ニ付相續人ノ利益ヲ保護シ又相續人ニ對シテ要求ヲ爲シ若ハ相續人現ニ其ノ地ニ在ルカ又ハ代理人ヲ其地ニ置キタル場合ニハ右執行者若ハ相續人現ニ其ノ地ニ在ルカ又ハ代理人ヲ其地ニ置キタル場合ニ於テ遺產ニ對シ要求ヲ爲ス者アリタルトキハ領事官ハ右執行者、相續人又ハ代理人ヲシテ其ノ要求ニ對シ故障ヲ申立ツルノ例ヲ得セシムル爲メ要求ノ趣ヲ右執行者、相續人又ハ代理人ニ通知スヘキ義務アルモノトス

尤總領事、領事、副領事及代辨領事ハ各本國臣民ノ代理者ト看做サルヘキノ故ヲ以テ遺產ニ關スル事件ニ付該領事官ヲ裁判上被要求者トナスコトヲ得サルモノト知ルヘシ

九、相續權及遺產ノ分配權ニ關スル一切ノ要求ハ死亡者ノ本國ノ裁判所若ハ其ノ他ノ當該官廳ニ於テ其ノ國ノ法律ニ依リ決定スヘキモノトス

十、獨逸國臣民日本國ニ於及日本國臣民獨逸國ニ於テ自國ノ領事官ノ駐在セサル場所若ハ最寄ニ自國ノ領事官ノ駐在セサル場所ニテ死亡シタルトキハ地方ノ當該官廳ニ於テ各本國ノ法律ニ從ヒ死亡者ノ遺產目登ヲ調製シテ之ニ捺印シ右目錄ノ正當謄本ヲ死亡證書及死亡者ノ國籍ヲ證明スル一切ノ書類ヲ添ヘ可成速ニ遺產所在地ニ最モ近キ場所ニ駐在スル領事官ニ送付スヘシ

地方ノ當該官廳ハ死亡者ノ遺產ニ關シ其ノ國ノ法律ニ定ムル所ノ一切ノ處置ヲ施シ而シテ遺產ハ本條第四項ニ揭クル期間經過後可成速ニ前記ノ領事官又ハ其ノ代理者ニ引渡スヘシ

當該領事官若ハ其ノ代理者ニシテ遺產所在地ニ到著シタル上ハ夫迄ニ之ニ干與シタル地方ノ當該官廳ニ於テ本條前諸項ニ揭ケタル規定ニ違由スヘキコトハ勿論ナリトス

十一、本條約ノ規定ハ兩國ノ一方ノ臣民ニシテ一方ノ版圖外ニ於テ死亡シタルモ他ノ一方ノ版圖內ニ動產又ハ不動產ヲ遺シタルトキハ其ノ遺產ニモ亦均ク之ヲ適用スヘキモノトス

十二、兩國ノ一方ノ海員、船客其ノ他ノ旅行者ニシテ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ陸上若ハ船舶中ニテ死亡シタルトキハ其ノ遺產目錄調製及其ノ他遺產ノ維持、清算ニ關シ必要ナル職務上ノ取扱ヲ爲スノ任務ハ死亡者ノ本國ノ總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ニ專屬スルモノトス

第十五條　總領事、領事、副領事及代辨領事ハ自由交通ヲ許サレタル本國船舶ニ自身ニ赴キ又ハ代理者ヲ派遣セシ乘組役員及海員ヲ訊問シ、船舶書類ヲ檢閱シ、航行ノ目的、仕向地及航行中ノ事跡ヲ聞キ、積荷目錄ヲ領受シ入港及出港手續ヲ爲スコトヲ幫助シ竝ニ通譯者又ハ付添者トシテ右役員及海員ニ付添ヒ駐在國ノ裁判所及行政官廳ニ出頭スルコトヲ得ヘシ兩國ノ一方ノ總領事、領事、副領事、又ハ代辨領事ノ駐在スル港ニ於テハ他ノ一方ノ官吏、公吏ハ該領事官ヲシテ立會フコトヲ得セシムル爲メ豫メ通知ヲ爲シタル後ニ非サレハ普通ノ稅關上及衛生上ノ監督ノ外商船ニ赴キテ取調、引致、差押、捜索、訊問其ノ他各般ノ強制的處分ヲ施スコトヲ得サルモノトス

役員又ハ海員中ノ人員ヲシテ其ノ地ノ裁判所又ハ地方官廳ニテ證書又ハ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テモ領事官ヲシテ立會フコトヲ得セシムル爲メ相當ノ時期ニ其趣ヲ通知スヘシ而シテ右通知書ニハ之ヲ行フ爲メニ定メタル時刻ヲ記載スヘシ若該領事官又ハ其ノ代理者出頭セサルトキハ裁判所又ハ地方ノ官廳ハ其關係ノ有無ヲ問ハス直チニ之ヲ行フコトヲ得

第十六條　本國商船內ノ秩序ヲ保維スルコトハ專ラ總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ノ職責ニ屬スルヲ以テ該領事官ハ船長、役員及水夫ノ間ニ生シタル紛議殊ニ雇入料及其ノ相互ノ義務履行ニ關スル紛議ヲ仲裁スヘキモノトス故ニ商船內ニ於テ生シタル紛議ニシテ港內若ハ陸上ノ安寧、秩序ヲ妨害スル場合若ハ其ノ船ノ役員及海員外ノ者ニシテ右紛議ニ關係シタル場合ヲ除クノ外ハ何等ノ口實ヲ以テスルモ該地ノ裁判所若ハ其地ノ官廳ニ於テ之ニ關渉スルコトヲ得サルモノトス

但シ當該官廳ハ其國ノ臣民ヲ除クノ外ハ領事官ヨリ依賴ヲ受ケ該官廳ニ於テ引致ヲ必要ト認メタル所ノ船舶乘組員ヲ捜索、引致、留置スル爲メ有效ノ援助ヲ與フヘキ義務アルモノトス而シテ右乘組員ノ領事官ヨリ船舶登錄簿又ハ船員名簿ヲ添ヘ當該官廳ヘ宛書面ヲ以テ依賴シタルトキニ於テ之ヲ引致シ其ノ船ノ港內ニ碇泊スル間ハ領事官ノ爲メニ之ヲ留置シ領事官ヨリ書面ヲ以テ請求アルヲ待テ之ヲ放免スヘキモノトス

右引致、留置ニ關スル費用ハ領事官ニ於テ之ヲ支辨スヘキモノトス

第十七條　總領事、領事、副領事及代辨領事ハ本國軍艦又ハ商船ノ士官、

役員、水夫其他ノ乘組員ニシテ脫艦、脫船ノ罪アル者又ハ脫艦、脫船ノ罪ヲ以テ告訴セラレタルヲ右艦船又ハ本國ニ送還スル爲メ逮捕ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

右逮捕ヲ求ムルニハ領事官ハ船舶登錄簿及艦船員名簿ノ正當ナル抜萃若ハ其他引渡ヲ請求スル所ノ罪人カ該艦船ノ乘組員ナルコトヲ例明ラシムル公文書ヲ添ヘ書面ヲ以テ駐在國ノ當該官廳ニ依賴スヘシ斯ク領事官ヨリ依賴アリタル場合ニ於テハ右脫走者カ其ノ乘組ノ時ニモ又ハ寄港ノ時ニモ引渡ノ依賴ヲ受ケタル國ノ臣民ニ非サルトキニ限リ該逮事官ノ宣誓ヲ要セスシテ之ヲ引渡スヘキモノトス

又當該官廳ハ右脫走者ヲ逮捕スルニ必要ナル援助ヲ領事官ヘ與ヘ其ノ國ノ獄舍ニ投シ領事官ニ於テ之ヲ還送スルノ便ヲ得ル迄其ノ依賴ニ應シ領事官ノ費用ヲ以テ獄舍ニ留置クヘシ

但シ逮捕ノ日ヨリ六箇月以内ニ於テ還送ノ便ヲ得ルトキハ右脫走者ヲ放免シ而シテ同一ノ事件ニ關シテ再ヒ逮捕スルコトヲ得サルモノトス

脫走者ニシテ其ノ事件ヲ管轄スル當該裁判所ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ事件ヲ管轄スル當該裁判所ニ於テ例決ヲ下シ之ヲ執行シタル後ニ非サレハ領事官ノ處分ニ任カセサルモノトス

第十八條　兩國船舶ノ航海中ニ受ケタル總テノ損害ハ船舶所有者、荷主及保險者間ノ契約ニ反セサル限リハ該船舶カ任意ニ寄港シタルトキ避難ノ爲メ寄港シタルトキ間ハス總ヲ總領事、領事、副領事及代辨領事ニ於テ之ヲ決定スヘキモノトス

但シ領事官ニシテ本件ニ付利害ノ關係ヲ有スル場合又ハ該船舶若ハ積荷ノ關係者ナル場合等ハ駐在國ノ臣民若ハ第三國ノ臣民或ハ人民ニ於テ本件ニ關係ヲ有スル場合ニ於テ此等當事者間ニ協議一致セサルトキハ駐在國ノ當該官廳之ヲ裁決スヘキモノトス

第十九條　本條約ハ本日兩國間ニ協定シタル通商航海條約全部ノ實施ト同時ニ效力ヲ生シ而シテ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スヘシ

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セシムヘキ旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第二十條　本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ本日兩締盟國間ニ協定シタル通商航海條約ノ批准交換ト同時ニ伯林ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十六年四月四日伯林ニ於テ二通ヲ作ル

子爵　青木　周藏　印

男爵　フオン、マルシヤル　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕常國ト獨逸帝國トノ交際ノ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十九年四月四日伯林ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル領事職務條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百五十六年明治二十九年八月二十六日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御　名　國　璽

外務大臣侯爵西園寺公望　印

領事職務條約

下名ノ全權委員ハ本日記名調印シタル領事職務條約ト同時ニ左ノ約定ニ同意セリ

一、本日締結シタル領事職務條約實施ノ日ニ當リ兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ一方ノ保護民ト見認メラレタル無籍者アルトキハ兩國ノ領事官ハ本條約ニ依リ本國臣民ノ事件ニ關シ付與セラレタル權利ヲ該保護民ニモ其ノ生存中適用スヘシ而シテ此ノ如キ人民ノ名簿ハ兩國政府ヨリ相互ニ通知スヘキモノトス

二、犯罪人交付及刑事ニ係ル依賴ヲ處理スルコトニ關シテハ兩國ノ間ニ別ニ約定ヲ取結フヘシ而シテ右約定ノ實施ニ至ル迄ハ獨逸國ヨリ右ノ請求ヲ爲スニ當リ日本國ニ對シテモ同樣ノ事件ニ付互相ノ措置ヲ爲スヘシト保證スル限ハ獨逸國ハ日本國ヨリ本件ニ關シ別國ニ對シ現ニ許與シ又ハ將來許與シタル所ト同一ノ權利及特典ヲ日本國内ニ於テ享有スヘシ

下名ノ全權委員ハ本議定書ヲ本日調印シタル領事職務條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供シ而シテ右條約批准セラルルトキハ本議定書ニ揭載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ亦均ク可認セラレタルモノト見做スコトヲ約ス

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十六年四月四日伯林ニ於テ二通ヲ作ル

子爵　青木　周藏　印

男爵　フオン、マルシヤル　印

又本議定書ノ規定ハ前記條約ノ無效ニ歸スルト同時ニ其ノ效力ヲ失フヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十六年四月四日伯林ニ於テ二通ヲ作ル

子爵　青木　周藏　印

男爵　フオン、マルシヤル　印

日白領事職務條約（明治三十年七月勅令）

朕明治二十九年十二月二十日白耳義國「アツセル」ニ於テ朕カ全權委員ト白耳義國全權委員ノ記名調印シタル領事職務條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

日本國皇帝陛下及白耳義國皇帝陛下ハ相互ニ各其ノ領事官ノ權利、特權、免除及兩國ニ於テ通守スヘキ職務竝ニ職務ヲ充分明確ニ規定セシムコトヲ欲シ領事職務條約ヲ締結スルコトニ決定シ之カ爲メ日本國皇帝陛下ハ白耳義國駐劄特命全權公使從二位勳一等子爵青木周藏ヲ白耳義國皇帝陛下ハ其ノ外務大臣兼議院議員「ナイト、オフ、セ、オルダー、オフ、レオポルド」「ボール、ド、ファゾロー」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條　兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ヲ其ノ各港、各市、各地ニ駐在セシムルコトニ同意ス但シ領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所ハ此ノ限ニ在ラス

然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シテモ均シク之ヲ適用スルニ非サレハ兩締盟國ノ一方ニモ適用セサルヘシ

第二條　兩締盟國ノ一方ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ相互ニ他ノ一方ノ國内ニ於テ最惠國ノ同等同格ノ領事官カ享有スル特權、特典及免除ヲ享有スヘシ、右領事官ハ其ノ職務ノ執行及其ノ職務ニ附屬スル免除ノ享有ヲ許可セラルルニ先タチ各其ノ本國ノ規定ノ書式ニ據ル所ノ委任狀ヲ差出スヘシ、兩締盟國政府ハ無料ニテ領事官ノ職務執行ニ必要ナル認可狀ヲ付與シ領事官ハ此ノ認可狀ヲ示シテ本條約ニ依リ許與セラレタル所ノ權利、特權及免除ヲ享有スヘシ

認可狀ヲ付與シタル政府ニ於テ若其ノ認可狀ヲ取上ルコトヲ便宜ト認メタルトキハ其ノ理由ヲ示シテ之ヲ取上ルノ權利ヲ有ス

第三條　總領事、領事、副領事及代辨領事ニシテ其任命國ノ臣民ナルトキハ駐在國ノ法律ニ從ヒ重罪ト認メ且重罪ノ刑罰ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル場合ニ非サレハ勾留ヲ受クルコトナカルヘシ、又軍隊ノ宿營及陸海警備軍、護國軍、地方自衛軍、民兵ノ兵役ヲ免カルヘシ、又國、府縣、郡、市町村ノ利益ノ爲ニ課セラルル對人的性質ヲ有スル一切ノ直接稅ヲモ免カルヘシ、但シ不動産所有ノ故ヲ以テ課セラルルモノ若ハ右領事官ノ駐在國ニ於テ投シタル資本ノ利子ニ對シテ課セラルルモノハ此ノ限ニ在ラス、然レトモ右ノ特典ハ總領事、領事、副領事及代辨領事ノ職業、工業若ハ商業ニ從事スル者ニ適用スルヲ得ス此ノ場合ニ於テ右領事官ハ總テ他ノ外國人カ同樣ノ場合ニ於テ拂フモノト同一ノ稅金ヲ拂フヘキモノトス

第四條　兩國ノ一方ノ裁判所カ任命國ノ臣民ニシテ商業ニ從事セサル總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ヨリ裁判上ノ申立若ハ供述ヲ聽カムト欲スルトキハ書面ヲ以テ其ノ出廷ヲ請求シ若支障アルトキハ民事ノ場合ニ限リ供述書ヲ請求スルカ若ハ其ノ居宅又ハ事務所ニ就キ供述ヲ聽取ルヘシ

該領事官ハ成ルヘク速ニ右ノ請求ニ應スヘキノ義務アルモノトス

第五條　總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ事務所ノ門戸ニ其ノ本國ノ徽章ト共ニ日本國若ハ白耳義國總領事館、領事館、副領事館若ハ代辨領事館ナル文字ヲ記シタル標牌ヲ揭クルコトヲ得

右領事官ハ又其ノ事務所ニ本國國旗ヲ揭クルコトヲ得但シ其ノ場所國ノ首府ニシテ公使館所在地ナルトキハ此ノ限ニ在ラス、又港内ニ於テ職務執行ノ爲メ使用スル船艇ニモ均シク其ノ本國國旗ヲ揭揚スルコトヲ得

第六條　任命國ノ臣民ニシテ商業、工業又ハ其ノ他ノ營業ニ從事セサル領事官ノ事務所ハ如何ナル時ト雖侵スヘカラサルモノトス、駐在國ノ當該官廳ハ刑事取調ノ爲ノ外何等ノ口實ヲ以テスルモ該事務所ニ侵入スルコトヲ得ス、又如何ナル場合ニ於テモ該事務所内ニ在ル書類ハ右官廳ニ於テ之ヲ檢閲シ又ハ差押ルコトヲ得ス、領事館事務所ハ如何ナル場合タリトモ犯罪人ノ庇護所ト爲スヘカラス領事官ニシテ他ノ事

業ニ從事スルトキハ領事館ニ關スル書類ハ別ニ保管シ置キ如何ナル時ト雖モ侵スヘカラサルモノトス

第七條　總領事、領事、副領事及代辨領事ノ死亡、支障若ハ不在ノ場合ニハ書記生又ハ筆生ニシテ日本國外務大臣若ハ白耳義國外務大臣ヘ豫メ其ノ資格ヲ通知シアル者ニ於テ臨時其ノ領事館ノ事務ヲ擔任スルコトヲ得而シテ其ノ事務代理中ハ領事官ニ許與セラルル總テノ權利、特權及免除ヲ享受スヘシ

第八條　總領事及領事ハ其本國法律ノ許ス限ハ其ノ政府ノ認許ヲ經テ管轄區域内ノ市、港及其ノ他ノ場所ニ副領事及代辨領事ヲ任命スルコトヲ得、右副領事及代辨領事ハ日本國臣民、白耳義國臣民若ハ他國人中ヨリ選擇スルコトヲ得而シテ正式ノ委任狀ヲ受ケ本條約中領事官ノ爲ニ定ムル所ノ除外制限ニ遵フヘキモノトス

第九條　日本國ト白耳義國トノ間ニ存在スル條約又ハ約定ノ違背ニ對シ抗議ヲ爲シ又ハ白國臣民ノ權利利益ヲ保護スル爲メ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ管轄區域内ニ在ル國、府縣、郡若ハ市町村ノ行政官廳或ハ司法官廳ヘ照會スルノ權アルモノトス

若其ノ抗議ニ對シ相當ノ處分ヲ得サルトキハ右領事官ハ其ノ本國外交官不在ノ場合ニ限リ駐在國ノ政府ヘ直接ニ之ヲ申出ルコトヲ得

第十條　兩締盟ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ事務所、自宅、當事者ノ住所又ハ船舶内ニ於テ其ノ本國船舶ノ船長、船員、乘客及其他本國臣民ノ供述ヲ聽取スルコトヲ得、又其ノ本國ノ法律規則ニ準據シ其ノ事務所ニ於テ本國臣民ニ關スル出生ノ證明書、私生兒ノ承認狀、結婚及死亡ノ證明書ヲ調製スルコトヲ得、但シ其登錄證明シタル旨ヲ直ニ駐在國ノ官廳ヘ告知スヘシ、又其ノ本國臣民ト駐在國ノ臣民若ハ其ノ他ノ住民トノ間ニ取結フ所ノ一切ノ契約書ヲ調製スルコトヲ得、且又契約ニシテ右領事官ノ本國ノ版圖内ニ在ル財産或ハ右版圖内ニ於テ取扱フヘキ事ニ務關係アルトキハ駐在國ノ臣民若ハ其ノ他ノ住民間ニ於テルモノト雖總テ之ヲ調製スルコトヲ得

前記各種ノ書類及證書ハ其ノ原本、謄本若ハ翻譯タルニ拘ラス總領事、領事、副領事及代辨領事ニ於テ證明公認シ其ノ官印ヲ捺シタルモノハ日本國及白耳義國ノ裁判所ニ於テ公認證書トシテ承認スヘキモノトス

第十一條　兩締盟國ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ專ラ本國商船船内ノ秩序ヲ保持スルコトニ任シ且起因ノ如何ヲ問ハス船長、役員及乘組員間ニ海上又ハ港内於テ起ル一切ノ紛議就中給料ノ整理及契約ノ履行ニ關スル紛議ヲ單獨ニ處理スヘシ、其ノ起リタル紛擾カ陸上若ハ港内ノ安寧秩序ヲ妨害スヘキ性質タルカ若ハ其ノ國ノ人民或ハ乘組員ニ非サル者ノ關係シタルトキノ外地方官廳ハ之ニ關渉スルコトヲ得サルモノトス總テ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方官廳ハ其ノ國民ノ關係シタル場合ヲ除クノ外領事官カ至當ト認メ之ヲ依頼スルニ於テハ乘組員名簿ニ登載シアル者ヲ逮捕シ其ノ船ノ港内ニ碇泊シ居ル間其ノ管下ノ監獄ニ留置スルコトノ援助ヲ與フルニ止マルヘシ

但シ此ノ規定ハ地方官廳ニ於テ逮捕留置ノ必要アリト認メタル場合ニ限リ之ヲ適用スヘキモノトス

右逮捕留置ニ關スル費用ハ領事官ニ於テ負擔スヘキモノトス

第十二條　兩締盟國ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ各其ノ本國船舶ノ脱船者ヲ逮捕スル爲メ駐在國地方官廳ヨリ法律ノ許ス限リ一切ノ援助ヲ受クヘキモノトス但シ脱船者カ其ノ所屬國ニ於テ脱船シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

右逮捕ヲ求ムルニハ領事官ハ書面ヲ以テ夫其ノ駐在國當該地方官廳ニ依頼スヘシ而シテ右脱船者ヲ請求スルニハ書面ヲ以テ之ヲ照會シ且船頭登錄簿及船員名簿ヲ示シ或ハ其ノ他ノ公證書類ヲ示シテ以テ其引渡ヲ請求スル者ノ該船乘組員タルコトヲ證明スヘシ

斯ク證明アル請求ヲ受ケタル以上ハ脱船者ヲ領事官ニ引渡スコトヲ拒絶スルヲ得ス、但右脱船者カ乘組員ニ編入ノトキ又ハ寄港ノトキ引渡ノ請求ヲ受ケタル國ノ臣民タリシコトヲ正當ニ證明サレタル場合ハ此ノ限ニ在ラス、而シテ右ノ如ク逮捕シタル脱船者ハ之ヲ還送スルノ便ヲ得ル迄領事官ノ請求ニ應シ且其ノ費用ヲ以テ地方ノ監獄ニ拘留シ置クヘシ、但シ逮捕ノ日ヨリ三箇月以内ニ還送ノ便ヲ得サルトキハ右脱船者ハ放免セラルヘシ而シテ右事件ノ爲メ再ヒ逮捕セラルルコトナカルヘシ

脱船者ニシテ若罪科ヲ犯シタルトキハ管轄スル權アル裁判所ニ於テ其ノ判決ヲ下シ之ヲ執行スル迄ハ引渡ヲ延期スヘシ

第十三條　兩國船舶ノ航海中受ケタル總テノ損害ハ船舶所有者、荷主及保險者ノ間ニ特ニ契約シアル場合ヲ除キ該船舶カ任意ニ寄港シタルトキハ其

ノナリ
明治三十二年五月三日東京ニ於テ本書二通ヲ作ル
子爵　青木周蔵印
アーテスト、サトウ印

◉日佛間裁判管轄權ニ關スル議定書（明治三十二年六月勅令）

廃帝國政府ト佛蘭西國政府トノ間ニ締結セル裁判管轄權ニ關スル議定書ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及佛蘭西共和國政府ハ明治二十九年八月四日締結日佛通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於ケル佛蘭西國裁判所ニ於テ未決ニ係ル事件ニ對スル裁判管轄權ノ執行ニ關シ規定ヲ設クルヲ以テ司法處分上便益ナリト認メ左ノ通約定セリ

前記通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於ケル佛蘭西國裁判所ニ於テ現ニ未決ニ係ル民刑事ノ事件及手續ニ關スル佛蘭西國裁判所ノ管轄權ハ終局ノ判決ニ至ル迄繼續スヘキモノトス

右證據トシテ下記日本國皇帝陛下ノ外務大臣及日本國ニ駐劄スル佛蘭西共和國特命全權公使ハ之カ爲各其ノ政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十二年六月十九日東京ニ於テ本書二通ヲ作ル
子爵　青木周蔵印
ジュール、アルマン印

◉日伊間裁判管轄權ニ關スル議定書（明治三十二年七月勅令）

日本皇帝陛下ノ政府及伊太利國皇帝陛下ノ政府ハ明治二十七年十二月一日締結日伊通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於ケル伊太利國裁判所ニ於テ未決ニ係ル事件ニ對スル裁判管轄權ノ執行ニ關シ規定ヲ設クルヲ以テ司法處分上便益ナリト認メ左ノ通約定セリ

前記通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於ケル伊太利國裁判所ニ於テ現ニ未決ニ係ル民刑事ノ事件及手續ニ關スル伊太利國裁判所ノ管轄權ハ終局ノ判決ニ至ル迄繼續スヘキモノトス

右證據トシテ下記日本皇帝陛下ノ外務大臣及日本國ニ駐劄スル伊太利國皇帝陛下ノ特命全權公使ハ之カ爲各其ノ政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十二年六月十九日東京ニ於テ本書二通ヲ作ル
子爵　青木周蔵印
伯爵　オルフィニー印

◉日白間裁判管轄權ニ關スル議定書（明治三十二年七月勅令）

日本國皇帝陛下ノ政府及白耳義國皇帝陛下ノ政府ハ明治二十九年六月二十二日締結日白通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於テ白耳義國裁判所ニ於テ未決ニ係ル事件ニ對スル裁判管轄權ノ執行ニ關シ規定ヲ設クルヲ以テ司法處分上便益ナリト認メ左ノ通約定セリ

前記通商航海條約實施ノ時ニ方リ日本國ニ於ケル白耳義國裁判所ニ於テ現ニ未決ニ係ル民刑事ノ事件及手續ニ關スル白耳義國裁判所ノ管轄權ハ終局ノ判決ニ至ル迄繼續スヘキモノトス

右證據トシテ下記日本皇帝陛下ノ外務大臣及日本國ニ駐劄スル白耳義國皇帝陛下ノ特命全權公使ハ之カ爲各其ノ政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十二年六月十九日東京ニ於テ本書二通ヲ作ル
子爵　青木周蔵印
男爵　アルベール、ダヌタン印

◉領事官最惠國待遇ニ關スル件（明治三十二年七月司法省民刑甲第一七二號通牒）

領事官ノ最惠國待遇ニ關スル件ニ付別紙甲號ノ通外務次官ヘ及照會候處乙號ノ通回答有之候ニ付爲御心得此段及通牒候也

（別紙）

甲號

司法省民刑甲第一六七號

各國通商航海條約及領事職務條約中領事官ノ最惠國待遇ニ關スル規定有之候處其解釋上疑義ヲ生シ候ニ付別紙記載ノ事項ニ對スル貴省ノ御意見致承知度此段及照會候也

明治三十二年七月二十一日　司法次官　波多野敬直

外務次官高平小五郎殿

追テ柔懸リタル儀モ有之候ニ付至急御回答相成候樣致度此段申添候也

一、日瑞修好居住通商條約第十三條第三項中「最惠國ノ領事官カ執行スル一切ノ權限及職務ヲ執行スルコトヲ得」トアルハ日瑞兩國間ニ於テ領事職務條約ノ締結ナシト雖モ瑞西領事官ハ獨、白領事官カ其國領事職務條約ノ規定ニ因リ執行スル權限及職務ト同一ナル一切ノ權限及職務ヲ執行スルコトヲ得ル趣旨ナル十從テ其權限及職務ノ執行ニ關シ日本ノ當該官廳ニ於テ通知ヲ爲シ者クハ通知ヲ受ケル等ノ手續ヲ爲スコトヲ要スルヤ

又ハ日瑞兩國間ニ於テ同一ナル領事職務條約ノ締結アリテ始メテ前項ニ揭クタル結果ヲ生スル趣旨ナリヤ

二、日英通商航海條約第十六條第三項中（其他多數ノ通商航海條約亦同シ）「一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得」トアルハ本國ノ法律ニ從ヒ領事官ニ屬スル一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得ル趣旨ナルヤ又ハ最惠國領事官カ執行スル一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得ル趣旨ナルヤ

三、日英通商航海條約第十六條第三項中（其他ノ通商航海條約及日獨領事職務條約第一條第二項ノ）最惠國ノ領事官ニ現ニ許與シ或ハ將來許與セラルヘキ一切ノ特典、特權及免除ハ總テ之ヲ享有スヘキモノトス」トアルハ獨、白領事官カ領事職務條約ノ規定ニ因リ享有スヘキ一切ノ特典、特權及免除ハ當然之ヲ享有スル趣旨ナルヤ

又ハ同一ナル領事職務條約ノ締結アリテ始メテ同一ナル特典、特權及免除ヲ享有スル趣旨ナルヤ

四、日佛通商航海條約第十九條第一項中「相互ノ條件ヲ以テ最惠國ノ領事ニ許與シ或ハ許與セラルヘキ一切ノ特典、特權、免除及權利ヲ享有スヘシ」トアルハ相互ノ事實アルヲ以テ足ル趣旨ナルヤ又ハ領事職務條約ヲ以テ相互ヲ保スルコトヲ要スル趣旨ナルヤ

五、日獨領事職務條約第三條、第四條、第六條ニ規定シタル事項ハ領事官ノ特典、特權及免除ノ中ニ屬スルヤ

同條約第九條、第十條、第十一條乃至第十八條ニ規定シタル事項ハ領事官カ執行スヘキ職務ニ屬スルヤ又ハ領事官カ享有スヘキ特典、特權及免除（日佛通商航海條約、日獨領事職務條約ニハ權利ナル語モ附記シアリ）ノ中ニ屬スルヤ

乙號

送第四二號

本月二十一日附甲第一六七號ヲ以テ領事官ノ最惠國待遇ニ關スル條約ノ規定ノ解釋ニ付御照會ノ趣領承御記載ノ各項ニ對シテハ左ノ通理會致居候

一、日瑞兩國間ニ領事職務條約ノ締結ナクトモ相互報酬ノ條件アルニ於テハ瑞西國領事官ハ獨國又ハ白國領事官カ領事職務條約ノ規定ニ因リ執行スル權限及職務ト同一ナル一切ノ權限及職務ヲ執行スルコトヲ得然レトモ果シテ現實ニ相互報酬ヲ認ムルヤ之ヲ認ムル事項如何等ニ就テハ彼我ノ間隙メ之ヲ承知シ置クノ必要アルヲ以テ差當リソレ迄ハ別段ノ手續ヲ爲スニ及ハサルヘシ

二、最惠國領事官カ執行スル一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得ル趣旨ナリサレト日獨及日白間ノ如キ領事職務條約ニヨリ相互報酬ノ條件ヲ以テ彼我駐在ノ領事官ニ許與シタル特別ノ權利竝ニ職權ハ同一ノ相互報酬ナクシテ單ニ日英通商航海條約第十六條ニ據リテ英國領事官ニ屬スヘ

シトハ理會セス

三、獨逸國又ハ白耳義國領事官カ領事職務條約ニヨリ相互報酬ノ條件ヲ以テ許與セラレタル特別ノ權利職權等ハ同一ノ相互報酬ナクシテハ他國ノ領事官ニ於テ當然之ヲ享有スル趣旨ニ非ス

四、相互報酬ノ事實アルヲ以テ足ル趣旨ナリ

五、前各項ニ述ヘタル所ニヨリ本項ハ自然問答ヲ要セサルヘシ

右及回答候也

明治三十二年七月二十五日　　外務次官　高平小五郎

司法次官波多野敬直殿

◉領事官ノ最惠國待遇ニ關スル件

（明治三十二年九月司法省民刑甲第二二六號通牒）

領事官ノ最惠國待遇ニ關スル件ニ付本年七月三十一日民刑甲第一七二號ヲ以テ及通牒置候處同件ニ關シ更ニ別紙第一號ノ通外務次官ヘ照會致第二號ノ通回答有之候條爲御心得此段及通牒候也

（別紙）第一號

民刑甲第一九四號

日獨領事職務條約及七日白領事職務條約ニ依リ定リタル彼我領事ノ特權ニ付テハ他ノ特約ナキ締盟國ノ領事ハ事實上相互ノ報酬ナクシテ均霑スルヲ得サル儀ニ候處此相互報酬ノ事實ノ發生ハ其都度貴省ヨリ通知ヲ煩シ候カ又ハ一般ニ告示相成候カニ非レハ當省及各裁判所ニ於テハ認知難致候ニ付貴省ニ於テハ同ヨリ相當ノ告示又ハ通知ノ手續可相成モノト承知致シ可然カ又目下締盟國中領事職務條約締結ナキ國ニシテ帝國領事ニ對シ日獨及日白領事職務條約中ニ規定スル如キ領事ノ特權ヲ許與シタル國ハ無之候思考致候間ヲ相互報酬ノ事實アル締盟國ハ一モ無之モノト認メ差支無之候哉右ハ神戸地方裁判所檢事正ノ請願有之候ニ付貴省ノ御意見承知致度至急何分ノ御回報相成度別紙相添ヘ此段及照會候也

明治三十二年八月二十一日　　司法次官　波多野敬直

神戸地方裁判所檢事正　池上三郎

第二號

送第五一號

日獨又ハ日白領事職務條約ニヨリテ始メテ許與セラルヽ特別ノ權利及職權ナル他ノ外國領事官ニ許與スルコトニ關シ相互報酬ノ條件發生ノ節當省ニ於テ如何ナル手續ヲ取ルヤ又目下獨國及白國以外ニ右相互報酬ノ條件發生セル國アリヤ御承知相成度趣客月二十一日付刑甲第一九四號ヲ以テ御問合ノ次第致領承候右ハ御意見ノ通相互報酬ノ條件發生候節ハ當省ニ於テ貴省之ヲ承知シ得ラルヘキ相當ノ手續ヲ致スヘク又目下獨國及白國

外務次官高平小五郎殿

（別紙）

本年七月三十一日付民刑甲第一七二號ヲ以テ領事職務權限ニ關スル疑點ニ付司法次官ヨリ外務省ヘノ照會竝ニ同省ヨリ回答ノ趣旨通牒ニ接シ夫々管内司法警察官ヘ訓示致置候處右外務省回答ノ趣旨ヲ按スルニ領事ノ執行スル權限及職務竝ニ其他一切ノ特典特權及免除等ハ特別ノ職務條約ニ基クカ若クハ事實上相互報酬ヲ認ムル場合ニ限ルモノヽ如シ果シテ然ラハ司法警察官外國人ニ關スル執務心得第二十五條外國領事官ノ駐在スル帝國港内ニ在ル外國商船ニ於テ檢證、物件差押其他强制的處分ヲナシ又ハ乘組員ヲシテ證言等ヲナサシムル時ニハ總テ外國領事官ヲ立會ハシムル可キノ規定及七同心得第七條第八條ノ規定ハ執レモ最惠國約款ニ從ヒ外國領事官ハ特約若クハ事實上相互ノ報酬アルト否トニ拘ハラスシテ均霑スルノ主義ヲ採用セルモノナルヲ以テ以上數條ノ規定トハ全然牴觸ヲ免レスト雖モ本事項ニ關シテハ其主務者タル外務省ノ意見ニ從フ可キハ當然ト思料致候就テハ領事職務條約ノ締結アルモノニ付テハ取扱上疑義アラサルモ其事實上相互ノ報酬ヲ認ムルモノト否トニ至リテハ猶ホ其筋ノ指示アルニ非レハ到底判然致兼候間特約ナクシテ相互報酬ノ事實存在スル國別ニ付テハ前以テ逐一御指定相成候樣致度此段及請訓候也

明治三十二年八月十四日　　神戸地方裁判所檢事正　池上三郎

司法大臣清浦奎吾殿

以外ニ右相互報酬ノ條件發生セル締盟國ハ無之候

右及御回答候也

明治三十二年九月八日　　外務次官　高平小五郎

司法次官波多野敬直殿

追テ國際慣例ニ於テ一般ニ認メラレ居候領事官ノ特典ハ假令之ヲ領事職務條約ニ記入スルトモ別ニ其性質ヲ變更セサル義ト存候間爲念申添候

◉領事官ノ特典ニ關スル件

（明治三十三年四月司法省民刑第三三〇號通牒）

領事官ノ特典ニ關スル國際慣例ニ付キ別紙甲號ノ通外務次官ヘ照會致候處乙號ノ通回答有之候間爲御心得此段及通牒候也

別紙

（甲號）

司法省秘第一九六號

國際慣例ニ於テ一般ニ領事ノ特典ニ屬スルモノト認ムヘキ事項等ニ關シ神戸、長崎、横濱地方裁判所長ヨリ別紙ノ通具申致候處其各項ニ對スル貴省ノ御意見承知致度此段及照會候也

明治三十二年十二月二十八日

外務次官　高平小五郎殿　　司法次官　波多野敬直

（別紙ハ外務省回答朱書ヲ除クルモノト同シキカ故ニ畧ス）

（乙號）

機密送第一號

領事官ノ特典ニ關スル地方裁判所長具申ノ各事項ニ付當省意見承知相成度旨昨年十二月二十八日附秘第一九六號ヲ以テ御照會ノ趣領承右ハ別紙朱書ノ通施行相成候ハヽ國際慣例上別ニ差障候義無之ト存候尤モ別紙記載ノ各項ニ付條約ノ規定ニ依ルヘキモノハ勿論別紙ノ關スル所ニ無之候

右及御回答候也

明治三十三年三月五日　　外務次官　高平小五郎

司法次官　波多野敬直殿

（別紙中傍書ハ朱書ノ分ナリ）

第一、特約アル獨白ノ領事官ハ勿論其他ノ領事官ト雖重罪ヲ犯シタル場合ヲ除クノ外ハ勾留セサルヲ適當トス　△又ハ事務代理者

第二、凡ソ領事官△ヲ引致シタルトキハ之ヲ引致シタル國ノ政府ヨリ直△又ハ事務代理者ニ其旨ヲ該領事官△ノ所屬國ノ公使ニ通知スルヲ適當トスルヲ以テ此ノ場合ニ於テハ速ニ司法大臣ニ報告スヘキモノトス　△又ハ事務代理者

第三、裁判所ニ於ヲ領事官△ノ證言ヲ聽クコトヲ要スルトキハ獨白ノ領事官ハ勿論其他ノ領事官ト雖（獨白ヲ除クノ外ハ領事官ニ限ル）公文ヲ以テ其出廷ヲ請求スヘキモノトス　△又ハ事務代理者

但領事官△カ日本帝國臣民ニアラス且商業ヲ營マサルトキニ限ル　△又ハ事務代理者

第四、凡ソ民事ノ場合ニ於ヲ領事官△カ職務ノ爲メ出廷スル能ハサルトキハ判事ハ其居宅ニ就キ供述ヲ聽クヘキモノトス

但獨白ヲ除クノ外ハ領事官ニ限ル

第五、凡ソ領事館ノ記錄ハ檢閲シ又ハ差押フルコトヲ得サルモノトス　△又ハ事務代理者ニ

第六、凡ソ犯罪取調ノ外領事官△ノ事務所及居宅△ヲ侵入スヘカラス又爲侵入シ得ル場合ト雖トモ預メ△公ノ△該事務所及居宅ニ在ル△書類ハ之ヲ檢閲シ又ハ差押フルコトヲ得サルモノトス　△又ハ事務代理者　△帝國ノ

第七、凡ソ領事官△カ其職務ヲ以テナシタル證明ハ△公證人又ハ當該官△ヤ否ヤハ帝國國法ノ定ムル所ニ依ル

東公使若シクハ判事ノ登錄證明シタルト同一ノ效力アル△ヘキモノトス

△又ハ事務代理者

第八、凡ソ領事官△ハ其本國ノ法律ニ從ヒ其國臣民△ノ婚姻ヲ取扱フ△權トヲ得但シ其婚姻ノ帝國法律上有效ナリヤ否ヤハ帝國法律ノ定ムル所アルモノトス

△官又ハ事務代理者　△間　△コ

ニ依ル

△又ハ事務代理者

第九、凡ソ領事官△ハ其本國ノ法律ニ從ヒ其國臣民ノ出生及死亡ヲ證明△コトヲ得

△又ハ事務代理者

スル△權アルモノトス

△又ハ事務代理者ハ帝國國法ニ背反セサル限△ノ法律ニ從ヒ本國

第十、凡ソ領事官△ハ其本國△臣民ノ後見人及保護人ヲ命シ又ハ其本國△コトヲ得

ノ法律ニ從ヒ後見及保護ノ施行ヲ監督スル△ノ權アルモノトス

△又ハ事務代理者　△帝國國法ニ背

第十一、凡ソ領事官△ハ其駐在國ニ於テ自國人ノ死亡シタルトキハ△其反セサル限ハ其ノ本國ノ法律ニ從ヒ、△コトヲ得

時死亡者ノ遺產ヲ管理シ之レヲ相續人ニ引渡ス△ノ權アルモノトス

△又

第十二、

イ國際慣例上外國人死亡スルモ裁判所ヨリ之レヲ所在國ノ領事官△ニ

ハ事務代理者　△帝國國法ニ背

通知スルノ義務ナシ但地方官警察規則等ニ依リ之レヲ通知スルハ格別トス

△又ハ事務代理者

國際慣例上領事官△ハ其本國△臣民ノ死亡シタルトキハ△其

時死亡者ノ遺產ヲ管理シ之レヲ相續人ニ引渡ス△ノ權アルモノトス

△又ハ事務代理者　△對シ帝國國法上效力アルヘキ其所有品ニ封印ヲ

ロ國際慣例上領事官△ハ其國人ノ死亡シタルトキ

△帝國國法ニ背反セサル限ハ

テ死亡シタルトキハ△其遺產目錄ヲ調製シ及遺產ノ維持清算ニ關シ必要ナル取扱ヲ爲ス△ノ權アルモノトス

△又ハ事務代理者

第十三、地方官吏公吏ハ領事官△チシテ立會フコトヲ得セシムル爲メ豫メ通知ヲナサヽルモ外國商船ニ赴キテ取調引致差押捜索訊問其他各般ノ強制的處分ヲ施スコトヲ得

但事ノ行違ヲ豫防スル爲メ便宜ニ之レヲ領事官△ニ通知シタル後商船ニ赴クハ格別ナリトス

△又ハ事務代理者

第十四、外國商船內ニ於テ生シタル紛議ニシテ港內若シクハ陸上ノ安寧秩序ヲ妨害スル場合若シクハ其ノ船ノ役員及海員外ノ者ニシテ右紛議ニ關係シタル場合ヲ除クノ外ハ我裁判所ハ之ニ關渉セサルヲ適當トス

△又ハ事務代理者

第十五、領事官△自國船船ノ航海中ニ受ケタル損害ヲ決定シ得ヘキモノトス（駐在國臣民又ハ第三國民ノ件ニ關係ヲ有スル場合ヲ除ク）

◉在帝國伊、蘭、瑞諾領事ノ特權等ニ關スル件

（明治三十三年三月司法省民刑甲第二九號通牒）

帝國ニ於テクル伊太利國領事和蘭國領事又ハ瑞典諾威國領事ニ帝國カ領事職務條約ニ據リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ許與スルコトヲ承認シタル旨別紙寫ノ通外務大臣ヨリ通牒有之候ニ付此段及通牒候也

追テ本文ノ件司法警察官ヘハ當該檢事ヨリ訓示相成候樣致度此段申添候也

（別紙）

第九類　犯人引渡、領事職務條約、領事裁判　五百三十五

送第一五號

伊太利國和蘭國又ハ瑞典諾威國ニ於テクル帝國領事ニハ伊國蘭國又ハ瑞典諸威國カ國際慣例ハ勿論領事職務條約ニ據リ最惠國領事ヲ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ享有セシムルコトニ有之候旨在本邦伊國公使蘭國公使及瑞典諸威國外交事務取扱ヨリ夫夫申越候ニ付之ト相互ニ帝國ニ於テクル伊國領事蘭國領事又ハ瑞典諸威國領事ニモ帝國カ領事職務條約ニ據リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ許與スルコトヲ認メ候間右樣御了承ノ上可然御取計相成度此段申進候也

明治三十三年三月十三日　外務大臣　子爵　青木周藏

司法大臣清浦奎吾殿

◉在帝國佛國領事ノ特權等ニ關スル件

（明治三十三年四月司法省民刑第五一三號通牒）

帝國ニ於テクル佛國領事ニ帝國カ領事職務條約等ニ據リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權、免除及ヒ特典ヲ許與スルコトヲ承認シタル旨別紙寫ノ通外務大臣ヨリ通牒有之候ニ付き此段及通牒候也

追テ本文ノ件司法警察官ヘハ當該檢事ヨリ訓示相成候樣致度此段申添候也

（別紙）

機密送第三號

佛蘭西國ニ於テクル帝國領事ニハ佛國カ領事職務條約ハ勿論其他ノ條約ニ據リテ最惠國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ享有セシムルコトニ有之候旨佛國政府ノ意見相確メ候ニ付之ト相互ニ帝國ニ於テクル佛國領事ニモ帝國カ領事職務條約等ニ據リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ許與スルコトヲ認メ候間右樣御了承ノ上可然御取計相成度此段申進候也

明治三十三年四月二日

司法大臣清浦奎吾殿

外務大臣　子爵　青木周藏

◉在帝國丁抹國領事ノ特權等ニ關スル件

（明治三十三年七月司法省民刑第一〇九六號通牒）

帝國ニ於ケル丁抹國領事ニ帝國カ領事職務條約等ニ依リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權、特典及ヒ免除ヲ許與スルコトヲ承認シタル旨別紙寫ノ通外務大臣ヨリ照會有之候ニ付キ此段及通牒候也

追テ本文ノ件司法警察官ヘハ當該檢事ヨリ訓示相成候樣致度此段申添候也

（別紙）

機密送第一〇號

丁抹國政府ニ於テハ墨西國領事ニ許與スル一切ノ特典特權及免除ハ特別ノ領事職務條約ニ據リテ許與スルモノト雖モ均シク同國駐在帝國領事ニ之ヲ享有セシムヘキ旨帝國駐劄同國外交事務官ヨリ申越候ニ付之ト相互ニ帝國ニ於ケル丁國領事ニモ亦帝國カ領事職務條約等ニ依リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權特典及免除ヲ許與スルコトヲ認メ候條其向ヘ訓達方可然御取計相成度此段及照會候也

明治三十三年七月十七日

外務大臣　子爵　青木周藏

司法大臣清浦奎吾殿

◉在帝國瑞西國領事ノ特權等ニ關スル件

（明治三十三年九月司法省民刑第一三二五號通牒）

帝國ニ於ケル瑞西國領事ニ帝國カ領事職務條約ニ據リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ許與スルコトヲ承認シタル旨別紙寫ノ通外務大臣ヨリ通牒有之候ニ付キ此段及通牒候也

追テ本文ノ件司法警察官ヘハ當該檢事ヨリ訓示相成候樣致度此段申添候也

（別紙）

法第五三號

瑞西國ニ於ケル帝國領事ニハ瑞西國カ國際慣例ハ勿論領事職務條約ニ據リテ墨西國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ享有セシムルコトニ有之候旨在本邦瑞西國總領事館事務取扱獨逸國總領事ヨリ申越候ニ付之ト相互ニ帝國ニ於ケル瑞西國領事ニモ帝國カ領事職務條約ニ據リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ許與スルコトヲ認メ候間右樣御了承ノ上例ニ依リ可然御取計相成度此段申進也

明治三十三年九月八日

外務大臣　子爵　青木周藏

司法大臣清浦奎吾殿

◉領事官ノ職務ニ關スル件

（明治三十二年三月法律第七十號）

第一條　條約中特ニ領事官ノ權限ニ屬セシメタル事項ニ關シテハ法律ニ抵觸セサル範圍ニ於テ命令ヲ以テ其ノ制限ヲ設クルコトヲ得

第二條　條約中領事官ノ職務ニ關シ法律ノ規定ヲ要スル事項ニ付法律ノ規定ナキトハ命令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ハ法令及條約ノ規定ニ從テ其ノ職務ヲ行フヘシ

但シ國際法ニ基因スル慣例又ハ駐在地特別ノ慣例ニ從フコトヲ得

前項ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條　外國ニ於ケル施行期日ヲ定メサル法律ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ施行期日ヲ定ムルコトヲ得

第五條　領事官ノ職務ニ關スル管轄區域ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　條約又ハ慣例ニ因リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ハ第七條乃至第十七條ノ規定ニ從ヒ訴訟事件竝非訟事件ニ關スル事務及登記事務ヲ行フ

第七條　前條ノ事務ニ關シテハ領事官ハ法令、條約及慣例ニ牴觸セサル範圍ニ於テ地方裁判所及區裁判所ノ職務ヲ行フ

第八條　領事官ハ重罪ノ公判ヲ爲スコトヲ得ス

輕罪ノ裁判ニ付テハ豫審ヲ爲スヲ須ヰス

第九條　領事官ノ豫審ヲ爲シタル重罪ノ公判ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄ス

第十條　領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ國交上必要アルトキハ外務大臣ハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ領事官ニ命シ且被告人ヲ內國ノ監獄ニ移送セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ司法大臣ハ其ノ事件地方裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎控訴院檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ控訴院ニ爲サシメ其ノ事件區裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎地方裁判所檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其地方裁判所ニ爲サシムヘシ

第十一條　前條ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟法第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ長崎控訴院之ヲ管轄ス

區裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄ス

第十三條　領事官ハ領事館員又ハ警察官ヲシテ檢事又ハ裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘシ

前項ノ官吏ナキトキハ領事官ハ其ノ管轄區域內ニ在留スル帝國臣民中ヨリ選任シテ臨時其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條　領事官ハ領事館員又ハ警察官吏ヲシテ執達吏ノ職務ヲ行ハシムヘシ

前項ノ職務ヲ行フ者ハ自己ノ責任ヲ以テ自ラ適當ト認ムル者ニ臨時其ノ職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第十五條　法令ノ規定ニ依ルモノヲ除ク外訴訟代理人又ハ辯護人タラントスル者ハ領事官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第十六條　通常裁判所ニ於ケル忌避又ハ同避ニ關スル規定ハ領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ニハ之ヲ適用ス

第十七條　第十三條及第十四條ニ揭クル職務ヲ行フ者ナキトキハ外務大臣ハ同一國內ノ他ノ領事館官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十八條　領事館ノ設置ナキ地ニ限リ命令ノ規定ヲ以テ本法其ノ他ノ法律中領事官ノ取扱フヘキ事項ハ領事官ニアラサル者ヲシテ之ヲ取扱ハシムコトヲ得

第十九條　本法其ノ他ノ法律中單ニ領事又ハ領事官ト稱スルハ名譽領事ニアラサル領事及其ノ代理ヲ謂フ

第二十條　本法施行ノ爲必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條　清國竝朝鮮國駐在領事裁判規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◉清國竝朝鮮國駐在領事裁判規則

（明治二十一年十月勅令第七十一號）

第一條　清國竝朝鮮國駐在ノ日本帝國領事ハ其管轄內ニ在ル日本人民ニ對スル民事訴訟及ヒ公訴私訴ニシテ治安裁判所逆警罪裁判所始審裁判所ノ權限ニ屬スルモノヲ審判スルノ權ヲ有ス但治安裁判所逆警罪裁判所ノ權限ニ屬スル訴件ニ付領事ノ爲シタル裁判ハ終審ノ裁判ナリトス

第二條　豫審判事ノ職務ハ領事之ヲ行ヒ檢察官ノ職務ハ副領事警察官若クハ領事館書記生之ヲ行フ

第三條　裁判所書記ノ職務ハ領事館書記若クハ其他ノ館員之ヲ行フ

第四條　輕罪ニ付テハ豫審ヲ爲サヽルモノトス

第五條　重罪ニ關スル豫審ノ手續及ヒ豫審終結ノ言渡ニ付故障ヲ爲スコトヲ得

トヲ許サス但豫審終結ノ言渡ニ對シテハ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第六條　治罪法ニ定ムル忌避回避ノ規則ハ之ヲ適用セス

第七條　民事訴訟及ヒ公訴私訴ノ裁判ニ對スル控訴ハ長崎控訴院重罪ニ係ル公判ハ長崎重罪裁判所ノ管轄トス

第八條　民事訴訟及ヒ私訴ノ裁判ニ對スル控訴上告ハ本人若クハ代言人ノ出廷ヲ要セス書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得禁錮ノ言渡ヲ除クノ外公訴ノ裁判ニ對スル控訴モ亦同シ

第九條　此規則ニ於テ領事ト稱スルハ總領事又ハ其代理及ヒ委任狀ヲ有シメル副領事又ハ其代理ヲ云フ

◉在外帝國領事館管轄區域

（明治三十三年十二月外務省令第五號）

在韓國鎭山帝國領事館管轄區域

慶尙道東北部　金海、梁山、密陽、雲山、昌寧、玄風、仁同、善山、開寧、金山ヲ以テ西南部トノ境界トシ其郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス

江原道南部　平昌、三陟ヲ以テ北部トノ境界トシ其郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス

在韓國元山帝國領事館管轄區域

咸鏡道

江原道東北部　境界ハ在京城及在釜山帝國領事館管區ノ部ニ載ス

在韓國仁川帝國領事館管轄區域

京畿道西部　境界ハ在京城帝國領事館管區ノ部ニ載ス

黃海道南部　長淵、海州、白川、金川ヲ以テ北部トノ境界トシ其府郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス

忠淸道西北部　境界ハ在京城及在木浦帝國領事館管區ノ部ニ載ス

在韓國京城帝國領事館管轄區域

京畿道東部　竹山、龍仁、果川、楊川、高陽、坡州、長湍及開城ヲ以テ西部トノ境界トシ其府郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス

江原道西部　鐵原、金化、狼川、春川、洪川、原州ヲ以テ東部トノ境界トシ其府郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス

忠淸道東部　木川、全義、燕岐、鎭岑ヲ以テ西部トノ境界トシ其郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス

在韓國木浦帝國領事館管轄區域

全羅道

忠淸道南部　保寧、藍浦、鴻山、定山、公州、魯城、連山ヲ以テ西北トノ境界トシ其府郡ノ管轄地ハ本管區ニ屬ス

在韓國鎭南浦帝國領事館管轄區域

平安道

黃海道北部　境界ハ在仁川帝國領事館管區ノ部ニ載ス

在韓國馬山帝國領事館管轄區域

慶尙道西南部　境界ハ在釜山帝國領事館管區ノ部ニ載ス

在清國上海帝國總領事館管轄區域

江蘇省中松江府、太倉州、通州、鎭江府、淮安府、徐州府、海州、揚州府、江寧府、

安徽省

浙江省中寧波府、臺州府、紹興府、溫州府、處州府

在清國天津帝國領事館管轄區域

直隸省、山西省

在清國厦門帝國領事館管轄區域

福建省中興化府、泉州府、永寧州、汀州府、漳州府、龍巖州

廣東省中潮州府、嘉應州、惠州府

江西省中吉安府、南安州、贛州府、寧都州

在清國芝罘帝國領事館管轄區域

山東省

在清國牛莊帝國領事館管轄區域

盛京省、吉林省、黑龍江省

在清國漢口帝國領事館管轄區域

湖北省中漢陽府、武昌府、德安府、黃州府

河南省中彰德府、衛輝府、開封府、陳州府、許州、歸德府、南陽府、汝寧府、光州

江西省中九江府、南昌府、饒州府、廣信府、南康府、建昌府、撫州府、臨江府、瑞州府、袁州府

湖南省中岳州府、長沙府、寧慶府、衡州府、桂陽州、郴州、永州府

在清國蘇州帝國領事館管轄區域

江蘇省中蘇州府、常州府

在清國杭州帝國領事館管轄區域

浙江省中杭州府、嘉興府、湖州府、金華府、衢州府、嚴州府

在清國沙市帝國領事館管轄區域

湖北省中荊州府、荊門州、襄陽府、安陸府、施南府、宜昌府、鶴陽府

湖南省中澧州、常德府、永順府、辰州府、永綏廳、乾州廳、鳳凰廳、沅州府、晃州廳、靖州

河南省中懷慶府、陝州、汝州

在清國重慶帝國領事館管轄區域

四川省、陝西省、甘肅省、貴州省、雲南省

在清國福州帝國領事館管轄區域

福建省中福州府、延平府、建寧府、邵武府、福寧府

在香港帝國領事館管轄區域

香港政廳管轄地

兼轄　澳門政廳管轄地

廣東省中廣州府、南雄州、韶州府、連州、肇慶府、羅定州、高州府、雷州、廉州府、海南島

廣西省

在暹羅國盤谷帝國領事館管轄區域

暹羅國

在英領海峽植民地新嘉坡帝國領事館管轄區域

新嘉坡島、彼南島「プロビンス、ウエブ、マラツカ」

在英領印度孟買帝國領事館管轄區域

英領印度、錫蘭島

在濠洲シドニー帝國領事館管轄區域

ニユー、サウス、ウエールス州。タスマニア州。ニユー、シーワンド

第九類　犯人引渡、領事職務條約、領事裁判　五百三十九

州。ヴヰクトリア州

サウス、オーフ、トレリア州中「サウス、オーストレリア、プロパー」

ウエスト、オーストレリア州中「キンバレー。ノース、ウエスト」

クヰーンスランド州

サウス、オーストレリア州中「ノーザン、テリトリー」

ウエスト、オーストレリア州中「キンバレー。ノース、ウエスト。ユークラ。イースタン

フヰージー島

兼轄「ヌーヴエル、カレドニー」

在濠州メルボルン帝國領事館管轄區域

クヰーンスランド州

サウス、オーストレリア州中「ノーザン、テリトリー」

ウエスト、オーストレリア州中「キンバレー。ノース、ウエスト」

英領　ニユーギニア

在フヰリッピン群島マニラ帝國領事館管轄區域

フヰリッピン群島中グアム島

兼轄　マリアナス群島（グアム島ヲ除ク）、カロリナス群島。パーラウ群島

在薩哈嗹島哥爾薩港帝國領事館管轄區域

薩哈嗹島

在北米合衆國紐育市帝國領事管轄區域

メーン。ニユー、ハムプシヤイア。ヴアルモント。マサチユセツ。ロードー、アイランド。コンヂクヂカット。ニユー、ヨーク。ニユー、ジアルシー。ペンシルヴアニア。デラツエーア。メーリーランド。ヴアルヂニア。ウエスト、ヴアーヂニア。ノース、カロライナ。サウス、カロライナ。ヂヨーヂア。フロリダ。ノ十七州及ヂストリクト、オブ、コルムビア

在北米合衆國桑港帝國領事館管轄區域

カリフヲルニア。コロラド。ユータ。子ヴアダ。ノ四州及ニユー、メキシコ。アリゾナ。ノ二テリトヲー

在北米合衆國タコマ帝國領事館管轄區域

モンタナ。ヨーミン。アイダホ。ワシントン。オレゴン。及アラスカ。ノ六州

在北米合衆國シカゴ帝國領事館管轄區域
インデアナ。イリノイス。ミシガン。ウヰスコンシン。ミヂソタ。イチワ。ミッソリー。ケンタッキー。ノース、ダコタ。サウス、ダコタ。ヂアプラスカ。カンザス。オハヨウ。テンヂツシー。アラバマ。ミスシッピー。アルカンザス。ルイジアナ。テキザス。ノ十九州及オクラホマ。インデアンテリトリー。ノ二テリトリー
在布哇ホノルル府帝國總領事館管轄區域
サンドウイッチ群島
在英國倫敦帝國領事館管轄區域
大洋列領國
在佛國里昂帝國領事館管轄區域
佛蘭西國
在白國アンヴェルス帝國領事館管轄區域
白耳義國
在墨國墨西哥帝國總領事館管轄區域
墨西哥國
在伯國リオ、デ、ヤヂーロ帝國總領事館管轄區域
伯剌西爾國
在加奈陀晩香坡帝國領事館管轄區域
英領加奈陀

第十類　登記

不動產登記

◉不動產登記法（明治三十二年二月法律第二十四號）

第一章　總則

第一條　登記ハ左ニ揭ケタル不動產ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス
一　所有權
二　地上權
三　永小作權
四　地役權
五　先取特權
六　質權
七　抵當權
八　賃借權

第二條　假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス
一　登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
二　前條ニ揭ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ
右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シ

第三條　權利登記ハ登記原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲ス但登記原因ノ取消ニ因ル訴ニ付テハ其取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

第四條　詐僞又ハ强迫ニ因リテ登記ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第五條　他人ノ爲メ登記ヲ申請スル義務アル者ハ其登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス但其登記ノ原因カ自己ノ登記ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條　同一ノ不動產ニ關シテ登記シタル權利ノ順位ニ付キ法律ニ別段ノ定メナキトキハ其順位ハ登記ノ前後ニ依ル

登記ノ前後ハ登記用紙中同區ニ爲シタル登記ニ付テハ受附番號ニ依リ別區ニ爲シタル登記ニ付テハ受附番號ニ依ル

第七條　附記登記ノ順位ハ主登記ノ順位ニ依ル但附記登記間ノ順位ハ其前後ニ依ル

假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依ル

第二章　登記所及ヒ登記官吏

第八條　登記スヘキ權利ノ目的タル不動產ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

不動產カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ其各登記所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所ニ於テ申請ニ因リ管轄登記所ヲ指定ス

第九條　町村其他登記簿ヲ分設シタル區畫カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其區畫ニ關スル登記簿及ヒ其附屬書類ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス

一箇又ハ數箇ノ不動產ノ所在地カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其不動產ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ附屬書類又ハ其謄本ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス但登記簿ノ謄本ニハ抹消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫シ其不動產ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第十條　登記所ニ於テ其事務ヲ停止セサルコトヲ得サル事故ノ生シタルトキハ司法大臣ハ期間ヲ定メテ其停止ヲ命スルコトヲ得

第十一條　登記所ハ土地ニ付キ所有權ノ移轉又ハ質權ノ設定、移轉若クハ消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スルコトヲ要ス未登記ノ土地ニ付キ所有權ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

土地臺帳所管廳ハ土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ增減又ハ地目、字、番號ノ變更アリタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ登記所ニ通知スルコト

ヲ要ス

第十二條　登記官吏ハ自己、其妻又ハ四親等内ノ親族カ申請人ナルトキハ其登記所ニ於テ登記ヲ受クヘカラス成年者ニシテ且登記官吏ノ妻又ハ四親等内ノ親族ニ非サル者二人以上ノ立會アルニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス但親族ニ付テハ親族關係カ止ミタル後亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ調書ヲ作リ立會人ト共ニ之ヲ署名、捺印スルコトヲ要ス

第十三條　登記官吏カ其職務ノ執行ニ付キ申請人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ登記官吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

第三章　登記ニ關スル帳簿

第十四條　登記簿ハ土地登記簿及ヒ建物登記簿ノ二種トス

各種ノ登記簿ハ市ニ付テハ從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲シ町村ニ付テハ町村毎ニ別冊ト爲ス但登記事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲スコトヲ得

第十五條　登記簿ハ一筆ノ土地又ハ一棟ノ建物ニ付キ一用紙ヲ備フ

同一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル不動産カ登記簿ヲ分チタルトキハ其ノ一個ノ區畫ノ登記簿ニハ其不動産ニ關スル用紙ニ跨カルトキハ其ノ一個ノ區畫ノ登記簿ニハ其不動産ニ關スル用紙ヲ備フ

第十六條　土地登記簿及ヒ建物登記簿ニ付キ各其見出帳ヲ設ク

登記簿、見出帳、共同人名簿及ヒ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第十七條　建物登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尚ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各建物ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及ヒ附屬建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十八條　登記簿ニハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且毎葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條　土地登記簿及ヒ建物登記簿ニ付キ各其見出帳ヲ設ク

登記簿、見出帳、共同人名簿及ヒ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス

申請書其他ノ附屬書類ハ申請書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十一條　何人ト雖モ手數料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又利害ノ關係アル部分ニ限リ登記簿又ハ其附屬書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條　登記簿及ヒ其附屬書類ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外登記所外ニ持出スコトヲ得ス但第二十條第二項ニ揭ケタル書類ニ付テハ裁判所又ハ豫審判事ノ命令又ハ囑託アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條　登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ三箇月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其期間内ニ登記ノ回復ヲ申請スル者ハ仍ホ其登記簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第二十四條　登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ司法大臣ハ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四章　登記手續

第一節　通則

第二十五條　登記ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請又ハ官廳若クハ公署ノ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ因ル登記ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外申請ニ因ル登記ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條　登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條　判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條　登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ登記名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十九條　官廳又ハ公署ノ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳若クハ公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ得

第三十條　官有不動産又ハ府縣、郡、市、町村若クハ區ノ所有ニ係ル不動産ニ關スル權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳若クハ公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十一條　官廳カ不動産ニ關スル權利ヲ取得シタルトキハ其權利ニ付キ爲スヘキ登記ノ其官廳ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面及ヒ登記義務者ノ承諾書ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十二條　假登記ハ次條ノ場合ヲ除ク外假登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滯ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登記權利者カ假登記原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

第三十三條　假登記ハ登記義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其承諾書ヲ添附シテ假登記權利者ヨリ之ヲ登記所ニ申請スルコトヲ得

第三十四條　豫告登記ハ第三條ニ揭ケタル訴ヲ受理シタル裁判所ヨリ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十五條　登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

一　申請書

二　登記原因ヲ證スル書面

三　登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證

四　登記原因ニ付キ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

五　代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其權限ヲ證スル書面

登記原因ヲ證スル書面カ數行アルカ判決ナルトキハ前項第三號及ヒ第四號ニ揭ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第三十六條　申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名、捺印スルコ

丁區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

戊區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十七條　建物登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尚ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各建物ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及ヒ附屬建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十八條　登記簿ニハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且毎葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條　土地登記簿及ヒ建物登記簿ニ付キ各其見出帳ヲ設ク

登記簿、見出帳、共同人名簿及ヒ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス

申請書其他ノ附屬書類ハ申請書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十一條　何人ト雖モ手數料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又利害ノ關係アル部分ニ限リ登記簿又ハ其附屬書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條　登記簿及ヒ其附屬書類ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外登記所外ニ持出スコトヲ得ス但第二十條第二項ニ揭ケタル書類ニ付テハ裁判所又ハ豫審判事ノ命令又ハ囑託アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條　登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ三箇月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其期間内ニ登記ノ回復ヲ申請スル者ハ仍ホ其登記簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第二十四條　登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ司法大臣ハ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四章　登記手續

第一節　通則

第二十五條　登記ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請又ハ官廳若クハ公署ノ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ因ル登記ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外申請ニ因ル登記ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條　登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條　判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條　登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ登記名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十九條　官廳又ハ公署ノ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳若クハ公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ得

第三十條　官有不動産又ハ府縣、郡、市、町村若クハ區ノ所有ニ係ル不動産ニ關スル權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳若クハ公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十一條　官廳カ不動産ニ關スル權利ヲ取得シタルトキハ其權利ニ付キ爲スヘキ登記ノ其官廳ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面及ヒ登記義務者ノ承諾書ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十二條　假登記ハ次條ノ場合ヲ除ク外假登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滯ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登記權利者カ假登記原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

第三十三條　假登記ハ登記義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其承諾書ヲ添附シテ假登記權利者ヨリ之ヲ登記所ニ申請スルコトヲ得

第三十四條　豫告登記ハ第三條ニ揭ケタル訴ヲ受理シタル裁判所ヨリ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十五條　登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

一　申請書

二　登記原因ヲ證スル書面

三　登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證

四　登記原因ニ付キ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

五　代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其權限ヲ證スル書面

登記原因ヲ證スル書面カ數行アルカ判決ナルトキハ前項第三號及ヒ第四號ニ揭ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第三十六條　申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名、捺印スルコ

トヲ要ス

一　不動産所在ノ郡、市、區、町村、字及ヒ土地ノ番號

二　地目及ヒ段別又ハ坪數

三　申請人ノ氏名、住所若シ申請人カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所

四　代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其氏名、住所

五　登記原因及ヒ其日附

六　登記ノ目的

七　登記所ノ表示

八　年月日

第三十七條　登記スヘキ權利ノ目的カ建物ナル場合ニ於テハ申請書ニ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲ記載シ附屬建物アルトキハ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十八條　登記原因ニ實戻ノ特約其他登記ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定メアルトキハ申請書ニ其事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條　登記權利者カ多數ナル場合ニ於テ登記原因ニ其持分ノ定メアルトキハ申請書ニ其持分ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十條　登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルヲ能ハサルトキハ申請書ノ副本ヲ提出スルコトヲ要ス

第四十一條　登記原因カ相續ナルトキハ申請書ニ相續ヲ證スル戸籍謄本書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十二條　申請人カ登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ナルトキハ申請書ニ其身分ヲ證スル戸籍謄本ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十三條　登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其表示ノ變更ヲ證スル戸籍謄本ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十四條　登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證カ滅失シタルトキハ申請書ニ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者二人以上カ登記義務者ノ人違ナキコトヲ保證シタル書面二通ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十五條　申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其第三者ヲシテ申請書ニ署名、捺印セシメテ其書面ニ代フルコトヲ得

第四十六條　同一ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數箇ノ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テハ登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ナルトキニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十七條　登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ登記ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス但同一ノ不動産ニ關シテ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

申請書其他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シテ之ヲ申請人ニ交附スルコトヲ要ス

第四十八條　登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條　登記官吏ハ左ノ場合ニ限リ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スルコトヲ要ス但申請ノ欠缺カ補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ即日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラス

一　事件カ其登記所ノ管轄ニ屬セサルトキ

二　事件カ登記スヘキモノニ非サルトキ

三　當事者カ出頭セサルトキ

四　申請書カ方式ニ適合セサルトキ

五　申請書ニ揭クタル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示カ登記簿ト牴觸スルトキ

六　第四十二條ニ揭ケタル書面ヲ提出シタル場合ヲ除ク外申請書ニ揭ケタル登記義務者ノ表示カ登記簿ト符合セサルトキ

七　申請書ニ揭ケタル事項カ登記原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ

八　申請書ニ必要ナル書面又ハ圖面ヲ添附セサルトキ

九　登錄稅ヲ納付セサルトキ

第五十條　表示欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登記ノ目的其他申請書ニ揭ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

事項欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記義務者ニ還附スルコトヲ要ス

第五十一條　登記權利者カ多數ナルトキハ申請書ニ揭ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ登記用紙ニ記載シ其氏名、住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコトヲ得登記義務者カ多數ナルトキ亦同シ

第五十二條　表示欄ニ登記ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ事項欄ニ登記ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條　附記ニ依ル登記ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登記ノ番號ヲ用ヰ其番號ノ左側ニ附記何號ト記載スルコトヲ要ス

第五十四條　假登記ハ登記用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其左側ニ餘白ヲ存スルコトヲ要ス

第五十五條　假登記ヲ爲シタル後本登記ノ申請アリタルトキハ假登記ノ左側ノ餘白ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六條　權利ノ變更ノ登記ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リテ其登記ヲ爲ス

第五十七條　權利ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ變更シタル登記事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第五十八條　登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ヲ爲ストキハ前ノ表示ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第五十九條　行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第六十條　登記官吏ハ登記ヲ完了シタルトキハ登記原因ヲ證スル書面又ハ申請書ノ副本ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記權利者ニ還附スルコトヲ要ス

申請書ニ添附シタル登記濟證又ハ第四十四條ニ揭ケタル書面ノ一通ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記義務者ニ還付スルコトヲ要ス但登記名義人カ多數ナルトキハ登記義務者ノ氏名、住所ヲモ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ揭ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十一條　第四十四條ノ場合ニ於テ登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ不動産ノ表示、登記原因、其日附、登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ登記義務者又ハ其一人ニ通知スルコトヲ要ス

第六十二條　官廳又ハ公署カ登記權利者ノ爲メニ登記ヲ囑託シタル場合ニ於テ登記所ヨリ登記濟證ノ還付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第六十三條　登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第六十四條　第五十六條及ヒ第五十七條ノ規定ハ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十六條　登記回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ回復スルトキハ回復ノ登記ヲ爲シタル後更ニ抹消ノ登記ヲ爲シ若シ或登記事項ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其事項ヲ登記スル